

可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事 設計図

図面リスト

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A-01	建築改修工事特記仕様書(1)	A-31	改修後 展開図(9)	E-01	電気設備工事特記仕様書
A-02	建築改修工事特記仕様書(2)	A-32	改修後 1階床伏図	E-02	盤結線図・照明器具姿図
A-03	建築改修工事特記仕様書(3)	A-33	改修前・後 1階天井伏図	E-03	改修前・後 アリーナ電灯・コンセント・弱電設備図
A-04	建築改修工事特記仕様書(4)	A-34	改修前・後 キャットウォーク天井伏図	E-04	弱電配線図
A-05	建築改修工事特記仕様書(5)	A-35	改修 建具表(1)	E-05	改修前 便所廻り電灯・コンセント設備図
A-06	工事概要、付近見取図、配置図	A-36	改修 建具表(2)	E-06	改修後 便所廻り電灯・コンセント設備図
A-07	仮設計画図(参考図)	A-37	改修後 コートライン図	E-07	改修前・後 火災報知設備図
A-08	改修前・後 外部・内部仕上表	A-38	バスケットゴール詳細図		
A-09	改修フローチャート	A-39	鋼製床組詳細図		
A-10	改修前・後 1階平面図	A-40	スクリーン昇降装置詳細図		
A-11	改修前・後 キャットウォーク平面図	A-41	飾り板詳細図		
A-12	改修前・後 屋根伏図	A-42	部分詳細図(1)		
A-13	改修 立面図	A-43	部分詳細図(2)	M-01	機械設備工事特記仕様書(1)
A-14	外壁劣化図(参考図)	A-44	部分詳細図(3)	M-02	機械設備工事特記仕様書(2)
A-15	改修前・後 断面詳細図(1)	A-45	部分詳細図(4)	M-03	機械設備工事特記仕様書(3)
A-16	改修前・後 断面詳細図(2)			M-04	衛生機器表・使用機器表
A-17	改修前・後 断面詳細図(3)			M-05	改修前・後 機械設備図
A-18	改修前・後 断面詳細図(4)	S-01	構造特記仕様書	M-06	改修前 便所廻り給排水設備図
A-19	改修前・後 控室廻り平面詳細図	S-02	配筋基準図	M-07	改修後 便所廻り給排水設備図
A-20	改修前・後 キャットウォーク廻り平面詳細図	S-03	鉄骨構造基準図(1)		
A-21	改修前 便所廻り平面詳細図	S-04	鉄骨構造基準図(2)		
A-22	改修後 便所廻り平面詳細図	S-05	改修前・後 基礎伏図		
A-23	改修前・後 展開図(1)	S-06	改修前 キャットウォーク伏図、既設鉄骨部材リスト		
A-24	改修前・後 展開図(2)	S-07	改修後 キャットウォーク伏図、新設鉄骨部材リスト		
A-25	改修前・後 展開図(3)	S-08	既設 屋根梁伏図、地中梁リスト		
A-26	改修前・後 展開図(4)	S-09	既設 軸組図(1)		
A-27	改修前・後 展開図(5)	S-10	既設 軸組図(2)		
A-28	改修前・後 展開図(6)	S-11	改修後 鉄骨詳細図		
A-29	撤去・改修 展開図(7)	S-12	雑詳細図		
A-30	改修後 展開図(8)				

建築改修工事特記仕様書									
I. 工事概要	1) 工事名称 可見市立今渡北小学校屋内運動場大規模改修工事 2) 工事場所 岐阜県可見市今渡1680番地 地内 3) 構造及び規模 鉄骨造(屋内運動場) 平屋建て 延 1,062.00 m ²								
II. 建築工事仕様 1. 共通仕様	図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(最新版)」(以下、「標仕」という。)及び「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(最新版)」(以下、「標改」という。)、「建築物解体工事共通仕様書(最新版)」(以下、「解共」という)による。								
2. 特記仕様書	本仕様書は工事の概要を述べるものの、詳細は設計図書及び監督職員の指示により施工する。								
3. 特記仕様	(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は ※印の付いたものを適用する。 ◎印と◎印が付いている場合は、共に適用する。 (3) 特記事項に記載の< >内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4) 特記事項に記載の()内表示番号は、標改の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (5) 特記事項に記載の<別>は標仕5.3.7による別図「各部配筋」の当該項目を示す。 (6) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また、《 》内は製品名を示す。								
章	節・項目	特記事項	備考						
1章 一般 共通 事項	① 適用基準等 (1.1.1)	● 建築工事標準詳細図(国土交通大臣官房官庁営繕部建築課監修 最新版) ● 工事写真の撮り方(改訂第二版)建築編(国土交通大臣官房官庁営繕部監修) ● 可見市建設工事共通仕様書(可見市HPにて閲覧可)							
	② 適用範囲	設計図書間に相違がある場合の優先順位は、次の(1)から(4)の順番のとおりとし、これにより難い場合は、(1.1.8)による。 (1) 質疑応答書 (2) 特記仕様書 (3) 図面 (4) 標仕 図面間に相違がある場合の優先順位は下記により、これにより難い場合は、(1.1.8)による。 (1) 意匠図 - 仕上表を優先する。 (2) 構造図 - 断面リストを優先する。							
	③ 官公署その他への届出手続等 (1.1.3)	工事施工にあたり、関係官公署その他関係機関への届出手続等は、遅滞なく、請負者にて行う。 工事施工に必要な諸手続、外線工事負担金・仮設用電力・用水などの引き込み手続き、道路使用手続き、他人管理の土地使用手続き等の費用は請負者にて負担する。							
	④ 工事カルテの作成・登録 (1.1.4)	可見市建設工事共通仕様書 共通編 総則 1-1-6工事カルテ作成・登録により、工事請負代金額500万円以上の工事について「工事カルテ」を作成・登録すること。 (財)日本建設情報総合センター(JACIC)の工事実績情報システム(CORINS)に、工事実績情報の登録をその内容について監督員の確認を(JACICの様式「登録のための確認のお願い」に従って)受けた上、行う。 また、登録後にJACICが発行する「登録内容確認書」を監督員へ提出する。							
	⑤ 書類の書式等	本工事の施工に関して提出する書類は、「可見市建設工事における取扱い書類等一覧表」により、定めがない場合は監督職員の指示による。なお、監督職員から訂正の指示があった場合は、異議なく訂正し、すみやかに提出する。 (1) 契約時提出書類 ● 着工届 ● 経歴書 ● 工程表 ● 請負代金内訳書 ● その他可見市指定書類 (2) その他の提出書類 ・ 下請負人届 下請負人が決定次第、工事下請基本契約書(約款共)の写しと共に提出する。 ● 工事日報 現場代理人は工事名称、年月日、曜日、天気、各職種の出面及び累計、その他必要な事項を記入の上、監督職員まで提出し、承諾を得る。 ● 設計図製本 A3二つ折り3部 (3) 施工体制台帳 下請契約を締結する全ての工事は、「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」第15条第1項による施工体制台帳の写しを提出する。							
	6 別契約の関連工事	別契約の関連工事がある場合、本工事請負者は、別途工事請負者と絶えず連絡を密にし、工事の円滑な進行に努力し、完成期日までに完成するよう努める。							
	⑦ 関係法令等の遵守 (1.1.13)	工事の施工に当たり、関係法令を遵守し、工事の円滑な進行を図る。							
	⑧ 施工計画書 (1.2.2)	監督員の指示に従い、各工種ごとに施工計画書を作成し、提出すること。							
	9 品質計画	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 <table border="1"> <tr><td>風圧</td><td>VO</td></tr> <tr><td>地表面粗度区分</td><td></td></tr> <tr><td>多雪地域の指定</td><td></td></tr> </table>	風圧	VO	地表面粗度区分		多雪地域の指定		
風圧	VO								
地表面粗度区分									
多雪地域の指定									
	⑩ 工事の記録	工事写真はデジタル写真で撮影する場合は、200万画素以上とし、印刷は300dpi以上で3年以上は劣化しない品質とする。なお、補助対象工事については、完成時に、銀塩カメラ撮影はネガ及びネガベタを、デジタルカメラの場合は画像データを提出する。							
	⑪ 電気保安技術者	要							
	⑫ 施工中の安全確保及び環境保全	● 工事の施工に当たり、「建設工事公衆災害防止対策要綱」(平成5年1月12日建設省経建発1号)を遵守し、公衆災害防止に努める。 ● 工事中は道路上に物を放置したり、あるいは多数の車を駐車して交通に支障を与えることのないよう十分に注意する。							

章	節・項目	特記事項	備考																																				
1章 一般 共通 事項	⑬ 発生材の処理等	● 建築物の新築、増築、改築及び解体工事に伴って発生する産業廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づいて適正に処理する。 ● 収集、運搬・埋立地等に関する廃棄物処理計画書を作成し、本市関係機関の承認を受けたのちに処理する。 ● 「岐阜県廃棄物の適正処理等に関する条例」及び同施行規則に基づき必要に応じて関係機関に届け出る。 ● 産業廃棄物は「可見市が発注する公共工事から発生する産業廃棄物適正処理について」に基づき適正に処理すること。なお、提出された産業廃棄物管理票の写しは、可見市情報公開条例に基づき公開することがある。 ● 請負者は資源の有効な利用の促進に関する法律(ラージサイクル法)により適正に処理する。なお、工事完了時には建設副産物(再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書)のフロッピーディスクと実施書(1部)を提出する。 ● 請負者は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づいて適正に処理するとともに、工事着手に際し当該工事についての説明書を、工事完了時には当該工事計画の実施状況に関する報告書を提出すること。なお、契約締結時には、分別解体等の方法・解体工事に要する費用等を書面に記載し提出すること。																																					
	⑭ 材料の品質等	※ 使用する材料が、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿(平成19年版)」による。 ※ 本工事において、工事材料に関わる納入契約を締結する場合は、当該契約の相手方は可見市内に営業所を有するものとするよう努めると共に、調達する工事材料は地元製品を使用するよう努めること。 ※ 本特記仕様及び設計図書に指示のあるJIS製品については、JIS規格である旨の認定書類又は規格証明を提出する。ただし、監督職員の認めた小規模建築の場合は省略することができる。 ※ 屋内に使用する建材、塗料、接着剤、家具などは揮発性有機化合物(VOC)の放出量の少ないものを使用し、ホルムアルデヒド放散量は原則としてF☆☆☆☆とする。F☆☆☆☆製品が無い場合は、監督職員と協議の上、決定する。 ※ グリーン商品を積極的に利用するように努めるものとし、品目等については監督職員と打ち合わせによる。																																					
	⑮ 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。																																					
	⑯ 材料の検査に伴う試験	試験は、公共試験場または認定共同試験場で行う。ただし、監督職員が認めた場合は、公共試験場に準ずる機関で行うことができる。																																					
	⑰ 技能士 (1.6.2)	※本工事に必要な工種に応じて適用する。 <table border="1"> <tr><th>適用工事種別</th><th>技能検定の職種</th></tr> <tr><td>鉄筋工事</td><td>● 鉄筋施工</td></tr> <tr><td>コンクリート工事</td><td>● コンクリート圧送施工 ・ 型枠施工</td></tr> <tr><td>鉄骨工事</td><td>・ とび</td></tr> <tr><td>ブロック、ALCパネル工事</td><td>・ ブロック建築 ・ ALCパネル施工</td></tr> <tr><td>防水工事</td><td>・ アスファルト防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塗膜防水工事作業 ● シーリング防水工事作業</td></tr> <tr><td>石工事</td><td>・ 石材施工</td></tr> <tr><td>タイル工事</td><td>・ タイル張り</td></tr> <tr><td>木工事</td><td>● 建築大工</td></tr> <tr><td>屋根及びとい工事</td><td>・ 建築板金(内外装板金作業)</td></tr> <tr><td>金属工事</td><td>● 内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)</td></tr> <tr><td>左官工事</td><td>・ 左官</td></tr> <tr><td>建具工事</td><td>・ サッシ施工 ・ ガラス施工 ・ 自動ドア施工</td></tr> <tr><td>カーテンウォール工事</td><td>・ カーテンウォール施工 ・ サッシ施工 ・ ガラス施工</td></tr> <tr><td>塗装工事</td><td>● 塗装(建築塗装作業)</td></tr> <tr><td>内装工事</td><td>・ プラスチック系床仕上げ工事作業</td></tr> <tr><td>植栽工事</td><td>● ボード仕上げ工事作業 ・ 表装(壁装作業)</td></tr> <tr><td>樹脂接着剤注入工事</td><td>・ 造園 ・ 樹脂接着剤注入施工</td></tr> </table>	適用工事種別	技能検定の職種	鉄筋工事	● 鉄筋施工	コンクリート工事	● コンクリート圧送施工 ・ 型枠施工	鉄骨工事	・ とび	ブロック、ALCパネル工事	・ ブロック建築 ・ ALCパネル施工	防水工事	・ アスファルト防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塗膜防水工事作業 ● シーリング防水工事作業	石工事	・ 石材施工	タイル工事	・ タイル張り	木工事	● 建築大工	屋根及びとい工事	・ 建築板金(内外装板金作業)	金属工事	● 内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)	左官工事	・ 左官	建具工事	・ サッシ施工 ・ ガラス施工 ・ 自動ドア施工	カーテンウォール工事	・ カーテンウォール施工 ・ サッシ施工 ・ ガラス施工	塗装工事	● 塗装(建築塗装作業)	内装工事	・ プラスチック系床仕上げ工事作業	植栽工事	● ボード仕上げ工事作業 ・ 表装(壁装作業)	樹脂接着剤注入工事	・ 造園 ・ 樹脂接着剤注入施工	
適用工事種別	技能検定の職種																																						
鉄筋工事	● 鉄筋施工																																						
コンクリート工事	● コンクリート圧送施工 ・ 型枠施工																																						
鉄骨工事	・ とび																																						
ブロック、ALCパネル工事	・ ブロック建築 ・ ALCパネル施工																																						
防水工事	・ アスファルト防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塗膜防水工事作業 ● シーリング防水工事作業																																						
石工事	・ 石材施工																																						
タイル工事	・ タイル張り																																						
木工事	● 建築大工																																						
屋根及びとい工事	・ 建築板金(内外装板金作業)																																						
金属工事	● 内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)																																						
左官工事	・ 左官																																						
建具工事	・ サッシ施工 ・ ガラス施工 ・ 自動ドア施工																																						
カーテンウォール工事	・ カーテンウォール施工 ・ サッシ施工 ・ ガラス施工																																						
塗装工事	● 塗装(建築塗装作業)																																						
内装工事	・ プラスチック系床仕上げ工事作業																																						
植栽工事	● ボード仕上げ工事作業 ・ 表装(壁装作業)																																						
樹脂接着剤注入工事	・ 造園 ・ 樹脂接着剤注入施工																																						
	⑱ 技能資格者 (8.14.2)(8.14.3)	● 溶接技能者((社)日本溶接協会が検定した技能資格を有するもの) ・ 圧接技量資格者(JIS Z 3881(ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)による技量を有する者) ・ (社)日本建築あと施工アンカー協会会員																																					
	⑲ 化学物質の濃度測定 (1.6.9)	指定する居室の「ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物」の測定を行い、報告書を提出する。 なお、工事完成時に測定し、測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は、原因の究明・適正な改善方法の報告及び改善のうえ、再測定を行う。 検査対象箇所・室名 1箇所(アリーナ) ・ 改修前後 各1回 測定時期 ● 工事完成時 判定基準 <table border="1"> <tr><th>検査項目</th><th>判定基準(下記の数値を超えない)</th></tr> <tr><td>ホルムアルデヒド</td><td>100µg/m³(0.08ppm)</td></tr> <tr><td>トルエン</td><td>260µg/m³(0.07ppm)</td></tr> <tr><td>キシレン</td><td>870µg/m³(0.20ppm)</td></tr> <tr><td>パラジクロロベンゼン</td><td>240µg/m³(0.04ppm)</td></tr> <tr><td>エチルベンゼン</td><td>3800µg/m³(0.88ppm)</td></tr> <tr><td>スチレン</td><td>220µg/m³(0.05ppm)</td></tr> </table>	検査項目	判定基準(下記の数値を超えない)	ホルムアルデヒド	100µg/m ³ (0.08ppm)	トルエン	260µg/m ³ (0.07ppm)	キシレン	870µg/m ³ (0.20ppm)	パラジクロロベンゼン	240µg/m ³ (0.04ppm)	エチルベンゼン	3800µg/m ³ (0.88ppm)	スチレン	220µg/m ³ (0.05ppm)																							
検査項目	判定基準(下記の数値を超えない)																																						
ホルムアルデヒド	100µg/m ³ (0.08ppm)																																						
トルエン	260µg/m ³ (0.07ppm)																																						
キシレン	870µg/m ³ (0.20ppm)																																						
パラジクロロベンゼン	240µg/m ³ (0.04ppm)																																						
エチルベンゼン	3800µg/m ³ (0.88ppm)																																						
スチレン	220µg/m ³ (0.05ppm)																																						
	⑳ 工事保険加入について	本工事において、発注者、請負者及び全下請人を被保険者として、工事着手から工事目的物の引渡しまでの期間について、賠償責任保険(保険対象 第三者に与えた損害)及び火災保険(保険対象 工事目的物及び工事材料等)に加入するものとする。 また、工事着手前に保険証書の写しを監督員に提示すること。 保険の種類 ※● 火災保険 ● 建設工事保険 ・ 組立保険 保険金額 請負金額以上 保険期間 工事着手のときから完成期日後14日までの期間																																					
	㉑ 保険の付保	請負者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により雇用者等の雇用の形態にに応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。																																					
	㉒ 設計変更における工事費の算定	設計変更における工事費は、当該変更対象の市の直接工事費を積算し、これに当該変更に係わる共通費を加えて得た額に、「当初請負代金額から消費税相当額を減じた額/当初設計金額の工事価格」の比率を乗じさらに消費税相当額を加えて得た額を原則とする。																																					
	㉓ 事前調査	工事着手前には必ず設計照査を行い、設計内容と現場に相違がないか確認し、監督員へ報告すること。 また、劣化の著しい部分があれば合せて報告すること。																																					

章	節・項目	特記事項	備考																
1章 一般共通事項	24 中間検査	工事施工途中における検査は、可見市建設工事検査要綱、可見市建設工事監督要綱による。																	
	25 完成図 (1.8.2)	<table border="1"> <tr> <td>㊦ 設計図一式</td> <td>変更箇所全て修正の上、図面右下に「完成図面」と表記する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	㊦ 設計図一式	変更箇所全て修正の上、図面右下に「完成図面」と表記する。															
	㊦ 設計図一式	変更箇所全て修正の上、図面右下に「完成図面」と表記する。																	
26 完成写真	<p>㊦ 設計図書CADデータを貸与する。</p> <p>下記のものを監督職員に提出する。</p> <table border="1"> <tr> <th>分類・規格</th> <th>撮影箇所数</th> <th>提出部数</th> <th>原板の大きさ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ カラー ※サービス版</td> <td>適宜</td> <td>※1</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊦ カラー ※キャビネ版 ※ベタ焼</td> <td>外部 12箇所 内部 12箇所</td> <td>※2</td> <td>※100×125以上</td> </tr> <tr> <td>㊦ 電子データ</td> <td>外部 12箇所 内部 12箇所</td> <td>※2</td> <td>※200万画素以上 ※300dpi以上</td> </tr> </table> <p>※ 写真は、アルバムに整理すること。(金文字入り黒表紙製本1部)</p>	分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ (mm)	・ カラー ※サービス版	適宜	※1	—	㊦ カラー ※キャビネ版 ※ベタ焼	外部 12箇所 内部 12箇所	※2	※100×125以上	㊦ 電子データ	外部 12箇所 内部 12箇所	※2	※200万画素以上 ※300dpi以上		
分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ (mm)																
・ カラー ※サービス版	適宜	※1	—																
㊦ カラー ※キャビネ版 ※ベタ焼	外部 12箇所 内部 12箇所	※2	※100×125以上																
㊦ 電子データ	外部 12箇所 内部 12箇所	※2	※200万画素以上 ※300dpi以上																
27 引渡し後の検査	<p>引渡し後の検査時期は下記により、請負者は検査に立会うものとする。</p> <p>㊦引渡し1年後 ・引渡し2年後</p>																		
2章 仮設工事	1 足場その他 (2.2.1)	<p>足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について(厚生労働省 基発第0424001号平成21年4月24日)の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。</p> <p>また、屋根面からの墜落事故防止対策として、必要に応じて、JIS A8971(屋根工用足場及び施工方法)に基づき、建方作業台渡り廊下、墜落防護さく等を設置する。</p> <p>(c) 内部足場 種別 ㊦ 脚立・足場板等 ㊦ (ローリングカー、くさび緊結式棚足場、くさび緊結式足場)</p> <p>(d) 外部足場 種別 ・ A種 ㊦ B種 ・ C種 ・ D種 (表2.2.1)</p> <p>養生 ・ 防護シート(JISA8952) ㊦ 防護ネット(JISA8960) ・ 養生シート(防災1類シート)</p> <p>(e) 材料、撤去材等の運搬方法 種別 ・ A種 ㊦ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種</p>	(表2.2.2)																
	2 既存部分の養生 (2.3.1)	<table border="1"> <tr> <th>部位及び家具等の名称</th> <th>解体時の廊下への出入口</th> <th>アライナ・ステージ・キャットウォーク</th> <th>ピアノ</th> </tr> <tr> <td>養生方法</td> <td>ビニールシート</td> <td>ビニールシート+ベニヤ t=9以上</td> <td>ビニールシート</td> </tr> <tr> <td>移動場所(保管場所)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 移動作業については、学校職員にて行う。</p> <p>・ A種 ・ B種 ・ C種 (表2.3.1) 設置箇所 ・ 図示による</p> <p>材種 合板厚さ ・ 9mm ・ () ・ せつこうボード厚さ ・ 9.5mm ・ ()</p> <p>仕上げ塗装等 ・ 有 ・ 無</p> <p>種別 ・ 木製 (合板張り) ・ () 設置箇所 ・ 図示による</p>	部位及び家具等の名称	解体時の廊下への出入口	アライナ・ステージ・キャットウォーク	ピアノ	養生方法	ビニールシート	ビニールシート+ベニヤ t=9以上	ビニールシート	移動場所(保管場所)								
	部位及び家具等の名称	解体時の廊下への出入口	アライナ・ステージ・キャットウォーク	ピアノ															
	養生方法	ビニールシート	ビニールシート+ベニヤ t=9以上	ビニールシート															
	移動場所(保管場所)																		
	3 仮設間仕切り (2.3.2)	<p>規模 ・ 設ける ・ 1号 ・ 2号 ・ 3号 ・ 4号 ・ 5号 ・ () m²程度</p> <p>・ 設けない (ただし、請負者事務所内に打合せスペース10m²程度を設けること。)</p> <p>標準仕上 (床) 合板張り又はビニール床シート張り</p> <p>(内壁・天井) 合板又はせつこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り</p> <p>(屋根) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り</p>																	
	4 仮設扉	<p>標準備品 机、いす、書棚、行事予定表、ゴム長靴、雨合羽、保護帽、懐中電灯、寒暖計、安全帯、衣類ロッカー、請負者加入の電話子機、冷暖房機器、消火器、湯沸器、掃除具</p> <p>選択備品 ・ パソコン ・ プリンター ・ FAX ・ 複写機</p>																	
5 監督員事務所 (2.4.1)	<p>標準備品 机、いす、書棚、行事予定表、ゴム長靴、雨合羽、保護帽、懐中電灯、寒暖計、安全帯、衣類ロッカー、請負者加入の電話子機、冷暖房機器、消火器、湯沸器、掃除具</p> <p>選択備品 ・ パソコン ・ プリンター ・ FAX ・ 複写機</p>																		
6 監督員事務所の備品	<p>標準備品 机、いす、書棚、行事予定表、ゴム長靴、雨合羽、保護帽、懐中電灯、寒暖計、安全帯、衣類ロッカー、請負者加入の電話子機、冷暖房機器、消火器、湯沸器、掃除具</p> <p>選択備品 ・ パソコン ・ プリンター ・ FAX ・ 複写機</p>																		
7 請負者事務所その他建設現場標識及び建設工事名称板の設置	<p>㊦ 構内(従業員宿舎を除く) ・ 構外</p> <p>㊦ 設ける ・ 設けない</p>																		
8 材料置場その他仮設物の設置場所	<p>㊦ 設ける 位置 ・ 既存建物内の一部 ㊦ 構内(従業員宿舎を除く)</p> <p>・ 設けない</p>																		

章	節・項目	特記事項	備考																				
3章 土工	1 埋め戻し及び盛土 <3.2.3>	・ A種 ㊦ B種 ・ C種 ・ D種	<表3.2.1>																				
	2 建設発生土の処理 <3.2.5>	<p>建設発生土については、「岐阜県埋立て等の規制に関する条例」及び「岐阜県建設発生土管理基準」に基づき管理するものとする。又、本工事の建設発生土において土壌検査を実施し結果を監督員に報告搬出先について監督職員の指示がある場合は指定された場所に搬出すること。</p> <p>・ 有 () に搬出し、利用するものとする。</p> <p>・ 無</p>																					
4章 地業工事	1 材料 <4.6.2>	㊦ 再生クラッシュラン RC-40 ・ 切込砕石 C-40																					
	2 砂利及び砂地業 <4.6.3>	厚さ ・ 60mm ㊦ (100) mm																					
	3 捨てコンクリート地業 <4.6.4>	捨てコンクリート厚さ ㊦ 50mm ・ (30) mm 強度 ㊦ 18 N/mm ² ・ () N/mm ² スランプ ・ 15 ㊦ 18 ・ 適用しない ㊦ 適用する 範囲(1階ｽﾌﾟﾗ)下 材料 ㊦ ポリエチレンフィルム 厚さ ㊦ 0.15mm																					
	4 床下防湿層 <4.6.5>																						
5章 防水改修工事	1 施工一般 (3.1.3)	降雨等に対する養生方法 ㊦ 3.1.3(e) による ・ ()																					
	2 アスファルトの材料 (3.2.2)	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 ・ 4種	JIS K2207																				
	3 既存下地の補修及び処置 (3.2.6)	既存露出防水層及び塗膜防水層の表面仕上塗装の除去 ・ デッキブラシ水洗い ・ 高圧水洗浄																					
	4 アスファルト防水材料 (3.3.2)	押さえ金物 ・ アルミ製L-30×15×2.0mm程度 ・ () 屋根保護防水断熱工法の断熱材 材質 ・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材3種bｽﾗﾝﾌﾟ層付き(JIS A9511) ・ () 厚さ () mm 絶縁用シート材料 ・ 3.3.2(j)による ・ () 防水層保護れんが ・ JIS R1250(普通レンガ) ・ ()	改修工法は表3.1.1による																				
	5 アスファルト防水 (3.3.3)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>改修工法</th> <th>新規防水層の種別</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>脱気装置 (M3D、P0D、P0DI、M3DI、M4DI工法) ・ 設ける ・ 設けない</p>	施工箇所	改修工法	新規防水層の種別																		
	施工箇所	改修工法	新規防水層の種別																				
6 合成高分子系ルーフィングシート防水 ~3.5.3)	<p>材料 ・ 絶縁用シート ・ 発砲ポリエチレンシート ・ ()</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>改修工法</th> <th>新規防水層の種別</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない</p>	施工箇所	改修工法	新規防水層の種別				改修工法は表3.1.1による															
施工箇所	改修工法	新規防水層の種別																					
7 塗膜防水 (3.6.3)	<p>材料 ・ 絶縁用シート ・ 発砲ポリエチレンシート ・ ()</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>改修工法</th> <th>新規防水層の種別</th> </tr> <tr> <td>折版屋根</td> <td>G-Y-K工法 同等品</td> <td>ｸﾞﾗｽ塗膜 厚2.0mm</td> </tr> <tr> <td>金属軒種</td> <td>ZHM-200L工法 同等品</td> <td>ｸﾞﾗｽ塗膜 厚2.0mm</td> </tr> </table> <p>脱気装置 (POX、L4X工法) ・ 設ける ㊦ 設けない</p> <p>トップコートの種別 ・ 一般タイプ ㊦ 高反射タイプ</p>	施工箇所	改修工法	新規防水層の種別	折版屋根	G-Y-K工法 同等品	ｸﾞﾗｽ塗膜 厚2.0mm	金属軒種	ZHM-200L工法 同等品	ｸﾞﾗｽ塗膜 厚2.0mm	改修工法は表3.1.1による												
施工箇所	改修工法	新規防水層の種別																					
折版屋根	G-Y-K工法 同等品	ｸﾞﾗｽ塗膜 厚2.0mm																					
金属軒種	ZHM-200L工法 同等品	ｸﾞﾗｽ塗膜 厚2.0mm																					
8 保証年限	防水の保証期間は工事目的物引渡しからモルタル防水5年、その他防水10年とする。また、元請・施工者・メーカーの三者連名にて保証書を作成し、監督員に提出する。																						
9 シーリング 材料 (3.7.2)	<table border="1"> <tr> <th>改修工法</th> <th>シーリング再充填工法</th> <th>シーリング充填工法</th> <th>シーリング充填工法</th> <th>シーリング充填工法</th> </tr> <tr> <td>施工箇所</td> <td>ALC目地</td> <td>建具廻り</td> <td>ﾀｲﾙ取合部</td> <td>面台部、ｸﾞﾗｽ廻り</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>PU-2</td> <td>PU-2</td> <td>PU-2</td> <td>SR-1</td> </tr> </table>	改修工法	シーリング再充填工法	シーリング充填工法	シーリング充填工法	シーリング充填工法	施工箇所	ALC目地	建具廻り	ﾀｲﾙ取合部	面台部、ｸﾞﾗｽ廻り	種類	PU-2	PU-2	PU-2	SR-1	改修工法は表3.1.2による						
改修工法	シーリング再充填工法	シーリング充填工法	シーリング充填工法	シーリング充填工法																			
施工箇所	ALC目地	建具廻り	ﾀｲﾙ取合部	面台部、ｸﾞﾗｽ廻り																			
種類	PU-2	PU-2	PU-2	SR-1																			
10 目地寸法 (3.7.3)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>コンクリート打継ぎ部</th> <th>ひび割れ誘発部</th> <th>ｸﾞﾗｽ回り(5.12.13以外)</th> <th>左記以外</th> </tr> <tr> <td>目地幅(mm)</td> <td>・ 20 () ・ 20 ()</td> <td>㊦ 5 ()</td> <td>㊦ 5 ()</td> <td>㊦ 図示 ()</td> </tr> <tr> <td>目地深さ(mm)</td> <td>・ 10 () ・ 10 ()</td> <td>㊦ 5 ()</td> <td>㊦ 5 ()</td> <td>㊦ 図示 ()</td> </tr> </table>	施工箇所	コンクリート打継ぎ部	ひび割れ誘発部	ｸﾞﾗｽ回り(5.12.13以外)	左記以外	目地幅(mm)	・ 20 () ・ 20 ()	㊦ 5 ()	㊦ 5 ()	㊦ 図示 ()	目地深さ(mm)	・ 10 () ・ 10 ()	㊦ 5 ()	㊦ 5 ()	㊦ 図示 ()							
施工箇所	コンクリート打継ぎ部	ひび割れ誘発部	ｸﾞﾗｽ回り(5.12.13以外)	左記以外																			
目地幅(mm)	・ 20 () ・ 20 ()	㊦ 5 ()	㊦ 5 ()	㊦ 図示 ()																			
目地深さ(mm)	・ 10 () ・ 10 ()	㊦ 5 ()	㊦ 5 ()	㊦ 図示 ()																			
11 といの工法 (3.8.3)	<p>鋼管製といの防露 ・ 表3.8.4による ・ ()</p> <p>ロックウール保温筒のホルムアルデヒド放散量 ・ F☆☆☆☆ ・ ()</p>																						
12 アルミニウム製笠木 (3.9.2)	<p>部材の種類 ・ 押出し250形 ・ 押出し300形 ・ 押出し350形</p> <p>板材折り曲げ形 本体幅 () mm 板厚さ ・ 2.0mm ・ () mm</p> <p>表面処理 ・ A-1種又はB-1種 ・ () (表5.2.2)</p>																						
6章 外壁改修工事	1 外壁改修工法の種類 (4.1.4)	<table border="1"> <tr> <th>外部仕上部位</th> <th>コンクリート打放し仕上げ</th> <th>モルタル塗り仕上げ</th> <th>ALC仕上げ</th> </tr> <tr> <td>ひび割れ部</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 樹脂注入工法 ・ Uカットｼｰﾙ材充填工法 ・ シｰﾙ工法 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 樹脂注入工法 ・ Uカットｼｰﾙ材充填工法 ㊦ シｰﾙ工法 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹脂注入工法 ㊦ Uカットｼｰﾙ材充填工法 ・ シｰﾙ工法 </td> </tr> <tr> <td>欠損部</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 充填工法 ・ () </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ 充填工法 ・ モﾙﾀﾙ塗替え工法 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ※ ALC専用補修材充填 </td> </tr> <tr> <td>浮き部</td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ アカベニシ工法部分ｽﾌﾟﾗ ・ アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ・ アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ※ 注入口付アカベニシ工法部分ｽﾌﾟﾗ ・ 注入口付アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ・ 注入口付アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ・ 充填工法 ・ モﾙﾀﾙ塗替え工法 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>塗り仕上げ外壁 ・ 薄付け仕上塗材塗り ・ 厚付け仕上塗材塗り ※ 複層仕上塗材塗り ㊦ 可とう形改修用仕上塗材塗り ㊦ 各種塗料塗り ・ マスチック塗材塗り</p>	外部仕上部位	コンクリート打放し仕上げ	モルタル塗り仕上げ	ALC仕上げ	ひび割れ部	<ul style="list-style-type: none"> ※ 樹脂注入工法 ・ Uカットｼｰﾙ材充填工法 ・ シｰﾙ工法 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 樹脂注入工法 ・ Uカットｼｰﾙ材充填工法 ㊦ シｰﾙ工法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹脂注入工法 ㊦ Uカットｼｰﾙ材充填工法 ・ シｰﾙ工法 	欠損部	<ul style="list-style-type: none"> ※ 充填工法 ・ () 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 充填工法 ・ モﾙﾀﾙ塗替え工法 	<ul style="list-style-type: none"> ※ ALC専用補修材充填 	浮き部		<ul style="list-style-type: none"> ・ アカベニシ工法部分ｽﾌﾟﾗ ・ アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ・ アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ※ 注入口付アカベニシ工法部分ｽﾌﾟﾗ ・ 注入口付アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ・ 注入口付アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ・ 充填工法 ・ モﾙﾀﾙ塗替え工法 		目地				
	外部仕上部位	コンクリート打放し仕上げ	モルタル塗り仕上げ	ALC仕上げ																			
ひび割れ部	<ul style="list-style-type: none"> ※ 樹脂注入工法 ・ Uカットｼｰﾙ材充填工法 ・ シｰﾙ工法 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 樹脂注入工法 ・ Uカットｼｰﾙ材充填工法 ㊦ シｰﾙ工法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹脂注入工法 ㊦ Uカットｼｰﾙ材充填工法 ・ シｰﾙ工法 																				
欠損部	<ul style="list-style-type: none"> ※ 充填工法 ・ () 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 充填工法 ・ モﾙﾀﾙ塗替え工法 	<ul style="list-style-type: none"> ※ ALC専用補修材充填 																				
浮き部		<ul style="list-style-type: none"> ・ アカベニシ工法部分ｽﾌﾟﾗ ・ アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ・ アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ※ 注入口付アカベニシ工法部分ｽﾌﾟﾗ ・ 注入口付アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ・ 注入口付アカベニシ工法全面ｽﾌﾟﾗ ・ 充填工法 ・ モﾙﾀﾙ塗替え工法 																					
目地																							

章	節・項目	特記事項	備考																	
6章 外壁 改修 工事	② 工法別使用材料 (4.2.2)	樹脂注入工法 ・ エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形 Uカットシール材充填工法 シーリング材料 ※ ポリウレタン系シーリング材 ・ () シール工法 4.2.2(c)を ※ 適用する ・ 適用しない 充填工法 4.2.2(d)を ※ 適用する ・ 適用しない アンカーピンニング注入工法 アンカーピン材質等 ※ ステンレス SUS304 呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピンニング注入工法 注入口付アンカーピン材質等 ※ ステンレス SUS304 呼び径 6mm タイル (部分) 張替え工法 4.2.2(h)(1)を ※ 適用する ・ 適用しない タイル役物 ・ 使用する ・ 使用しない 試験張り ※ しない ・ する 見本焼き ※ しない ・ する 塗り仕上げ工法 仕上塗材の種別、仕上げ形状、工法 (表4.2.4) は下記による。 <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 複層仕上塗材の耐侯性 ※ 耐侯形3種 ・ 耐侯形 () 種 複層仕上塗材の上塗材の種類 () (表4.2.5)	施工箇所	呼び名	仕上げの形状	工法									JIS A 6024					
	施工箇所	呼び名	仕上げの形状	工法																
	③ 種類 (4.3.4)	4 樹脂注入工法 (4.4.5)	<table border="1"> <tr> <th>コンクリート打放し仕上げ外壁 (4.3.4)</th> <th>モルタル塗り仕上げ外壁 (4.4.5)</th> <th>タイル張り仕上げ外壁 (4.5.5)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 ()</td> <td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 ()</td> <td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 ()</td> </tr> <tr> <td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()</td> <td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()</td> <td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()</td> </tr> <tr> <td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()</td> <td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()</td> <td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()</td> </tr> <tr> <td>ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する (4.3.4(f)による) ・ 実施しない</td> <td>ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する (4.3.4(f)による) ・ 実施しない</td> <td>ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する (4.3.4(f)による) ・ 実施しない</td> </tr> </table>	コンクリート打放し仕上げ外壁 (4.3.4)	モルタル塗り仕上げ外壁 (4.4.5)	タイル張り仕上げ外壁 (4.5.5)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 ()	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 ()	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 ()	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する (4.3.4(f)による) ・ 実施しない	ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する (4.3.4(f)による) ・ 実施しない	ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する (4.3.4(f)による) ・ 実施しない		
	コンクリート打放し仕上げ外壁 (4.3.4)	モルタル塗り仕上げ外壁 (4.4.5)	タイル張り仕上げ外壁 (4.5.5)																	
	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 ()	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 ()	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 ()																	
	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()																	
	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 ()																	
	ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する (4.3.4(f)による) ・ 実施しない	ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する (4.3.4(f)による) ・ 実施しない	ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する (4.3.4(f)による) ・ 実施しない																	
	5 アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 (4.4.10)	6 アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 (4.4.11)	<table border="1"> <tr> <th>アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</th> <th>アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</th> </tr> <tr> <td>アンカーピン本数 (本/㎡)</td> <td>アンカーピン本数 (本/㎡)</td> </tr> <tr> <td>一般部分 指定部分</td> <td>一般部分 指定部分</td> </tr> <tr> <td>※13 () ※20 ()</td> <td>※13 () ※20 ()</td> </tr> <tr> <td>注入口の箇所数 (箇所/㎡)</td> <td>注入口の箇所数 (箇所/㎡)</td> </tr> <tr> <td>一般部分 指定部分</td> <td>一般部分 指定部分</td> </tr> <tr> <td>※12 () ※20 ()</td> <td>※12 () ※20 ()</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※25ml ()</td> <td>樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※50ml ()</td> </tr> </table>	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	アンカーピン本数 (本/㎡)	アンカーピン本数 (本/㎡)	一般部分 指定部分	一般部分 指定部分	※13 () ※20 ()	※13 () ※20 ()	注入口の箇所数 (箇所/㎡)	注入口の箇所数 (箇所/㎡)	一般部分 指定部分	一般部分 指定部分	※12 () ※20 ()	※12 () ※20 ()	樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※25ml ()	樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※50ml ()	
	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法																		
アンカーピン本数 (本/㎡)	アンカーピン本数 (本/㎡)																			
一般部分 指定部分	一般部分 指定部分																			
※13 () ※20 ()	※13 () ※20 ()																			
注入口の箇所数 (箇所/㎡)	注入口の箇所数 (箇所/㎡)																			
一般部分 指定部分	一般部分 指定部分																			
※12 () ※20 ()	※12 () ※20 ()																			
樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※25ml ()	樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※50ml ()																			
8 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 (4.4.13)	9 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 (4.4.14)	<table border="1"> <tr> <th>注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</th> <th>注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</th> </tr> <tr> <td>アンカーピン本数 (本/㎡)</td> <td>アンカーピン本数 (本/㎡)</td> </tr> <tr> <td>一般部分 指定部分</td> <td>一般部分 指定部分</td> </tr> <tr> <td>※9 () ※16 ()</td> <td>※9 () ※16 ()</td> </tr> <tr> <td>注入口の箇所数 (箇所/㎡)</td> <td>注入口の箇所数 (箇所/㎡)</td> </tr> <tr> <td>一般部分 指定部分</td> <td>一般部分 指定部分</td> </tr> <tr> <td>※9 () ※16 ()</td> <td>※9 () ※16 ()</td> </tr> <tr> <td>樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※25ml ()</td> <td>樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※50ml ()</td> </tr> </table>	注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	アンカーピン本数 (本/㎡)	アンカーピン本数 (本/㎡)	一般部分 指定部分	一般部分 指定部分	※9 () ※16 ()	※9 () ※16 ()	注入口の箇所数 (箇所/㎡)	注入口の箇所数 (箇所/㎡)	一般部分 指定部分	一般部分 指定部分	※9 () ※16 ()	※9 () ※16 ()	樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※25ml ()	樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※50ml ()		
注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法																			
アンカーピン本数 (本/㎡)	アンカーピン本数 (本/㎡)																			
一般部分 指定部分	一般部分 指定部分																			
※9 () ※16 ()	※9 () ※16 ()																			
注入口の箇所数 (箇所/㎡)	注入口の箇所数 (箇所/㎡)																			
一般部分 指定部分	一般部分 指定部分																			
※9 () ※16 ()	※9 () ※16 ()																			
樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※25ml ()	樹脂注入量 (注入口1箇所当たり) ※50ml ()																			
11 タイル張替え工法 (4.5.8)		伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※ 表4.5.1 () 目地の幅・深さ ※ 3.7.3による (幅 mm 深さ mm) 接着力試験 ※ 面積50㎡以下の危険性の少ない場合は省略する。																		
⑫ 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.6.3)		工法 ・ サンダー工法 ○ 高圧水洗工法 ・ 塗膜はく離削工法 ○ 水洗い工法 下地調整 ポリマーセメントモルタル又は防水形仕上塗材主材の使用 ※ しない ・ する 処理範囲 ※ 既存仕上面全体 ()																		
7章 建具 改修 工事	1 改修工法 (5.1.3) 2 防火戸 (5.1.4) ③ 建具見本の製作 (5.1.5) ④ その他 (5.1.7) 5 アルミニウム製建具 (5.2.2~5.2.5)	かぶせ工法 ※ 撤去工法 (・ 引抜き工法 ※ はつり工法) ※ 建具表参照 ・ 有 ○ 無 防犯建物部品 ・ 適用する 箇所 () ○ 適用しない 外部に面するアルミニウム製建具の種別 (表16.2.1) ・ A種 ・ B種 ・ C種 上記によらない場合 (JIS A4706 又は A4702) 耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 () 気密性 ・ A-3 ・ A-4 () 水密性 ・ W-4 ・ W-5 () 表面処理 ・ A-1種 ・ A-2種 ※ B-1種 (屋外) ・ B-2種 ※ C-1種 (屋内) ・ C-2種 ・ D種 枠見込み ※ 表5.2.1による () mm	(表5.2.2)																	

章	節・項目	特記事項	備考																				
7章 建具 改修 工事	⑥ 性能及び構造 (5.2.2) (5.3.2) (5.4.2) (5.5.2)	<table border="1"> <tr> <th></th> <th>アルミニウム製建具</th> <th>鋼製建具</th> <th>鋼製軽量建具</th> <th>ステンレス製建具</th> </tr> <tr> <td>防音ドア、サッシ</td> <td>・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4</td> <td>・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4</td> <td>○ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4</td> <td>・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4</td> </tr> <tr> <td>断熱ドア、サッシ</td> <td>・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5</td> <td>・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5</td> <td>○ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5</td> <td>・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5</td> </tr> <tr> <td>耐震ドアセット</td> <td>・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3</td> <td>・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3</td> <td>○ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3</td> <td>・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3</td> </tr> </table>		アルミニウム製建具	鋼製建具	鋼製軽量建具	ステンレス製建具	防音ドア、サッシ	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	○ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	断熱ドア、サッシ	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	○ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	耐震ドアセット	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	○ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	ドアセット JIS A 4702 サッシ JIS A 4706
		アルミニウム製建具	鋼製建具	鋼製軽量建具	ステンレス製建具																		
	防音ドア、サッシ	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	○ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4																		
	断熱ドア、サッシ	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	○ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5																		
	耐震ドアセット	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	○ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3																		
	7 鋼製建具 (5.3.2~5.3.4)	簡易気密型ドアセットの気密性、水密性の適用 ※ する ・ しない 外部建具耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 鋼板類の厚さ ※ 表5.3.2による () mm	(表5.3.1) (表5.2.1)																				
	⑧ 鋼製軽量建具 (5.4.2~5.4.3)	簡易気密型ドアセットの気密性の適用 ※ する ○ しない ビニル被覆鋼板 ・ 有 ○ 無 召合せ、縦小口包み板等の材質 ○ 鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム合金の押出型材																					
	9 ステンレス製建具 (5.5.4~5.5.5)	表面仕上げ ※ HL仕上げ () 曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ																					
	⑩ 建具用金物 (5.6.2)	材質 ○ 表5.6.1 ()																					
	⑪ 鍵 (5.6.4)	マスターキー ○ 有 (3)組 ・ 無																					
	12 自動ドア開閉装置 (5.7.2~5.7.3)	スライディングドア用自動ドア開閉装置の性能値 ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2 センサースイッチの種類 ・ マット ・ 光線 (反射) ・ 熱線 ・ 音波 ・ 光電 スイングドア用自動ドア開閉装置の性能値 ・ SWD-1 ・ SWD-2 センサースイッチの種類 ・ マット ・ 光線 (反射) ・ 熱線 ・ 音波 ・ 光電	(表5.7.1) (表5.7.3)																				
	⑬ 自閉式上吊り引戸装置 (5.8.3)	性能 ○ 表5.8.1による ()																					
14 重量シャッター (5.9.2)	種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ※ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 開閉機能による種類 ※ 上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 耐風圧性能による区分 ・ () ・ 50 ・ 80 ・ 120	(表5.9.1) JIS A 4705																					
15 軽量シャッター (5.10.2)	開閉機能による種類 ・ 上部電動式 (手動併用) ※ 手動式 耐風圧性能による区分 ・ () ・ 50 ・ 65 ・ 80	(表5.10.1) JIS A 4704																					
16 材料 (5.10.3)	スラット材質 ※ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G3312) 又は塗装溶融亜鉛-5%Zn-Ni合金めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G3318) ()																						
17 形状及び仕上げ (5.10.4)	・ スラット形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形																						
18 オーバーヘッドドア (5.11.2)	セクション材料 ※ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ 耐風圧性能による区分 ・ 50 ・ 75 ・ 100 ・ 125 開閉方式 ※ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式 収納形式 ・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形	JIS A 4715																					
19 材料 (5.11.3)	ガイドレール材料 ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板																						
⑳ ガラス (5.12.2)	合わせガラス 種類 ・ LI ・ LII-1 ・ LII-2 ・ LIII 強化ガラス 種類 ・ TI 熱線吸収板ガラス 性能 ・ 1種 ・ 2種 ・ 3種(U3-1) ・ 3種(U3-2) 複層ガラス 断熱性 ・ 1種(U1) ・ 2種(U2) 熱線反射ガラス 日射遮蔽性 ・ 4種(E4) ・ 5種(E5) 日射遮蔽性 ・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 耐久性 ・ A類 ・ B類 ガラス留め材 ○ シーリング材 (9章6節による) ガasket ・ グレイジングチャンネル形 ・ グレイジングビード形	JIS R 3205 JIS R 3206 JIS R 3208 JIS R 3209 JIS R 3221																					
㉑ ガラス溝の大きさ (5.12.3)	※ 表5.12.1による ()																						
㉒ ガラスブロック積み (5.12.5)	材料 ※ 表面形状、呼び寸法、厚さ、壁用金属枠、補強材及び力骨などは、図示による。 工法 ※ 風速、地表面粗度区分、目地幅、伸縮調整目地、目地部の力骨の補強方法などは、図示による。																						
8章 内装 改修 工事	① 既存床の撤去並びに下地補修 (6.2.2)	合成樹脂塗り床材の除去等 ○ 機械的除去工法 ・ 目荒工法																					
② 既存壁の撤去並びに下地補修 (6.3.2)	間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※ モルタル塗り (4.4.9) ()																						
③ 木下地等 (6.5.1)	表面仕上げ (表6.5.1) ・ A種 ※ B種 ・ C種 含水率 (表6.5.2) ※ A種 ・ B種	(表6.5.3)																					
④ 材料 (6.5.2)	等級 構造材及び下地材 ※ 6.5.2 (a) (2) (iii) ①~② () 造作材 ※ A種 ・ B種 代用樹種 (表6.5.4) ※ 認める ・ 認めない 構造用集成材 強度等級 () 材面の品質 ※ 2種 () 構造用単板積層材 樹種名 () 接着性能 () 樹種名 () 厚さ () 曲げ性能 () 造作用集成材 樹種名 () 見付け材面の品質 ※ 1等 () 化粧ばり造作用集成材 心材の樹種名 ※ 針葉樹の単一材種 () 化粧薄板の樹種名 () 厚さ () 見付け材面の品質 ※ 1等 ()																						

章	節・項目	特記事項	備考												
8章	内装改修工事	造作用単板積層材 表面の品質 ※ 天然木化粧加工 () 防虫処理 () 厚さ () 5.5mm合板 接着の程度 ※ 1類 () 板面の品質 ※ 2類 (広葉樹) C-D (針葉樹) () 12mm合板 表板の樹種名 (シ) 防虫処理 () 難燃処理 () 接着の程度 ※ 1類 () 板面の品質 ※ C-D () 等級 ※ 2級 () 表板の樹種名 () 防虫処理 () 集材材、合板、パーティクルボード、MDF及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 防腐剤 種類 () 品質 () 防蟻処理 () 防虫処理 ※ K1 (珪材を使用する場合) ()	表面処理用木材保存 (防腐・防蟻) 剤は監督員の承諾するものとする。												
⑤	軽量鉄骨天井地下	野縁等の種類 (表6.6.1) 屋内 ※ 19形 25形 屋外 19形 25形													
6	形状及び寸法	屋外の野縁受け吊りボルト及びインサート間隔 () mm 野縁間隔 () mm													
7	工法	既存の埋込みインサート ・ 使用する ※ 使用しない あと施工アンカーの引抜き試験 ※ 行う ○ 行わない													
⑧	軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナーの種類 ※ 表6.7.1 ()													
9	ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り	ビニル床シート 種類 ※ FS () 色柄 ・ 無地 ○ (マーブル) 厚さ (mm) ○ 2.0 ※ 2.5 () 工法 ※ 熱溶接工法 ・ 突き付け工法 ビニル床タイル 種類 () 厚さ (mm) ※ 2.0 ・ 3.0 () 特殊機能床材 () ビニル幅木 厚さ (mm) ※ 1.5 () 高さ (mm) ○ 60 (100) ゴム床タイル 種類 () 厚さ (mm) () 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ()	JIS R 5705 JIS A 5705												
10	カーペット敷き	織じゅうたん 種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 (表6.9.1) 織り方 () パイルの形状 () 帯電性 ※ JIS L1023 人体帯電圧3kV以下 () タフテッドカーペット パイルの形状 () 帯電性 ※ JIS L1023 人体帯電圧3kV以下 () パイル長 () 工法 ・ グリッパー工法 ・ 全面接着工法 ニードルパンチカーペット 厚さ (mm) () 帯電性 ※ JIS L1023 人体帯電圧3kV以下 () タイルカーペット 種類 ※ 第1種 ・ 第2種 敷き方 平場 ※ 市松 () 階段 ※ 模様流し () パイルの形状 ※ ループパイル () 寸法 ※ 500mm角 () 総厚さ ※ 6.5mm () 下敷き材 ※ JIS L3204 第2種第2号、厚さ8mm 取付用付属品 見切り 材質 () 種類 () 形状 () 押さえ金物 材質 () 種類 () 形状 ()	JIS L 4405 JIS L 4406												
11	合成樹脂塗り床	塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 弾性ウレタン塗り床 仕上げの種類 ※ 平滑 ・ 防滑 ・ つや消し エポキシ樹脂塗り床 仕上げの種類 ・ 薄膜流し展べ ・ 厚膜流し展べ ・ 樹脂モルタル ・ 防滑	(表6.10.3) (表6.10.4～ 表6.10.7)												
12	フローリング張り	単層フローリング ○ フローリングボード ・ フローリングブロック ・ モザイクパーケット 複合フローリング ・ 複合1種フローリング ・ 複合2種フローリング ・ 複合3種フローリング 複合フローリング、接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 樹種 ※ なら () 厚さ(mm) ※ 15 () 大きさ(mm) ※ 303×303 () 樹種 ※ なら ○ (かば) 複合フローリングの種別 ・ A種 ・ B種 ※ C種 樹種 (モザイクパーケットを除く) ※ なら () モザイクパーケット 樹種 () 厚さ () mm 大きさ () 仕上塗装 ※ ウレタン樹脂ワニス ・ オイルステイン+ワックス ・ ワックス	(表6.11.1) (表6.11.3)												
13	モルタル埋込み工法	樹種 ※ なら () 厚さ(mm) ※ 15 () 大きさ(mm) ※ 303×303 ()	(表6.11.1)												
14	釘留め工法	樹種 ※ なら ○ (かば) 複合フローリングの種別 ・ A種 ・ B種 ※ C種	(表6.11.3)												
15	接着工法	樹種 (モザイクパーケットを除く) ※ なら () モザイクパーケット 樹種 () 厚さ () mm 大きさ ()													
16	仕上げ	仕上塗装 ※ ウレタン樹脂ワニス ・ オイルステイン+ワックス ・ ワックス													
17	畳敷き	種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	(表6.12.1)												
18	せっこうボード、その他ボード及び合板張り	合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 厚さ (5.5, 6.0, 9.5, 12.5) 種類 普通合板 (難燃処理) 表面の樹種名 (シ) 板面の品質 () 防虫処理 () 天然木化粧合板 (難燃処理) 化粧板の樹種 () 防虫処理 () 特殊加工化粧合板 (難燃処理) 表面性能 () 防虫処理 () 化粧加工の方法 ()													
	工法	合板類の張付け 種別 ・ A種 ※ B種 せっこうボードの目地工法 種別 ○ 目透かし工法 ・ 突付け工法 ○ 継目処理工法	(表6.13.3) (表6.13.5)												
19	壁紙張り	品質 () 防火性能 () 下地調整 モルタル及びプラスター面 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種 コンクリート面 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種 せっこうボード面 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.5) (表7.2.5) (表7.2.7)												
20	タイル張り	ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 伸縮調整目地 位置 () 接着力試験 面積50㎡以下の危険性の少ない場合は省略する。													
	材料	<table border="1"> <tr> <td>施工箇所</td> <td>ホール床</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>きじの質</td> <td>せつ器質</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>標準色・特別色の別</td> <td>標準色</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施工箇所	ホール床			きじの質	せつ器質			標準色・特別色の別	標準色			
施工箇所	ホール床														
きじの質	せつ器質														
標準色・特別色の別	標準色														
	施工	役物 ・ 有 ○ 無 試験張り ・ 有 ※ 無 見本焼き ・ 有 ※ 無 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 参考メーカー 朝日製陶(株) 同等品 壁タイル ・ 改良積上げ張り ・ 壁タイル接着剤張り	(表6.16.5)												
21	セメント系材料	・ せっこう系 ・ セメント系													
22	その他	視覚障害者誘導 ブロック 屋内 ※ 塩化ビニル製 ・ 磁器又はせつ器質タイル ・ レジンコンクリート製 屋外 ※ 磁器又はせつ器質タイル、レジンコンクリート製 突起の形状・寸法及び配列はJIS T 9251による。													

章	節・項目	特記事項	備考						
9章	① 材料 (7.1.3)	塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ()							
	② 下地調整 (7.2.1)	RB種の既存塗膜の除去範囲 ※ 塗替え面積の30% ()							
	③ 木部下地調整 (7.2.2)	・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.1)						
	④ 鉄鋼面下地調整 (7.2.3)	・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.2)						
	⑤ 亜鉛めっき面下地調整 (7.2.4)	・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.3)						
	⑥ モルタル面及びプラスター面下地調整 (7.2.5)	・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.4)						
	⑦ コンクリート及びALCパネル面下地調整 (7.2.6)	・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.5)						
	⑧ コンクリート及び押出成形セメント板面下地調整 (7.2.7)	・ RA種 ・ RB種 ・ RC種	(表7.2.6)						
	⑨ せっこうボード及びその他のボード面下地調整 (7.2.7)	・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.7)						
	⑩ 鉄面錆止め塗料種別 (7.3.2)	鉄鋼面 ※ A種 ※ B種 (EP-G) ・ C種 亜鉛めっき鋼面 ※ A種 ・ B種 ※ C種 (EP-G)	(表7.3.1) (表7.3.2)						
	⑪ 鉄面錆止め塗料塗り (7.3.3)	鉄鋼面 ※ A種 (新規見え掛り) ※ B種 (新規見え隠れ) ※ C種 (塗替え) 亜鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 ※ C種 (塗替え)	(表7.3.3) (表7.3.4)						
	⑫ 合成樹脂調整ペイント (7.4.2)	※ 1種 2種							
	⑬ 合成樹脂調整ペイント塗り (7.4.3～7.4.5)	木部 新規 ※ A種 (外部) ※ B種 (内部) ・ C種 塗替え ・ A種 ※ B種 ・ C種 鉄鋼面 ・ A種 ※ B種 ・ C種 亜鉛めっき鋼面 新規に塗る場合及び鋼製建具の塗り替え ※ A種 ・ B種 ・ C種 その他 ・ A種 ※ B種 ・ C種	(表7.4.1) (表7.4.1) (表7.4.2) (表7.4.3) (表7.4.3)						
	⑭ クリヤラッカー塗り (7.5.2)	・ A種 ※ B種	(表7.5.1)						
	15 フッ素樹脂系非水分散形塗料 (7.7.2)	・ A種 ※ B種	(表7.7.1)						
	⑯ 耐候性塗料塗り (7.8.2)	鉄鋼面 ・ A種 ○ B種 ・ C種 亜鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 コンクリート面及び押出成形セメント板面 ・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ C-2種	(表7.8.1) (表7.8.2) (表7.8.3)						
	⑰ つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗り (7.9.2～7.9.5)	・ A種 ※ B種 ・ C種 塗替えの場合のしみ止め ※ 7.9.2 (b)による。 () 木部 (屋内) ※ A種 (新規) ※ B種 (塗替え) ・ C種 鉄鋼面 (屋内) ・ A種 ※ B種 ・ C種 亜鉛メッキ鋼面 (屋内) ・ A種 ※ B種 ・ C種	(表7.9.1) (表7.9.2) (表7.9.3) (表7.9.4)						
	⑱ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (7.10.2)	・ A種 ※ B種 ・ C種 塗替えの場合のしみ止め ※ 7.10.2 (b)による。 ()	(表7.10.1)						
	19 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (7.11.2)	新規 ・ A種 ※ B種 ・ C種	(表7.11.1)						
	20 珪酸樹脂ニス塗り (7.12.1)	・ A種 ※ B種	(表7.12.1)						
	21 木材保護塗料塗り (7.14.2)	・ A種 ※ B種	(表7.14.1)						
	22 マスチック塗材塗り (7.15.2)	・ A種 ・ B種 仕上材塗り ・ 有 (・アクリル樹脂エナメル ・ つや有合成樹脂エマルジョンペイント) ・ 無	(表7.15.1)						
10章	① コンクリートの種類 (8.1.3)	※ I類 ・ II類 (表8.1.1) コンクリートの種類 ○ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート	JIS A 5705						
	② コンクリートの強度	普通コンクリート(N/mm2) ○ 18 ○ 21 ・ 24 軽量コンクリート(N/mm2) ・ 18 ・ 21 ・ 24							
		<table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>使用部位</th> </tr> <tr> <td>普通コンクリート(N/mm2)</td> <td>1階スラブ、鉄骨階段基礎</td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート(N/mm2)</td> <td></td> </tr> </table>	種類	使用部位	普通コンクリート(N/mm2)	1階スラブ、鉄骨階段基礎	軽量コンクリート(N/mm2)		
種類	使用部位								
普通コンクリート(N/mm2)	1階スラブ、鉄骨階段基礎								
軽量コンクリート(N/mm2)									
	③ コンクリートの品質 (8.1.4)	※ 構造体コンクリートの強度は材齢91日において設計基準強度以上とする 打放し仕上げの種別 ・ A種 ・ B種 ○ C種	(表8.1.3)						
	④ 鉄骨製作工場 (8.1.5)	建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた、㈱日本鉄骨評価センター又は(社)全国鋼構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める下記のグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 グレード ・ S ・ H ・ M ○ R 施工管理技術者 ※ 適用する ・ 適用しない							
	⑤ 鉄筋の種類 (8.2.1)	※ JIS G 3112 (種類の記号: SD295A) ・ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けた鉄筋	(表8.2.1)						
	6 溶接金網 (8.2.2)	網目の形状 () 寸法 () 鉄線の径 ()	JIS G 3511						
	⑦ あと施工アンカー (8.2.4)	○ 金属系アンカー セット方式 ※ 本体打込み式 () 引張耐力 () セン断耐力 () 径 (10) mm 埋込み深さ () mm 接合筋 種類 () 径 () mm 長さ () mm アンカーの種類 ※ カプセル型 () 引張耐力 () セン断耐力 () アンカー筋 径 () mm 埋込み深さ () mm アンカー筋の種類 () アンカー筋の新設壁内への定着長さ () 性能確認試験 ・ 行う ○ 行わない							

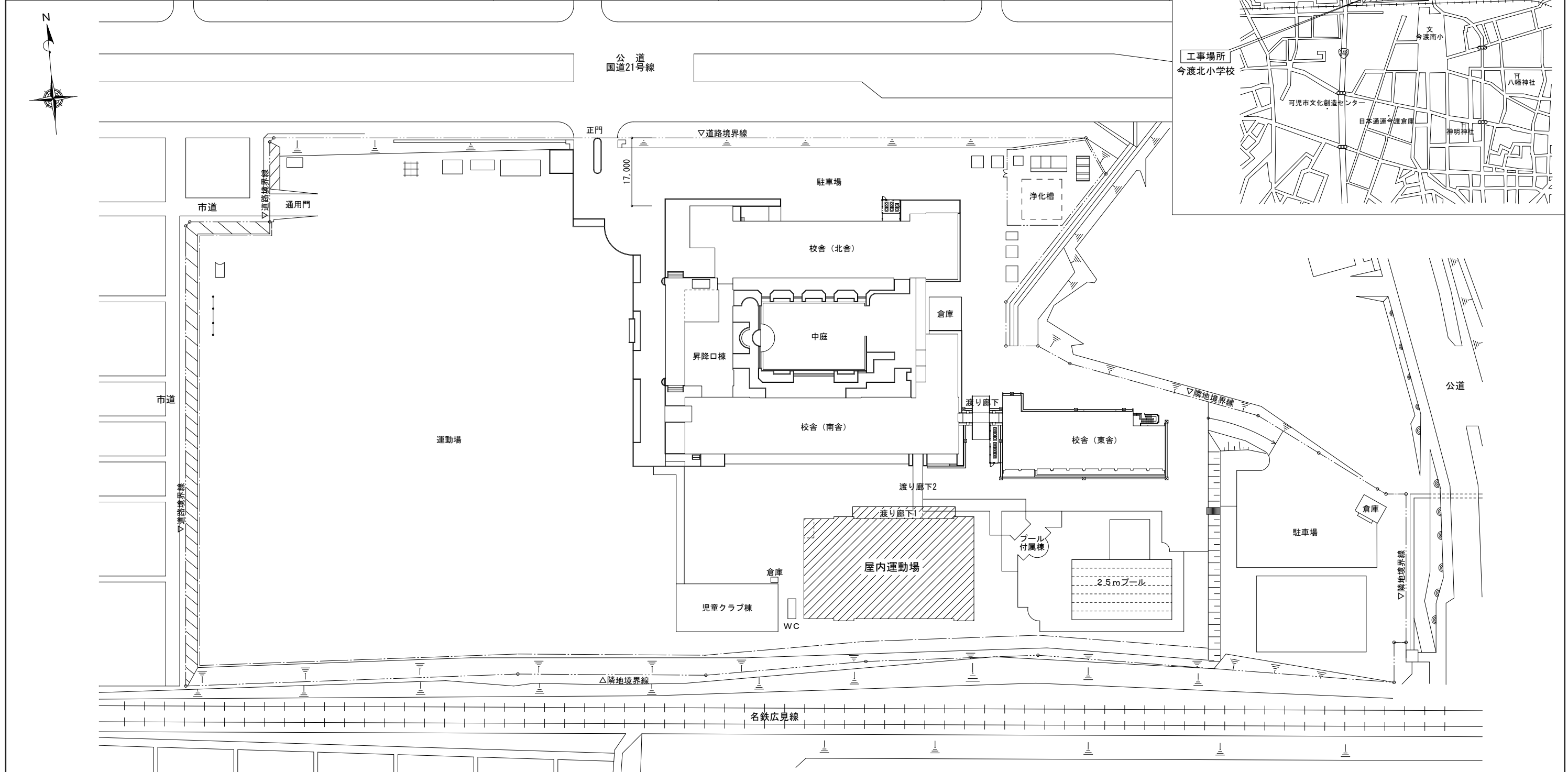
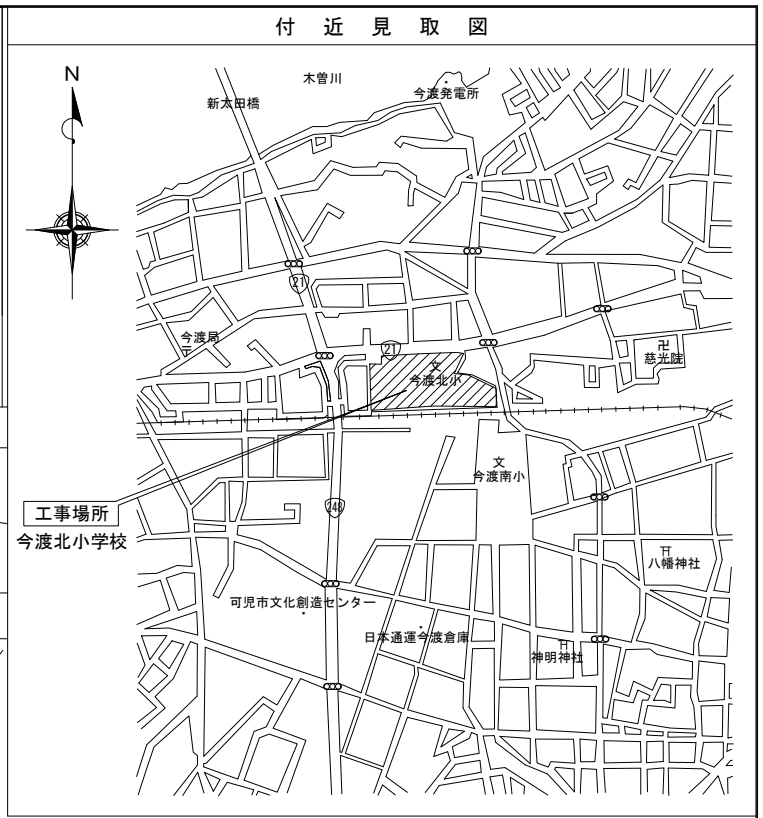
章	節・項目	特記事項	備考
⑧	コンクリートの材料 (8.2.5)	セメントの種類 ⑧ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・ () 高炉セメントB種又はフライアッシュセメントB種 ・ 使用する (適用箇所) ⑨ 使用しない 細骨材の種類 (JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート)「附属書1レディーミクストコンクリート用骨材」以外) フェロニッケルスラグ細骨材 ・ 使用する ⑩ 使用しない 鋼スラグ細骨材 ・ 使用する ⑩ 使用しない 電気炉酸化スラグ細骨材 ・ 使用する ⑩ 使用しない 再生骨材H ・ 使用する ⑩ 使用しない 砂利及び砂等の品質 (アルカリシリカ反応性による区分) ⑪ A ・ B 混和材料 (JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート)に規定されてるもの以外) ⑫ 8.2.5 (f)による ・ ()	
⑨	型枠の材料 (8.2.6)	せき板の種類 材質 ・ 広葉樹 ・ 針葉樹 ※ 複合材 (針葉材50%以上) ・ () 指定された種類以外のせき板を使用する場合は、監督員の承諾を得る。 塗装 ・ 有 ⑬ 無 合板を用いる場合 ※ 「コンクリート型枠用合板の日本農林規格」による厚さ12mmのもの ・ () ラス型枠については、下記の仕様により使用できるものとする。 1) 使用可能部位 独立基礎、地中梁 (ただし、見えがかり部、ビット内部は合板型枠とする。) 2) 鉄筋の最小かぶり厚さ ラス型枠を使用した部分の鉄筋の最小かぶり厚さは、公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) 5.3.5表に示す数値の+10mmするものとする。 3) コンクリートのスランブ スランブは15cm又は18cmとする。パイプレーターを使用するときには、ラス型枠に直接当て及び打込み 行うように注意する。 4) その他 各メーカーで仕様が異なるため、それぞれの施工要領書等で確認する。	
⑩	鋼材の種類 (8.2.7)	種類の記号 ⑭ SS400 ・ SN400A ・ SN490B ・ SN490C ⑮ SSC400 ・ () 規格等 ※ JIS規格品 ・ () 使用箇所 新設階段、バスケットゴール下地	
⑪	高力ボルトの種類 (8.2.8)	⑯ トルシア形高力ボルト ・ JIS 形高力ボルト ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト	
⑫	モルタル及びグラウト材 (8.2.10)	柱底均しモルタル ※ 8.2.10 (b)による ・ () 無収縮グラウト材 ・ 現場調査 ※ プレミックスタイプ 無収縮グラウト材の品質 項目 コンシステンシーの範囲 圧縮強度 乾燥収縮 品質 J14ロート 8±2秒 30Nmm2以上 0×10-4	
13	連続繊維シート (8.2.11)	材料 () 工法 () 引張強度 () Mpa ヤング係数 () Gpa	
⑭	鉄筋の継手 (8.3.4)	⑰ 重ね継手 ・ ガス圧接継手 ⑱ 特殊な鉄筋継手 (片面10d7/7溶接) 鉄筋の継手位置 () 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ※ 40d (軽量コンクリートの場合は50d) と表 8.3.2による長さの大きい値 ・ () 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さ ※ 40d (軽量コンクリートの場合は50d) と表 8.3.4による定着長さのうち大きい値 ・ ()	
15	壁の配筋及び補強 (8.3.7)	壁の配筋及び開口部の補強 ※ 構造図参照	
16	ガス圧接 (8.3.9)	超音波探傷試験 ・ しない ・ する	
17	機械式継手 (8.4.2)	種類 () 工法 ()	
18	溶接継手 (8.4.3)	・ 適用する ・ 適用しない	
⑰	コンクリートの調合強度 (8.5.5)	温度補正 ※ 表8.5.1による ・ 室温による温度補正 ・ 温度補正しない	
20	構造体用モルタルの調合 (8.5.10)	圧縮強度及びフロー値 ()	
⑱	型枠工事 (8.7.9)	コンクリート打放し仕上げの打増し厚さ (10)	
22	軽量コンクリート (8.10.1)	種類 所要気乾単位容積質量 (t/m3) 適用箇所 備考 1種 2種 種類は表8.10.1による	
23	あと施工アンカー工事 (8.11.5)	施工確認試験 ※ 8.11.5 (1) ~ (5)による ・ () 確認強度 ※ 鋼材又はコンクリート破壊による引張り強度の小さい方の2/3 ・ ()	
⑳	鉄骨工作 仮組 (8.12.9)	仮組の実施 ・ 行う ※ 行わない	
㉑	高力ボルト接合の摩 (8.13.2)	すべり係数試験 ・ 行う 試験の方法 () 試験片摩擦面の状態 () ⑳ 行わない	
㉒	高力ボルトの締付け (8.13.7)	JIS形高力ボルトのボルトの長さが呼び径の5倍を超える場合 回転量 ()	
㉓	溶接接合技能資格者 (8.14.3)	技量付加試験 ・ 行う ※ 行わない	
28	材料準備 (8.14.4)	開先の形状 ()	
29	溶接施工 (8.14.7)	完全溶込み溶接 スカーラップの形状 ()	
㉔	溶接部の試験 (8.14.11)	完全溶込み溶接部の超音波深傷試験 ※ 行う ・ 行わない	
31	耐火被覆材 (8.17.2)	種別 ・ 耐火材吹付け ・ 耐火板張り ・ 耐火材巻付け ・ ラス張りモルタル塗り 性能 ()	
32	増設壁のコンクリートの打込み (8.19.8)	コンクリート打込み工法 ・ 流込み工法 ・ 圧入工法	
33	柱補強工事 (8.21.5)	溶融金網巻き工法及び溶接閉鎖7フ巻き工法 ・ 流込み工法 ・ 圧入工法	
34	連続繊維補強工法 (8.21.7)	強度試験 ・ 行わない ・ 行う (試験数量:)	
35	耐震リフト新設工事 (8.22.2)	スリット 幅 () mm 深さ () mm 充填材の種類 使用箇所 仕様 備考 耐火材 遮音材 シーリング 仕様は表3.7.1の記号による	

章	節・項目	特記事項	備考
9章	① アスベスト含有建材 (9.1.1) の処理工事	アスベスト含有吹付け材、アスベスト含有保温材等及びアスベスト含有成形板の処理にあたっては、公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事編) 第9章第1節「アスベスト含有建材の処理工事」に基づき、適切に処理すること。 処理工法 ※ 除去工法 ・ 封じ込め工法 ・ 囲い込み工法 アスベスト封じ込め処理工事 劣化の著しい部分、下地との接着が不良な部分については9.1.3により除去し、粉じん飛散防止処理剤を用いて封じ込め処理を行う。封じ込めの工法は施工業者の仕様による。 なお、施工にあたっては、9.1.3(a)、(c)、(d)を適用する。 アスベスト囲い込み処理工事 あと施工アンカー等で吹付け面を荒らす恐れのある場合は、9.1.3(a)、(c)、(d)を適用する アスベスト粉じん濃度測定 ・ 行う ⑲ 行わない アスベスト粉じん濃度測定を行う場合は下記による。ただし、取壊し工事を含む場合は、取壊し工事特記仕様書「6.1.4アスベスト粉じん濃度測定」による。	
環境配慮改修工事		測定時期 測定場所 測定点 備考 処理作業中 ① 負圧・除じん装置の 出口吹き出し風速1m/sec (注) 1 排出吹き出し口付近 以下の位置各2点 ② 処理作業室外 4方向各1点 (敷地境界) (注) 1 処理作業後 (養生中) ③ 処理作業室内 (注) 2 (注) 3	
2	石綿作業主任者 (9.1.2)	(注) 1 速報値で10f/1以上検出された場合は、その原因を確認すること。 (注) 2 各施工箇所ごとの室面積が10㎡以下は1点、50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。300㎡を超えるものは、300㎡ごとに1測定点を追加する。 (注) 3 粉じん測定は、粉じん飛散抑制剤を散布した翌日とし、速報値で10f/1以下であることを確認した後、シートの撤去を行う 粉じん濃度結果報告書 ・ 2部 ・ () 主たる工事がアスベスト対策工事の場合は、自社所属の石綿作業主任者を選任すること。 処理を行う吹付けアスベストの仕様等	※監督員の保護具・保護衣は請負者が無償で準備すること。
3	アスベスト含有吹付け材の除去 (9.1.3)	材料名 厚さ (mm) 含有率 (%) 処理を行う範囲 ※ 図示 ※ 図示	
4	除去物及び汚染物の処理	・ 密封処理 ・ セメント固化	
⑤	アスベスト含有保温材等、成形板の除去 (9.1.4.5)	アスベスト含有保温材等及び成形板として処理するもの 品名 部位 品名 部位 石綿珪酸カルシウム板 天井仕上材 作業場の隔離 ・ 行う ⑳ 行わない	
6	断熱材打込み工法 (9.5.2)	種類 種別 厚さ (mm) 品質・規格 ビーズ法ポリスチレンフォーム JIS A9511の規格品 押出法ポリスチレンフォーム 硬質ウレタンフォーム 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ・ () 種類 ・ A種1 ・ () 吹付け厚さ () mm	
7	断熱材現場発泡工法 (9.5.3)		
10章	1 カーテン <20.2.14>	暗幕 形式 ・ 片引き ・ 引分け 機構 ・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動 ひだ ※ 片ひだ (1.5倍以上) ・ 加工 中央交差の重ね代は300mmとする 部品 タッセルバンド、ひるかん、テープ 東リ:エコシャドール同等品	
その他工事	② ガラス用フィルム張り	材料 ⑳ 日射調整フィルム ㉑ ガラス飛散防止フィルム 張り面 ⑲ 内張り ・ 外張り 保証年限 フィルムの保証期間は工事目的物引渡しから内張り5年、外張り3年とする。 また、元請・施工者・メーカーの三者連名にて保証書を作成し、監督員に提出する。 参考メーカー 下記同等品とする。 ・ ESC研究所 エコシールド E-f ・ スリーエムジャパン スコッチティント SH2CLARX	
その他	① 化学物質の濃度等	工事完成時に室内化学物質の濃度測定を行い、厚生労働省が定める指針値以下であることが確認出来なければ、建物を引き渡すことが出来ない。なお、室内の化学物質濃度が指針値を超えた場合は、原因を特定するとともに、換気を行うなどの対策後、再度測定し確認する。	
	2 外壁等の色決め等	外壁、屋根材の選定に当り、カラープランナーにより、カラープランを2案程度作成し、決定するものとする。	

メーカーリスト

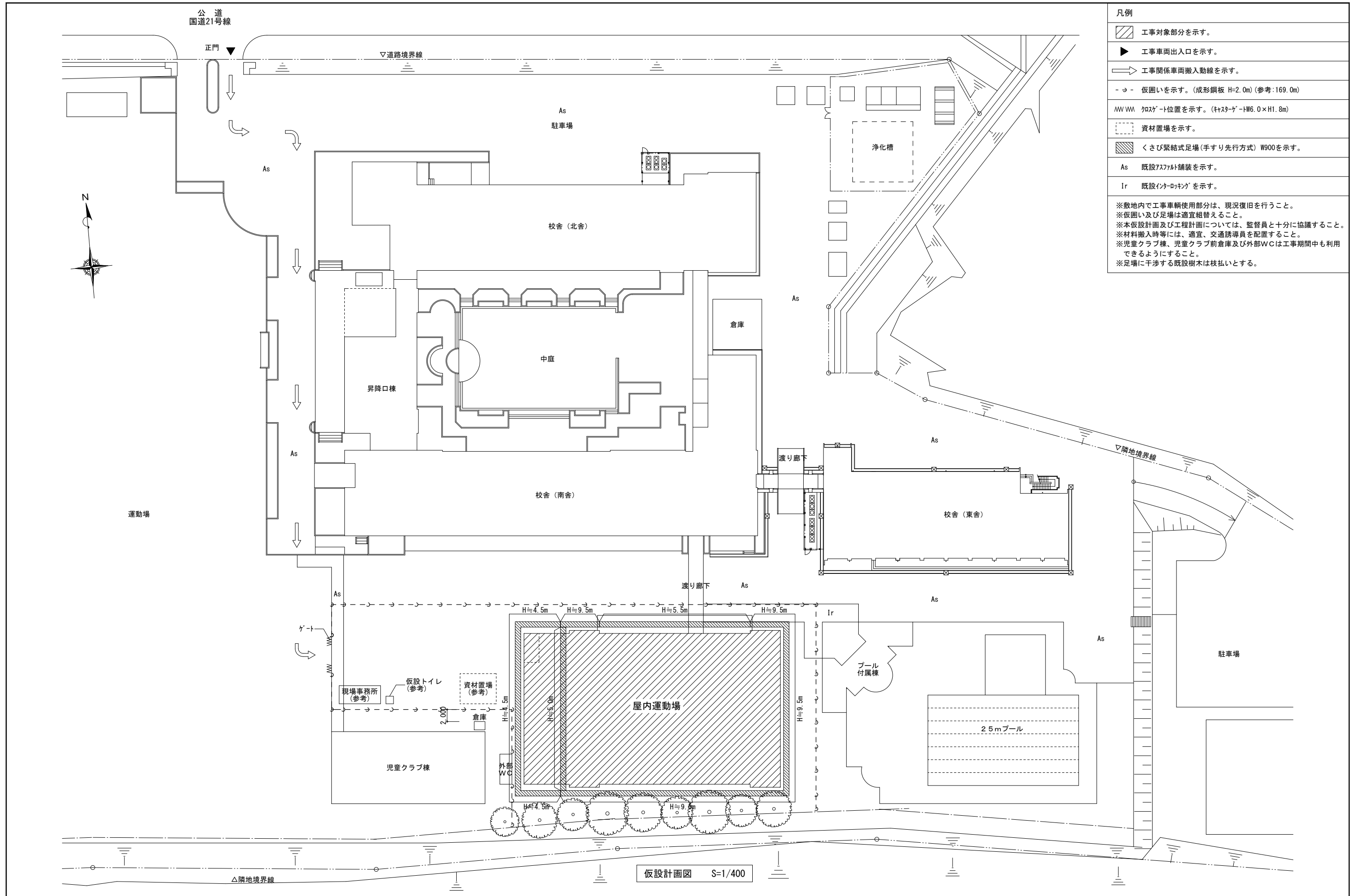
工種	参考メーカー 下記同等品とする。	備考
外壁及び内部塗装	・ 菊水化学工業 ・ エスケー化研	
フローリング	・ テーオー小笠原 ・ 矢島木材乾燥 ・ 江戸川ウッドテック	
鋼製床	・ 三洋工業 ・ UFG	

工事概要		③外壁改修	⑤建具改修	⑥塗装改修	⑧電気設備改修
工事名称	可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事	・既設屋根高圧洗浄の上 再吹付 ・既設劣化部補修	・飛散防止フィルム貼撤去新設 ・ガラス廻りシーリング打替え ・トイレ改修に伴う建具撤去新設 ・器具庫新設に伴う建具新設 ・キャットウォーク建具新設 ・建具劣化補修	・外部鉄部塗替え ・玄関、ホール及び廊下の壁再塗装 ・アリーナ、ステージ、控室1,2内の壁再塗装 ・アリーナ、ステージ、控室1,2の床再塗装 ・コートライン引き新設	・既設照明をLED照明に取替え ・コンセント及びスイッチの劣化部分取替え ・マルチメディアコンセント盤設置 ・建築工事に伴う電気設備改修
工事場所	可児市今渡1680番地 地内				
工事内容 【屋内運動場】		④内装改修	⑦便所改修	⑨機械設備改修	
①躯体改修 ・鉄骨階段新設 ・キャットウォークの一部拡張		・玄関、ホール及び廊下の床仕上げ撤去新設 ・鉄骨階段新設に伴う内装撤去新設 ・バスケットゴール撤去新設 ・防球ネット撤去新設 ・飾り板撤去新設 ・アリーナ床撤去新設	・トイレの乾式化 ・更衣室撤去の上 器具庫新設	・アリーナ及びステージ内壁用換気扇の取替え ・建築工事に伴う機械設備改修	
②防水改修 ・既設屋根高圧洗浄の上 塗膜防水 ・建具廻りシーリング新設					



配置図 S=1/700

凡例	
	工事対象棟を示す。



- 凡例
- 工事対象部分を示す。
 - 工事車両出入口を示す。
 - 工事関係車両搬入動線を示す。
 - 仮囲いを示す。(成形鋼板 H=2.0m) (参考:169.0m)
 - ｸﾞｰﾄ位置を示す。(ｷｰｽﾀｰﾞｰﾄW6.0×H1.8m)
 - 資材置場を示す。
 - くさび緊結式足場(手すり先行方式) W900を示す。
 - As 既設ｱｽﾌﾙﾄ舗装を示す。
 - Ir 既設ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝﾞを示す。
- ※敷地内で工事車輛使用部分は、現況復旧を行うこと。
 ※仮囲い及び足場は適宜組替えること。
 ※本仮設計画及び工程計画については、監督員と十分に協議すること。
 ※材料搬入時等には、適宜、交通誘導員を配置すること。
 ※児童クラブ棟、児童クラブ前倉庫及び外部WCは工事期間中も利用できるようにすること。
 ※足場に干渉する既設樹木は枝払いとする。

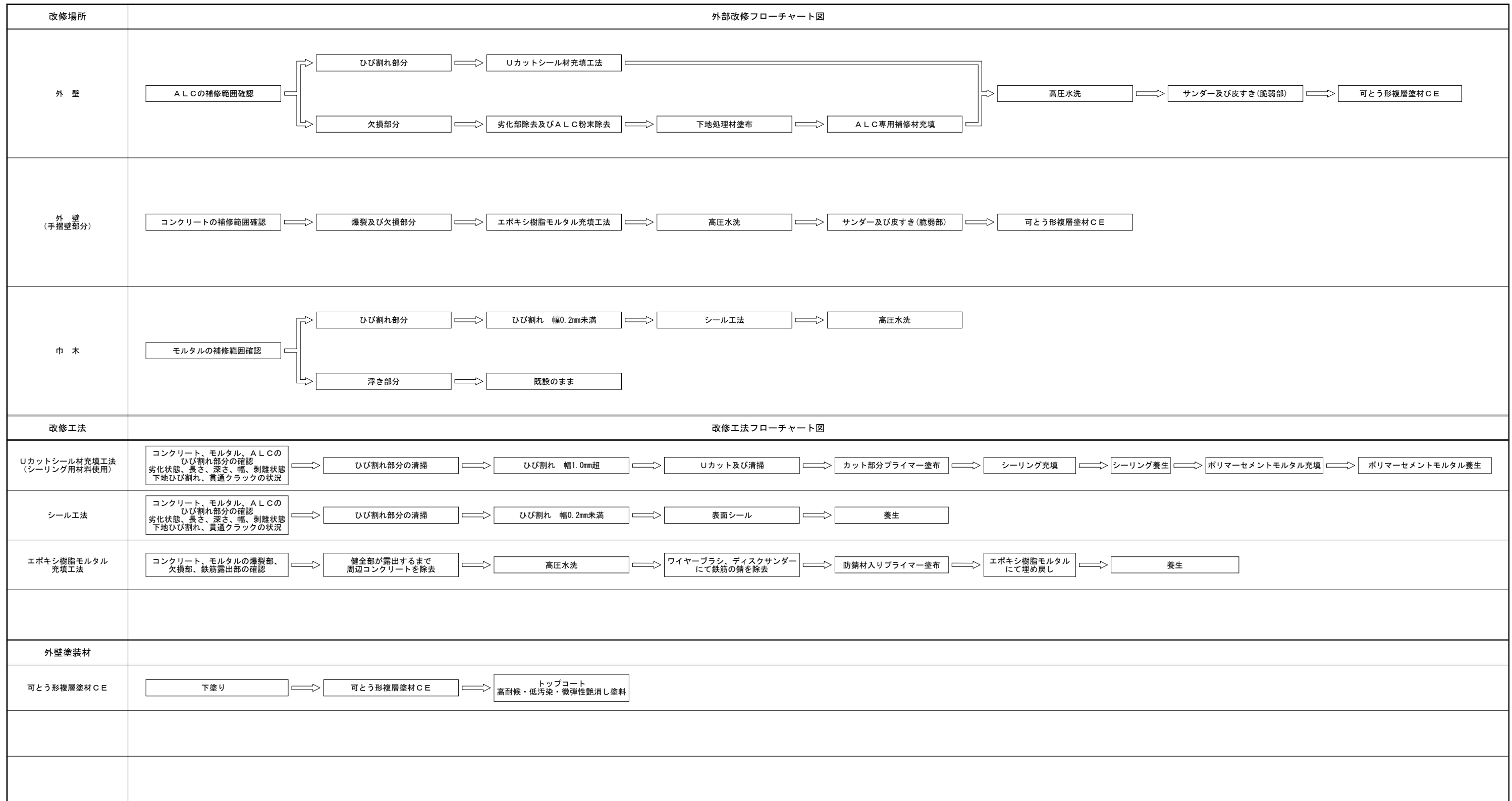
仮設計画図 S=1/400

外部仕上表 (屋内運動場)				外部仕上表 (渡り廊下1)			
屋根	前 丸馳折板Ⅱ型 塩ビ鋼板 t=0.8 内部:フェルトン t=5 軒裏:サコア 塗装 後 高圧水洗浄、下地調整の上 超速硬化ウレタン塗膜防水(密着工法) 新設 軒裏:下地調整の上 DP	壁	前 SGP 75φ OP、SGP 125φ OP 後 下地調整の上 DP	屋根	前 丸馳折板Ⅱ型 塩ビ鋼板 t=0.8 後 高圧水洗浄、下地調整の上 超速硬化ウレタン塗膜防水(密着工法) 新設 軒裏:下地調整の上 DP	軒	前 ポリウレタン t=0.8加工 後 高圧水洗浄、下地調整の上 高強度ウレタン塗膜防水(密着工法) 新設
外壁	前 ALC t=100 横張り 吹付タイル 目地:シーリング 後 高圧水洗浄、下地調整の上 可とう複層CE+高耐候塗料 目地:シーリング 打替え(PU-2)	軒	前 ポリウレタン t=0.8加工 後 高圧水洗浄、下地調整の上 高強度ウレタン塗膜防水(密着工法) 新設	庇見付	前 塩ビ鋼板 t=1.0加工 後 下地調整の上 DP	壁	前 SGP 75φ OP 後 下地調整の上 DP
巾木	前 MDF 後 高圧水洗浄	軒天	前 FK t=6 目透張 バックライト入VP吹付 後 下地調整の上 EP	柱	前 鉄骨 OP 後 下地調整の上 DP		
笠木	前 FMS既製品 後 既設のまま	庇見付	前 塩ビ鋼板 t=1.0加工 後 下地調整の上 DP	床	前 MDFの上 カラット仕上 後 既設のまま		
ポーチ	前 せつ器質タイル張 一部撤去(M下地共) 後 せつ器質タイル張 一部新設(M下地共)	床下換気口	前 スチール φ9@50 W600xH220、W900xH220 後 下地調整の上 DP				

内部仕上表 (屋内運動場) □ : 改修部分を示す。

階	室名	床		巾木		腰壁		上壁		天井		摘要				
		仕上	塗装	仕上	H	塗装	仕上	塗装	仕上	塗装	高さ	廻縁	室名札	カーテン及びブラインド	備考	
前	玄関	せつ器質タイル張	/	TB	100	/	シ合板 t=6 目透張	OP	シ合板 t=6 目透張	OP	GB-D t=9	/	2,500 2,700	塩ビ		下足箱、スノコ板、スロープ 撤去
後		酸洗い	/	既設のまま	100	/	既設のまま	/	既設のまま	/	既設のまま	/	2,500 2,700	既設		スロープ 新設
前	玄関ホール	LVS t=2.8 撤去	WX	木製 一部撤去	100	OP	シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	GB-D t=9 撤去(LGS下地共)	/	2,400 2,600	塩ビ撤去		黒板: W2250xH900 撤去、掲示板: W2250xH900 撤去 ガラス: W1870xD470xH2150
後		LVS t=2.5 新設	WX	下地調整 木製 新設		SOP	下地調整 GB-R t=12.5 目透張 一部新設	SOP EP-G	下地調整 GB-R t=12.5 目透張 一部新設	SOP EP-G	GB-D t=9.5 新設(LGS下地共)	/	2,400	塩ビ新設		
前	廊下	LVS t=2.8 撤去	WX	木製 一部撤去	100	OP	シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	GB-D t=9 撤去(LGS下地共)	/	2,400	塩ビ撤去		
後		LVS t=2.5 新設	WX	下地調整 木製 新設	100	SOP	下地調整 GB-R t=12.5 目透張 一部新設	SOP EP-G	下地調整 GB-R t=12.5 目透張 一部新設	SOP EP-G	GB-D t=9.5 新設(LGS下地共)	/	2,400	塩ビ新設		
前	男子・女子更衣室	LVS t=2.8 撤去	WX	木製	100	OP	シ合板 t=6 目透張 撤去 (木下地共)	OP	シ合板 t=6 目透張 撤去 (木下地共)	OP	FK t=6 目透張 撤去(LGS下地共)	バックライト入VP	2,400	塩ビ撤去	撤去	木製更衣棚 撤去
前	男子・女子便所	磁器質WT貼 φ19 撤去(M下地共) LVS t=2.8 撤去(M下地共)	WX	半磁器質WT 撤去 (M下地共)		/	半磁器質WT 撤去 (M下地共)	/	半磁器質WT 撤去 (M下地共)	/	FK t=6 目透張 撤去(LGS下地共)	バックライト入VP	2,440	塩ビ撤去	撤去	
後	器具庫A	LVS t=2.5 新設	WX	木製	100	SOP	GB-R t=12.5の上 GB-R-H t=9.5 目透張 新設	EP-G	GB-R t=12.5の上 GB-R-H t=9.5 目透張 新設	EP-G	GB-D t=9.5 新設(LGS下地共)	/	2,400	塩ビ	新設	
後	男子便所	LVS t=2.5 新設	WX	ビニル巾木	60	/	GB-R t=12.5の上 KFK t=6 目透張 新設	/	GB-R t=12.5の上 KFK t=6 目透張 新設	/	GB-D t=9.5 新設(LGS下地共)	/	2,400	塩ビ	新設	
後	女子便所	LVS t=2.5 新設	WX	ビニル巾木	60	/	GB-R t=12.5の上 KFK t=6 目透張 新設	/	GB-R t=12.5の上 KFK t=6 目透張 新設	/	GB-D t=9.5 新設(LGS下地共)	/	2,400	塩ビ	新設	
後	多目的便所	LVS t=2.0 新設	WX	ビニル巾木	60	/	GB-R t=12.5の上 KFK t=6 目透張 新設	/	GB-R t=12.5の上 KFK t=6 目透張 新設	/	GB-D t=9.5 新設(LGS下地共)	/	2,400	塩ビ	新設	
前	アリーナ	かF t=15 撤去 (合板下地、鋼製床組共)	UC	木製 撤去	100	OP	有孔シ合板 t=9 目透張 一部撤去	OP	有孔シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	鉄骨表し フェルトン t=5 下地調整 既設のまま	OP	/	/		姿見、体育器具一式、撤去: クラップ、防球ネット、バックネット(2対)
後		かF t=18 新設 (合板下地、鋼製床組共)	UC	木製 新設	100	SOP	下地調整 有孔シ合板 t=9 目透張 一部新設	SOP	下地調整 有孔シ合板 t=5.5 目透張 一部新設	SOP	既設のまま	DP	/	/		姿見 下地調整の上 SOP、新設: 防球ネット、バックネット(2対)
前	ステージ	ナF t=15	UC	木製	100	OP	シ合板 t=6 目透張	OP	シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	鉄骨表し フェルトン t=5 下地調整 既設のまま	OP	/	/		ステージ 幕一式、クラップ、ブドウ棚、スクリーン昇降装置 撤去
後		ウツリ掛け	UC	下地調整	100	SOP	下地調整	SOP	下地調整 シ合板 t=5.5 目透張 一部新設	SOP	既設のまま	DP	/	/		スクリーン昇降装置 新設
前	放送室	OICカーペット	/	木製	100	OP	有孔シ合板 t=6 目透張	OP	有孔シ合板 t=6 目透張	OP	GB-R t=9の上 DR t=12	/	2,400	塩ビ		Ⓐ
後		既設のまま	/	既設のまま		/	既設のまま	/	既設のまま	/	既設のまま	/	2,400	既設		
前	控室1	ナF t=15 一部撤去(木下地共)	UC	木製 一部撤去	100	OP	シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	シ合板 t=6 目透張	OP	GB-D t=9 一部撤去(LGS下地共)	/	2,400 3,400	塩ビ		木製階段 撤去
後		ナF t=15 一部新設(下地共) ウツリ掛け	UC	木製 一部新設 下地調整	100	OP	下地調整 シ合板 t=5.5 目透張 一部新設	SOP	下地調整	SOP	GB-D t=9.5 一部新設 鉄骨表し部: 下地調整	DP	/	/		木製階段 新設、鉄骨階段 新設
前	控室2	ナF t=15 一部撤去(木下地共)	UC	木製 一部撤去	100	OP	シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	シ合板 t=6 目透張	OP	GB-D t=9 一部撤去(LGS下地共)	/	2,400 3,400	塩ビ		
後		ナF t=15 一部新設(下地共) ウツリ掛け	UC	木製 一部新設 下地調整	100	OP	下地調整 シ合板 t=5.5 目透張 一部新設	SOP	下地調整	SOP	鉄骨表し部: 下地調整	DP	/	/		鉄骨階段 新設
前	器具庫	Fブロック t=15	UC	木製	100	OP	シ合板 t=6 目透張	OP	シ合板 t=6 目透張	OP	GB-D t=9	/	2,400	塩ビ		木製器具棚
後		既設のまま	/	既設のまま		/	既設のまま	/	既設のまま	/	既設のまま	/	2,400	既設		
前	キャットウォーク	LVS t=2.8 一部撤去	WX	木製 一部撤去	100	OP	有孔シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	有孔シ合板 t=6 目透張 一部撤去	OP	鉄骨表し フェルトン t=5 下地調整 既設のまま	OP	/	/		Ⓐ 取外し クラップ 撤去
後		LVS t=2.5 一部新設	WX	木製 一部新設 下地調整	100	SOP	下地調整 有孔シ合板 t=5.5 目透張 一部新設	SOP	下地調整 有孔シ合板 t=5.5 目透張 一部新設	SOP	既設のまま	DP	/	/		Ⓐ 再取付 クラップ 撤去跡開口閉塞

C	コンクリート	GB-R	石膏ボード	KFK	化粧珪酸カルシウム板 改修後はFRP製品とする。	TB	テラゾブロック	DP	耐候性塗料(外部:2級、内部:3級)	Ⓐ	暗幕	※使用材料表 (シックハウス対策による使用建築材料)
C化粧	コンクリート化粧合板型枠打放し	GB-R-H	普通硬質石膏ボード	LVS	ビニル床シート	LGS	軽量鉄骨下地	可とう複層CE	可とう複層層CE	Ⓑ	ブラインド	床材・壁材・天井材・木製建具・新設造作材は全てF☆☆☆☆(規制対象外)とする。
C刷毛	コンクリート刷毛引き	GB-S	シーリング石膏ボード(防水仕様)	VT	ビニル床タイル	OSCL	オイルシーリングニス	高耐候塗料	高耐候・低汚染・微弾性艶消し塗料	Ⓒ	カーテン	※壁及び天井の仕上材は準不燃以上とする。(アクリル及びスチレン内除く)
Cワ	コンクリートワ押し	GB-D	化粧石膏ボード	MT	モザイクタイル	SOP	合成樹脂調合ペイント	VP	硬質塩化ビニル管(厚肉)	Ⓓ	暗幕+カーテン	※特記なき限り、有孔合板新設部は寒冷紗裏貼とする。
M	モルタル	GB-P	吸音用孔あき石膏ボード	FT	床用タイル(100角)	WX	ワックス塗(2回塗)	VU	硬質塩化ビニル管(薄肉)	Ⓔ	カーテンボックス	
M刷毛	モルタル刷毛引き	GB-L	石膏ラスボード	F	フローリング	UC	ウレタン樹脂ニス塗(3回塗)	人砥	人造石研出し			
Mワ	モルタルワ押し	DR	岩綿吸音板	WT	壁用タイル(100角)	EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗	ルキ	フレキシブルボード(既設:FRP含有材)			
WMワ	防水モルタルワ押し	FK	珪酸カルシウム板(既設:FRP含有材) 改修後はFRP製品とする。	NT	ノンスリップタイル	EP-G	つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗	SUS	ステンレス			



〈補修範囲の確認〉

※仮設足場設置後、外壁改修フローチャートに則り施工対象箇所を調査すること。

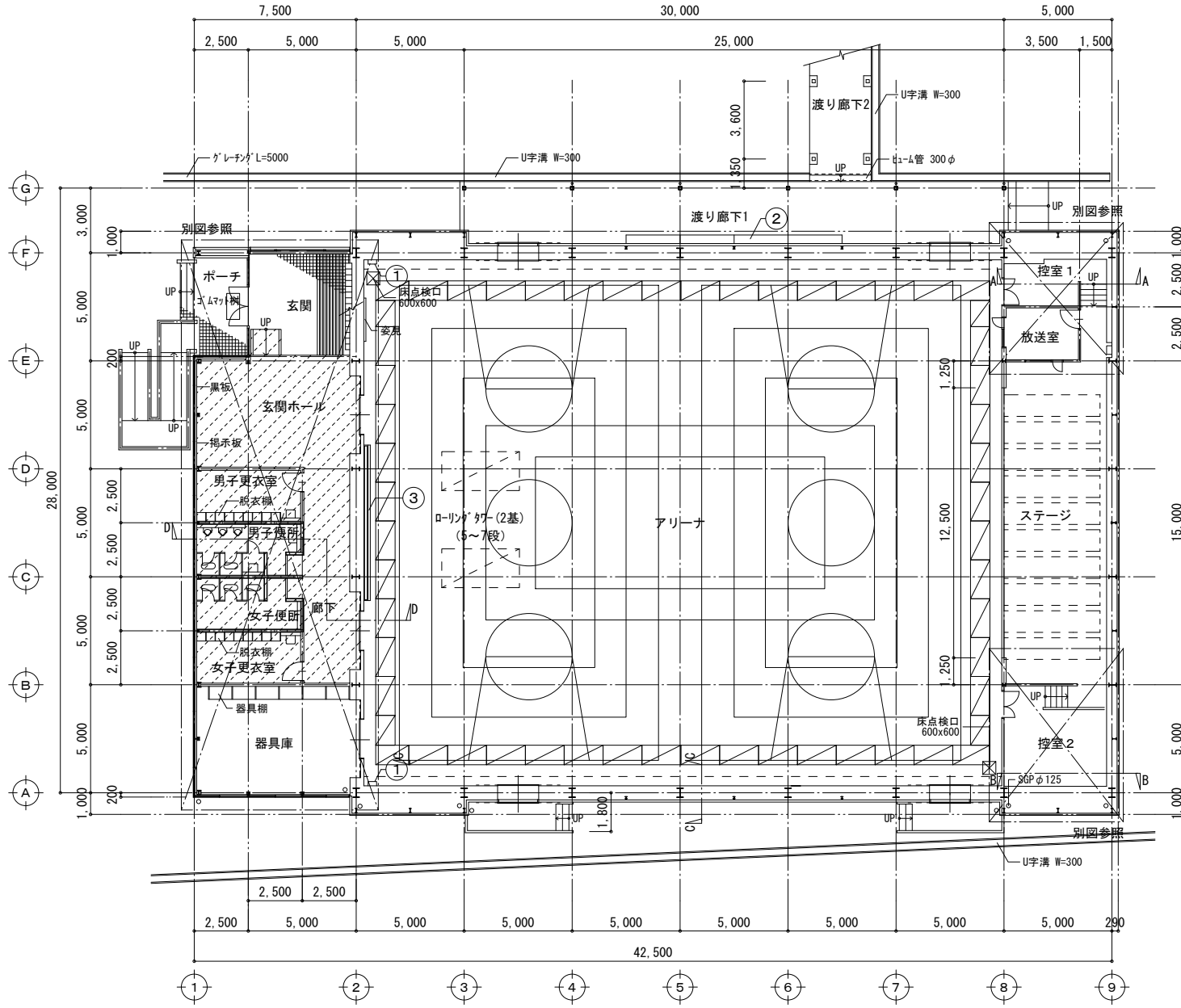
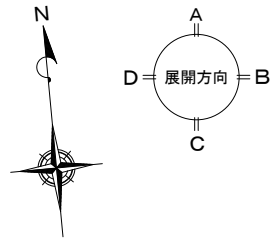
※調査の際、外壁診断技術を持つ者が必ず立会、補修範囲をスプレー等によりマーキングをすること。

※マーキングは、クラック幅の区分ごと、モルタルの浮き、モルタル欠損部等に色分け等を行い、補修範囲を明確に指示すること。

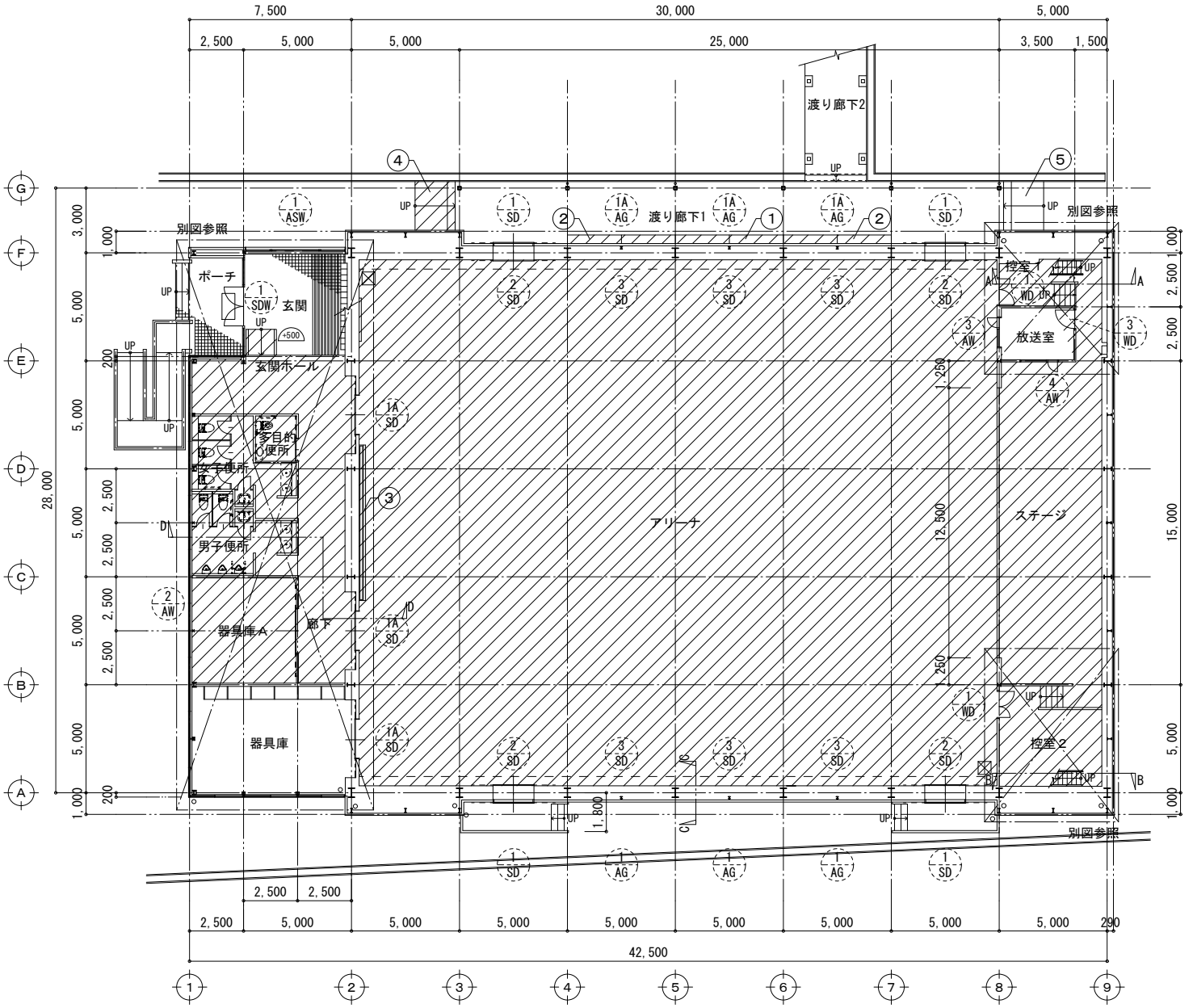
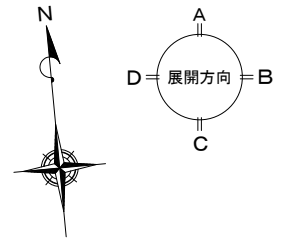
※マーキングにて補修範囲を示した後、監督員立ち会いの基、補修範囲の決定をすること。

※高圧水洗について、必要が有る場合は、デッキブラシ併用とする。

※高圧水洗は、10～20MPA程度とする。



改修前 1階平面図 S=1/200



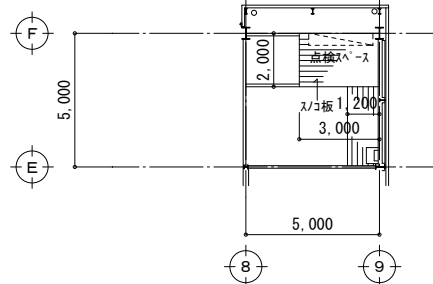
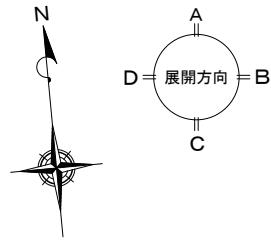
改修後 1階平面図 S=1/200

凡例 (改修前)		①		②		③	
	撤去部分を示す。	①	クランク撤去	②	下足入: W2500×D300×H1510 (計4箇所) 表面材劣化部 撤去	③	肋木: W8000xH2150 取外し (1箇所)
	くさび緊結式足場 (手すり先行方式) W900を示す。						
	ローリング足場を示す。						

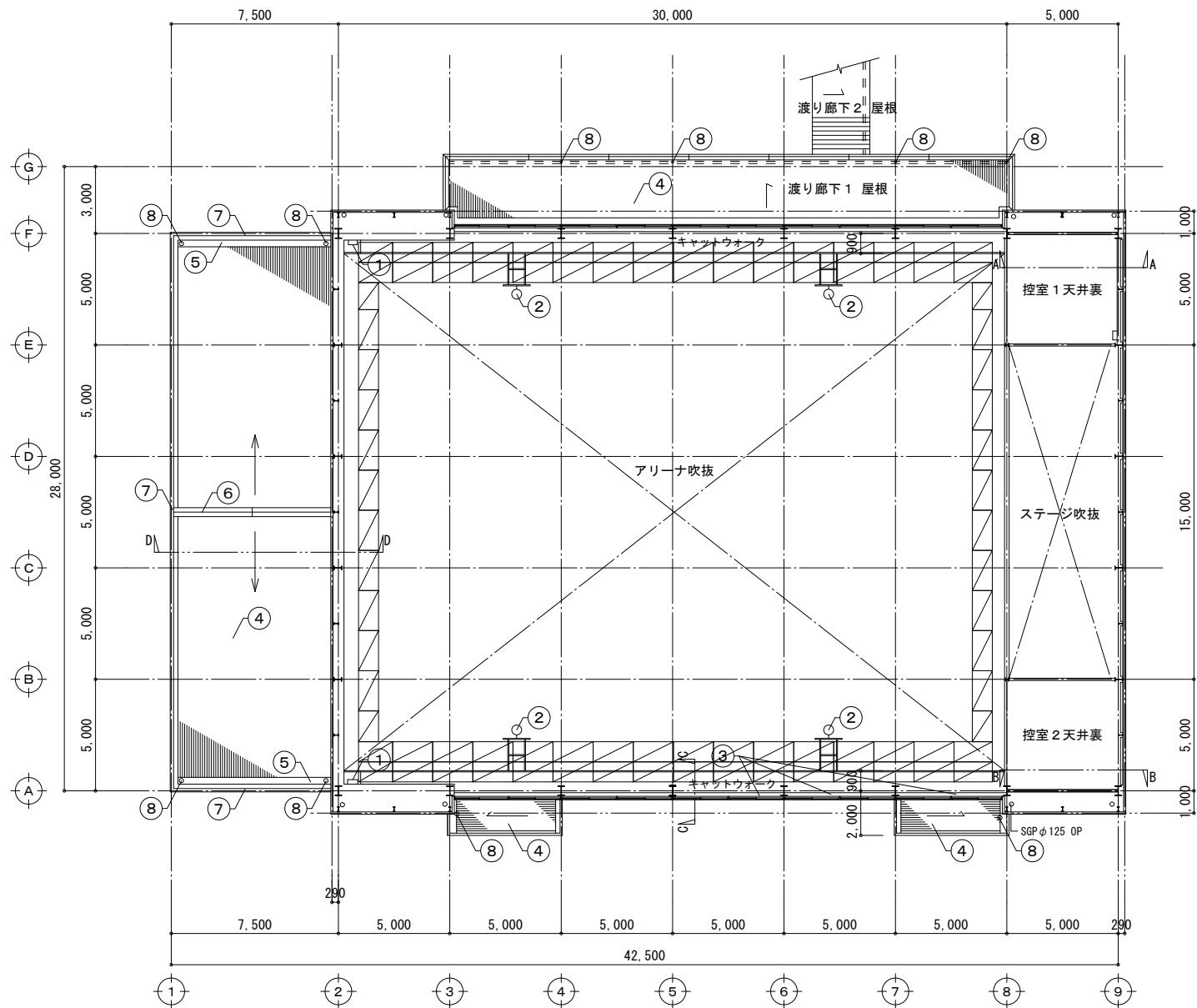
※特記事項
 1. 本仮設計画は参考とし、監督員と十分に協議すること。
 2. ステージ、控室1・2はくさび緊結式足場とする。(参考)
 3. ステージ、控室1・2は床養生(ビニール+ペーパー)を行うこと。

凡例 (改修後)		①		②		③		④		⑤	
	新設・改修部分を示す。	①	既設下足入: 劣化部 樹脂化粧合板 新設 (計4箇所)	②	下足入: W2500×D300×H1510 新設 (計2箇所) (詳細図参照)	③	肋木: W8000xH2150 再取付 (1箇所)	④	コンクリート階段 新設 (1箇所) (詳細図参照)	⑤	既設階段: コア目地切 高圧水洗浄
	改修建具を示す。										

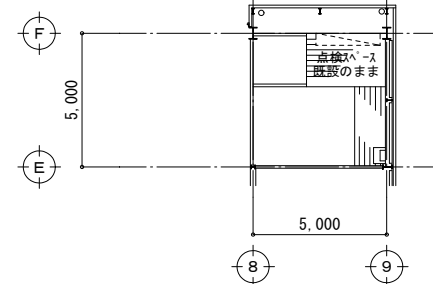
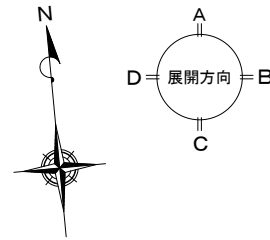
※特記事項
 1. ライン引きは別図参照。



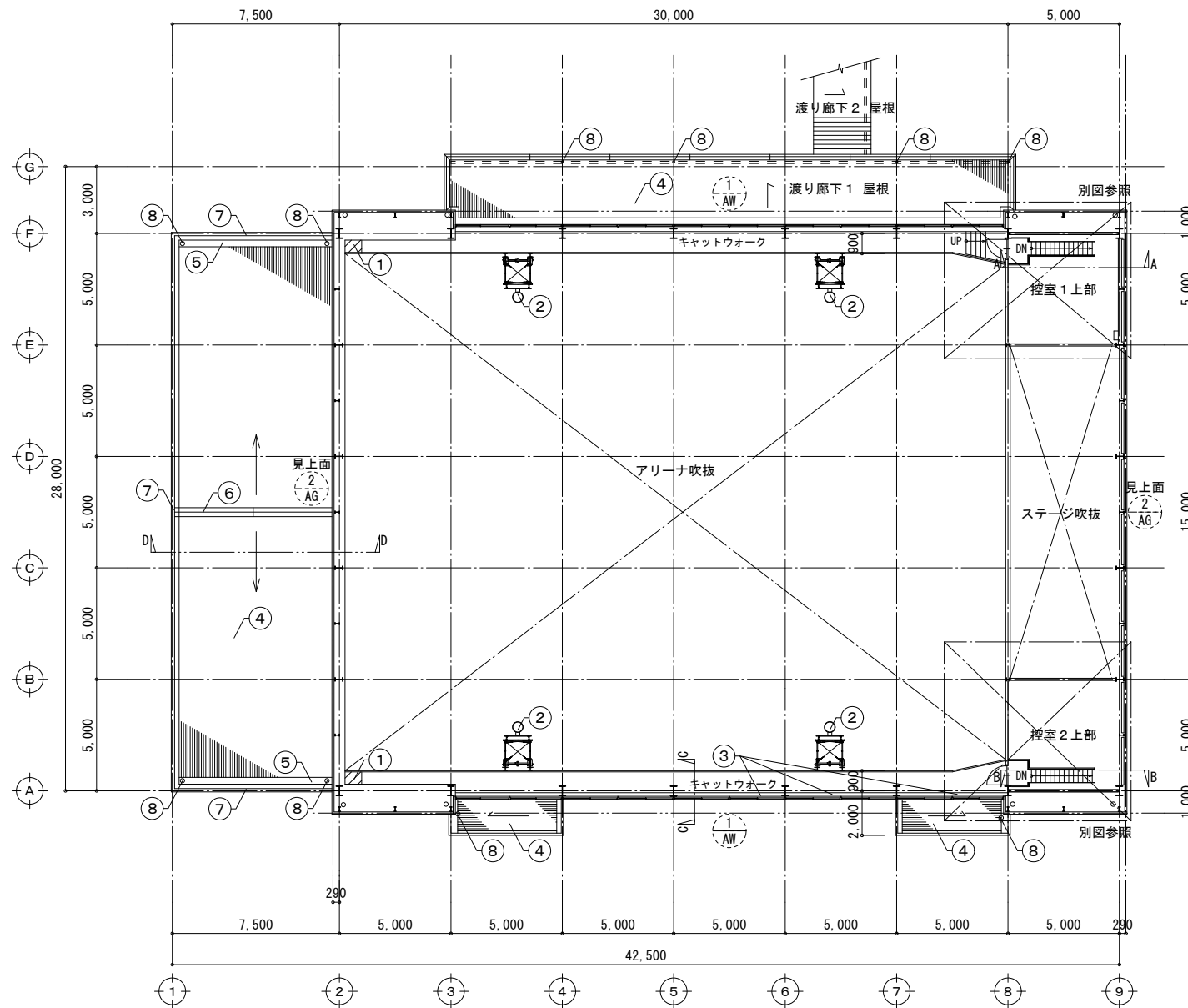
控室1天井裏上部平面図 S=1/200



改修前 キャットウォーク平面図 S=1/200



控室1上部平面図 S=1/200



改修後 キャットウォーク平面図 S=1/200

凡例 (改修前)	①	クランプ 撤去	⑦	笠木: 7}既製品 W=135	凡例 (改修後)	①	床: 開口塞ぎ 新設 (詳細図参照)	⑦	笠木: 既設のまま
撤去部分を示す。	②	固定式バ}ケット}ゴール 撤去 (2対)	⑧	ドレン	新設・改修部分を示す。	②	壁固定折畳式バ}ケット}ゴール 新設 (2対) (詳細図参照)	⑧	ドレン: 下地調整の上 ケ}ル}キ}樹脂}塗}料
く}さ}び}緊}結}式}足}場 (手}すり}先}行}方}式) W900を示す。	③	木額縁 撤去 (下枠のみ)			改修建具を示す。	③	木額縁 SOP 新設 (下枠のみ)		
ロ}リ}ン}ク}足}場を示す。	④	屋根: 丸馳折版II型 塩}ビ}鋼}板 t=0.8	※特記事項 1. 本仮設計画は参考とし、監督員と十分に協議すること。 2. ステ}ジ}、控室はく}さ}び}緊}結}式}棚}足}場とする。(参考) 3. キャ}ット}ワ}ー}ク}は床}養}生 (ビ}ニ}ー}シ}ト}ト}キ) を行うこと。			④	屋根: 高圧水洗、下地調整の上 超}速}硬}化}ウ}レ}ン}塗}膜}防}水 (密}着}工}法) 新設	※特記事項	
	⑤	軒樋: 材}質}鋼}板 t=0.8加工				⑤	軒樋: 高圧水洗、下地調整の上 高}強}度}ウ}レ}ン}塗}膜}防}水 (密}着}工}法) 新設		
	⑥	棟包み: 塩}ビ}鋼}板 t=0.8				⑥	棟包み: 高圧水洗、下地調整の上 超}速}硬}化}ウ}レ}ン}塗}膜}防}水 (密}着}工}法) 新設		

株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE

一級建築士 184560号 山田 克弘

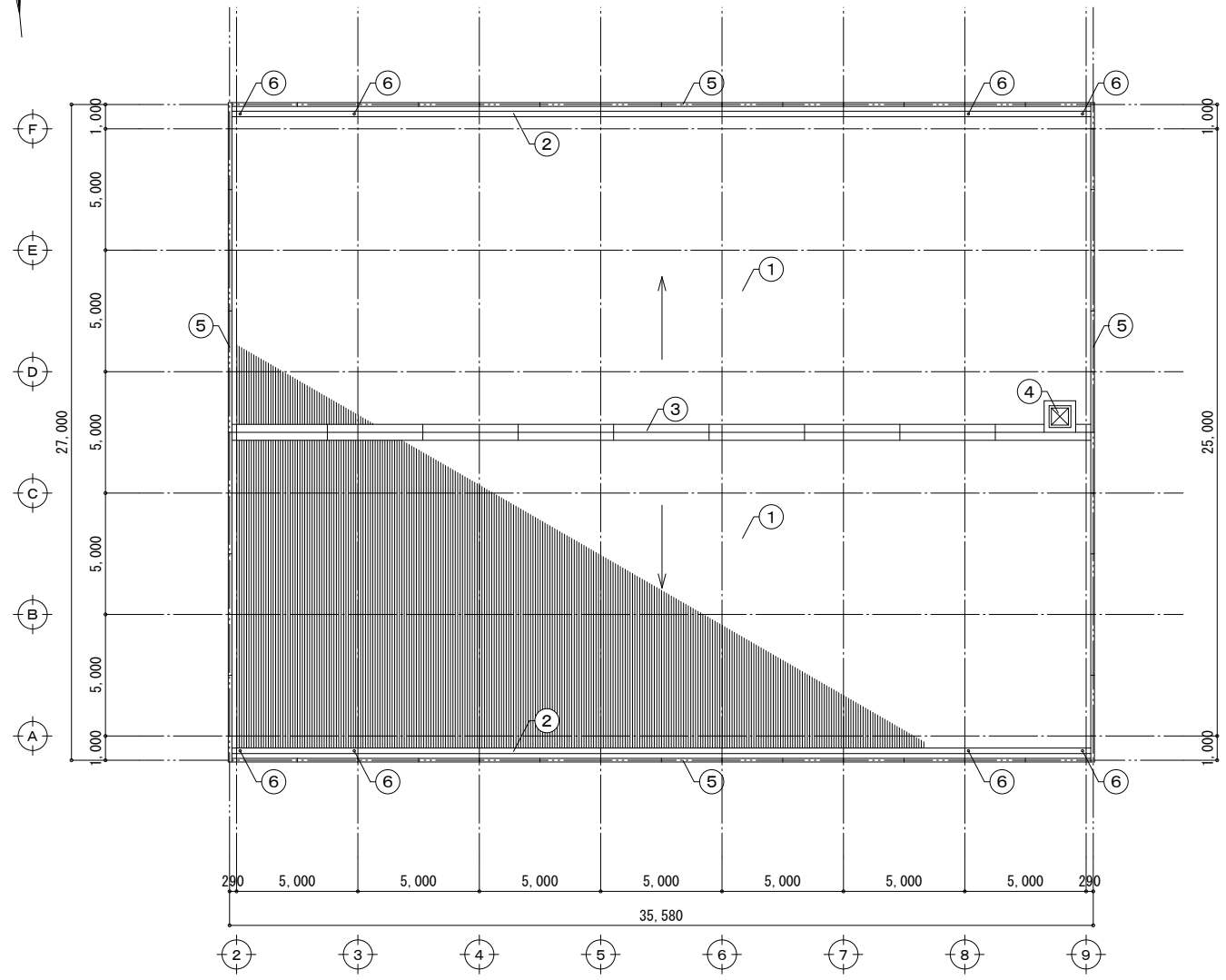
CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	1/200
			DATE	'16.11

可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改修工事

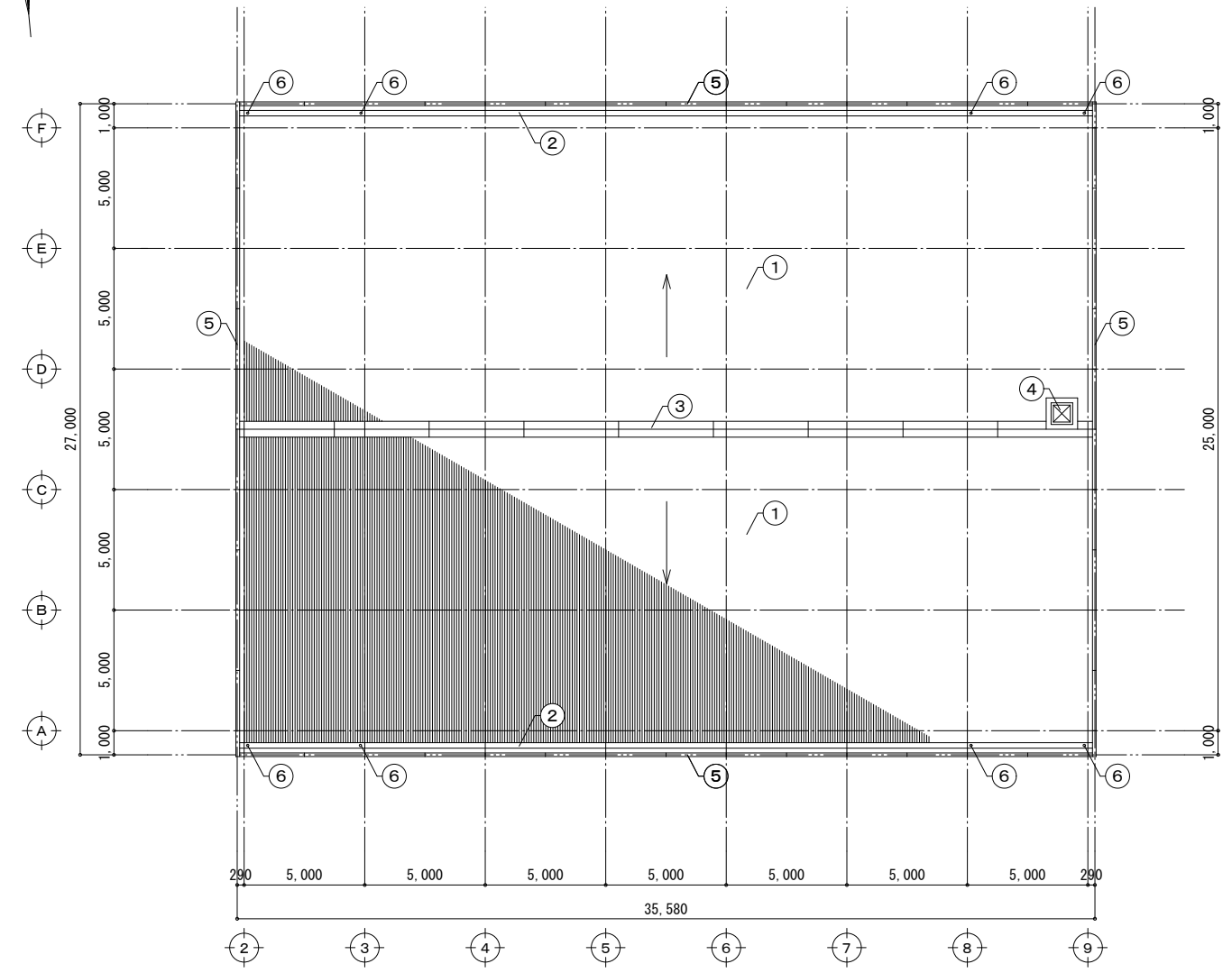
改修前・後 キャットウォーク平面図

SHEET NO.

A-11



改修前 屋根伏図 S=1/200

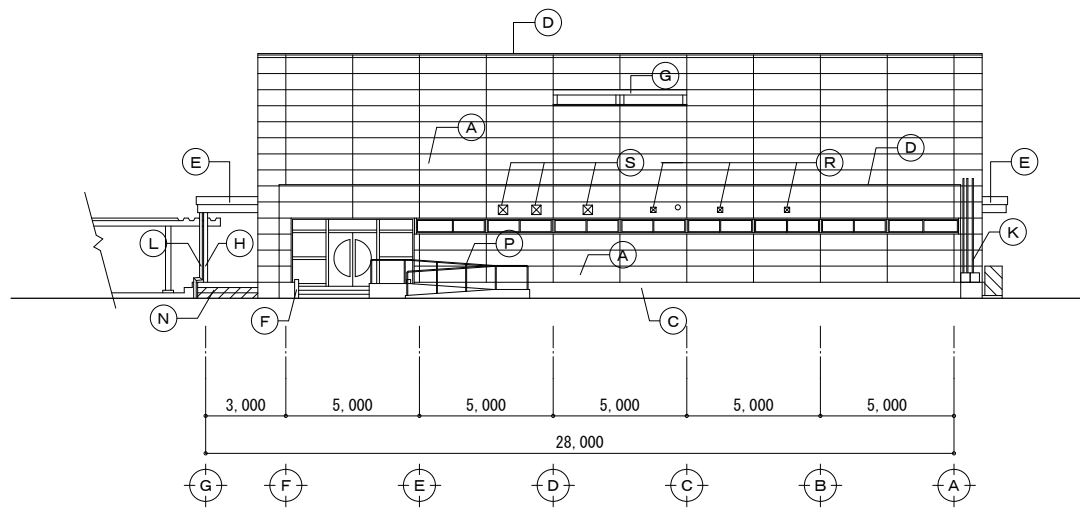


改修後 屋根伏図 S=1/200

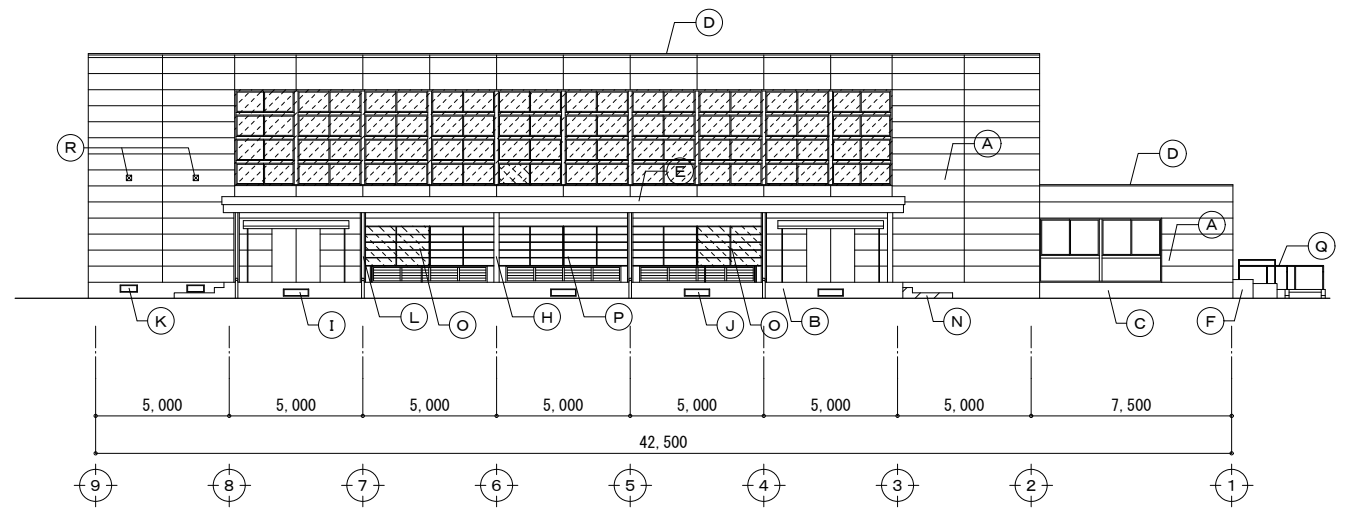
凡例 (改修前)	①	②	③	④	⑤	⑥
	屋根：丸折版Ⅱ型 塩ビ鋼板 t=0.8	軒樋：ポリ塩化ビニル t=0.8加工	棟包み：塩ビ鋼板 t=0.8	屋根点検用SUSハッチ	笠木：7尺既製品 W=135	ドレ

※特記事項
1. 本仮設計画は参考とし、監督員と十分に協議すること。

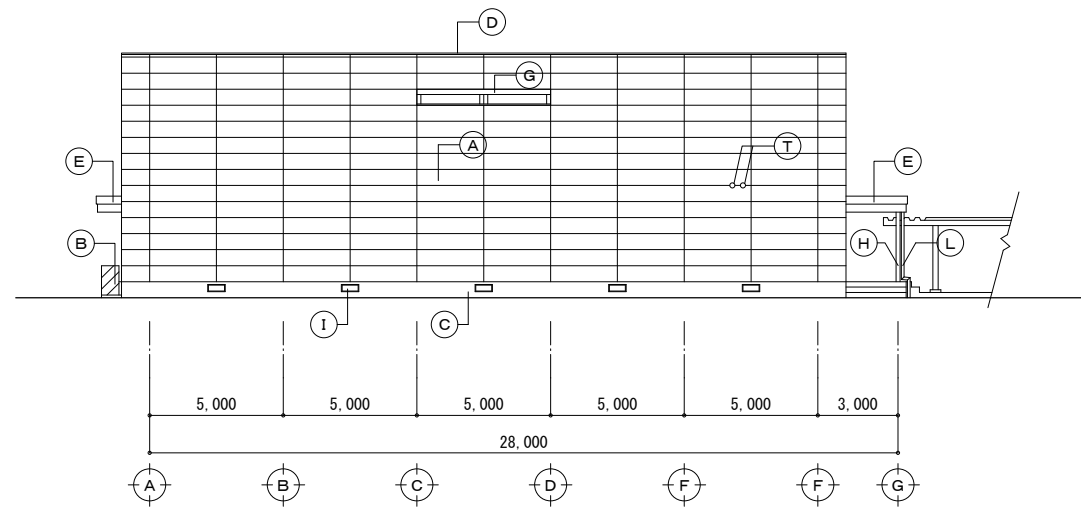
凡例 (改修後)	①	②	③	④	⑤	⑥
	屋根：高圧水洗、下地調整の上 超速硬化ウレタン塗膜防水(密着工法)新設	軒樋：高圧水洗、下地調整の上 高強度ウレタン塗膜防水(密着工法)新設	棟包み：高圧水洗、下地調整の上 超速硬化ウレタン塗膜防水(密着工法)新設	屋根点検用SUSハッチ：既設のまま 周囲：高圧水洗、下地調整の上 超速硬化ウレタン塗膜防水(密着工法)新設	笠木：既設のまま	ドレ：下地調整の上 ケーブル樹脂塗料



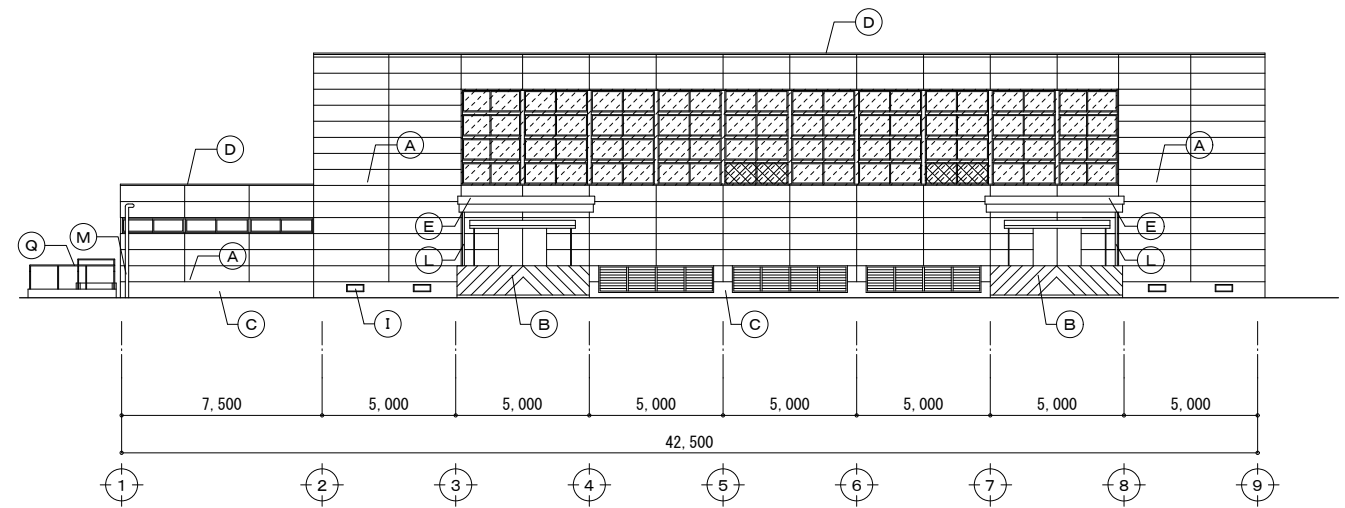
西立面図 S=1/200



北立面図 S=1/200

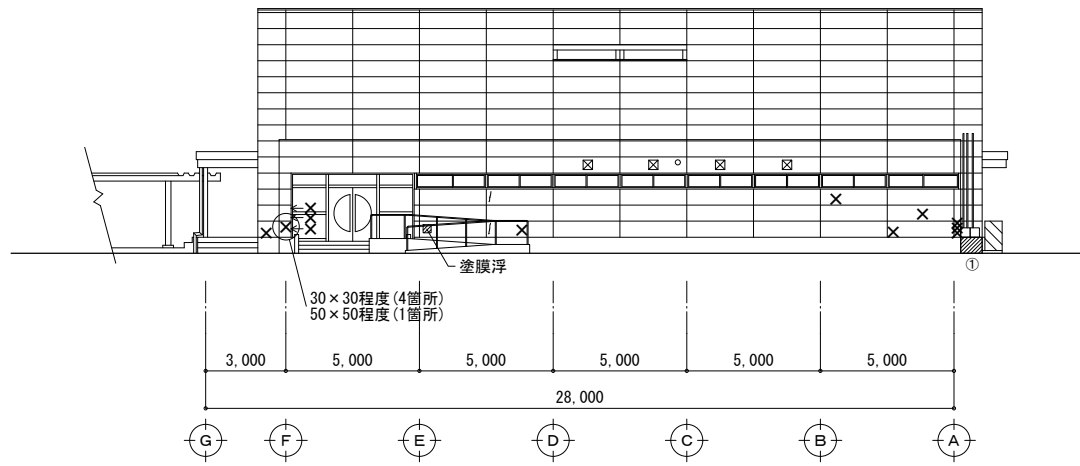


東立面図 S=1/200

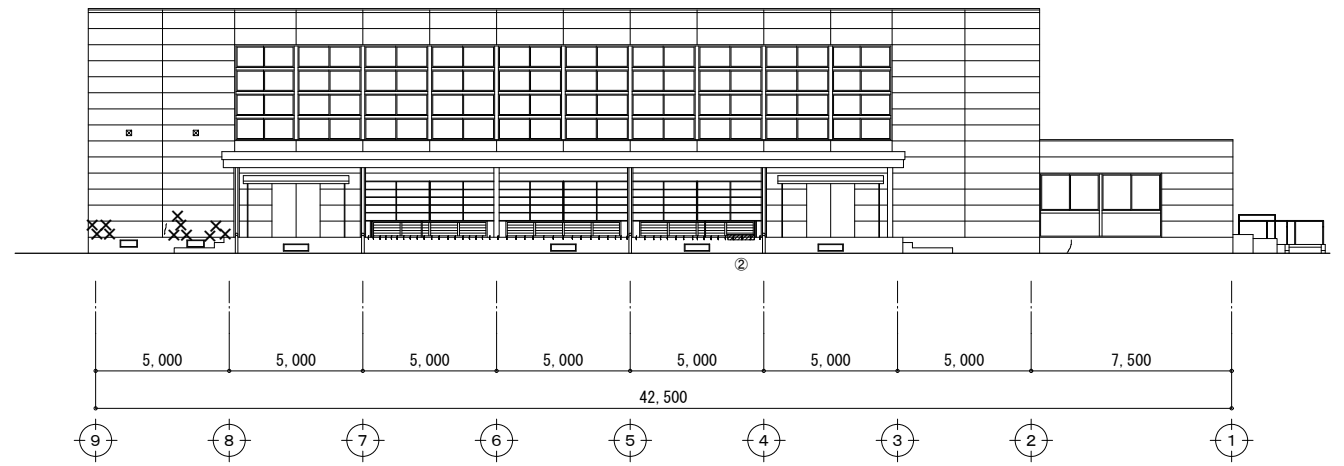


南立面図 S=1/200

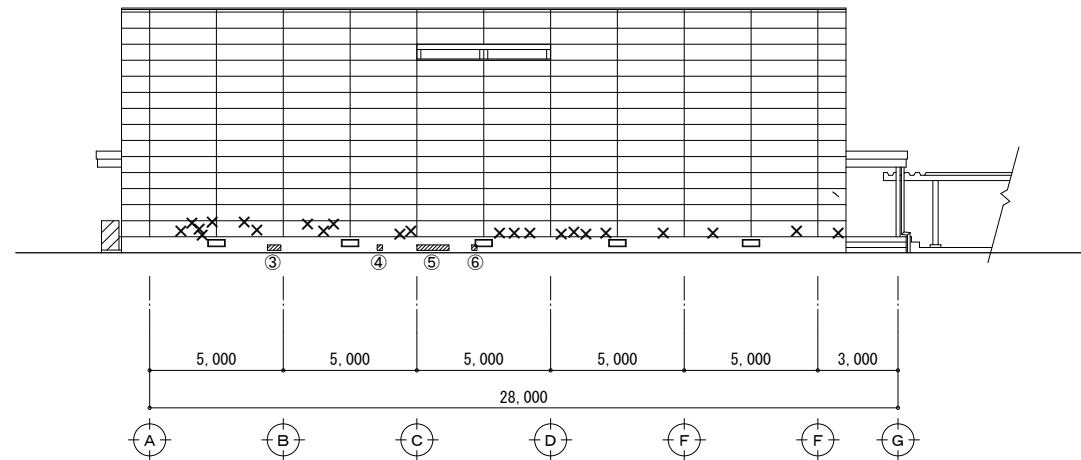
凡例	(F) 階段腰壁: C打放し新り仕上 高圧水洗浄	(L) 縦樋: SGP φ75 OP 下地調整の上 DP	(R) 換気扇撤去跡 ALC補修材充填 φ150程度	(Hatched) 新設部分を示す。
(A) 外壁: ALC t=100 横張り 吹付ケイ 高圧水洗浄、下地調整の上 可とう複層CE+高耐候塗料	(G) 7%に曲げ金物: クリーニング	(M) 縦樋: SGP φ125 OP 下地調整の上 DP	(S) SUS深型フード 新設 (機械設備工事)	(Cross-hatched) 飛散防止フィルム張り 新設範囲を示す。
(B) 外壁: コシ目地切 吹付ケイ 高圧水洗浄、下地調整の上 可とう複層CE+高耐候塗料	(H) 鉄骨: OP 下地調整の上 DP	(N) コンクリート階段 新設 (詳細図参照)	(T) ベントキャップ 新設 (機械設備工事)	(Diagonal-hatched) 建付調整を示す。
(C) 中木: Mコシ 高圧水洗浄	(I) 床下換気口: φ9@50 W600xH220 下地調整の上 DP (計11箇所)	(O) 下足入 新設 (詳細図参照)		(Dotted) ガラス取替えを示す。
(D) 笠木: 7%既製品 W=135 既設のまま	(J) 床下換気口: φ9@50 W900xH220 下地調整の上 DP (計4箇所)	(P) 既設下足入: W2500xD300xH1510 劣化部 マリニ化粧合板 張替 (計4箇所)		※特記事項 1. 外壁目地シーリングは全て打替えとする。(PU-2)
(E) 庇見付: GB-R t=9下地の上 塩ビ鋼板 t=0.4加工 下地調整の上 DP	(K) プルッガス及び設備配管: OP 下地調整の上 DP	(Q) XO-ブ: SUS手摺 既設のまま C部 高圧水洗浄		



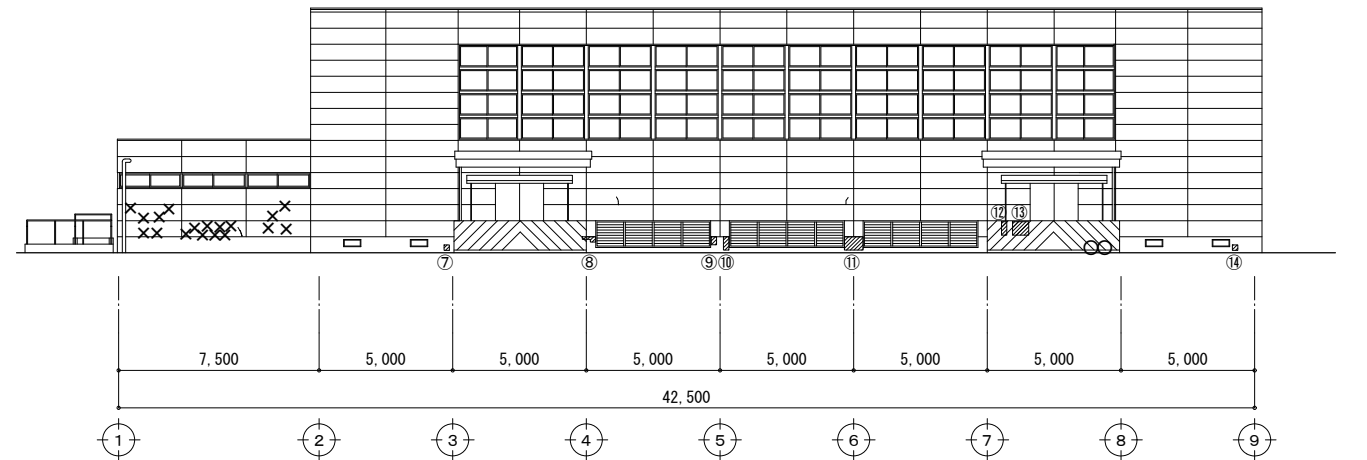
西立面図 S=1/200



北立面図 S=1/200



東立面図 S=1/200



南立面図 S=1/200

劣化部補修内容

	ALCクラック部を示す。(参考: 2.4m) Uカットシール充填工法	×	ALC欠損部を示す。(特記なき限り 30x30程度) (参考: 30x30 6箇所、50x50 1箇所) ALC専用補修材充填
	モルタル剥離部を示す。(0.2mm未満)(参考: 5.4m) シール充填工法	○	コンクリート爆裂部を示す。(100x100程度)(参考: 2箇所) Eポキシ樹脂モルタル充填工法
	モルタル浮部を示す。(参考: 3.5㎡) 既設のまま		

株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

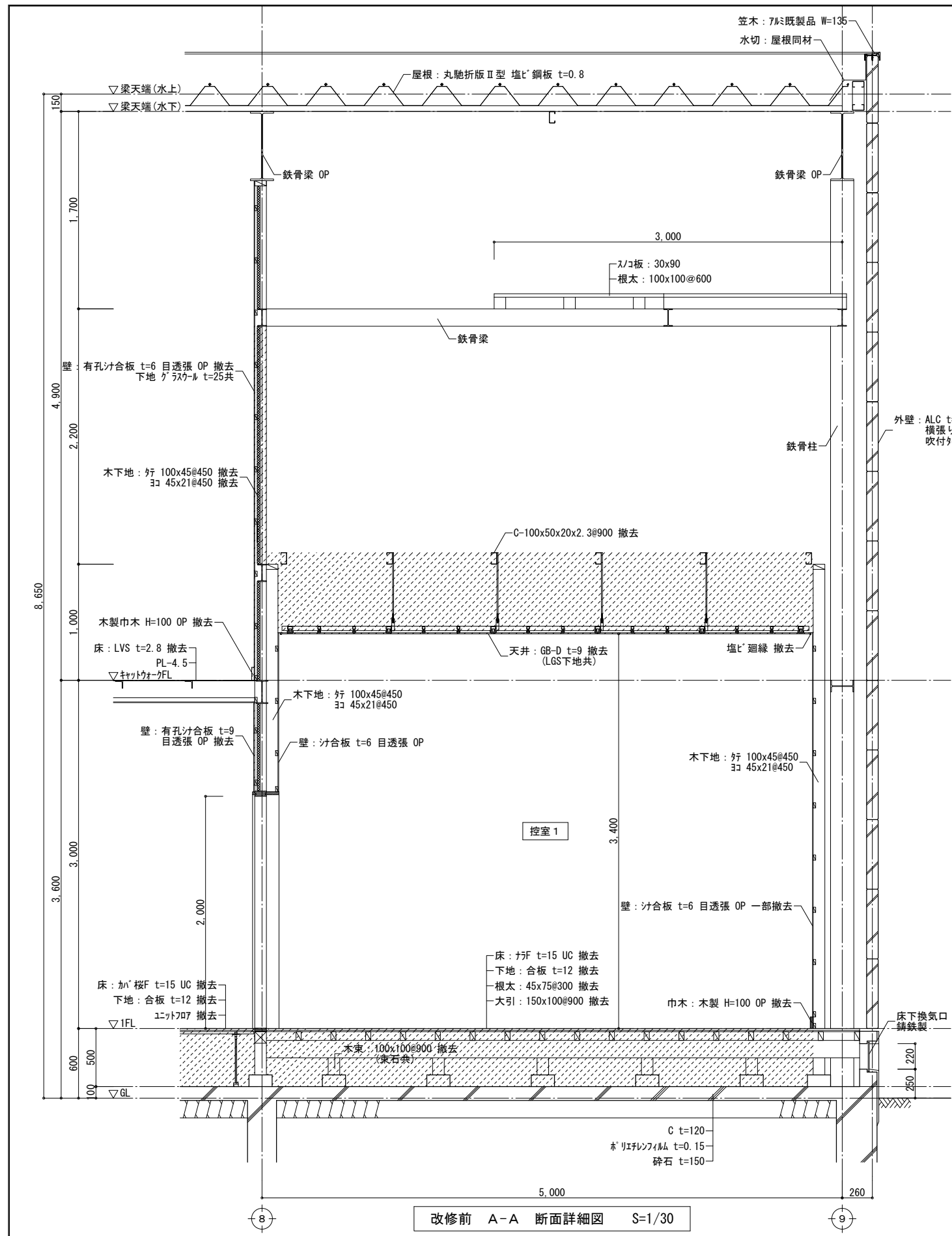
SCALE	1/200
DATE	'16.11

可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事

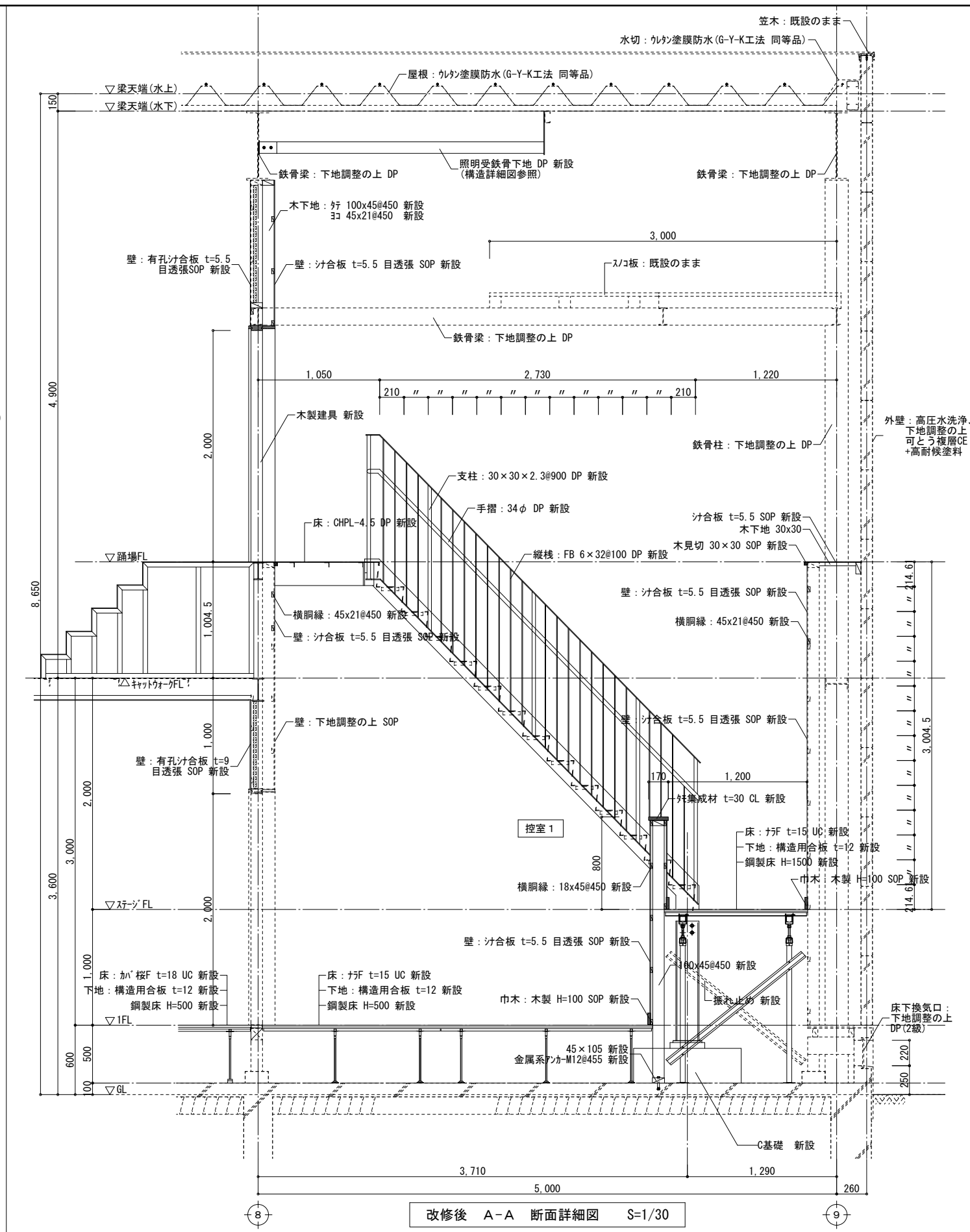
外壁劣化図(参考図)

SHEET NO.

A-14

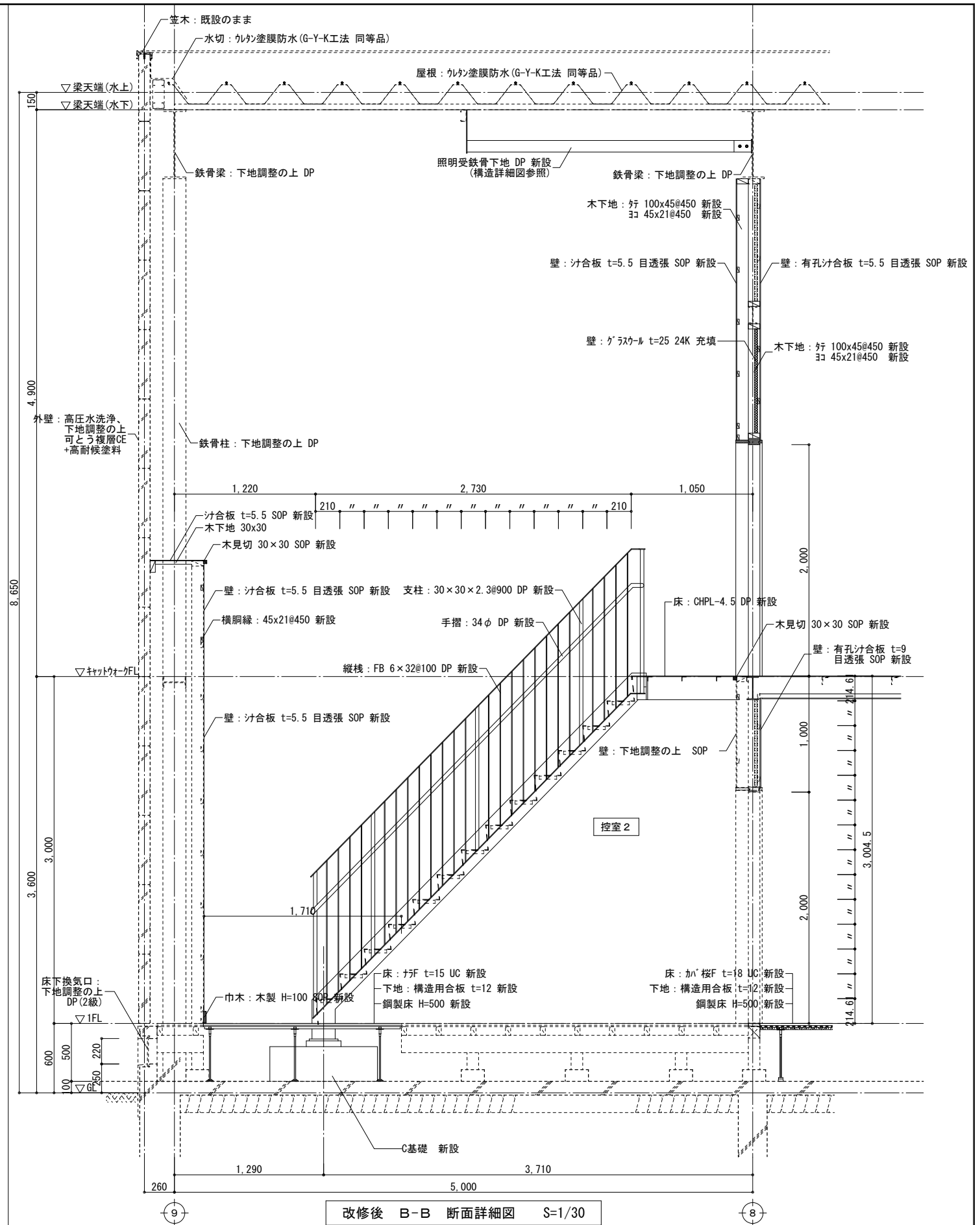
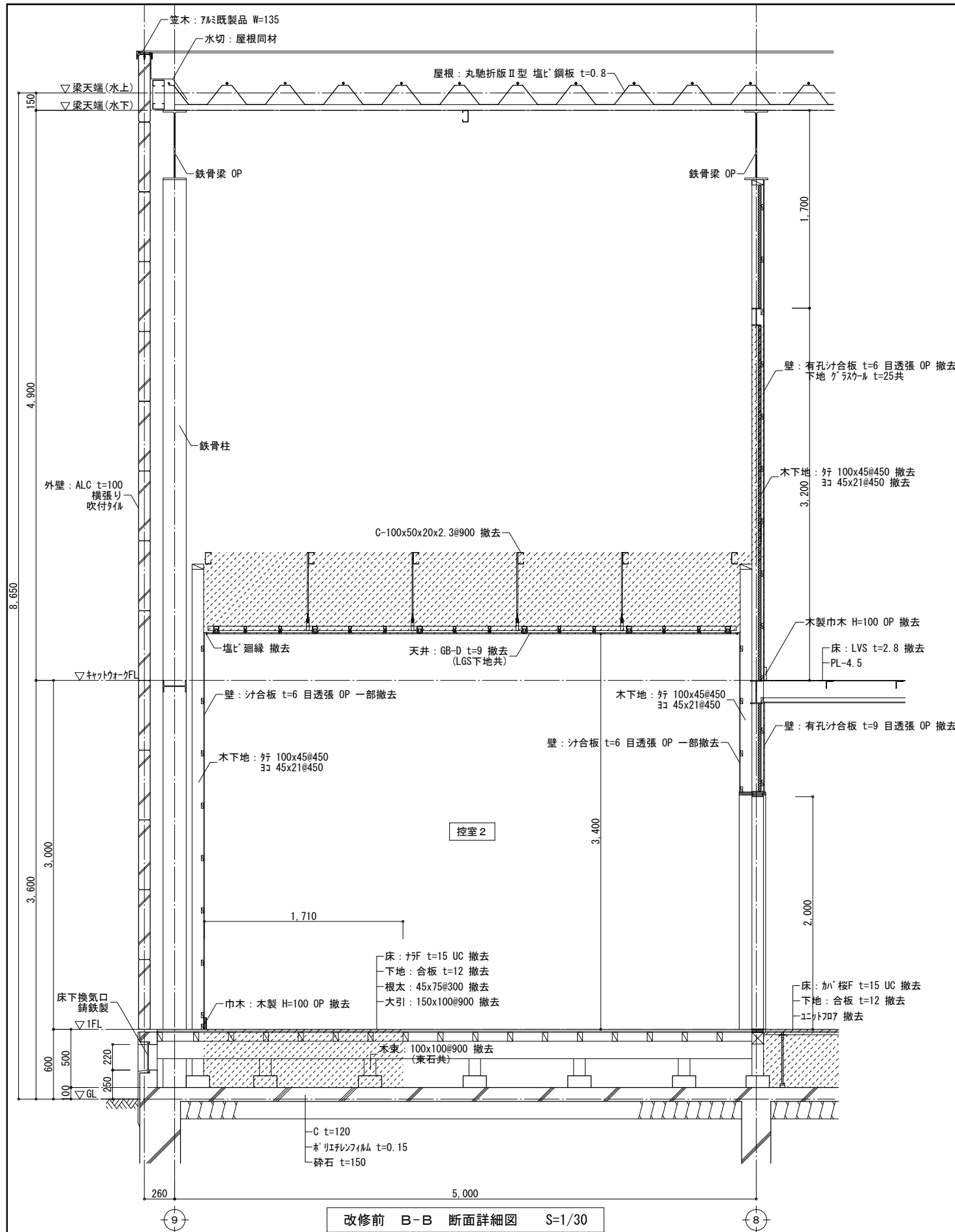


改修前 A-A 断面詳細図 S=1/30



改修後 A-A 断面詳細図 S=1/30

凡例 (改修前)	※特記事項	凡例 (改修後)	※特記事項
撤去部分を示す。		既設材を示す。	1. 特記なき限り、内部DPは3級とする。 2. スリット下の新設木下地は防腐処理を行うこと。 3. 新設木仕上の鉄骨貫通部は「シリカ」(PU-2)処理を行うこと。



凡例 (改修前)

撤去部分を示す。

※特記事項

凡例 (改修後)

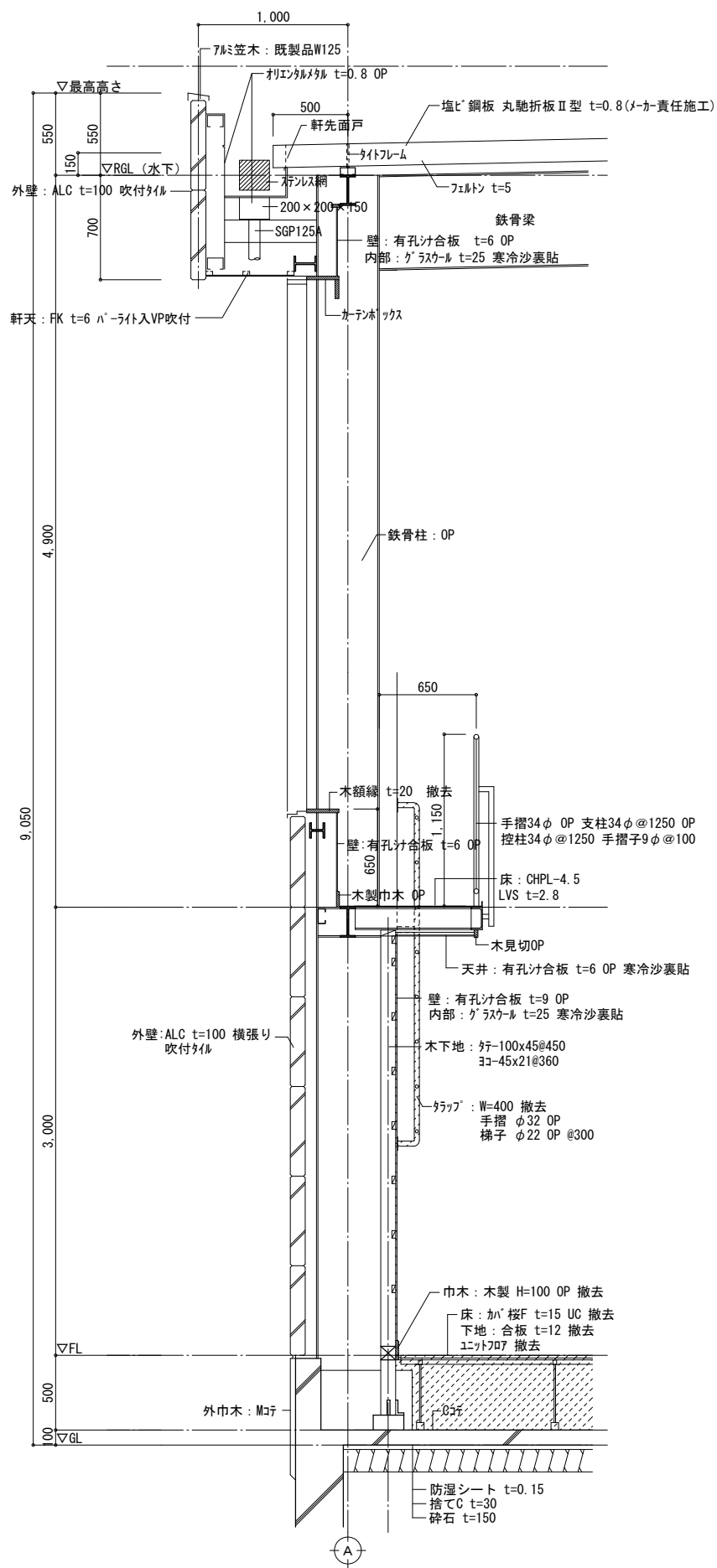
既設材を示す。

※特記事項

1. 特記なき限り、内部DPは3級とする。
2. 1F下の新設木下地は防腐処理を行うこと。
3. 新設木仕上の鉄骨貫通部は「シリカ」(PU-2)処理を行うこと。

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	1/30
			DATE	'16.11

可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事	SHEET NO.	A-16
改修前・後 断面詳細図 (2)		

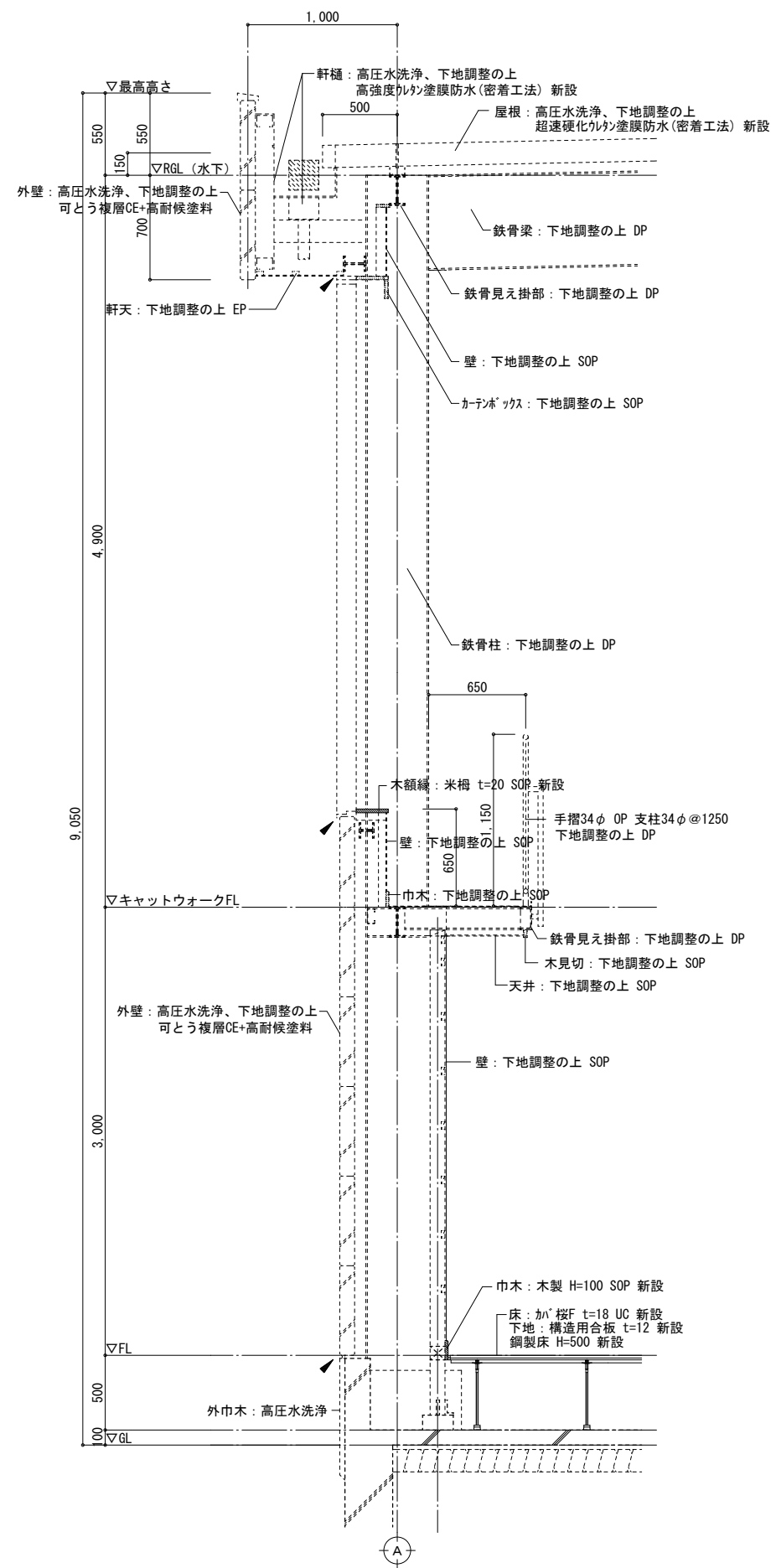


改修前 C-C 断面詳細図 S=1/30

凡例 (改修前)

撤去部分を示す。

※特記事項



改修後 C-C 断面詳細図 S=1/30

凡例 (改修後)

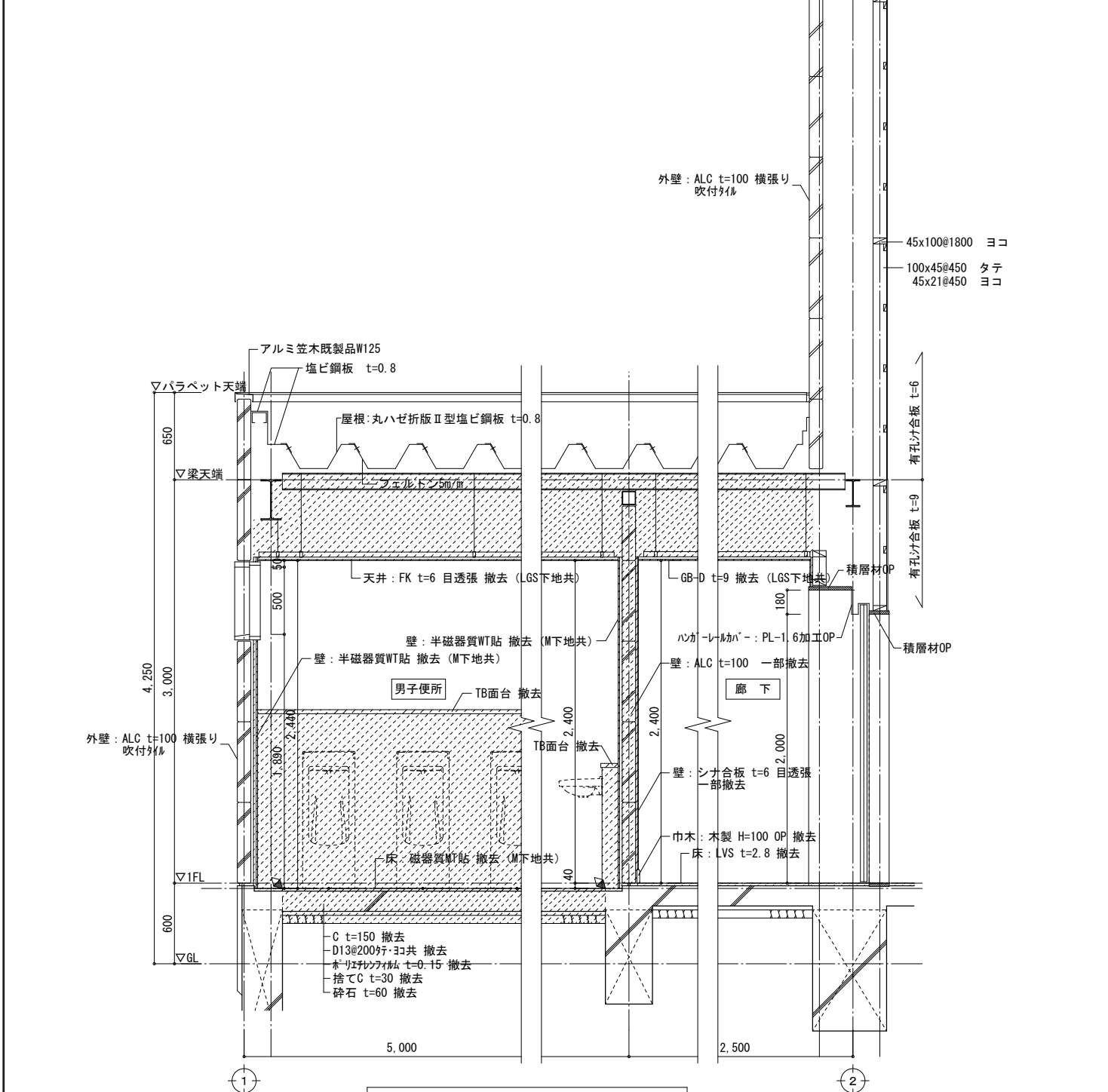
既設材を示す。

目地シリング 打替え (PU-2)

※特記事項

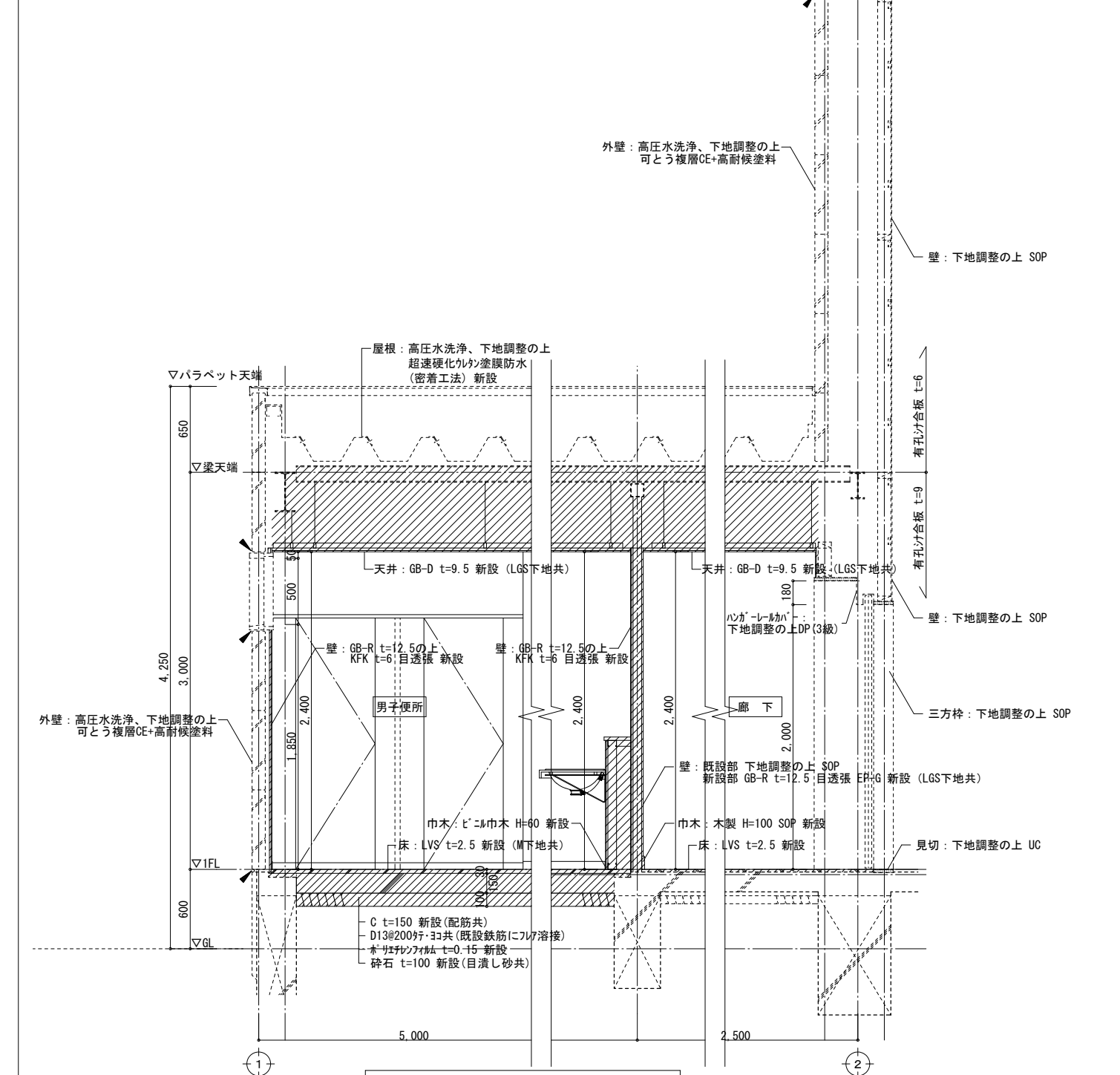
1. 特記なき限り、内部DPは3級とする。
2. 有孔パネル新設部は寒冷沙裏貼とする。

凡例 (改修前)	
	撤去部分を示す。
	加付・入れ部分を示す。
※特記事項	



改修前 D-D 断面詳細図 S=1/30

凡例 (改修後)	
	新設部分を示す。
	既設材を示す。
	目地・シリング 打替え (PU-2)
※特記事項 1. 特記なき限り、内部DPは3級とする。	

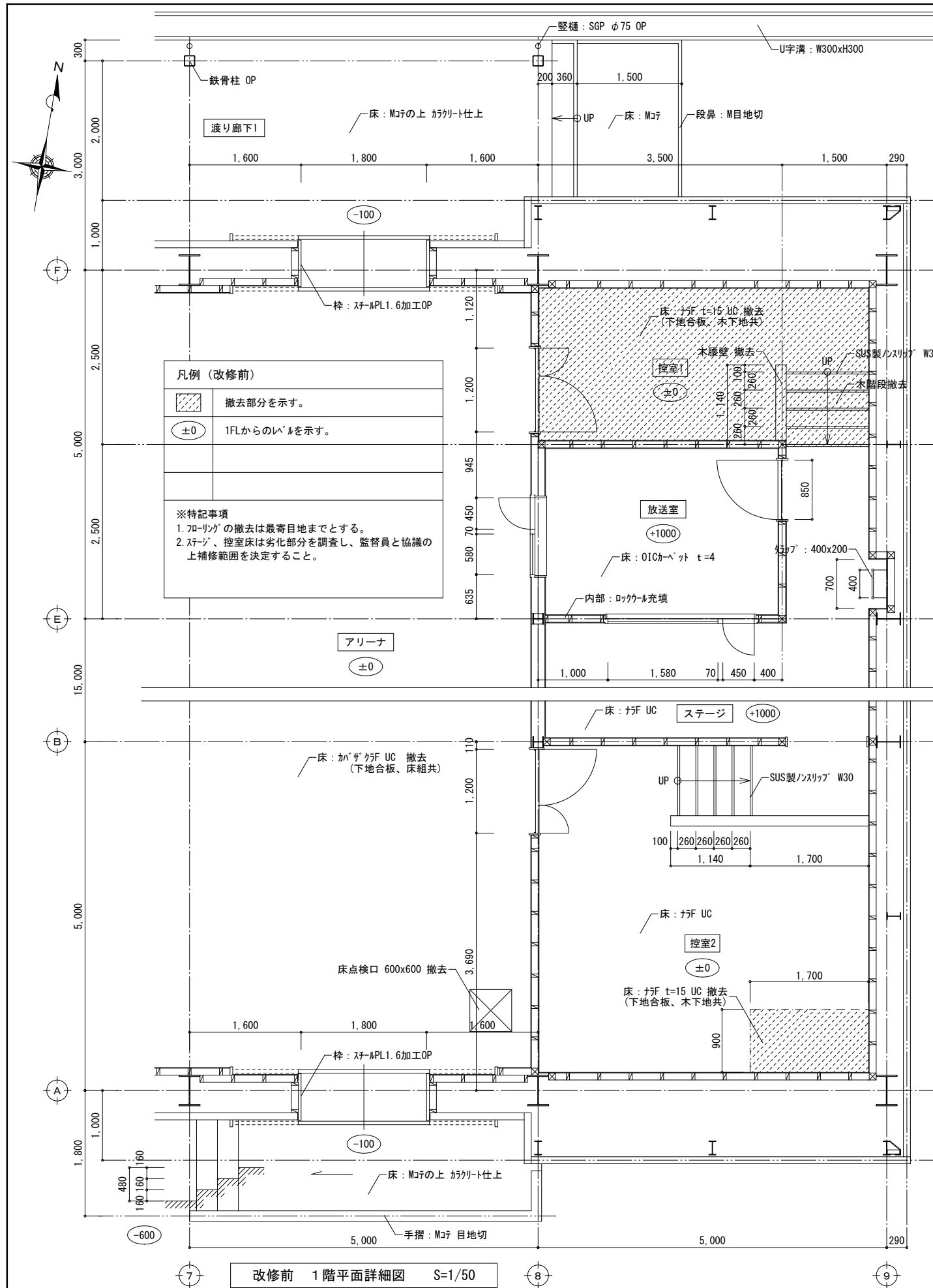


改修後 D-D 断面詳細図 S=1/30

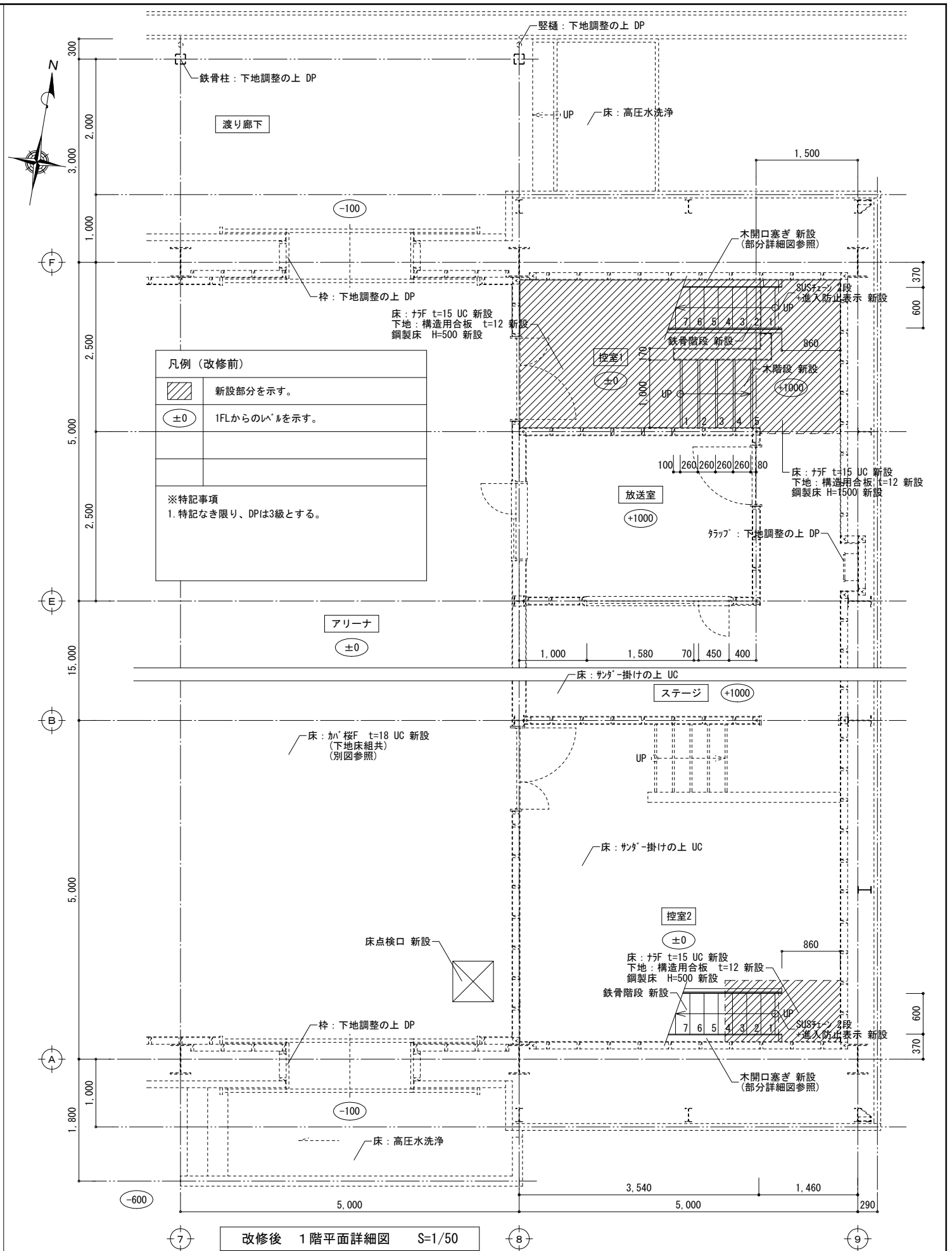
株式会社 山田建築事務所
 YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田 克弘

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	DATE
			1/30	'16.11

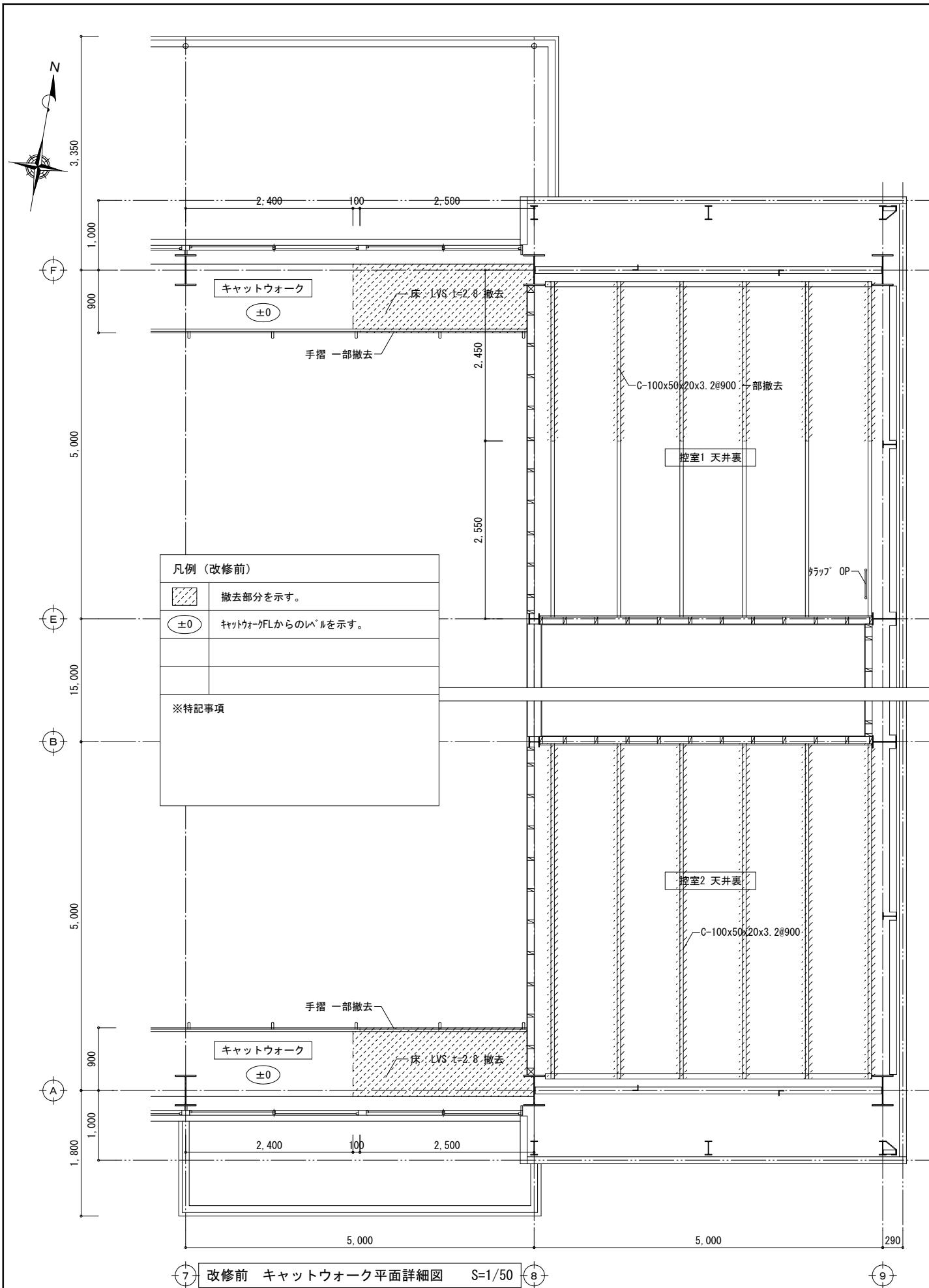
可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事 改修前・後 断面詳細図 (4)	SHEET NO. A-18
---	--------------------------



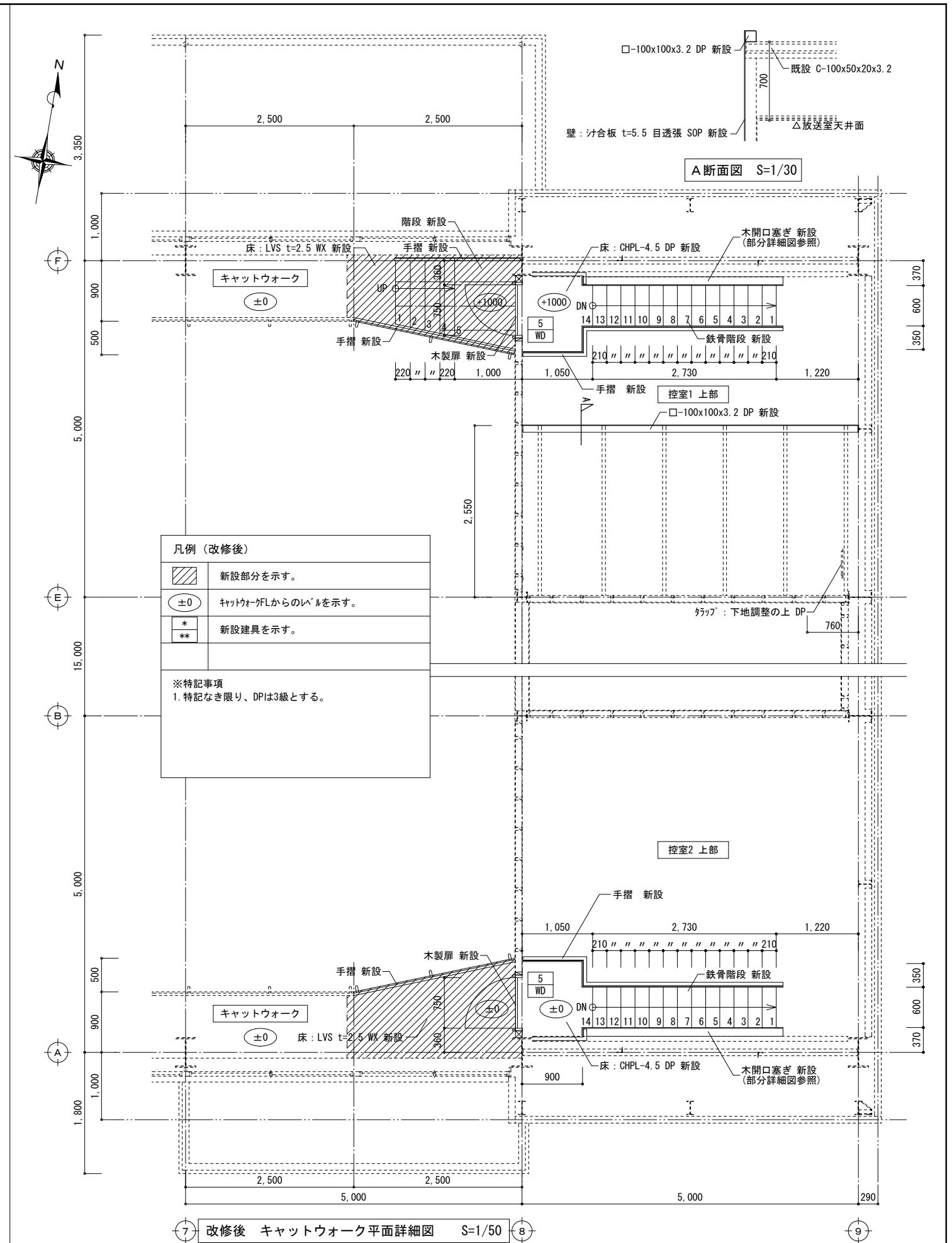
改修前 1階平面詳細図 S=1/50



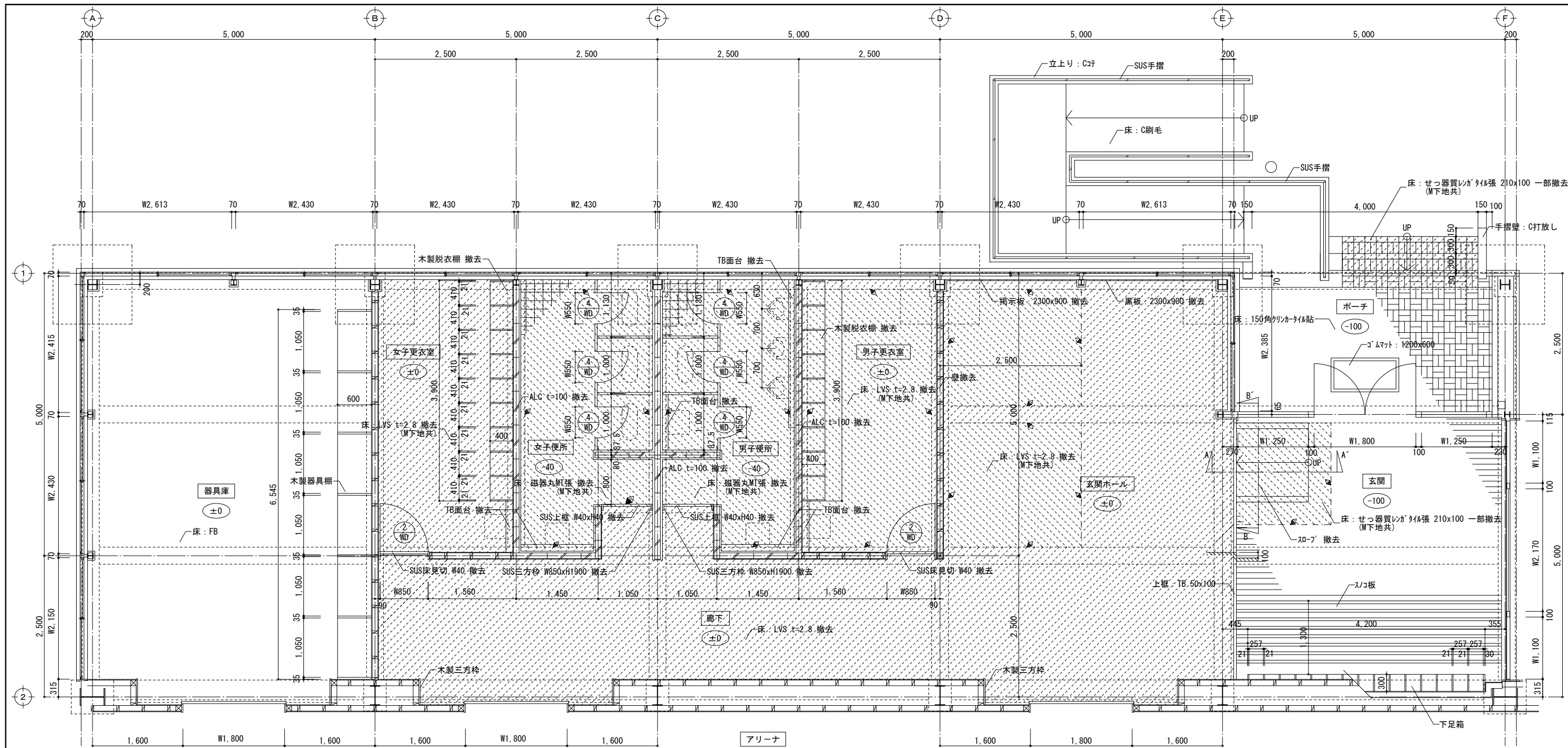
改修後 1階平面詳細図 S=1/50



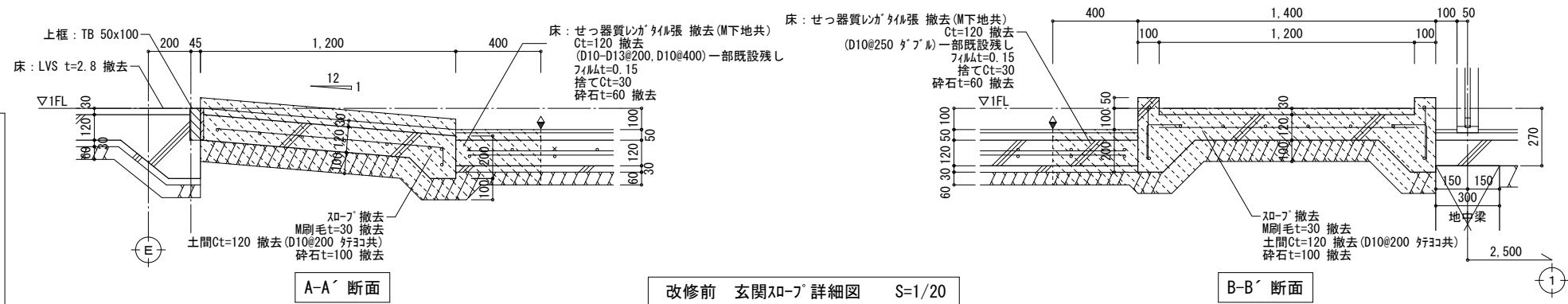
7 改修前 キャットウォーク平面詳細図 S=1/50 8



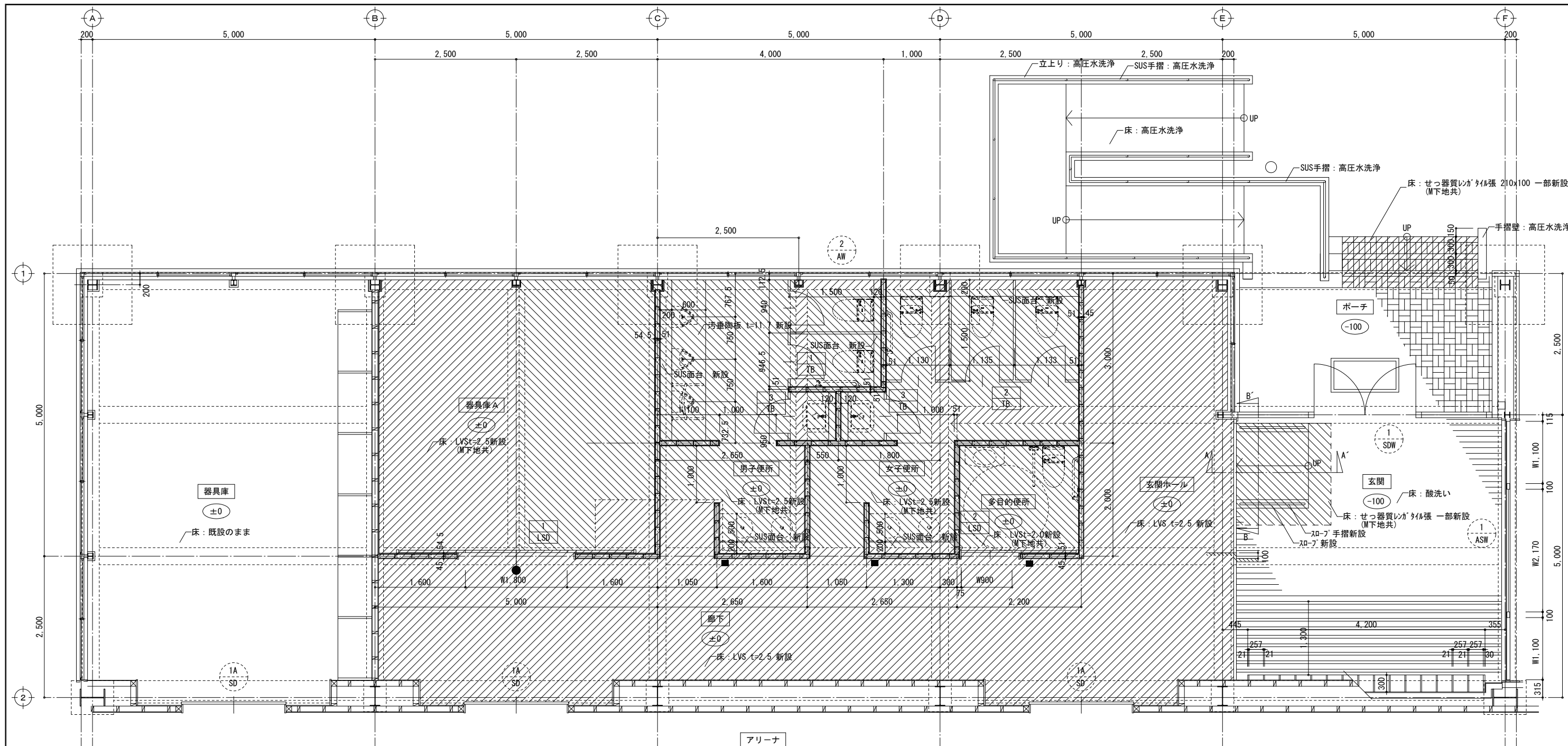
7 改修後 キャットウォーク平面詳細図 S=1/50 8



改修前 平面詳細図 S=1/50

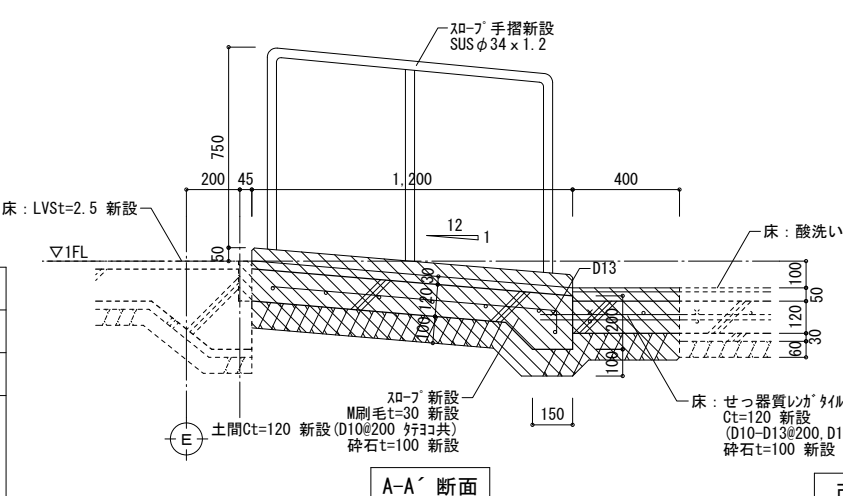


凡例 (改修前)		※特記事項 1. 土間撤去部はカッター入及び目荒しを行うこと。 2. 70-リソク及びせっ器質レガタイプは最寄目地まで撤去すること。
	撤去部分を示す。	
	土間撤去部分(仕上材共)を示す。	
	撤去建具を示す。	
	FLからのレベルを示す。	
	カッター入れ部分を示す。	

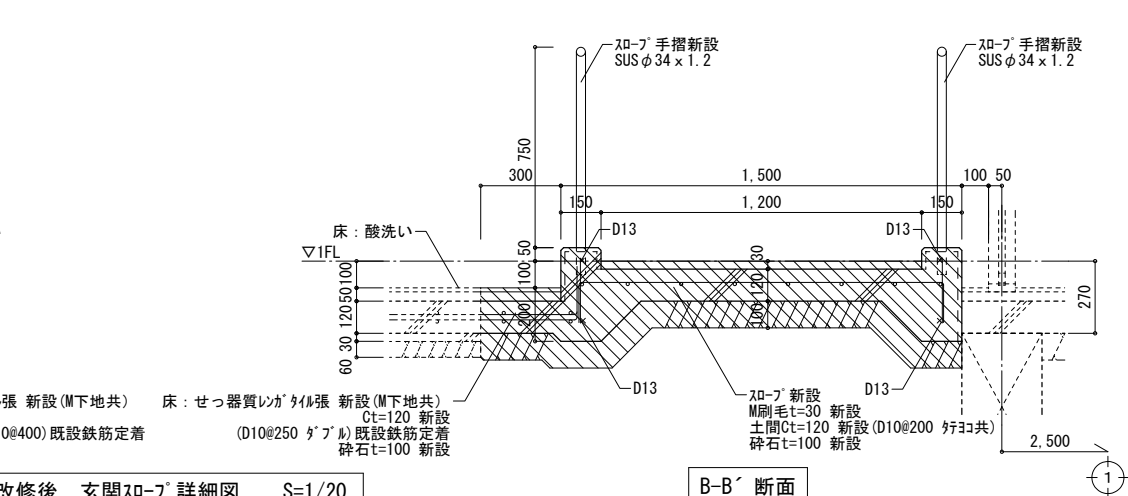


改修後 平面詳細図 S=1/50

凡例 (改修後)	±0	FLからのレベルを示す。
新設部分を示す。	●	室名札: 7ヶリ製 正面型 SUS7mm付 80x250程度 (1箇所)
土間C新設部分を示す。土間C t=120 鉄筋 D10-13@200、D10@400 タブ	■	ヒケ枠: 7ヶリ製 側面型 SUS7mm付 200x200程度 (3箇所)
新設建具を示す。	※特記事項 1. 土間C新設部既設鉄筋に7ヶリ溶接とする。	
改修建具を示す。		

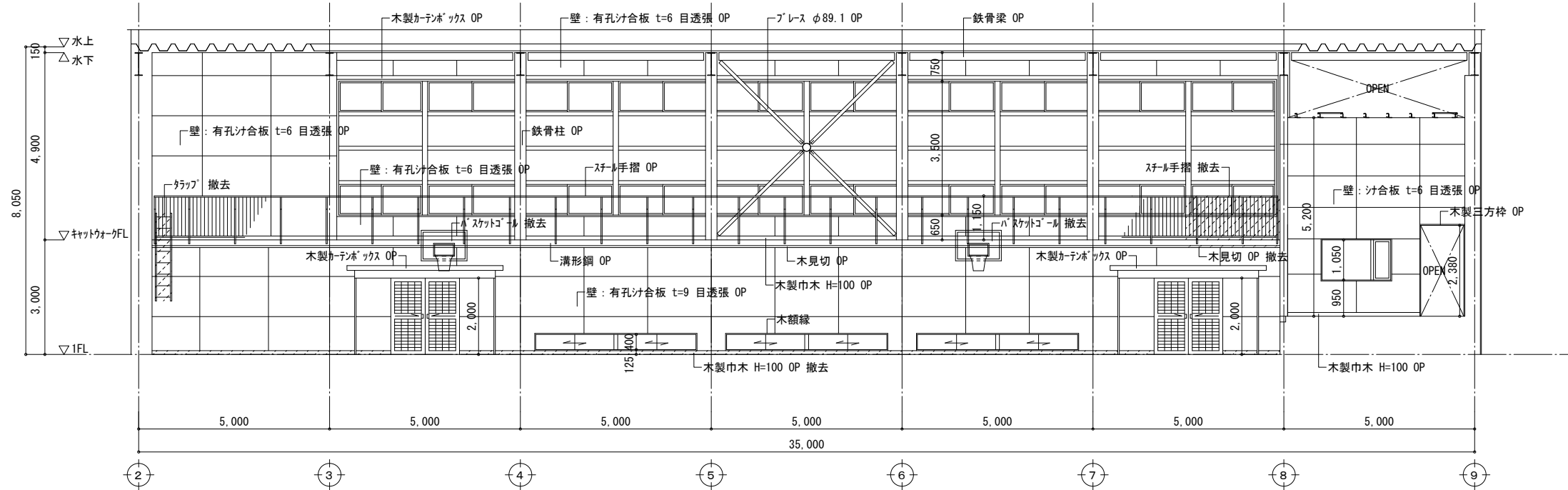


A-A' 断面



改修後 玄関スロ-フ詳細図 S=1/20

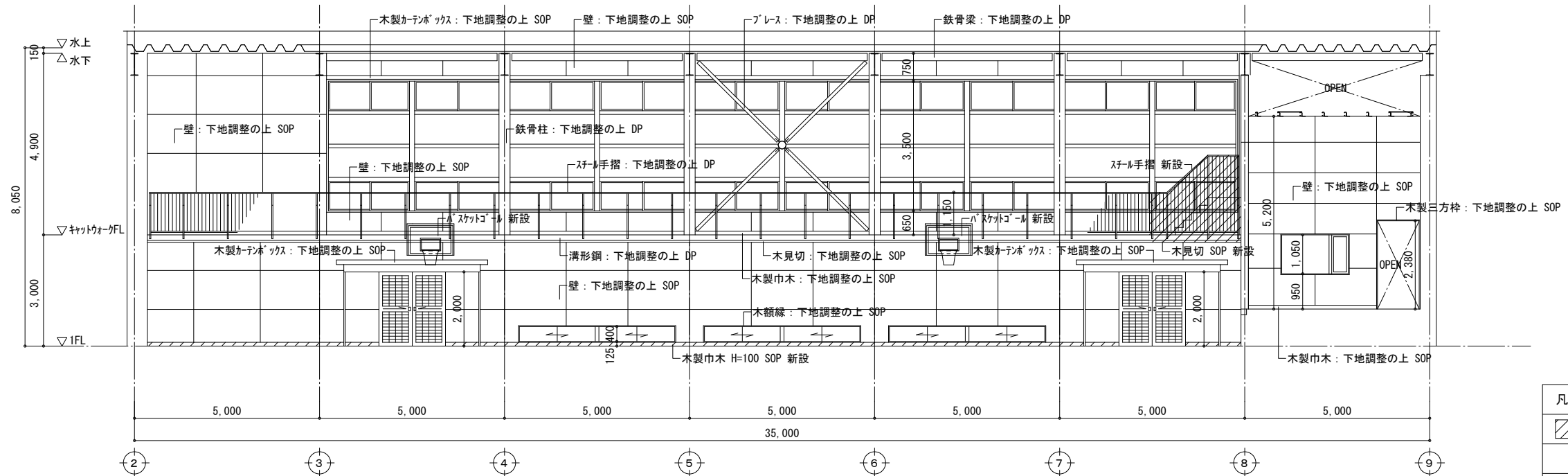
B-B' 断面



凡例 (改修前)	
	撤去部分を示す。
※特記事項	

アリーナ (改修前)

A



凡例 (改修後)	
	新設部分を示す。
※特記事項 1. 鉄部は全て下地調整の上 DP (3級)とする。 2. 建具木額縁は全て下地調整の上 SOPとする。 3. クラップ 撤去跡はシーリング (PU-2) 埋めを行うこと。	

アリーナ (改修後)

A

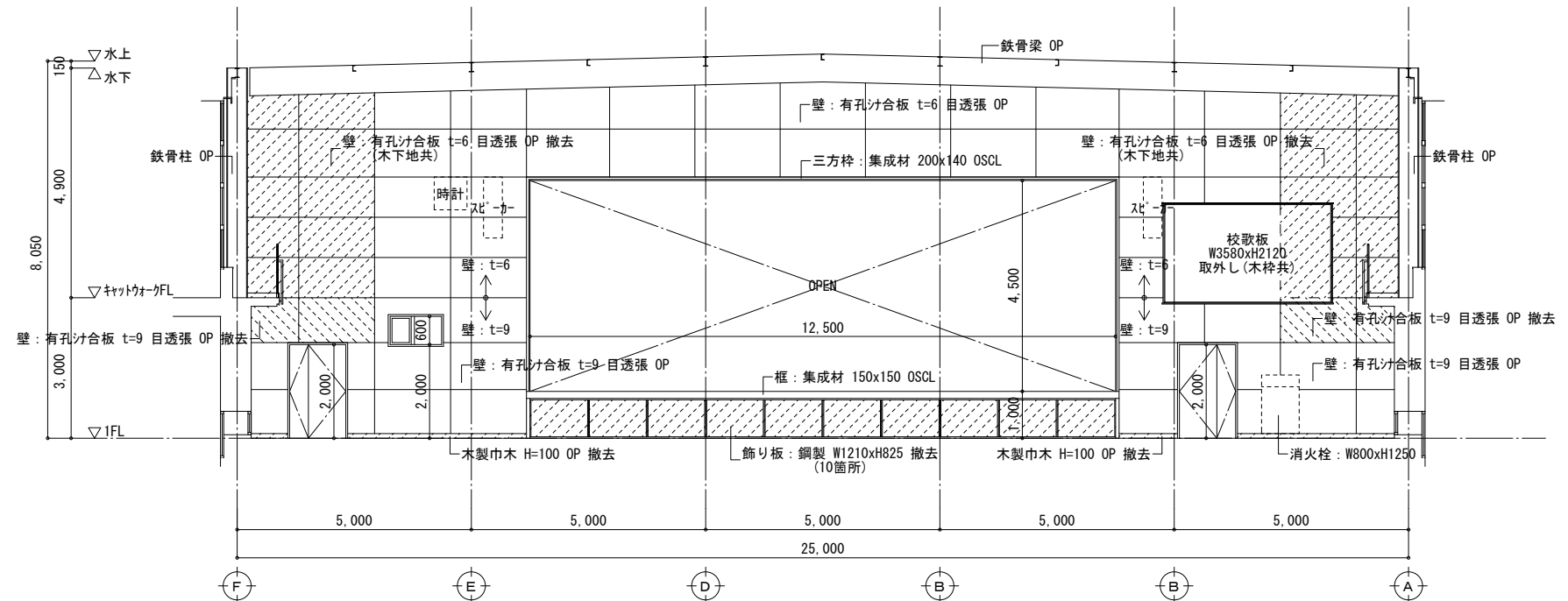
株式会社 山田建築事務所
YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 1845660号 山田 克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	1/100
DATE	'16.11

可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事
改修前・後 展開図 (1)

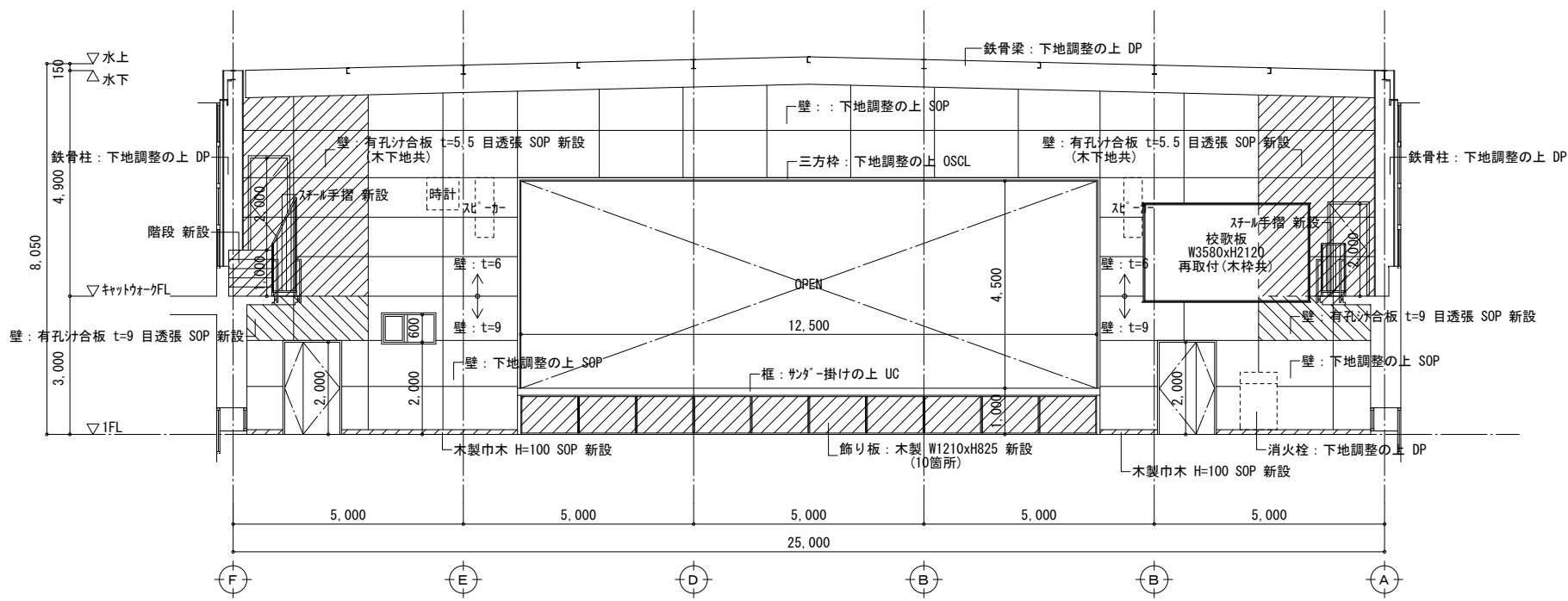
SHEET NO.
A-23



凡例 (改修前)	
	撤去部分を示す。
	撤去部分(仕上げのみ)を示す。
※特記事項	

アリーナ (改修前)

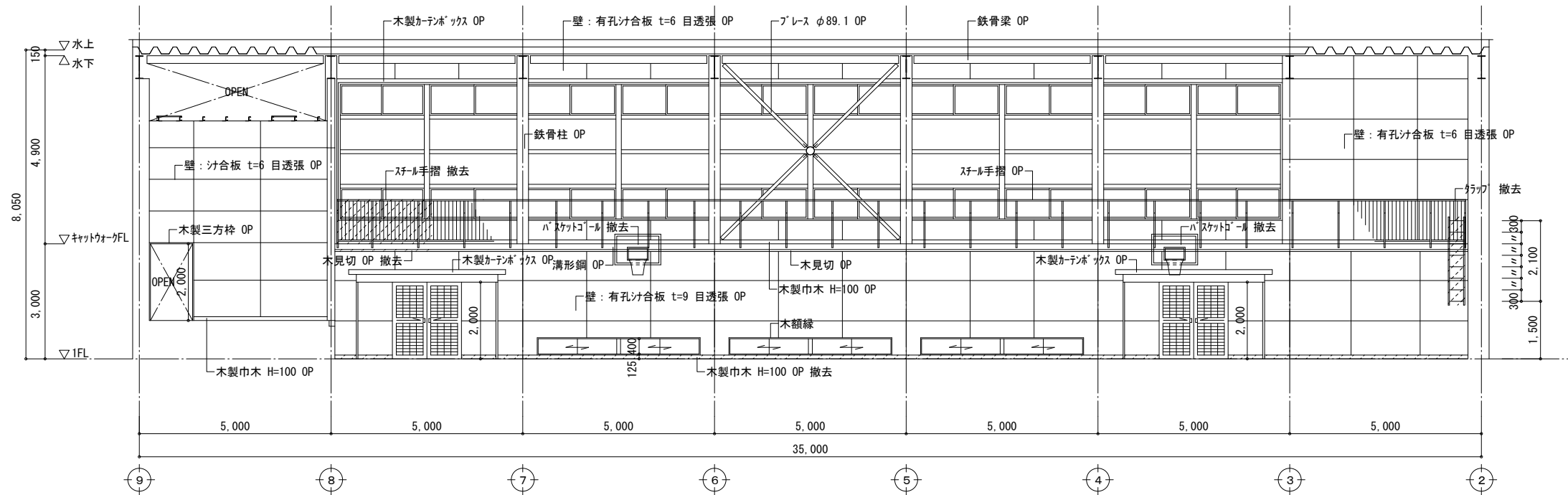
B



凡例 (改修後)	
	新設部分を示す。
	新設部分(仕上げのみ)を示す。
※特記事項 1. 鉄部は全て下地調整の上 DP(3級)とする。 2. 建具木額縁は全て下地調整の上 SOPとする。	

アリーナ (改修後)

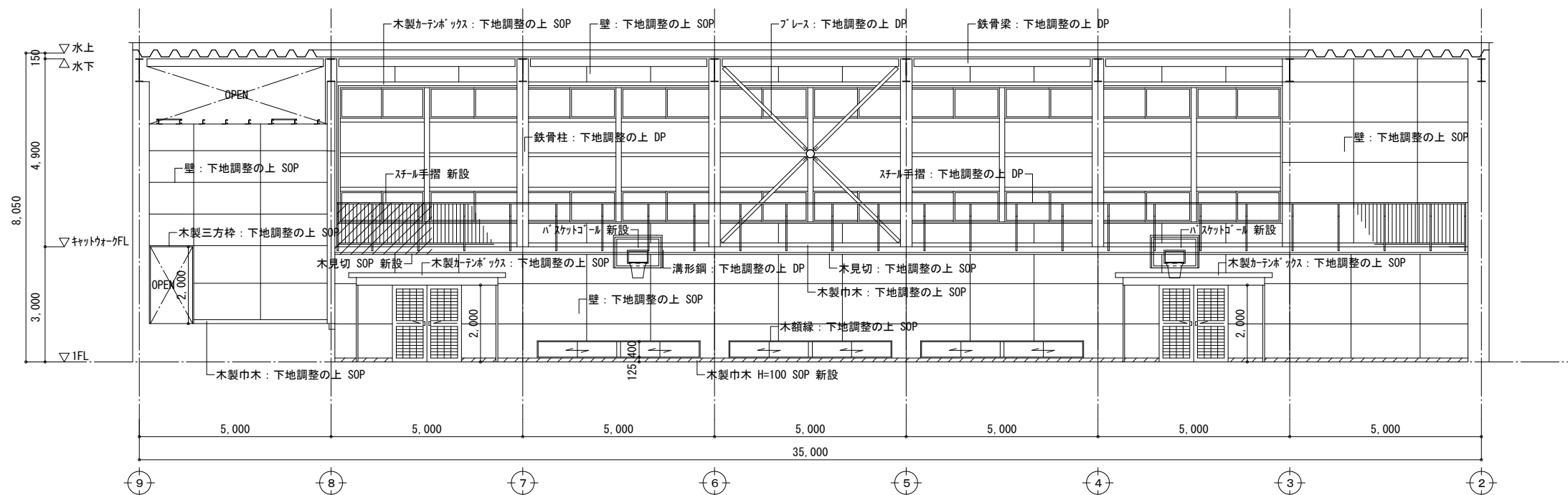
B



凡例 (改修前)	
	撤去部分を示す。
※特記事項	

アリーナ (改修前)

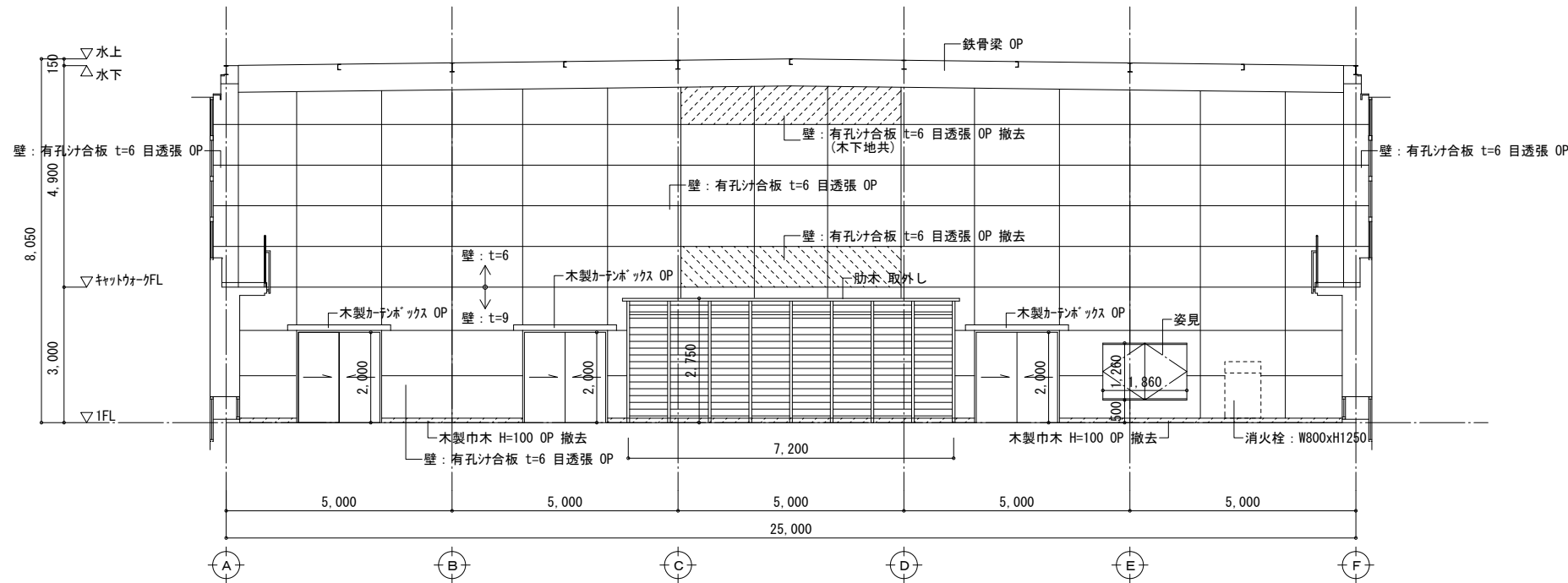
C



凡例 (改修後)	
	新設部分を示す。
※特記事項 1. 鉄部は全て下地調整の上 DP (3級)とする。 2. 建具木額縁は全て下地調整の上 SOPとする。 3. クラップ 撤去跡はシーリング (PU-2) 埋めを行うこと。	

アリーナ (改修後)

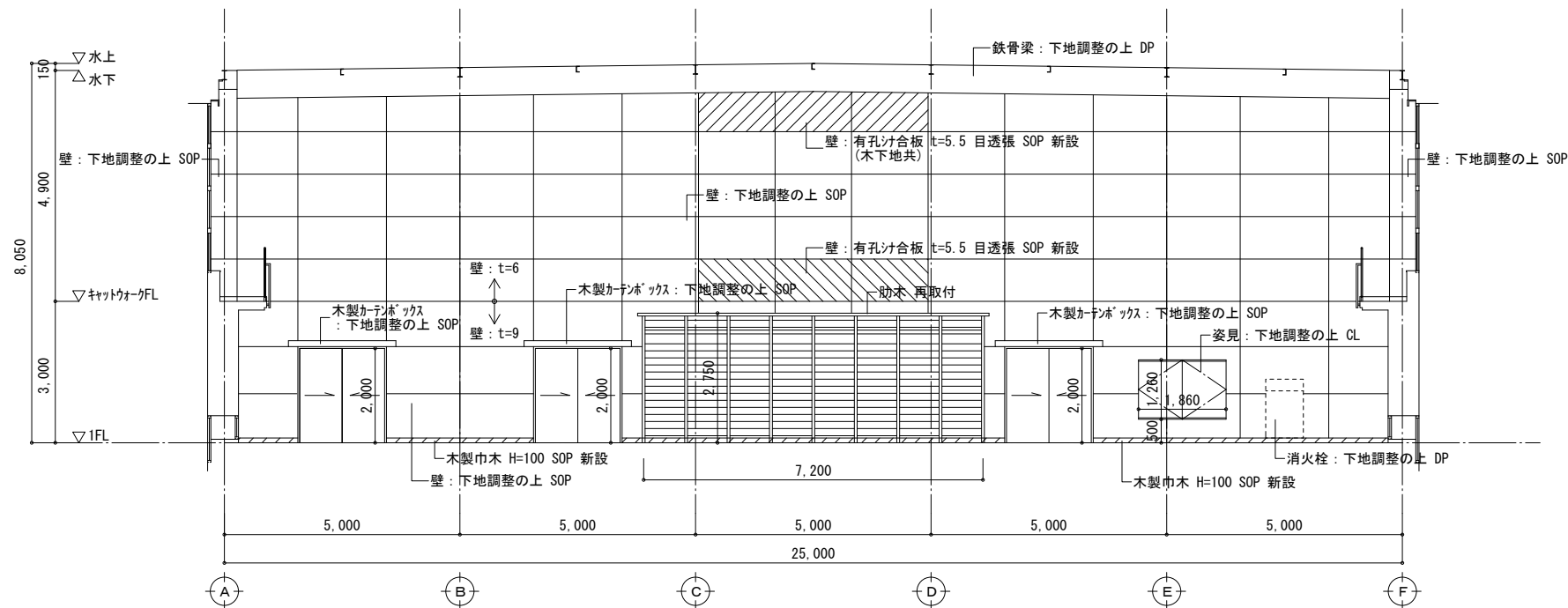
C



凡例 (改修前)	
	撤去部分を示す。
	撤去部分(仕上げのみ)を示す。
※特記事項	

アリーナ (改修前)

D



凡例 (改修後)	
	新設部分を示す。
	新設部分(仕上げのみ)を示す。
※特記事項 1. 鉄部は全て下地調整の上 DP(3級)とする。 2. 建具木額縁は全て下地調整の上 SOPとする。	

アリーナ (改修後)

D

株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田 克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

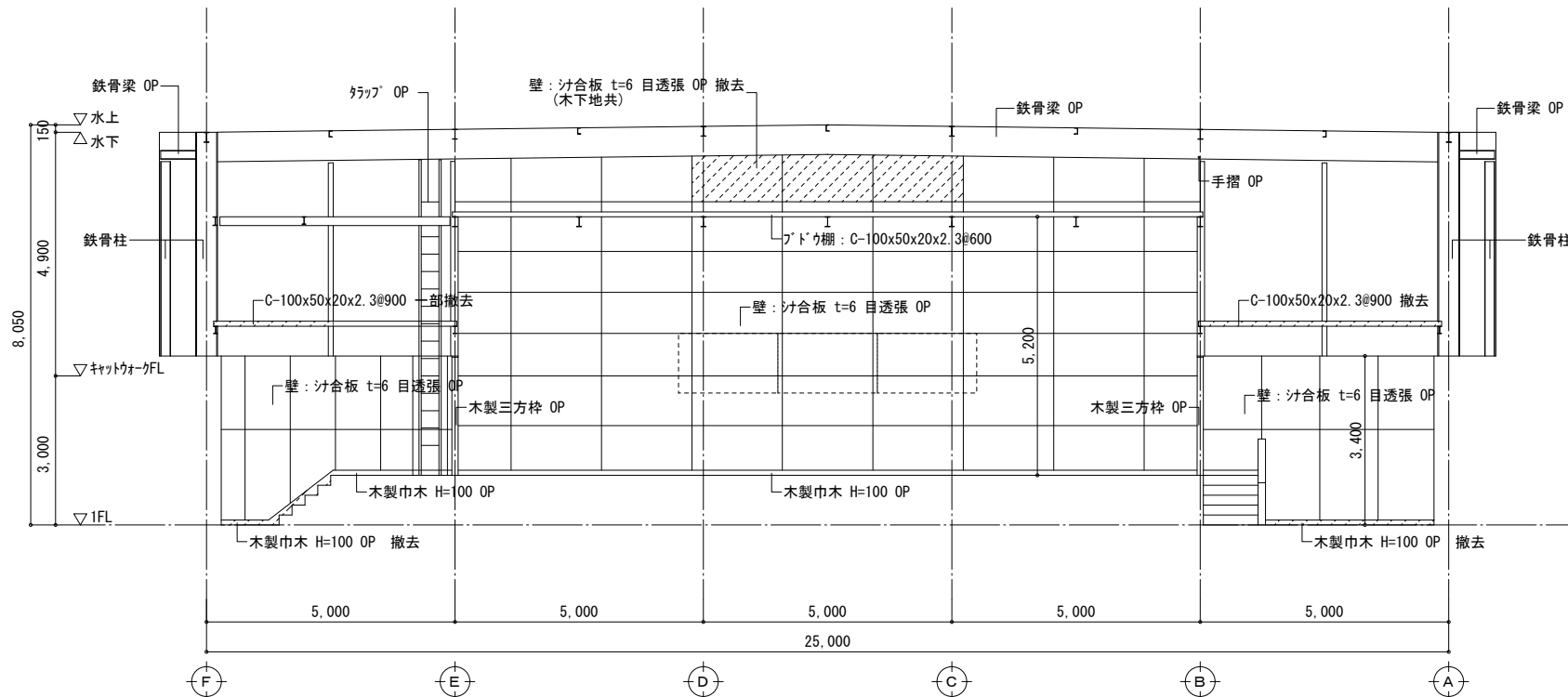
SCALE 1/100
DATE '16.11

可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事

改修前・後 展開図 (4)

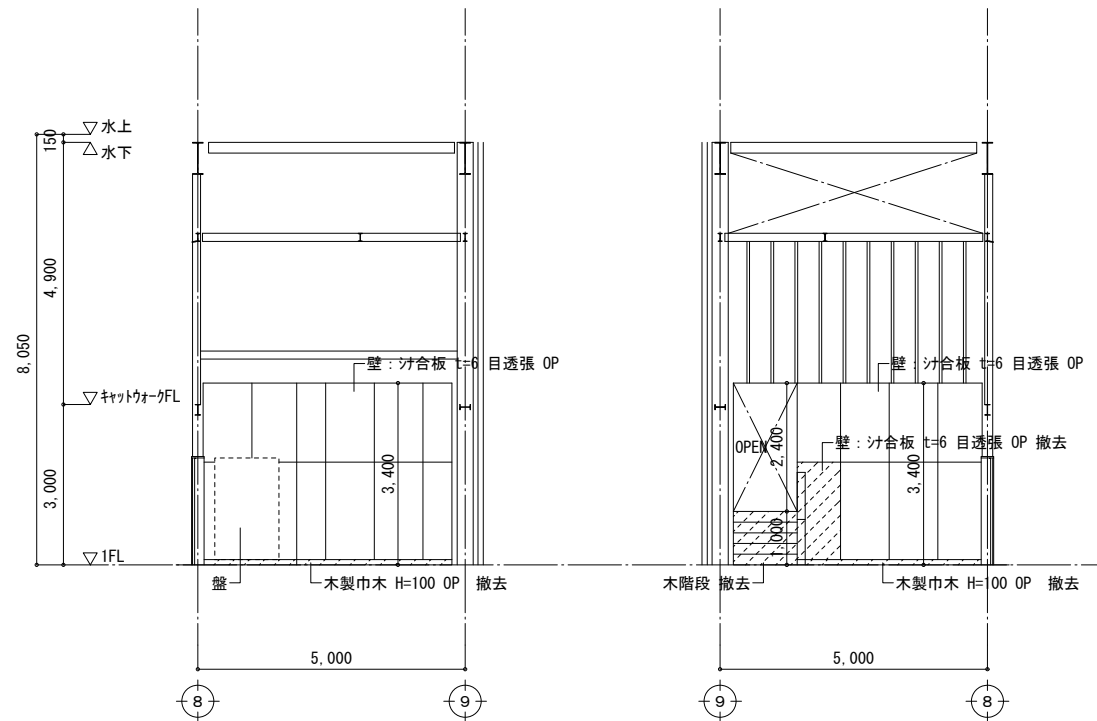
SHEET NO.

A-26



ステージ・控室 1・控室 2 (改修前)

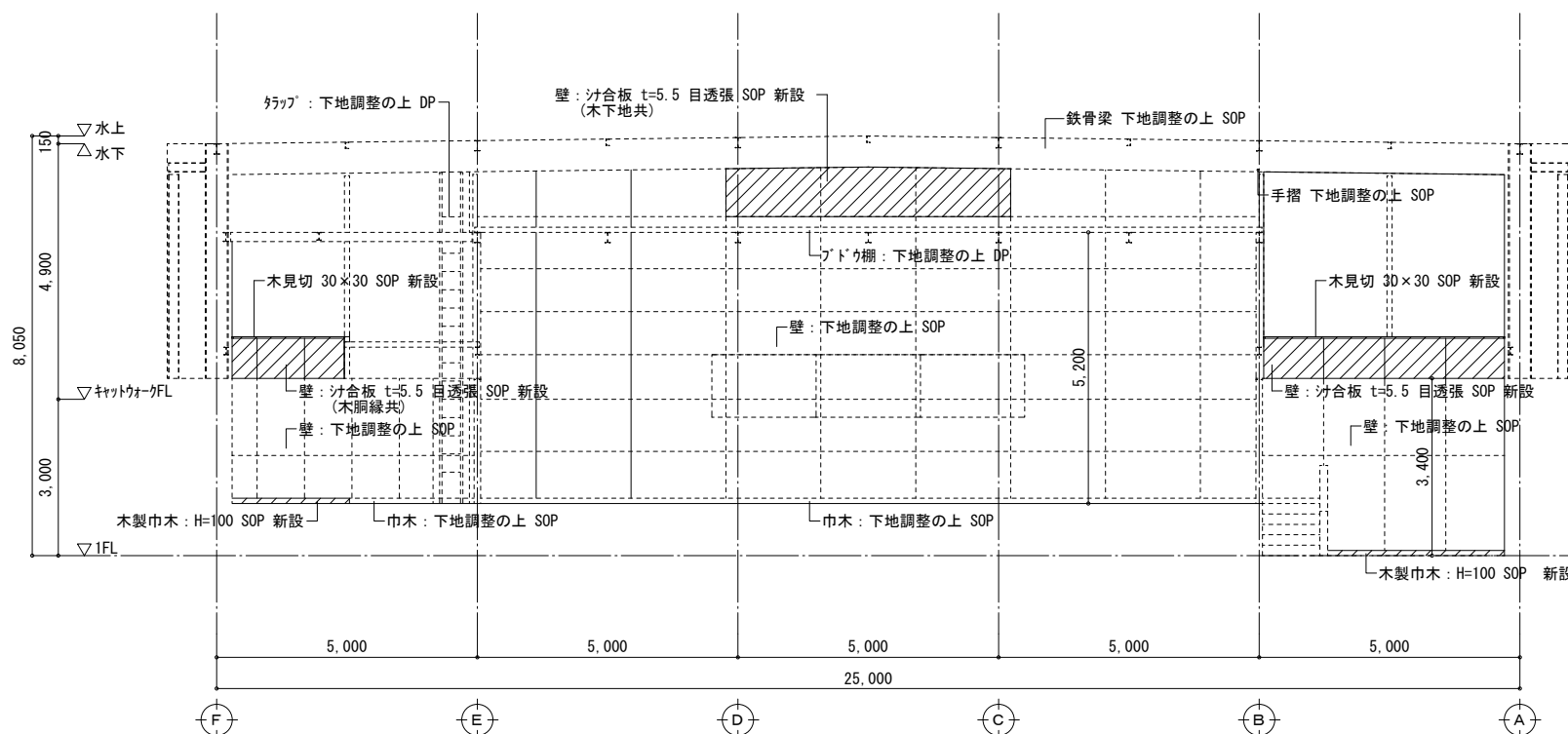
B



控室 1 (改修前)

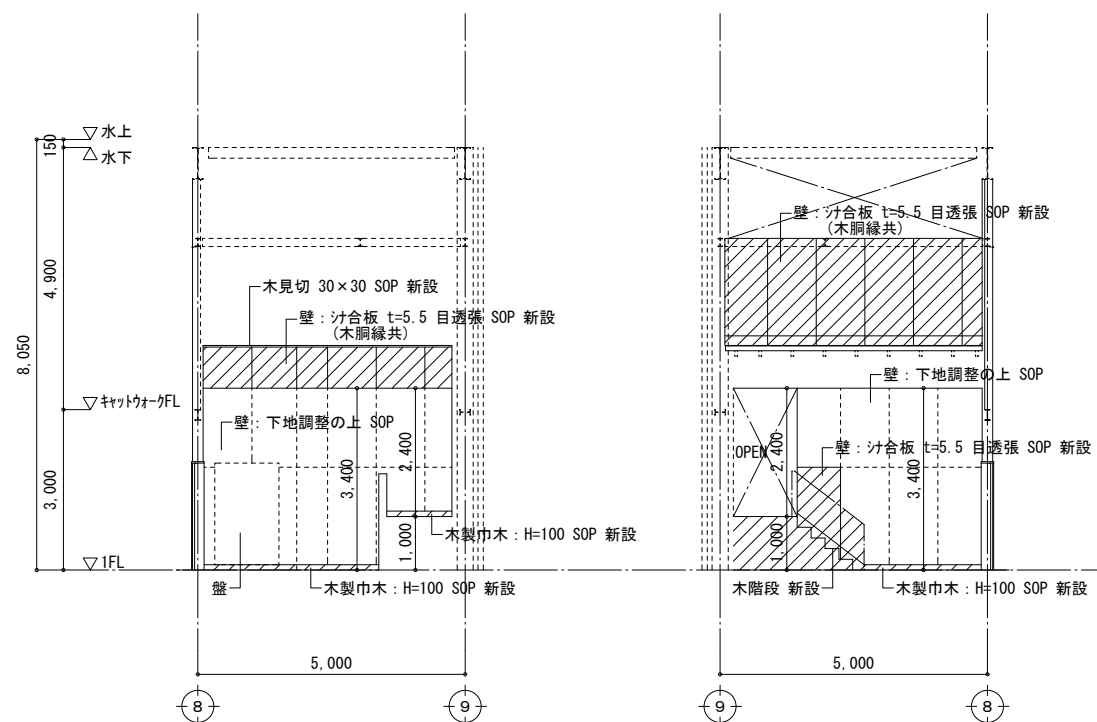
A

C



ステージ・控室 1・控室 2 (改修後)

B



控室 1 (改修後)

A

C

凡例 (改修前)		撤去部分 (仕上げのみ) を示す。	※特記事項
		撤去部分を示す。	

凡例 (改修後)		新設部分 (仕上げのみ) を示す。	※特記事項
		新設部分を示す。	

- ※特記事項
1. 鉄部は全て下地調整の上 DP (3級) とする。
 2. 建具木額縁は全て下地調整の上 SOP とする。
 3. 特記なき三方枠は全て下地調整の上 SOP とする。

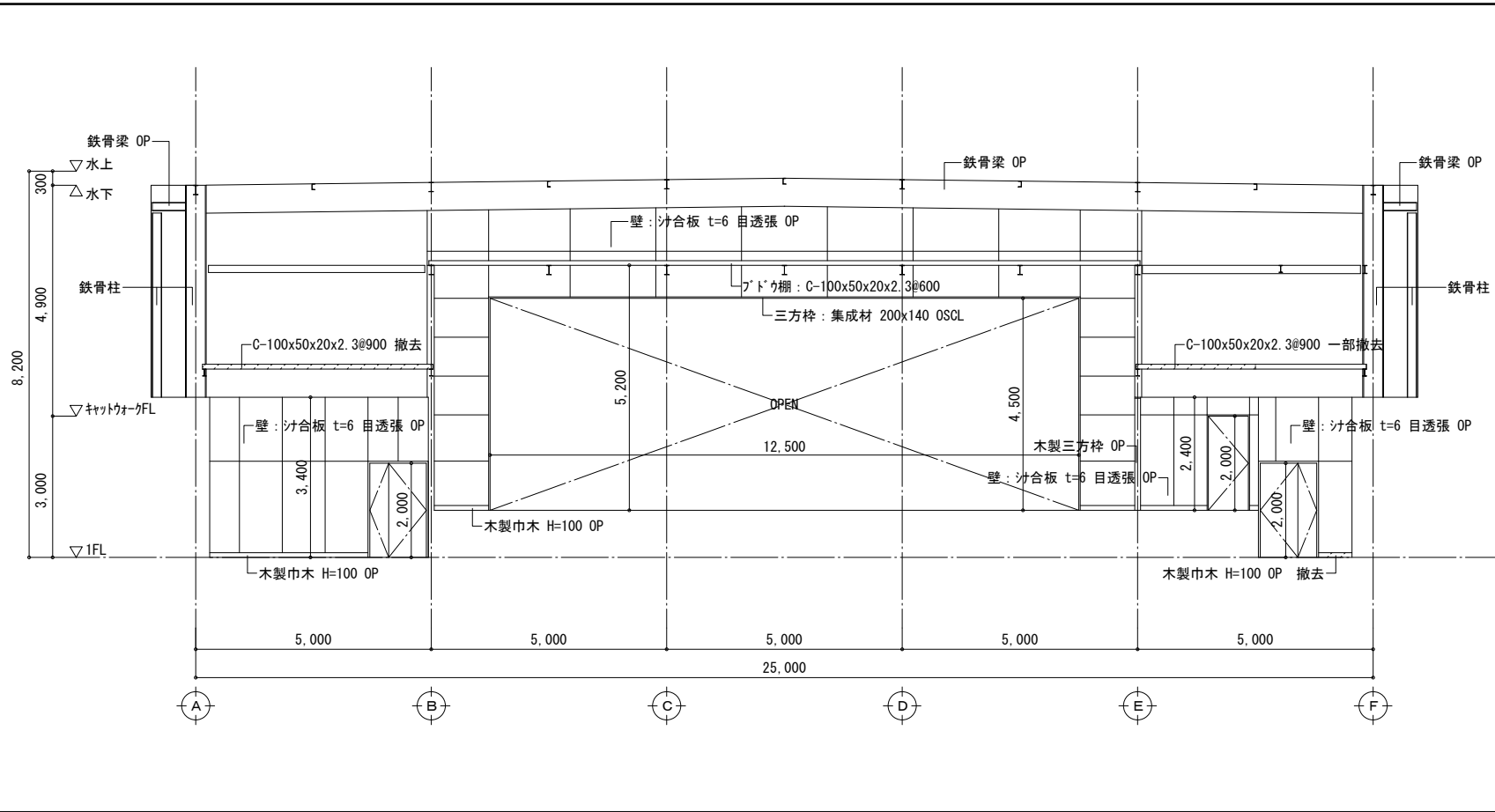
_____	_____
_____	_____
_____	_____

株式会社 山田建築事務所
YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田 克弘

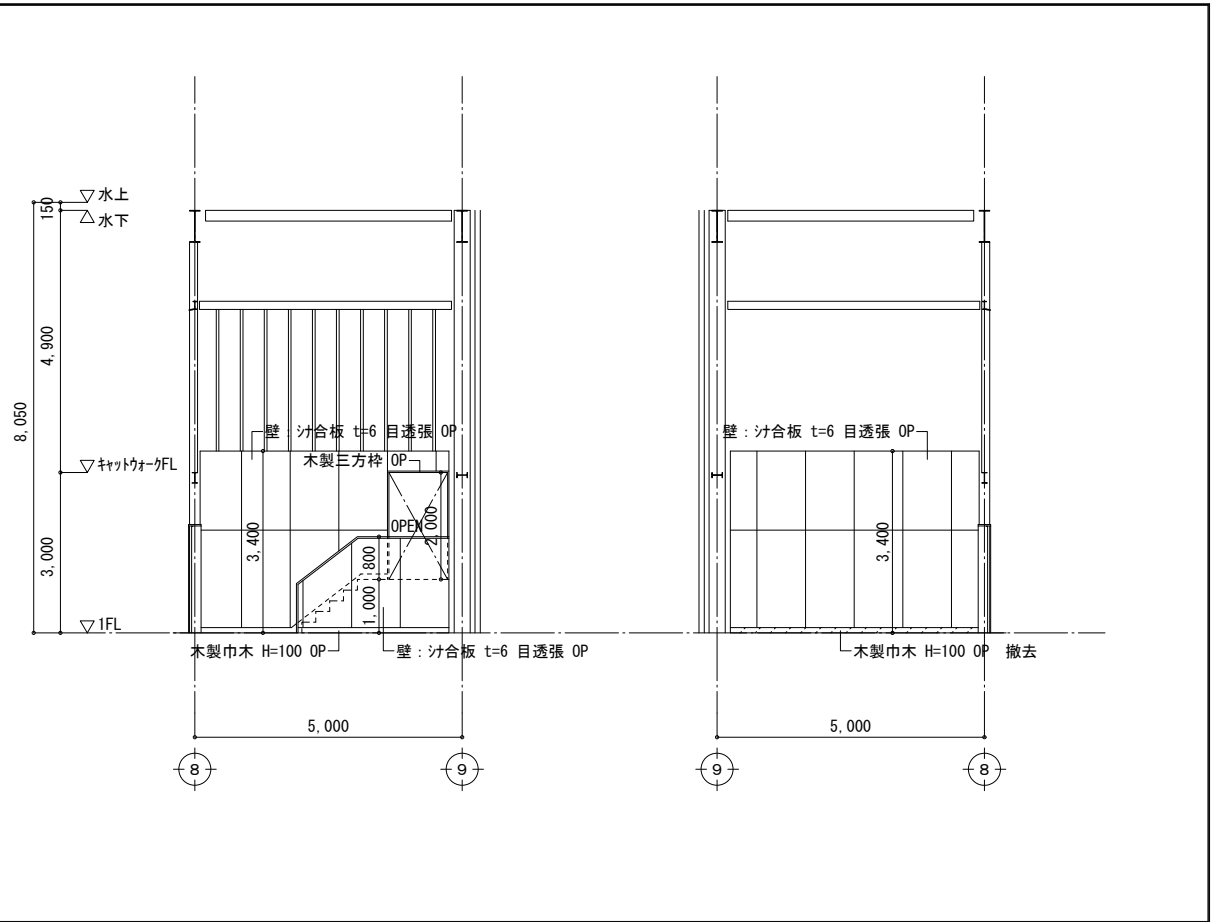
CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE
			1/100
			DATE '16.11

可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事
改修前・後 展開図 (5)

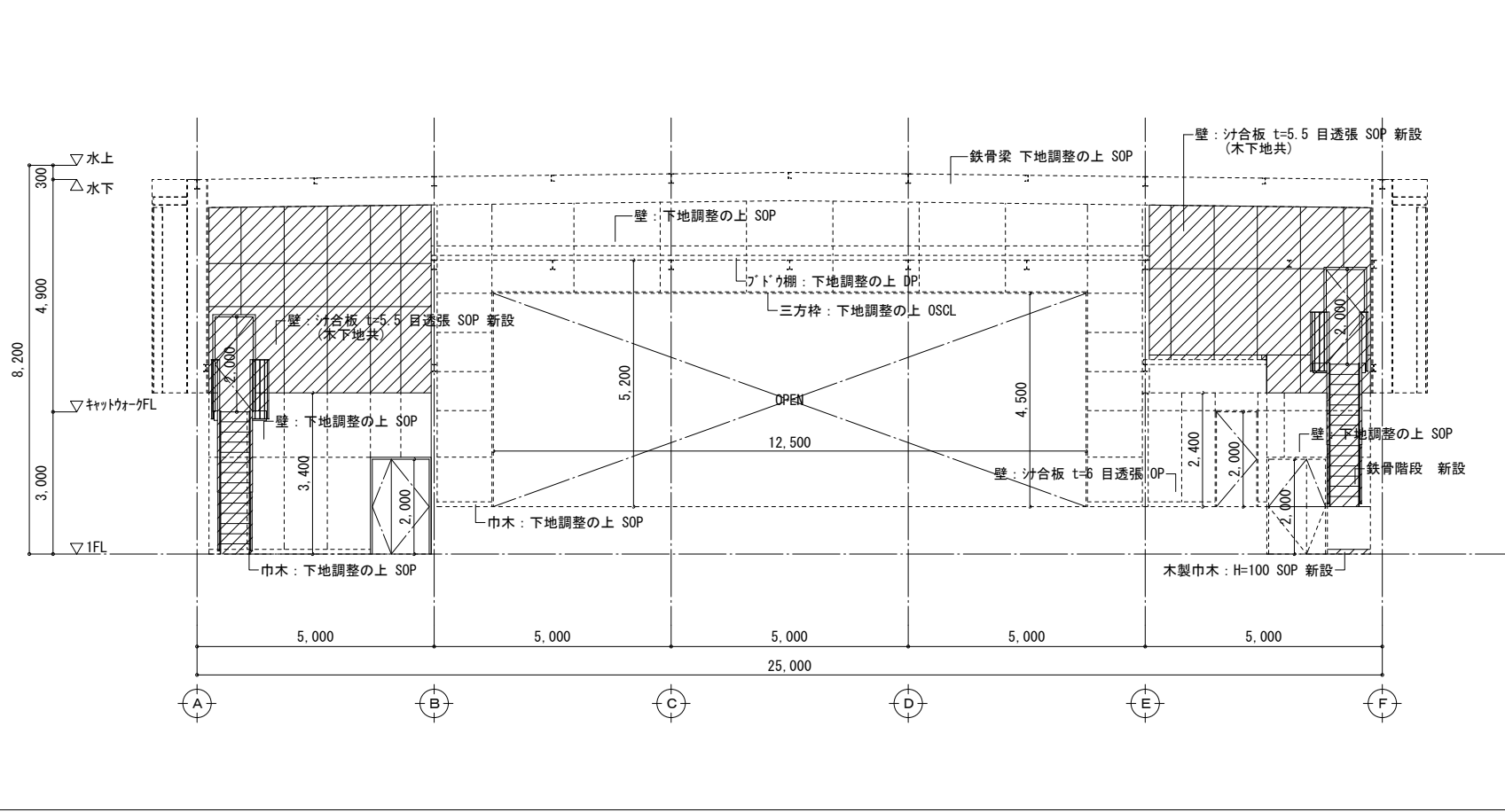
SHEET NO.
A-27



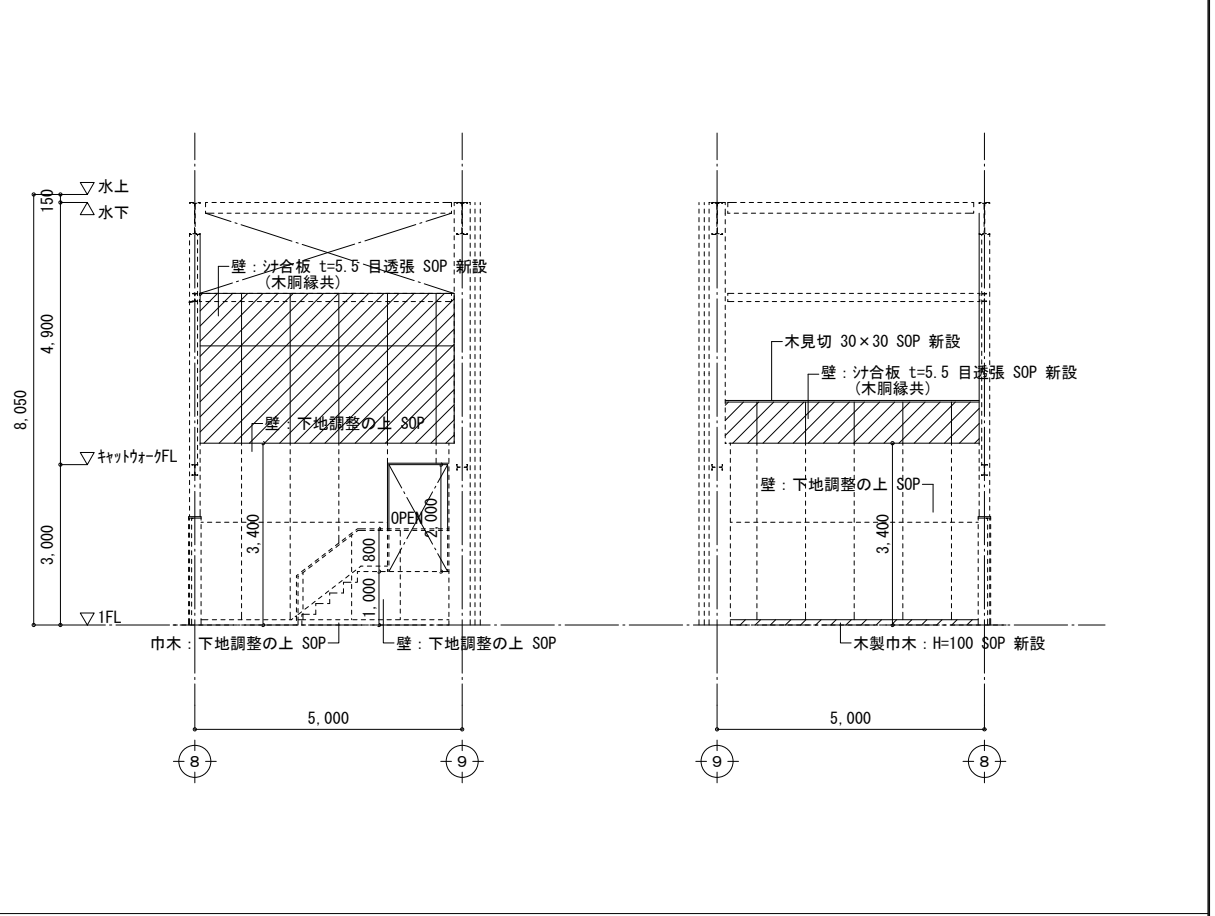
ステージ・控室 1・控室 2 (改修前) D



控室 2 (改修前) A C

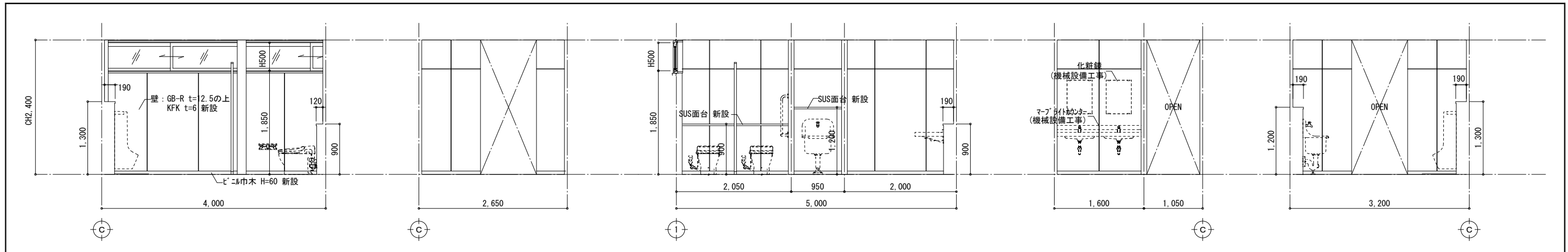


ステージ・控室 1・控室 2 (改修後) D

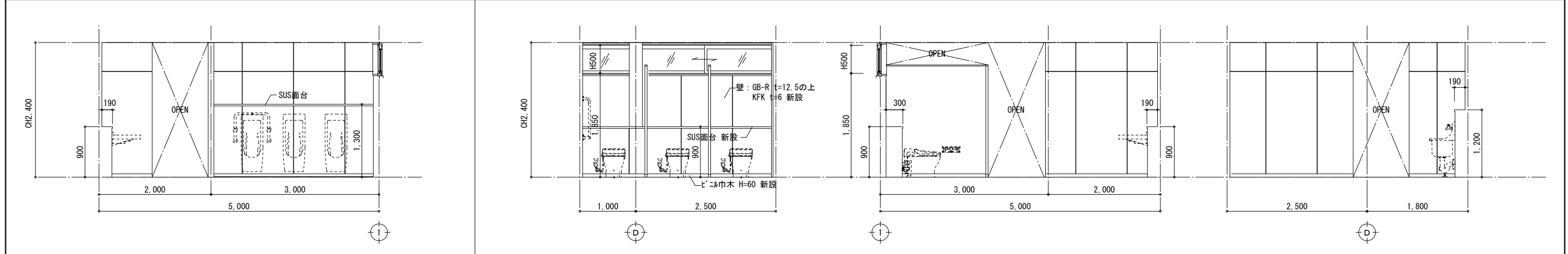


控室 2 (改修後) A C

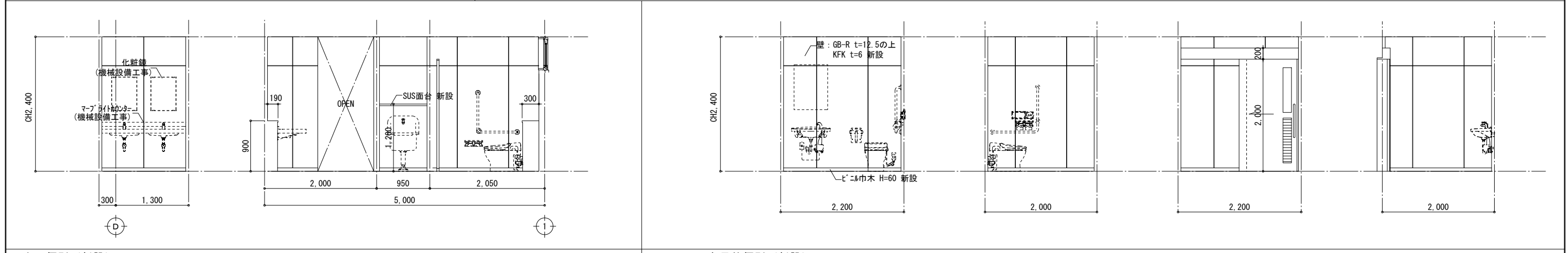
凡例 (改修前)	撤去部分 (仕上げのみ) を示す。	※特記事項	凡例 (改修後)	新設部分 (仕上げのみ) を示す。	※特記事項
撤去部分を示す。			新設部分を示す。		1. 鉄部は全て下地調整の上 DP(3級)とする。 2. 建具木額縁は全て下地調整の上 SOPとする。 3. 特記なき三方枠は全て下地調整の上 SOPとする。



男子便所 (新設) A-1 A-2 B C-1 C-2



男子便所 (新設) D 女子便所 (新設) A B C-1



女子便所 (新設) C-2 D 多目的便所 (新設) A B C D

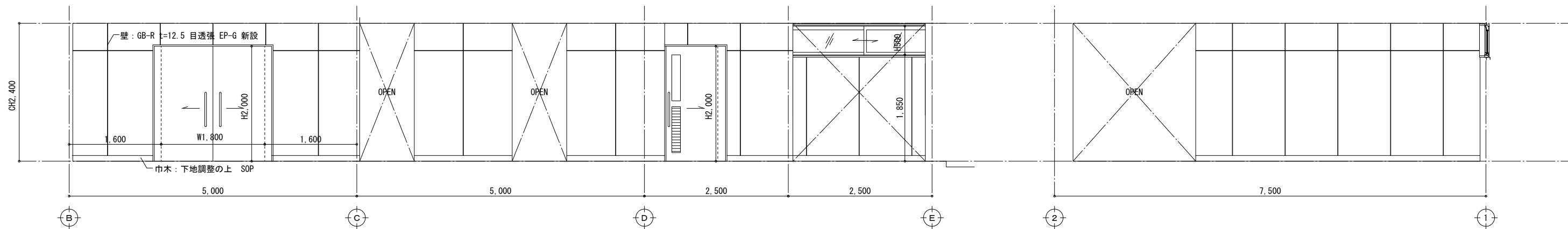

株式会社 山田建築事務所
 YAMADA ARCHITECT OFFICE 一般建築士 1845660号 山田克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	1/50
DATE	'16.11

可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事
 改修後 展開図 (8)

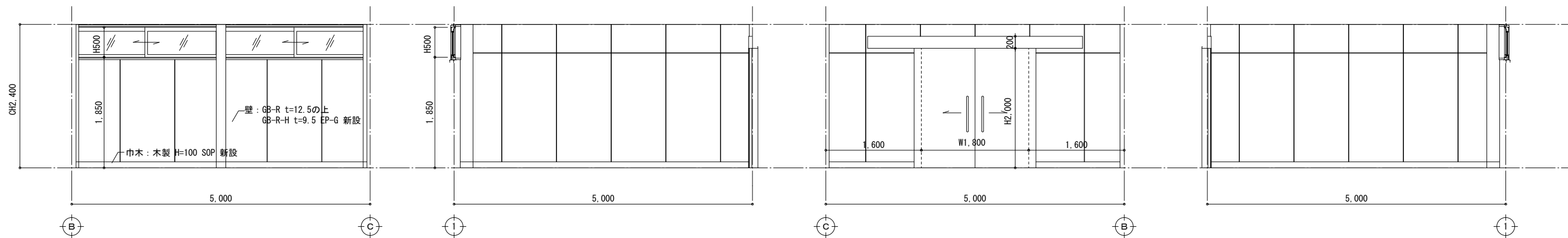
SHEET NO. A-30



廊下・玄関ホール (新設)

A

D



器具庫 A (新設)

A

B

C

D



根太鋼 29×35×64×t1.2 @300
 支持脚 スリベース301 @1,200
 大引鋼 50×50×t2.3 @900

仕様表 1

アリーナ	H=500
仕上げ	カバ桜フローリング 無垢材 t18 ビス留め工法 (旧特殊張) サンダー掛け 1液性ポリウレタン3回塗装 F☆☆☆☆
捨張	構造用合板(針葉樹) t12
下地	鋼製床下地 (置床) ※ 三洋工業(株) メタルベースG 同等品 シートパネル 910×1,820×t20 パーティクルボード+アルミ箔+防湿シート 支持脚 クッションゴムG
床下換気口	ベースピット SS-100 200×1000 アルミ製 開閉板付 22ヶ所
床下点検口	スリーハッチ F-600 600×600 アルミ製 2台
床金具	バレー・テニス用 押開閉式 角型亜鉛合金製 6個 ※ イノコ(株) SP70 同等品 バドミントン用 床固定式 丸形砲金製 固定ボルト共 6個 ※ イノコ(株) SP2040 同等品

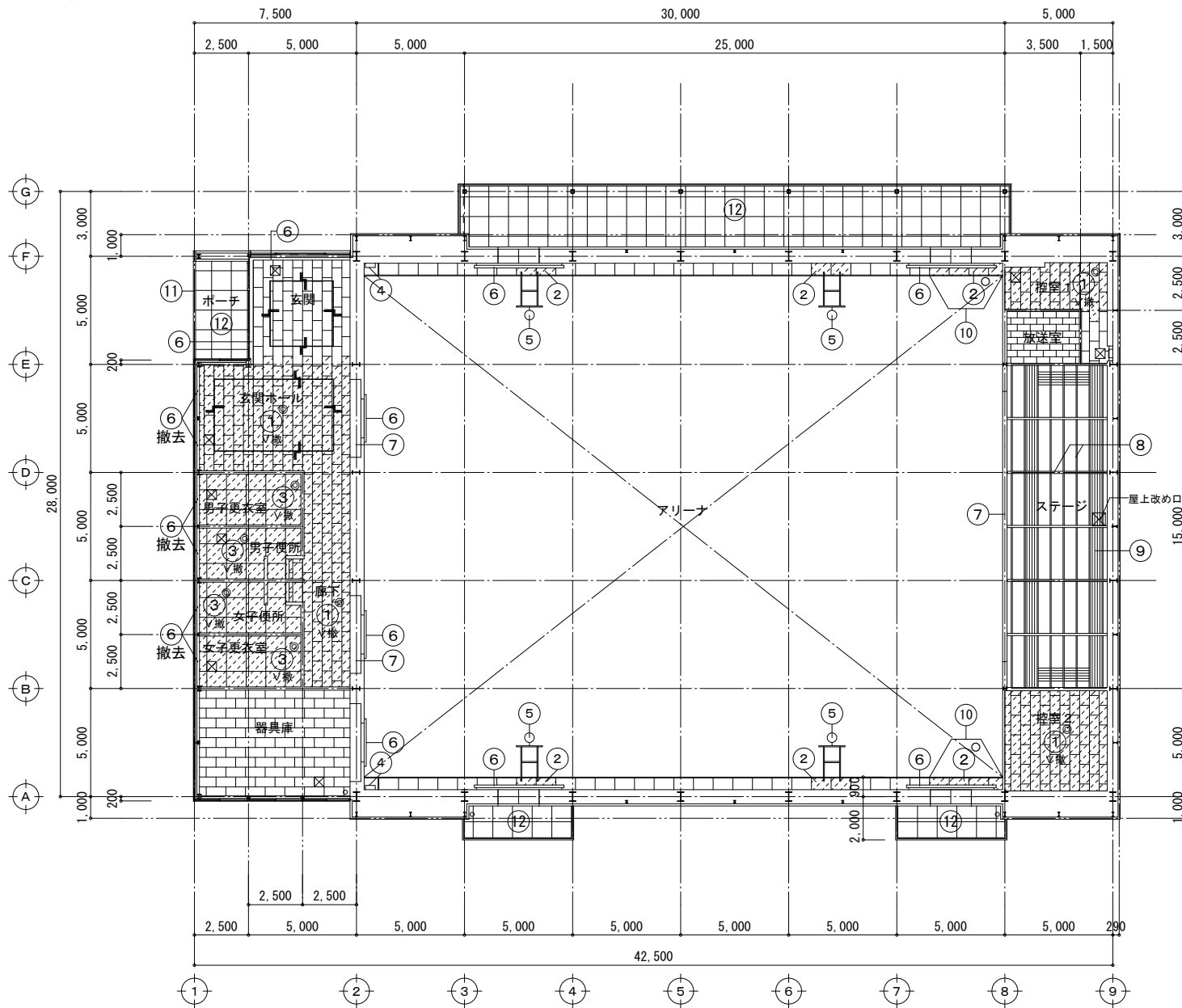
仕様表 2

控室 1、控室 2の一部	H=500
仕上げ	ナラフローリング 無垢材 t15 UC
捨張	構造用合板(針葉樹) t12
下地	鋼製床下地 (置床) ※ 三洋工業(株) メタルベースKG 同等品 シートパネル 910×1,820×t20 パーティクルボード+アルミ箔+防湿シート 支持脚 クッションゴムKG

仕様表 3

ステージの一部(控室 1)	H=1,500
仕上げ	ナラフローリング 無垢材 t15 UC
捨張	構造用合板(針葉樹) t12
下地	鋼製床下地 (組床) ※ 三洋工業(株) スリベース301 同等品 根太鋼 29×35×64×t1.2 @300 大引鋼 50×50×t2.3 @900 支持脚 スリベース301 @1,200 振れ止め共

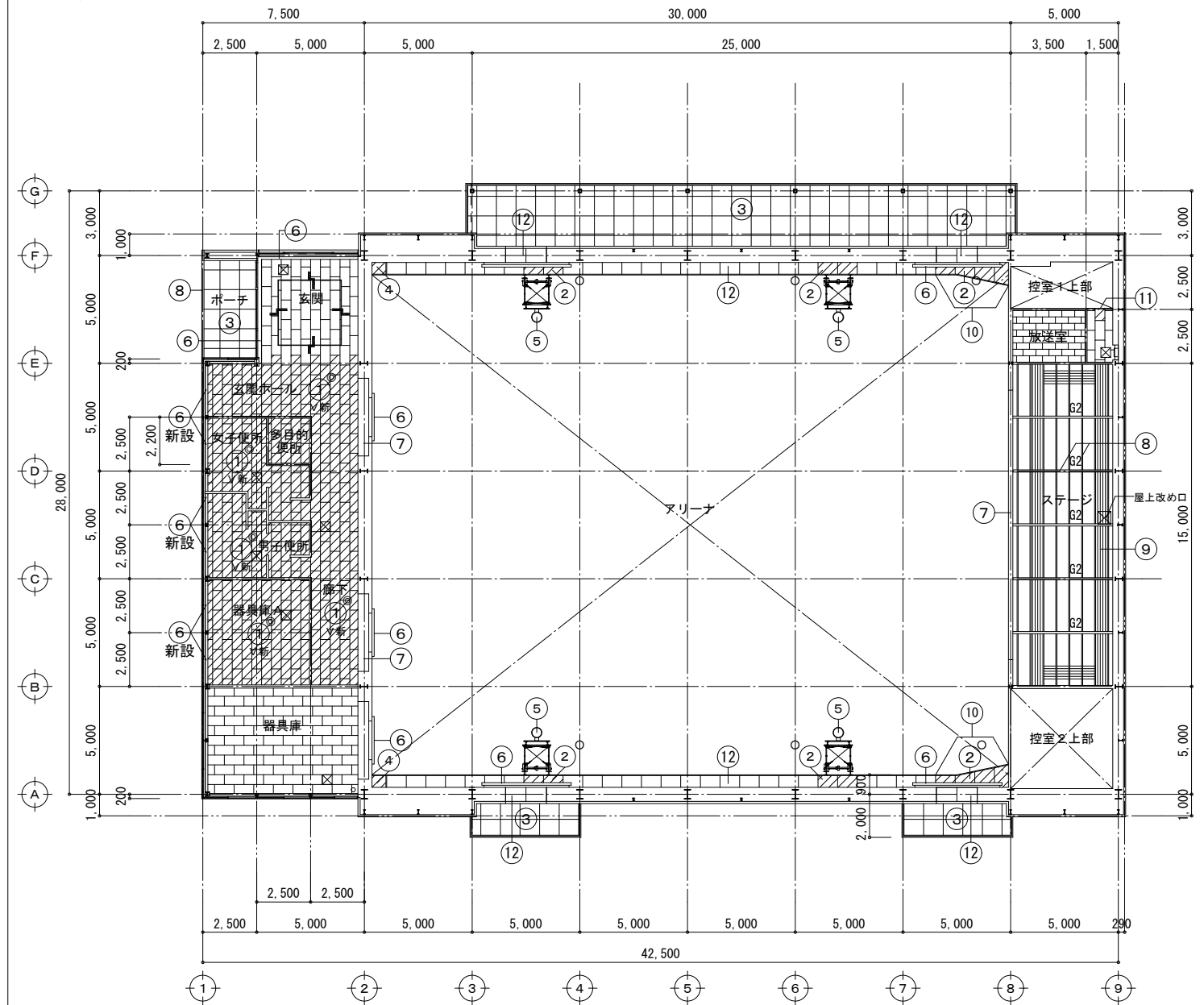
1階アリーナ 鋼製床割付図 S=1/100



改修前 1階天井伏図 S=1/200



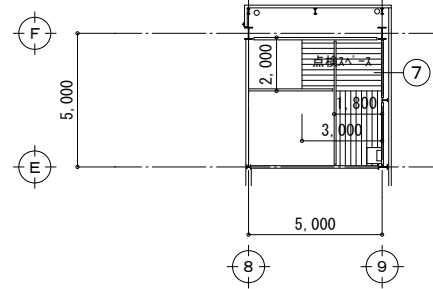
鉄骨部材リスト		
部位	符号	断面形状
梁	G2	H-198x99x4.5x7
下地	b0	C-100x50x20x3.2



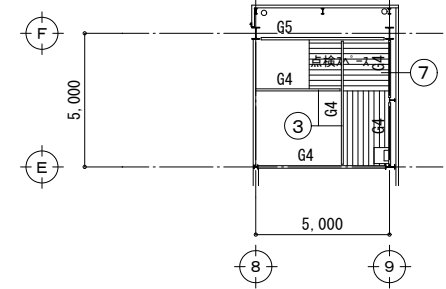
改修後 1階天井伏図 S=1/200

凡例 (改修前)		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	撤去部分を示す。	GB-D t=9 撤去	有孔パネル t=6 目透張 OP 撤去	7ス' ストラックス' ト' t=6 目透張 パ' ライト入 VP 吹付 撤去	クランプ 撤去	固定式' スカット' ル 撤去 (2対) (鉄骨下地共)	木製カーテンボックス W120xH100	木製三方枠	鉄骨 OP
	木下地共撤去を示す。	⑨	⑩	⑪	⑫	※特記事項 1. 'ボ'ド'類の撤去は最寄目地までとすること。 2. 撤去範囲の天井点検口は撤去とすること。			
	LGS下地共撤去を示す。	⑨	歩み板: 耐水合板 t=20 OP	⑩	木見切 OP 撤去				
V	塩ビ' 廻縁撤去を示す。	⑤	固定式' スカット' ル 撤去 (2対) (鉄骨下地共)	⑫	7ス' ストラックス' ト' t=6 目透張 パ' ライト入 VP 吹付				
☒	天井点検口 450角を示す。(5箇所撤去)	⑥	木製カーテンボックス W120xH100						
		⑦	木製三方枠						
		⑧	鉄骨 OP						

凡例 (改修後)		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	新設部分を示す。	GB-D t=9.5 新設	有孔パネル t=5.5 目透張 SOP 新設	下地調整の上 EP	開口閉塞 新設 (詳細図参照)	壁面固定折畳式' スカット' ル新設 (2対) (詳細図参照)	既設部: 下地調整の上 SOP 新設部: 木製カーテンボックス W120xH100 SOP (SUSカーテンレール: C型 シングル共)	木部: 下地調整の上 OSCL	鉄部: 下地調整の上 DP	既設のまま	木見切: 25x80 SOP 新設	木見切: 30x30 SOP 新設	木部: 下地調整の上 SOP
	木下地共新設を示す。	②	有孔パネル t=5.5 目透張 SOP 新設	③	開口閉塞 新設 (詳細図参照)	④	※特記事項 1. DPは外部: 2級、内部3級とすること。						
	LGS下地共新設を示す。	③	下地調整の上 EP	④	開口閉塞 新設 (詳細図参照)	⑤							
V	塩ビ' 廻縁新設を示す。	⑤	壁面固定折畳式' スカット' ル新設 (2対) (詳細図参照)	⑥	既設部: 下地調整の上 SOP 新設部: 木製カーテンボックス W120xH100 SOP (SUSカーテンレール: C型 シングル共)	⑦							
☒	天井点検口 450角を示す。(4箇所新設) (開口補強共)	⑥	既設部: 下地調整の上 SOP 新設部: 木製カーテンボックス W120xH100 SOP (SUSカーテンレール: C型 シングル共)	⑦	木部: 下地調整の上 OSCL								



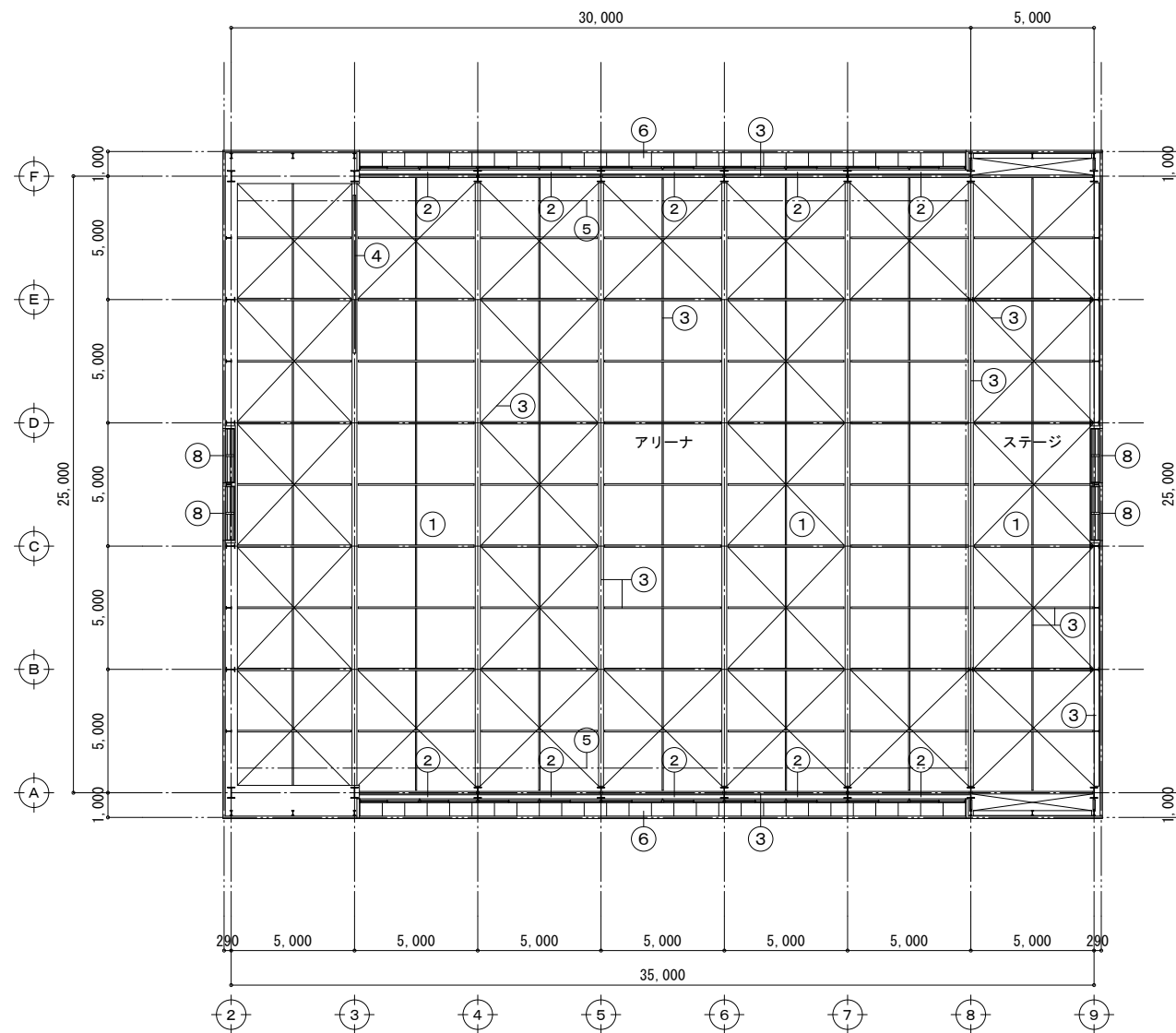
控室1天井裏天井伏図 S=1/200



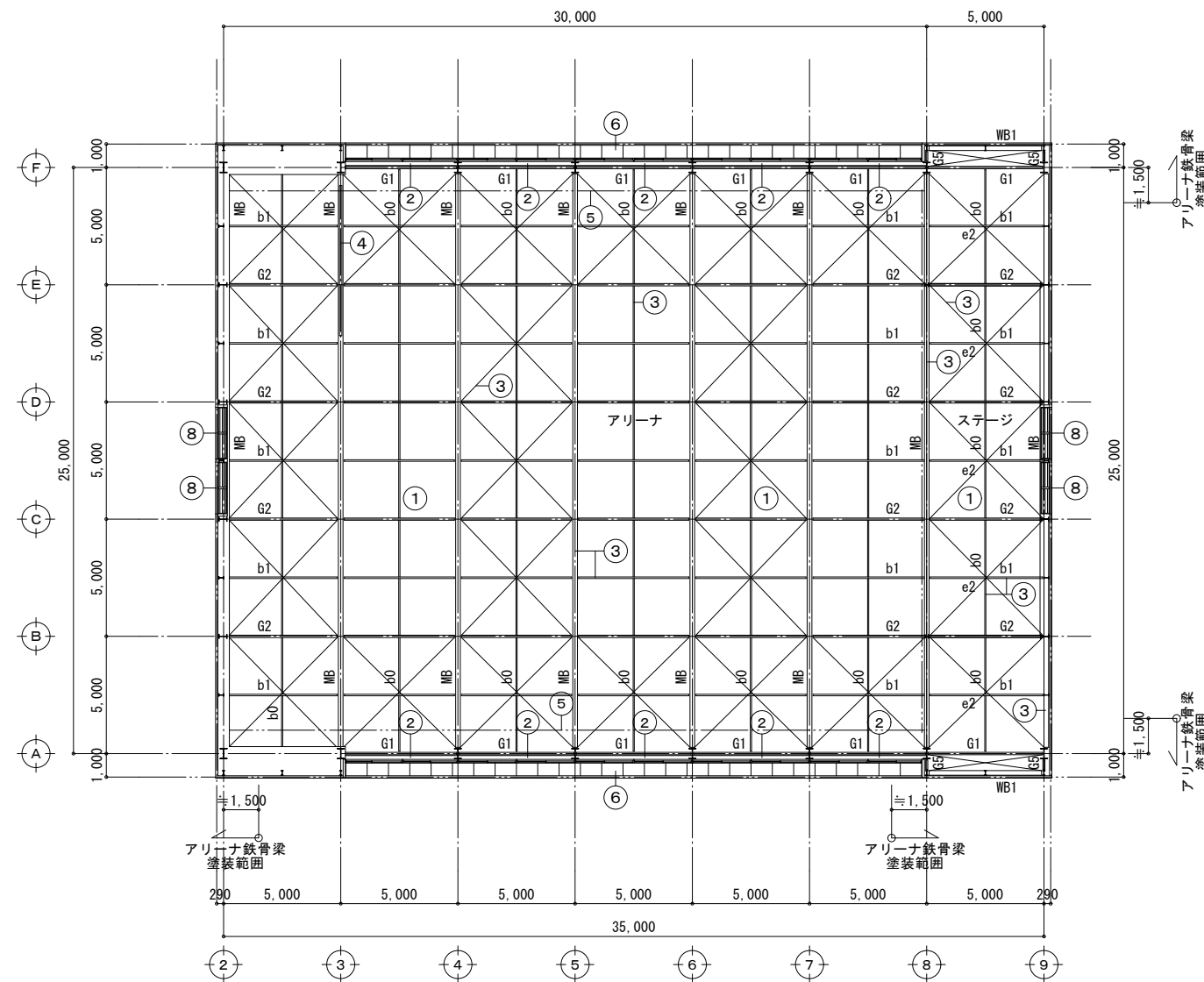
控室1上部天井伏図 S=1/200

既設鉄骨部材リスト		
部位	符号	断面形状
梁	MB	H-596x199x10x15
	G1	H-200x100x5.5x8
	G2	H-198x99x4.5x7
	G4	H-150x75x5x7
	G5	H-175x90x5x8
WB1	H-200x100x5.5x8 (横向)	
b1	[-125x65x6x8	
b0	C-100x50x20x3.2	
アレース	e2	φ19 ターンバックル付

※特記なき限り、全て下地調整の上 DP(3級)とする。



改修前 キャットウォーク天井伏図 S=1/200

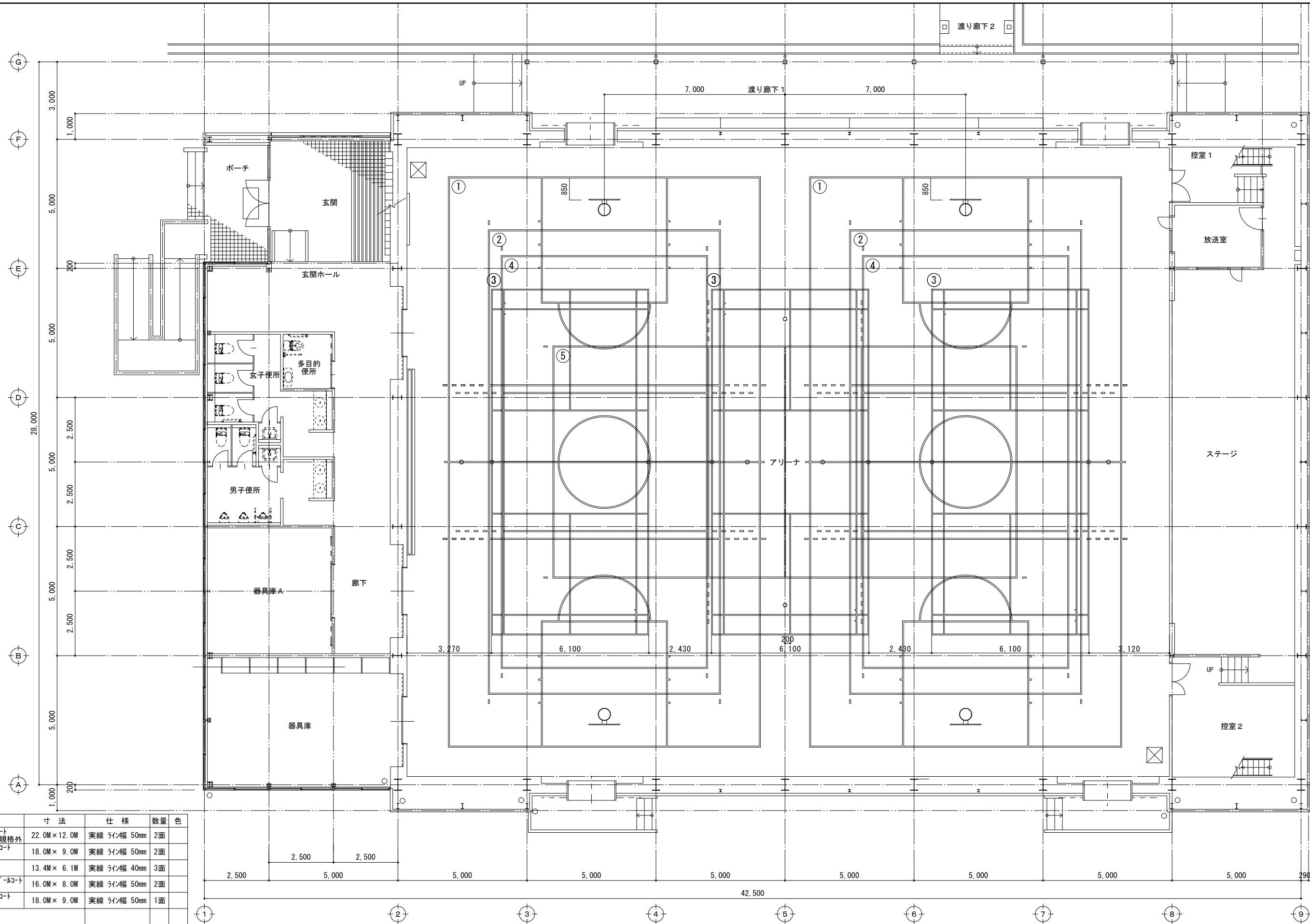


改修後 キャットウォーク天井伏図 S=1/200

凡例 (改修前)	③	鉄部 OP	※特記事項
	④	吊縄用 L=6400	
	⑤	防球ネット 撤去 (W29500xH5200 2箇所)	
	⑥	FK t=6 パーライト入 VP	
①	⑦	スノコ板	
②	⑧	7# t=2.0 曲げ加工	

凡例 (改修後)	③	鉄部：下地調整の上 DP(3級)	※特記事項 1. 防球ネット吊りワイヤは既設のままとする。
	④	既設のまま	
	⑤	防球ネット 新設 (W29700xH4800 2箇所)	
	⑥	下地調整の上 EP	
①	⑦	既設のまま	
②	⑧	クリーニング	

符号及び記号		記号・数量	1 AW		2			
建具 OSD オーバースライディングドア SD 鋼製ドア SS 鋼製シャッター SG 鋼製ガラリ SSD ステンレス製ドア AD アルミニウム製ドア AS アルミニウム製シャッター AW アルミニウム製窓 AG アルミニウム製ガラリ P 簡易間仕切 SLW スライディングウォール LSD 鋼製軽量ドア HD ハンガードア WD 木製ドア WW 木製窓 TB トイレブース WP 木製簡易間仕切 ACW アルミカーテンウォール TP トップライト SF 防煙スクリーン		1 AW キャットウォーク部 アリーナ	改修内容：建具廻りシーリング（PU-2）撤去新設、ガラス廻りシーリング（SR-1）撤去新設、既設フィルム撤去の上 飛散防止フィルム張り（内張）新設、建付調整（南面 引違い部 2か所）、サッシ・ガラスクリーニング					
金物 DC ストップ付 ドアチェック H 丁番 M アルミニウム重水切 AP アンクルピース A SUS製網戸 PH ピボッドヒンジ FH フロアヒンジ HC ヒンジクローザー LH レバーハンドル		2 AW 1階 下屋各室	改修内容：建具廻りシーリング（PU-2）撤去新設、ガラス廻りシーリング（SR-1）撤去新設、サッシ・ガラスクリーニング		1	3 AW 1階 放送室	1	
ガラス FL フロート板ガラス F 型板ガラス PW 網入磨き板ガラス PWL 線入磨き板ガラス FW 網入り型板ガラス ST 強化ガラス（フロート） SFT 強化ガラス（型板） SRG 熱線反射ガラス SG スリガラス IG 複層ガラス A 空気層		4 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部	改修内容：ガラス廻りシーリング（SR-1）撤去新設、サッシ・ガラスクリーニング		
凡例 * 撤去建具 ** 改修建具 * 新設建具		改修内容：ガラス廻りシーリング（SR-1）撤去新設、サッシ・ガラスクリーニング	改修内容：建具廻りシーリング（PU-2）撤去新設、サッシクリーニング	改修内容：建具廻りシーリング（PU-2）撤去新設、サッシクリーニング	改修内容：建具廻りシーリング（PU-2）撤去新設、サッシクリーニング			
特記事項 1. 特記なき限り、建具塗装は両面とし、枠共とする。 2. 特記なき限り、クリーニングは両面とする。 3. 特記なき限り、ガラス廻りシーリング撤去新設は両面とする。 4. 既設建具は現地調査を行い、劣化部分を確認すること。		アルミFIX窓付スベリ出し窓 70 アルミアルマイト クリヤラッカー IG (FL5+A6+FL5) 四方AP、PH、カムラッチ、アルミ額縁	アルミ4連ガラリ（防虫網付） 70 アルミアルマイト クリヤラッカー 四方AP、SUS水切、外部三方アルミ t=1.5加工枠	アルミ4連ガラリ（防虫網付） 70 アルミアルマイト クリヤラッカー 四方AP、SUS水切、外部三方アルミ t=1.5加工枠	アルミ4連ガラリ（防虫網付） 70 アルミアルマイト クリヤラッカー 四方AP、SUS水切、外部三方アルミ t=1.5加工枠			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ	3 AW 1階 アリーナ	2 AW 1階 アリーナ上部、ステージ上部			
		1 AW 1階 放送室	1 AW 1階 アリーナ					



コート内訳

記号	優先順位	コート名	寸法	仕様	数量	色
1		ミニバスケットボールコート (サブ) 新規格風規格外	22.0M × 12.0M	実線 ライン幅 50mm	2面	
2		6人制バレーボールコート (サブ)	18.0M × 9.0M	実線 ライン幅 50mm	2面	
3		バドミントンコート	13.4M × 6.1M	実線 ライン幅 40mm	3面	
4		小学生用バレーボールコート (サブ)	16.0M × 8.0M	実線 ライン幅 50mm	2面	
5		6人制バレーボールコート (メイン)	18.0M × 9.0M	実線 ライン幅 50mm	1面	

※1 ライン色・優先順位は学校側と打合せの上決定の事。
 ※2 ライン重ね部分は監督員と協議の上、施工図により承認を受ける事。
 ※3 コート配置は既設コートを調査し決定のこと。

コートライン配置図 S=1/100

株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE

一級建築士 184560号 山田 克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

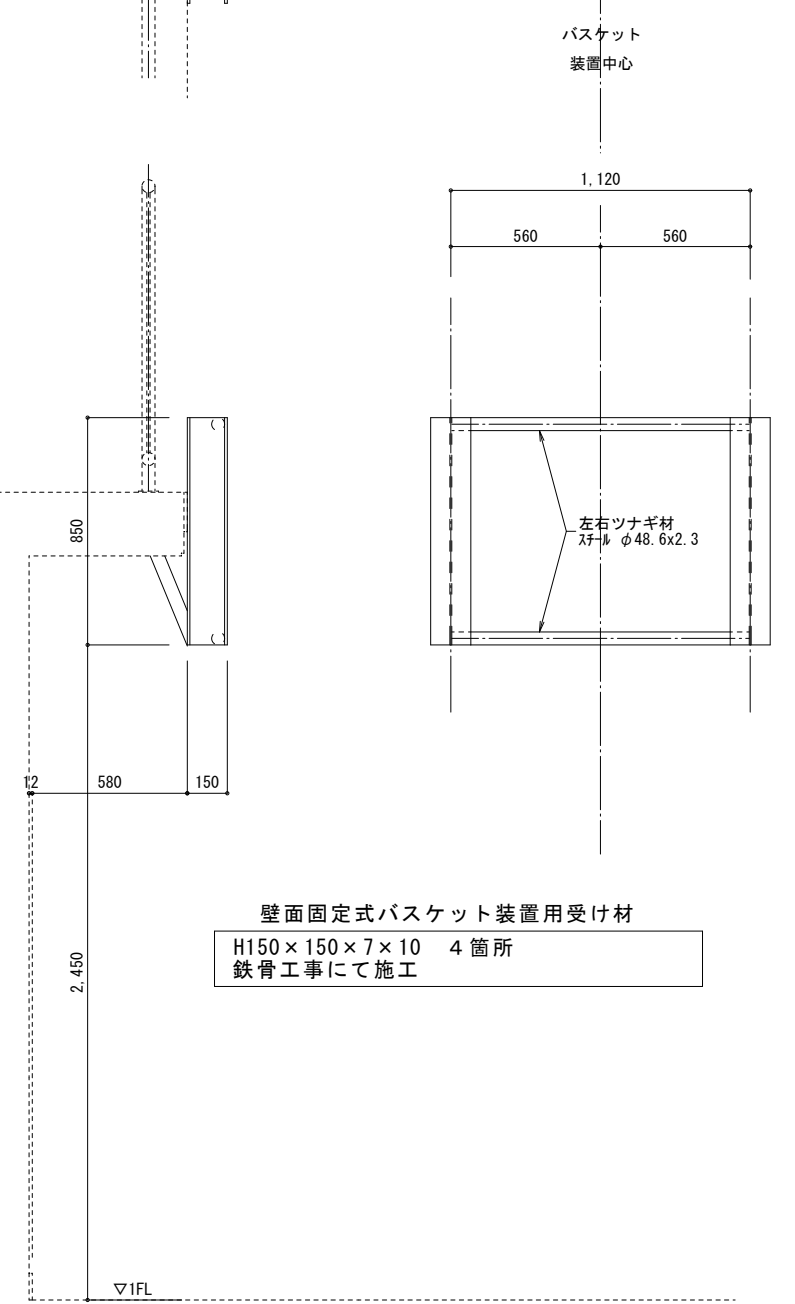
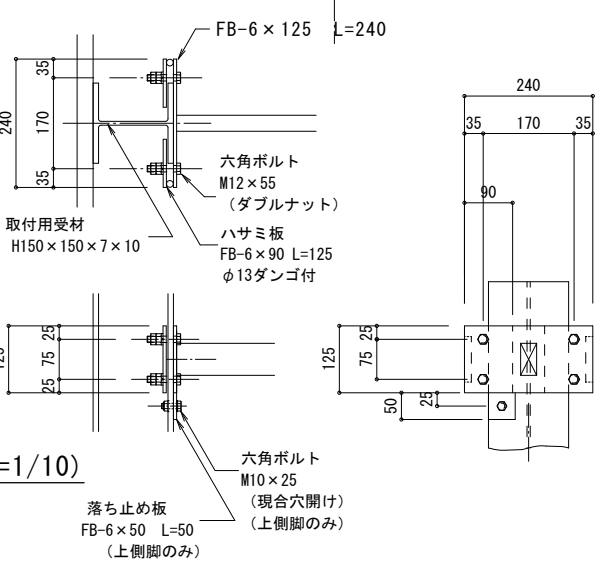
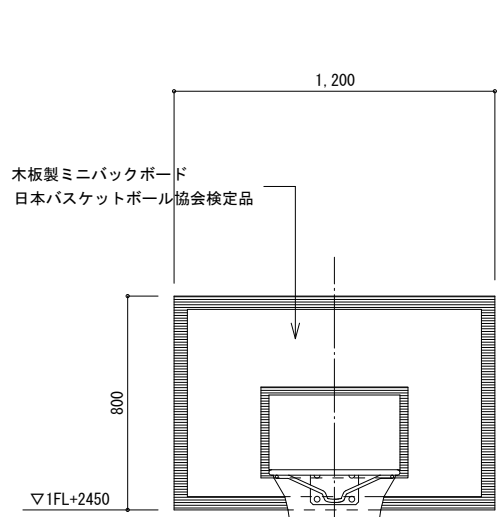
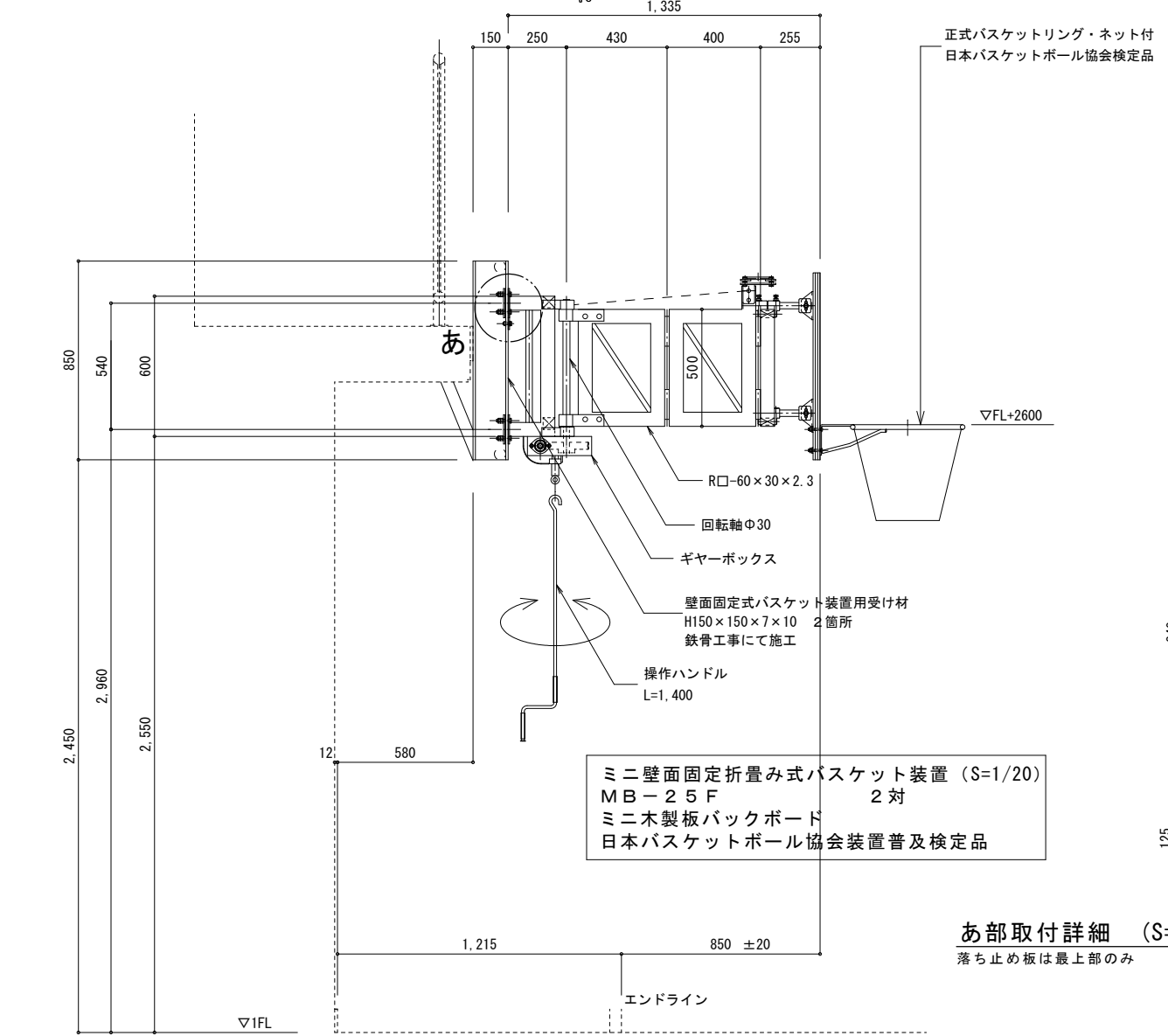
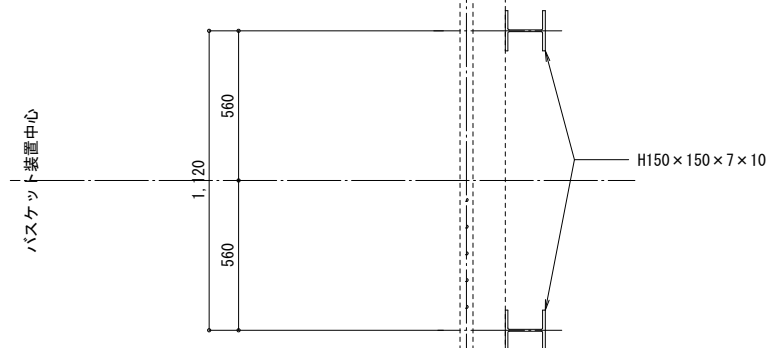
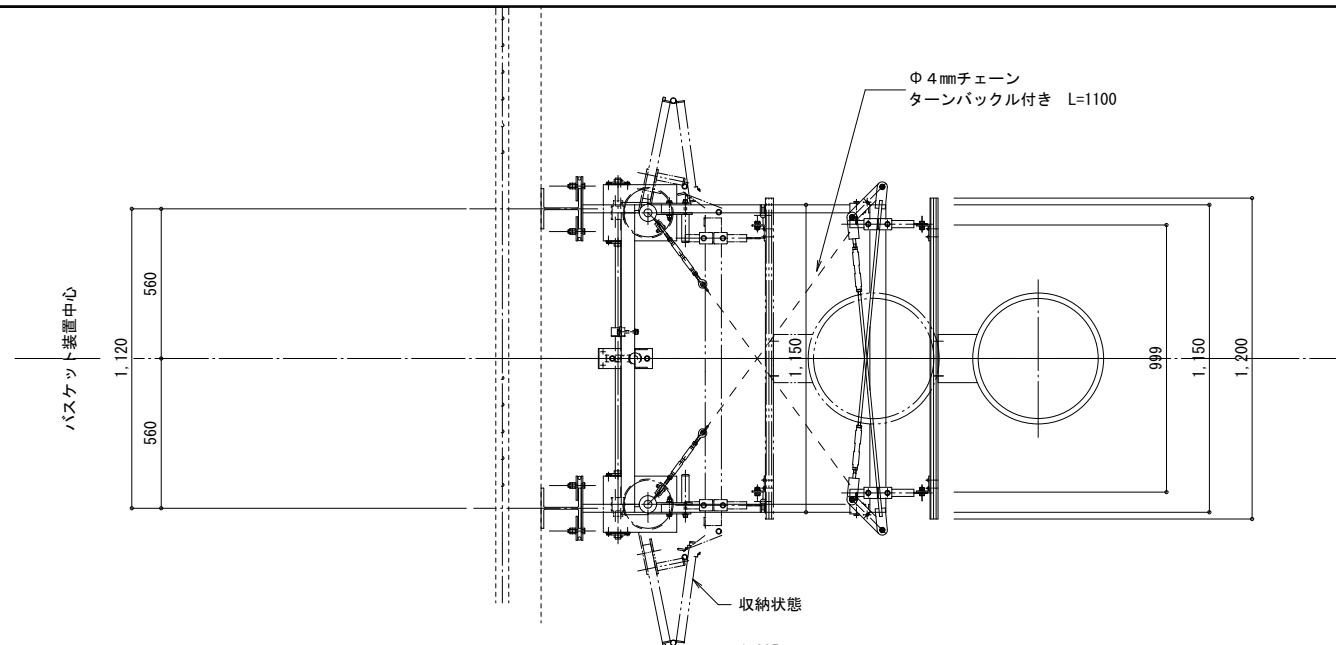
SCALE
1/100
DATE
'16.11

可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事

改修後 コートライン図

SHEET NO.

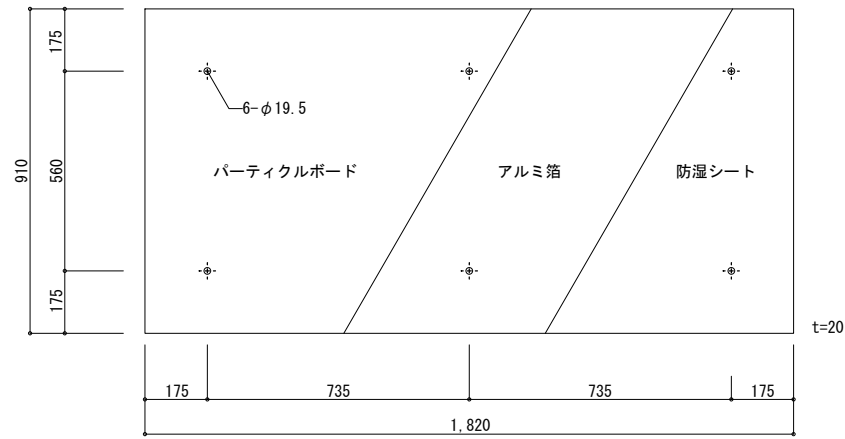
A-37



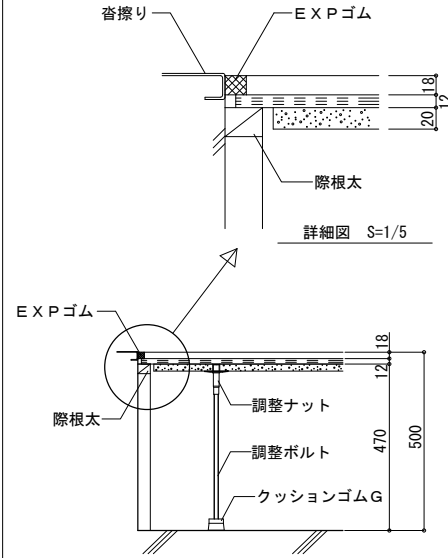
注意：体育器具は照明、音響装置等と重複することが多いため、現地調査を行う事。
 ※バスケット装置取付位置に昇降式照明、電気配管、スピーカー、アンテナなど障害物が無い事。
 ※バスケット装置取付位置にはクリアランスを設ける事。
 ※フレーム可動部分には外れ防止対策を行うこと。

あ部取付詳細 (S=1/10)
 落ち止め板は最上部のみ

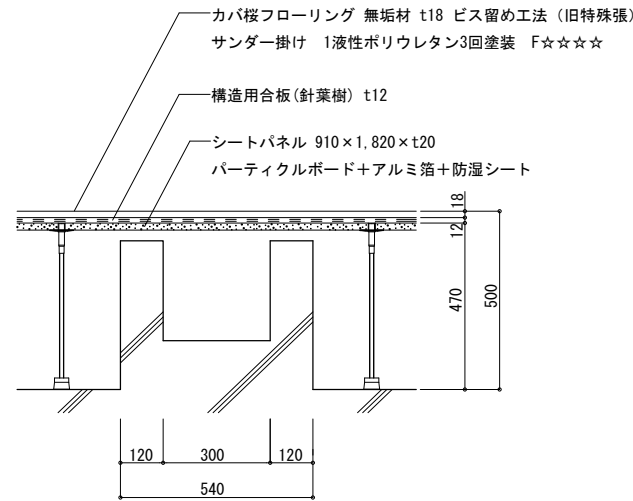
シートパネル詳細図 S=1/15



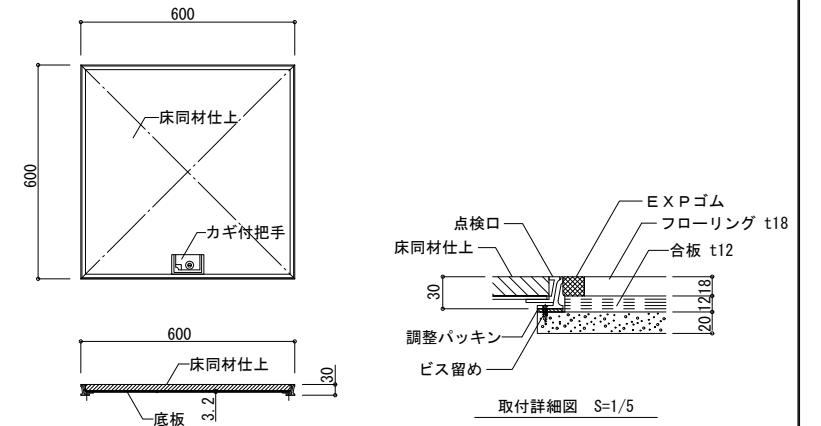
開口部詳細図 S=1/15



体育器具基礎廻り床組詳細図 S=1/15

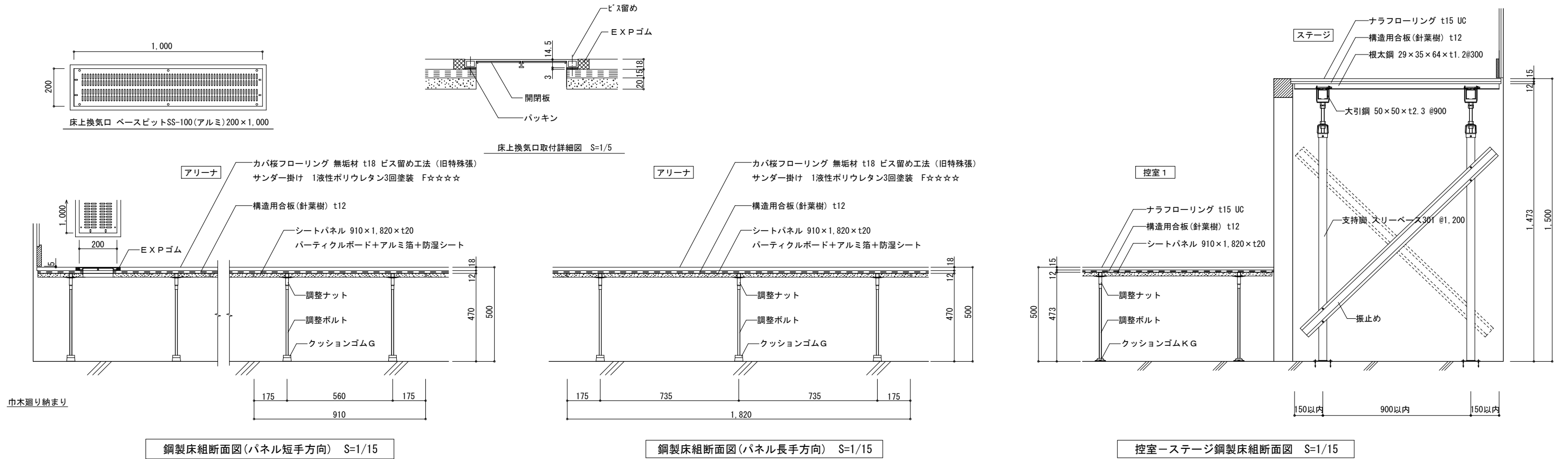


床下点検口 詳細図 S=1/15



品名	規格	材質・仕上
床下点検口	600 × 600	枠部：アルミ合金（アルミ色）
スリーハッチ・F600		底部：表面処理合板 t=3.2

鋼製床組断面詳細図 S=1/15



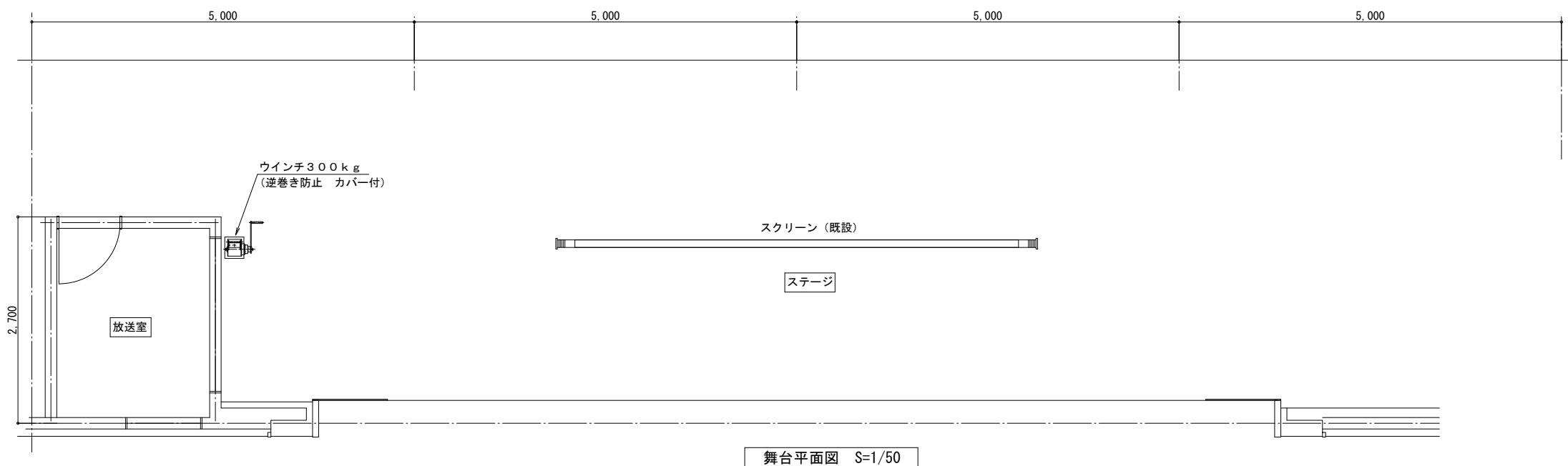
鋼製床組断面図(パネル短手方向) S=1/15

鋼製床組断面図(パネル長手方向) S=1/15

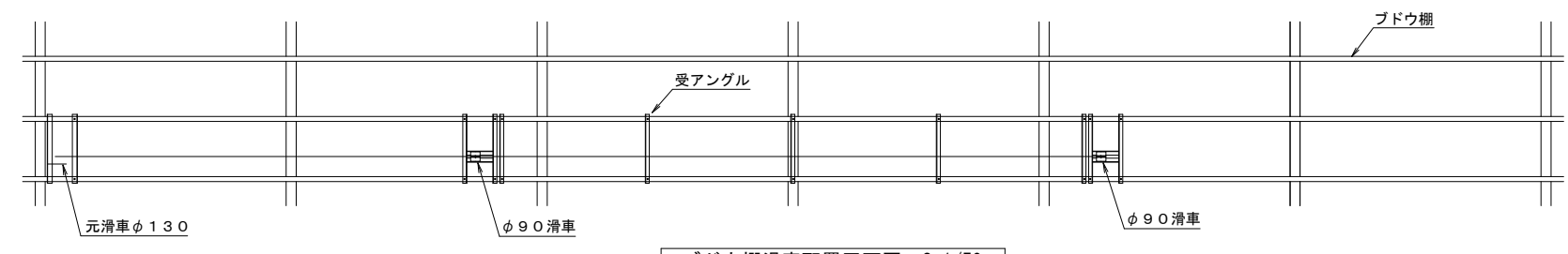
控室-ステージ鋼製床組断面図 S=1/15

CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	1/5, 1/10, 1/15
DATE	'16.11



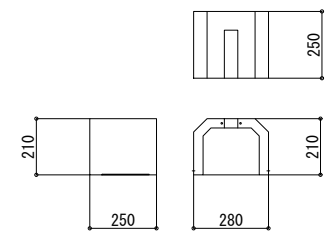
舞台平面図 S=1/50



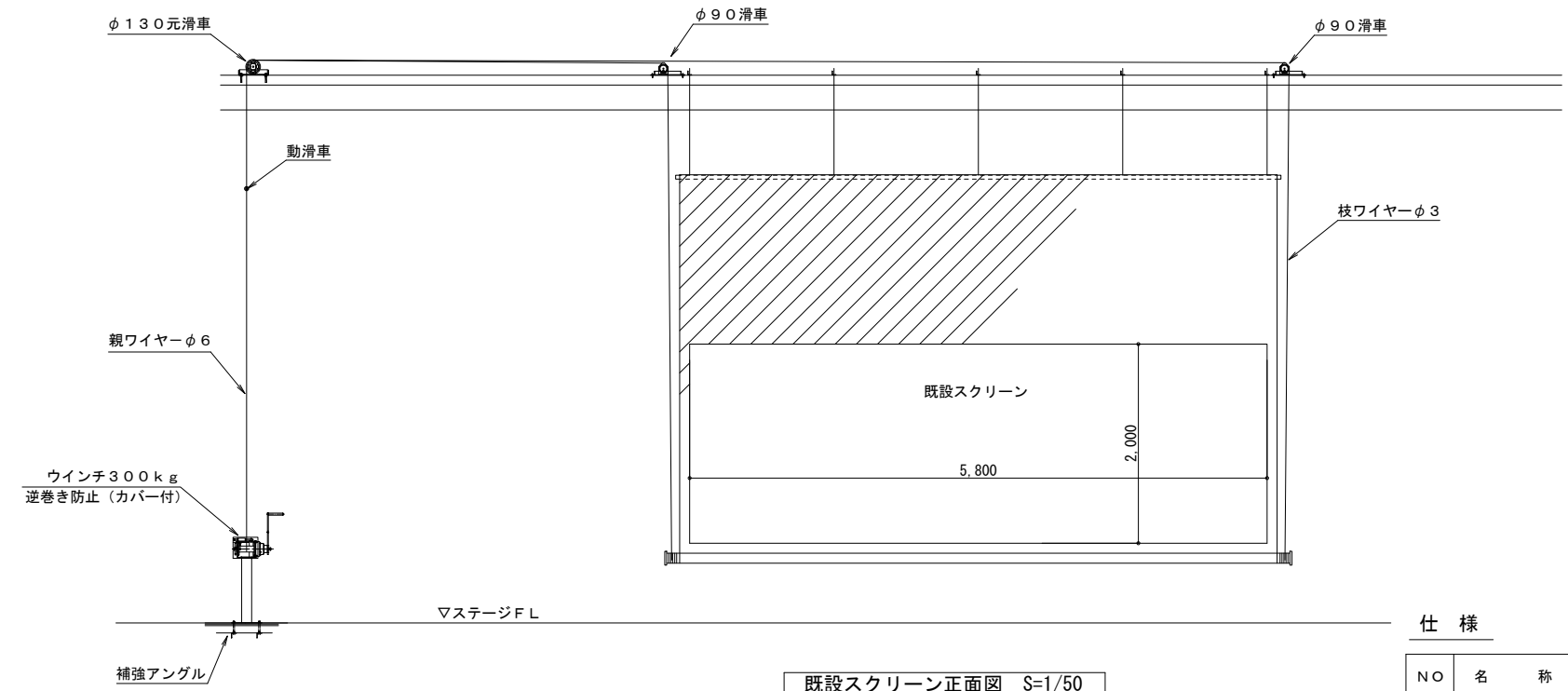
ブドウ棚滑車配置平面図 S=1/50

フジウインチ 300KG 同等品

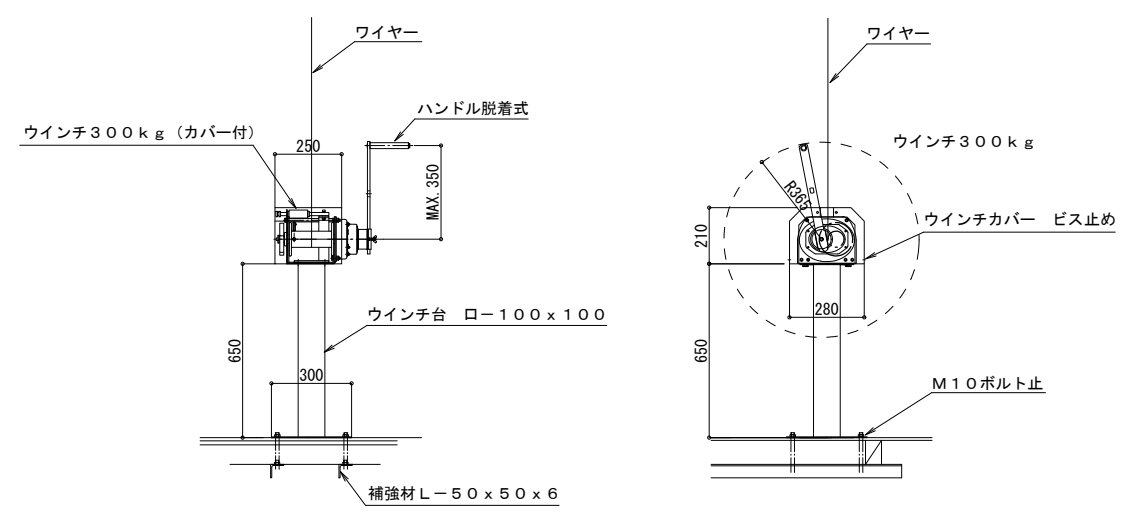
型式	PSW-300
定格荷重 (ドラム1層目)	300 kg
手動力	110 N
ハンドル1回転の巻取り長さ	72.5 mm
使用ワイヤロープ径	φ6 mm
ロープ巻取長さ	30.0 m
製品質量	12.0 kg
減速比	1:2.88
塗装色	日塗工 M14-043



ウインチカバー詳細図 S=1/20



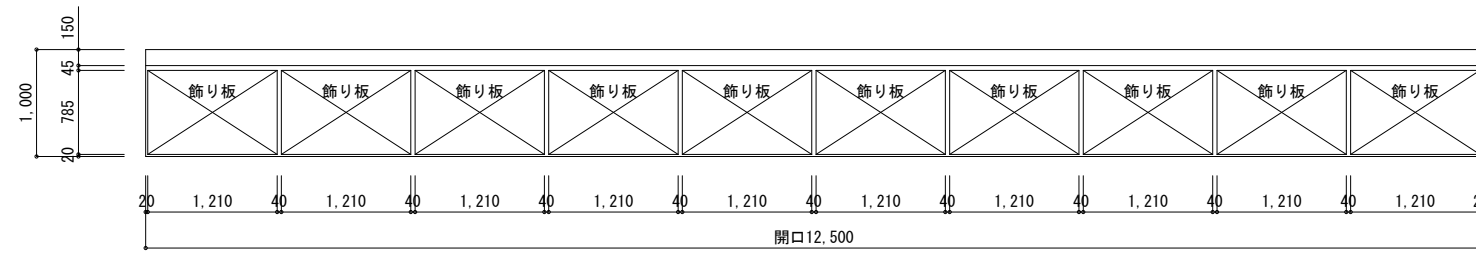
既設スクリーン正面図 S=1/50



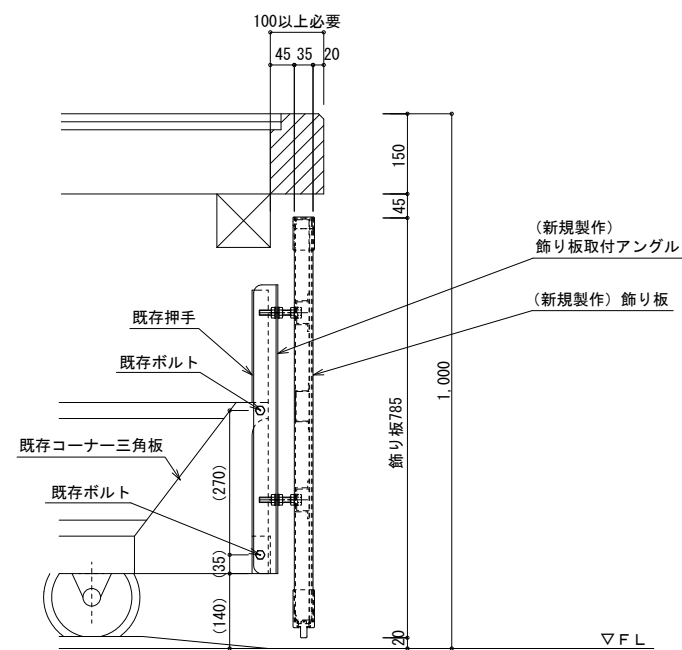
ウインチ300kg (カバー付) 取付詳細図 S=1/20
(逆巻防止加工)

仕様

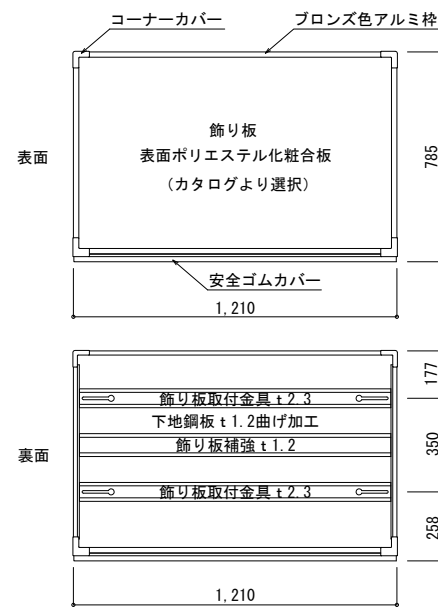
NO	名称	型式	寸法	数	装置仕様
1	スクリーン	手動昇降	イメージW H 5800 x 2000	1	φ90枝滑車2ヶ φ130元滑車 ウインチ300kg 逆巻防止 (カバー付) ワイヤ交換 スクリーンは既設



ステージ正面図 S=1/50



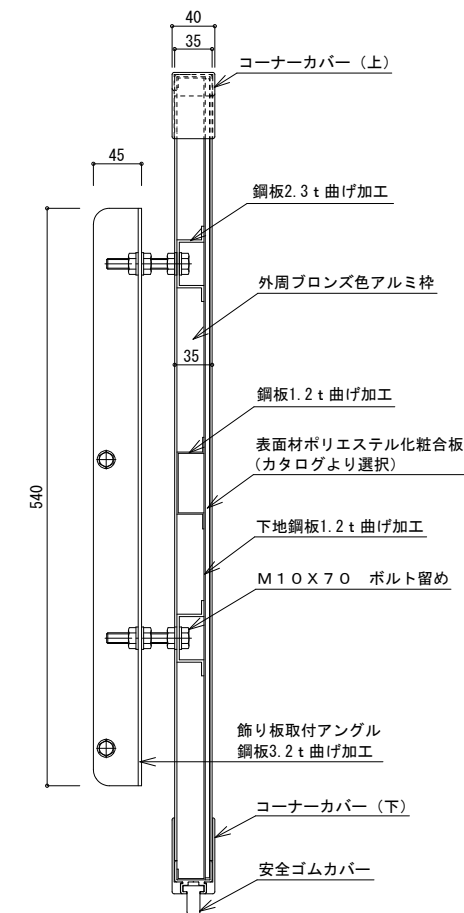
框下詳細図 S=1/10



仕様

- 飾り板 10ピット10枚 (表面材はカタログより選択)
寸法 W1210×H785
- 飾り板取付アングル 10ピット20本 (L/R各10本)

飾り板詳細図 S=1/20



飾り板断面図 S=1/5

ND-1 面台詳細図 S=1/5, 1/20

部屋名	L	D	箇所
男子便所	850	120	1
	920	120	1
	970	120	1
	1,500	200	1
女子便所	2,840	200	1
	850	120	1
	1,500	200	1
	1,110	290	3

※特記なき限り、DPは3級とする。

断面図 S=1/20

部分詳細図 S=1/5

ND-2 開口塞ぎ詳細図 S=1/10

側面図

断面図

ND-3 バスケットゴール廻り詳細図 S=1/20

4箇所 改修前

改修後

4箇所

※既設鉄部は全て下地調整の上 DP(3級)とする。

ND-4 改修前 キャットウォーク部分詳細図 S=1/20

平面詳細図 S=1/20

A-A' 断面詳細図 S=1/20

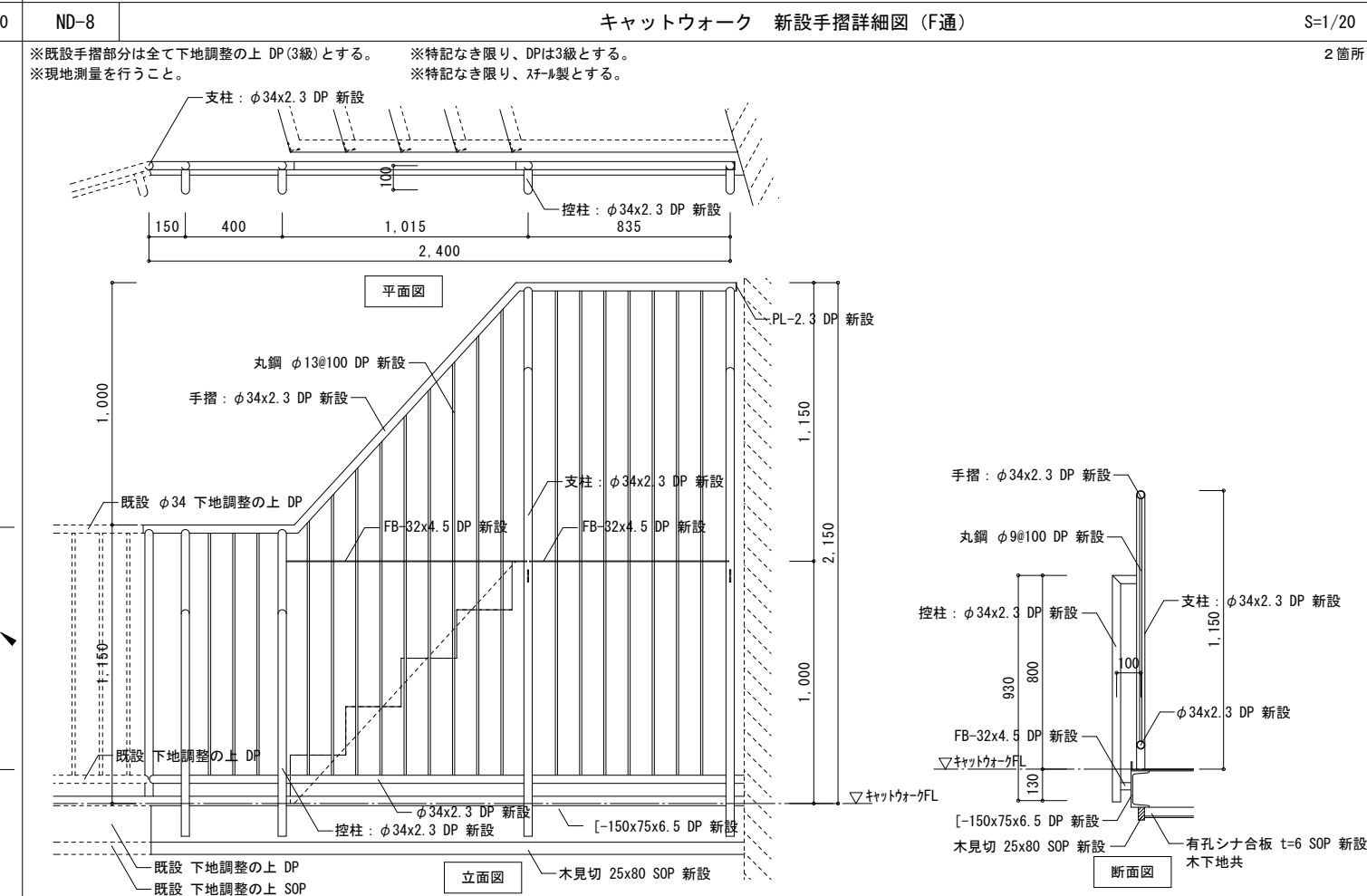
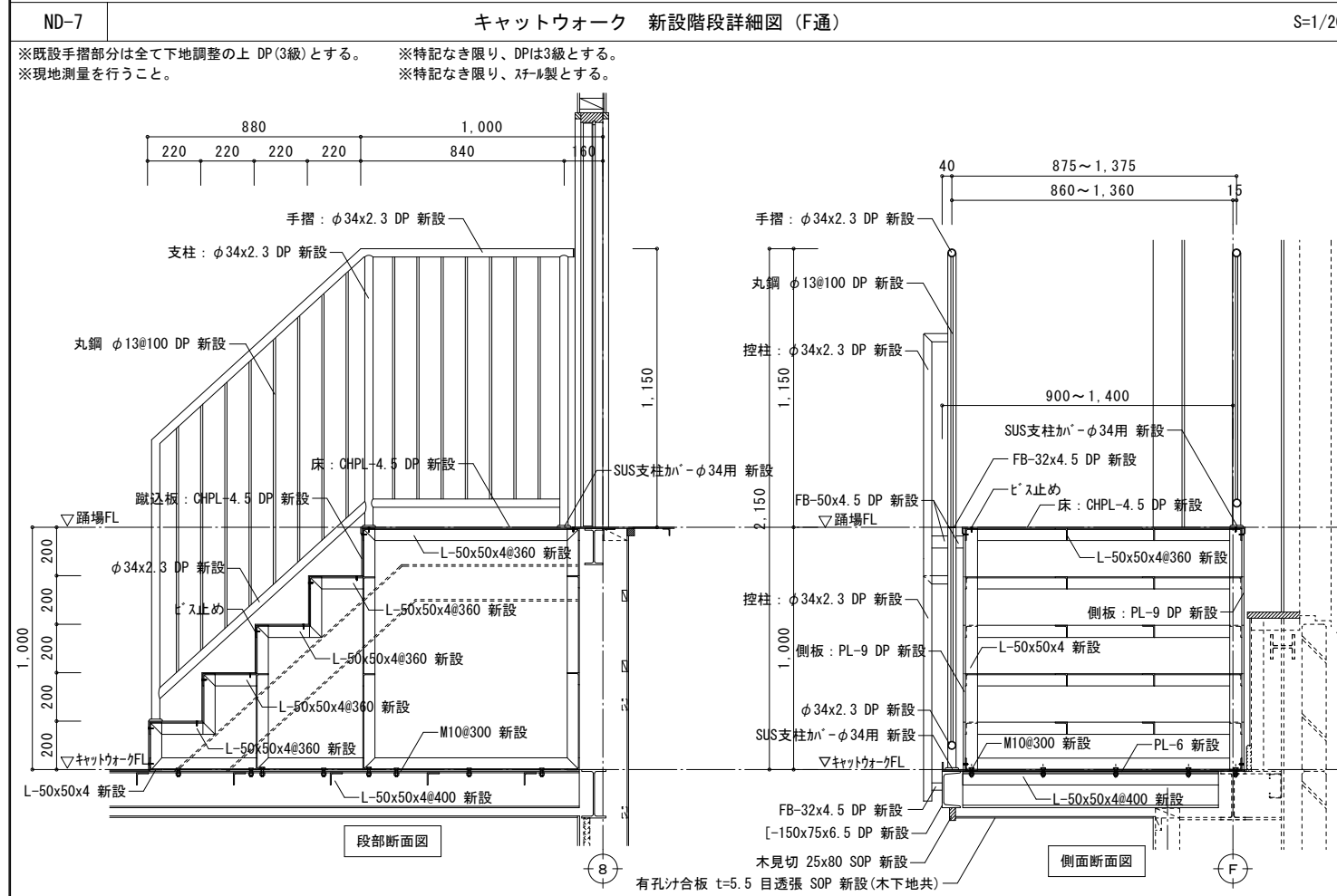
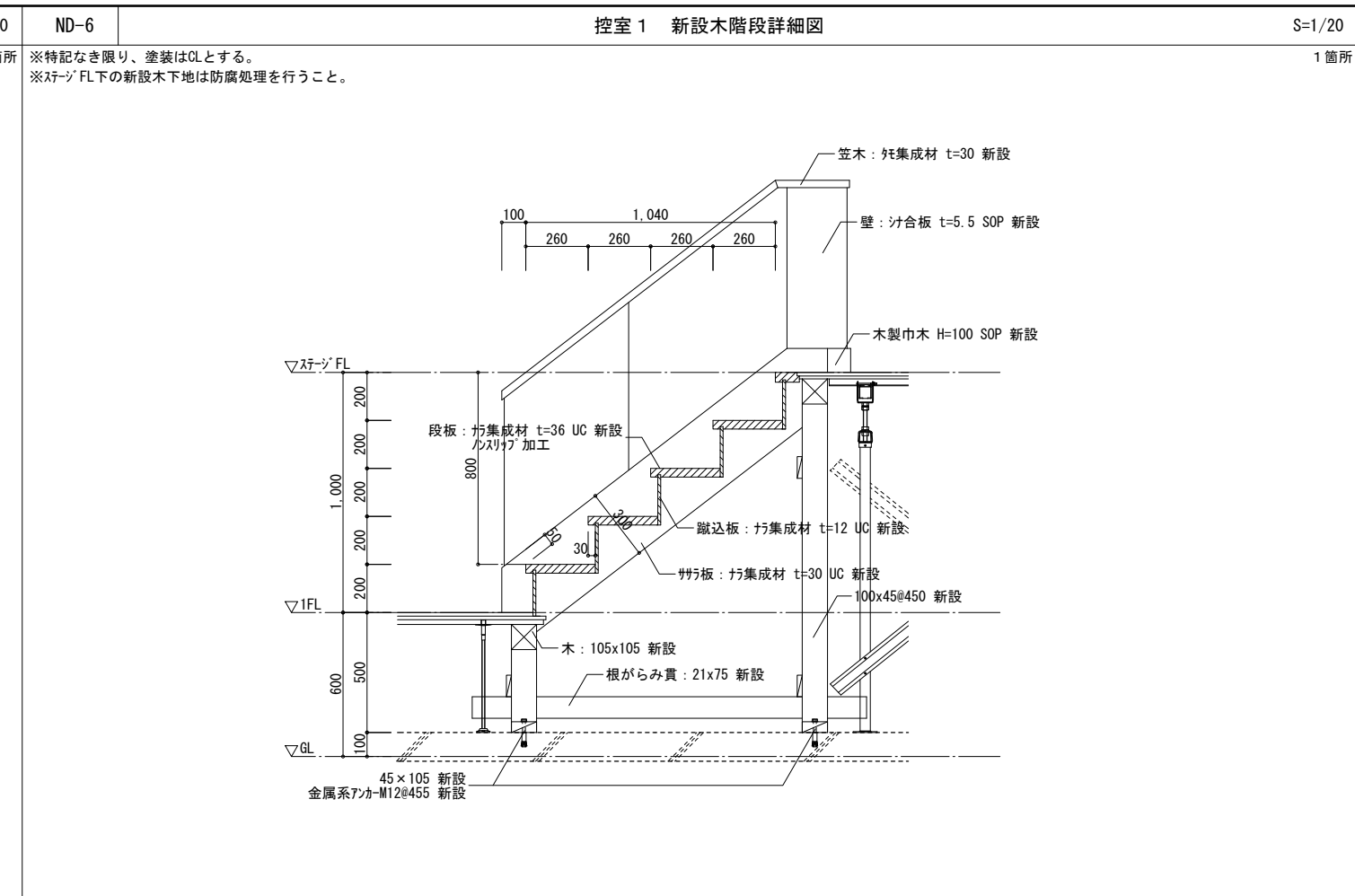
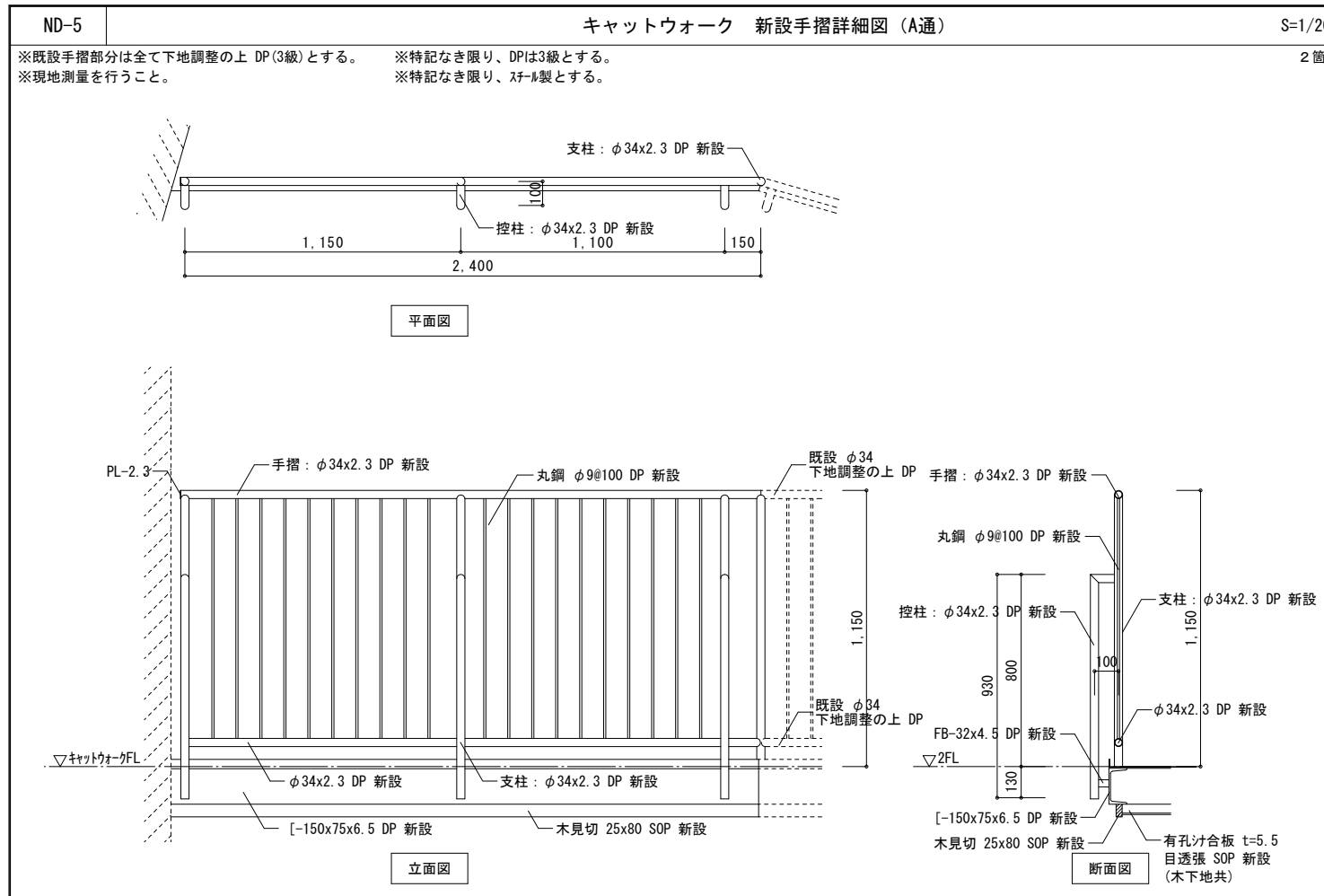
B-B' 断面詳細図 S=1/20

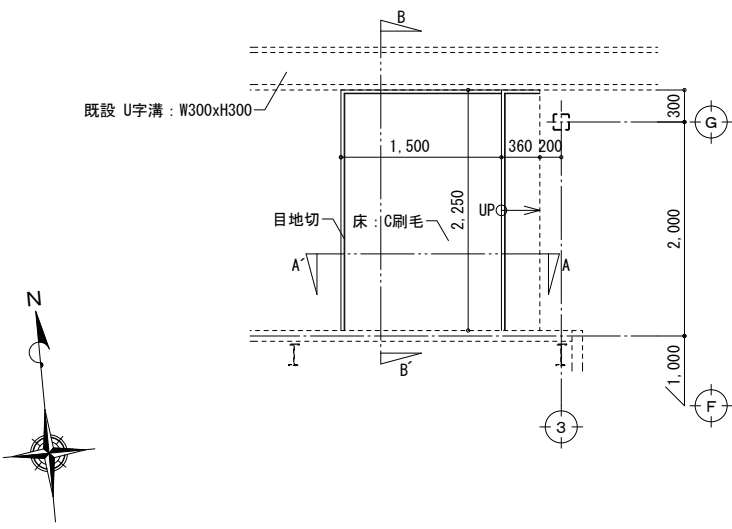
ND-4 改修後 キャットウォーク部分詳細図 S=1/20

平面詳細図 S=1/20

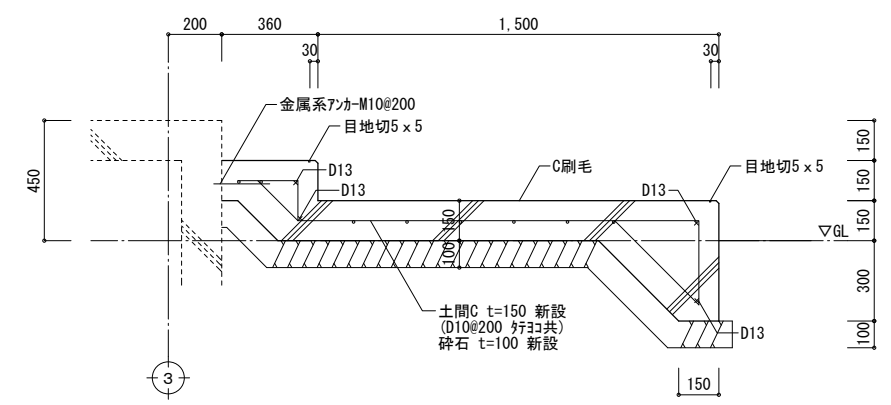
A-A' 断面詳細図 S=1/20

B-B' 断面詳細図 S=1/20

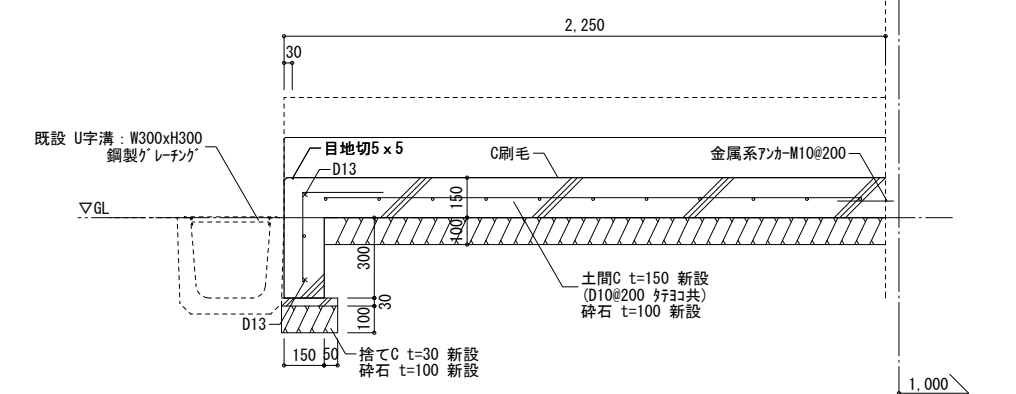




平面詳細図 S=1/50



A-A' 断面

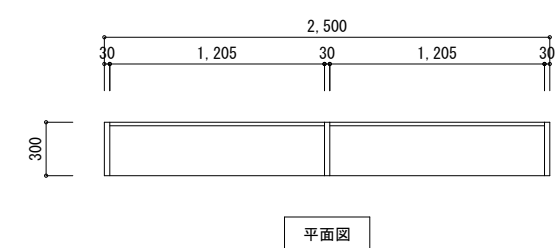


B-B' 断面

断面詳細図 S=1/20

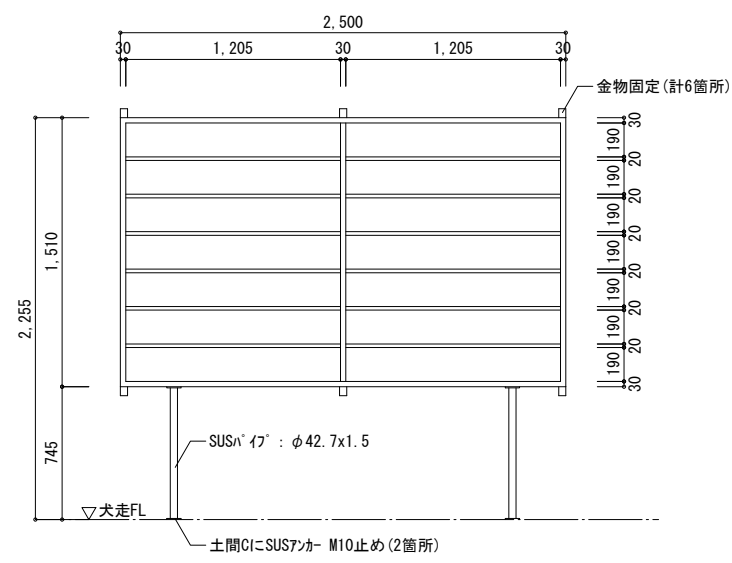
※形状は監督員と協議の上、施工図により承認を受ける事。

2箇所

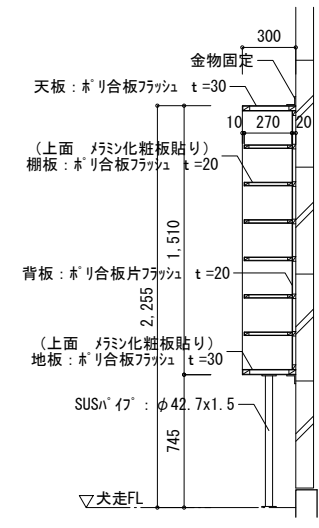


平面図

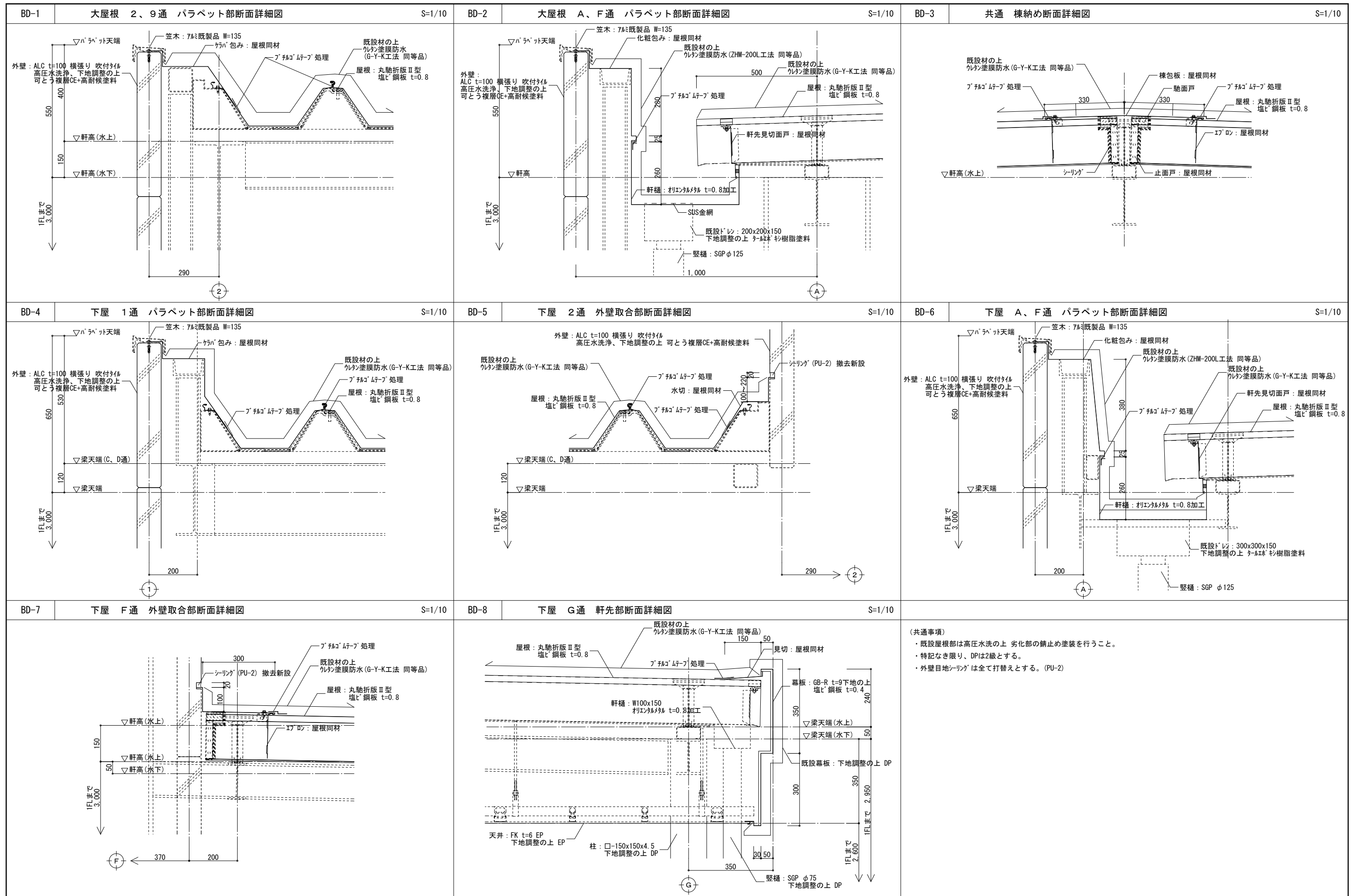
- 本体 : ポリ合板フラッシュ t=30
- 棚板 : 上面メラミン化粧板フラッシュ t=20
- 背板 : ポリ合板フラッシュ t=20



立面図



断面図



構造特記仕様書

適用は●印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改修工事
建築場所 岐阜県可児市今渡1680番地 地内
- (2) 工事種別 ○新築 ○増築 ○増改築 ○改築 ●改修
- (3) 構造種別
○木造(W) ○補強コンクリートブロック造(CB) ●鉄骨造(S)
○鉄筋コンクリート造(RC) ○壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
○鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) ○壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
○プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)
- (4) 階数
地下 階 地上 2 階 塔屋 階
- (5) 主要用途 屋内運動場
- (6) 屋上付属物
○消火用水槽 kN ○キュービクル kN ○発電機 kN ○煙突
- (7) 特別な荷重
○エレベータ 人乗 ○クーリングタワー kN ○ボイラー kN
○ヒートポンプ kN ○受水槽 kN
- (8) 付帯工事
○門扉 ○擁壁 ○鉄骨工事
- (9) 増築計画 ○有() ○無
- (10) 構造計算ルート X方向ルート -() Y方向ルート -()

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	スラブ cm	備考
捨コンクリート	普通	18	18	
土間コンクリート	普通	18	18	外部階段
躯体コンクリート	普通	21	18	鉄骨階段基礎、スラブ
混和剤				

(2) コンクリートブロック(CB)
○A種 ○B種 ○C種 厚○100 ○120 ○150 ○190

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法	
異形鉄筋	●SD295A	D16以下	スラブ・基礎・梁・柱	●重ね継手 D16以下
	○SD345	D19~D25	梁・柱主筋	
	○SD390	D29以上	梁・柱主筋	○ガス圧接継手 D19以上
	○KSS785	S13	せん断補強筋	○特殊継手 ()
高強度せん断補強筋	○SBPD1275/1420			
丸鋼	○SR235			
溶接金網(JIS G 3551)	●SR235			

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
●SS400 ○SM490 ○SN400A.B.C	小梁・大梁	●有 ○無	
○SS400 ○SM400 ○SN400B	内ダイアフラム	○有 ○無	
○SM490A	通ダイアフラム	○有 ○無	
○BCR295	柱	○有 ○無	
●STKR400	貫柱	●有 ○無	
●SSC400	母柱	●有 ○無	

*使用箇所の詳細については別途図示とする。

- (5) ボルト
●高力ボルト●普通:F10T ○特殊:S10T (MBLT-0052同等品)
○中ボルト 高力ボルトすべり係数試験○要 ●否
M=10 M= 高力ボルト導入張力確認試験○要 ●否
- アンカーボルト
特記による。
- 頭付スタッドボルト 使用箇所(○柱 ○大梁)○小梁
- (6) 屋根、床、壁
○屋根: ○床:
○壁:

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
○有(○敷地内○近隣) ○ボリング調査 ○標準貫入試験 ○土質試験
●無(調査予定 ○有 ●無) ○
- (2) 地盤調査計画
○ボリング調査 ○静的貫入試験 ○標準貫入試験 ○水平地盤反力係数の測定
○土質試験 ○物理探査 ○平板載荷試験 ○試験掘(支持層の確認)
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。
- (4) ボリング標準貫入値、土質構成は別図に依る。

4. 地業工事

- (1) 直接基礎
○ベタ基礎 ○布基礎 ●独立基礎 試験掘 ○有 ●無
深さ 支持層-砂礫
長期許容支持力度 (長期) 300kN/m² 載荷試験 ○有 ●無
(短期) 600kN/m²
- (2) 杭基礎 支持層- 杭仕様: リストによる

杭種	材料	施工法	備考
○OPRC杭 ○JP-NPH杭 ○SC杭	(○I種) (○A,B,I種) (○II種)	○打ち込み ○埋込み	
○場所打ち コンクリート杭	コンクリートF _c N/mm ² スラブ セメント量 kN/m ² 鉄筋主筋 SD HOOP SD	○オルケシング ○払底杭 ○リバスサーキュレーション ○アースドリル ○ミニアース ○BH ○深礎 ○手堀 ○機械掘	払底杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日

杭仕様 ○施工計画書承認 ○杭施工結果報告書
試験杭 (○ ○無) (○打ち込み ○載荷) 1本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

- (3) 地盤改良
○工法:

5. 鉄筋コンクリート

- (1) コンクリート
●コンクリートはJIS認定工場の製品とし、調査・施工及び養生に関してはJASS5(2009)及びJIS A5308による。
●耐久設計基準強度 F_d ●短期 ○標準 ○長期 ○超長期
●セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
●骨材は、川砂利(砂)及び山砂利(砕石、砕砂)を標準とする。
●練混ぜ水は、上水道水を標準とする。
●混和剤は、AE減水剤、ならびに高性能AE減水剤はJIS A6204に、流動化剤はJASS 5T-402に、防せい剤はJIS A6205に適合するものとする。
●混和材は、フライアッシュ、膨張材及び高炉スラグ微粉末は、それぞれJIS A6201、JIS A6202及びJIS A6206に適合するものとする。
●調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
●寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
●フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一材料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

- 構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150mを超える場合は、150m²ごまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
●ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート送達技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25°C未満の場合は150分、25°C以上の場合は120分以内とする。
(2) 鉄筋
●鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5(2009)による。
○高強度せん断補強筋は、JIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。
●鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)~(5)」による。
●D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋ガス圧接工事標準仕様書」による。
○ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときには、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は3本以上とする。
外観検査 ○有 ○無、引張試験 ○有 ○無、超音波試験 ○有 ○無
○柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、○H型(タグ型) ○W型(溶接型) ○S型(スパイラル型)とする。
●コンクリート及び鉄筋の試験は、JASS5(2009)により、外部の第三者機関を原則とするが支障のない限りにおいては、製造者または施工者の機関より選定してもよい。
試験機関名 (知事登録第 号)
代行業者名
代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。
(3) 型枠
●材料 合板厚 12%を標準とする。 ●施工はJASS5による。
●型枠存置期間

種類 部位	せき板				支柱			
	基礎・はり側、柱・壁	スラブ下・はり下	スラブ下		はり下	はり下		
セメントの種類 存置期間の気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	
	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	
	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	
	コンクリート	15°C以上	2	3	4	6	8	17
クラブリフト	5°C~15°C	3	5	6	10	12	25	28
ト	5°C未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm ²	設計基準強度の50%		85%		100%		

- 注)1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注)2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注)3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注)4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注)5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえしてはならない。
注)6 上表以外のセメントを使用する場合は、工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
●日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
○鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
●製作工場 ●製作要領書 ○工作図 ●施工計画書
●認定または登録工場(Rグレード以上)
●材料規格証明書または試験成績書
●鋼材 ●高力ボルト ○特殊ボルト ○頭付スタッドボルト
○社内検査表 ○
(3) 工事監理者が行う検査項目
(○印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
○現寸検査 ●組立・開先検査 ●製品検査
●建方検査 ○

- (4) 接合部の溶接は下記によること
●日本建築学会「溶接工作基準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
●日本建築学会「鉄骨工事技術指針、工事現場施工編」
- (5) 接合部の検査
●溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
●完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100%	100%	30%	
●部分溶込み溶接部	外観(目視)検査	100%	100%	30%	
○	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名	(知事登録第 号)				
第三者検査機関名とは、建築主、工事監理者または工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

- 注1) 現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査を行う事。
注2) 現場溶接は、超音波探傷試験を100%行う事。
●高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
●高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は、部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。
(6) 防錆塗装
●防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、JIS K5621、2回塗りを標準とする。
●現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
○設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
○床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
●建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
○屋上から突出する水櫃、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
●建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
●風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
●建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
●管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生じるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
●管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
○法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水櫃、煙突その他これらに類するものについては建設告示第1388号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。
○給湯設備は支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれがないものとするほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して、安全上支障のない構造とすること。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
●各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い、工事監理者に報告すること。
●必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
●梁貫通孔補強はS・RC造共に既製品による補強とすること。

1. 共通事項

A. 適用範囲

設計図に記載がない場合、本配筋基準図を適用する。

B. 凡例

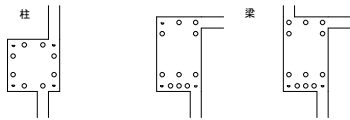
- (1) d ---- 異形鉄筋の径（呼び名に用いた数値）。
- (2) ho ---- 柱の内のり高さ。
- (3) lo ---- 有効スパン。
- (4) L ---- 継手 定着長さ及び帯筋の溶接長さ。
- (5) ---- 継手及び余長。

C. 鉄筋の種類はJISによる。

2. 鉄筋の末端部及び中間部の加工

異形鉄筋の末端部には次の場合フックをつける。

- (1) 柱の隅隅にある主筋（下図の印）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。
- (2) 梁の主筋の重ね継手が、梁の梁隅及び下端の隅隅（下図の印）にある場合。ただし、基礎梁を除く。



- (3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
- (4) 杭基礎のベース筋。
- (5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)		
		SD295A, SD295B, SD345	SD390	SD390
180°		D16以下	D19~D38	D19~D38
135°		3d以上	4d以上	5d以上
90°				
135° 及び 90°				

- 注) 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

3. 鉄筋の継手及び定着

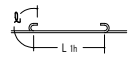
A. 鉄筋の重ね継手

鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 $F_c(N/mm^2)$	鉄筋の重ね継手の長さ	
		L_1 (フックなし)	L_{1h} (フックあり)
SD295A	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24 27	35d	25d
SD295B	30 33 36	35d	25d
	18	50d	35d
	21	45d	30d
SD345	24 27	40d	30d
	30 33 36	35d	25d
	21	50d	35d
SD390	24 27	45d	35d
	30 33 36	40d	30d

- 注) 1) L_1, L_{1h} : 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
- 2) フックありの場合の L_{1h} は、右図に示すようにフック部分 $\frac{1}{2}$ を含まない。
- 3) 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



B. 隣合う継手の位置

隣合う継手の位置は下表による。但し、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。

隣合う継手の位置	
フックありの場合	
フックなしの場合	
圧接継手	
機械式継手	

C. 鉄筋の定着

(1) 鉄筋の定着の長さは下表による。

表1. 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 $F_c(N/mm^2)$	フックなし						フックあり					
		L1		L2		L3		L1h		L2h		L3h	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295A	18	45d	40d				35d	30d					
	21	40d	35d				30d	25d					
	24 27	35d	30d				25d	20d					
SD295B	30 33 36	35d	30d				25d	20d					
	18	50d	40d				35d	30d					
	21	45d	35d				30d	25d					
SD345	24 27	40d	35d				30d	25d					
	30 33 36	35d	30d				25d	20d					
	21	50d	40d				35d	30d					
SD390	24 27	45d	40d				35d	30d					
	30 33 36	40d	35d				30d	25d					

- 注) 1) L_1, L_{1h} : (2) 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
- 2) L_2, L_{2h} : 割壊破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
- 3) L_3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
- 4) L_{3h} : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
- 5) フックありの場合は (2) に示すようにフック部分 $\frac{1}{2}$ を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
- 6) 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(2) 定着の方法は下図による。

なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さ L_a が、表1のフックあり定着長さを確保できない場合は、全長を表1に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表2に示す長さ（主筋の柱内定着においては、原則として、柱径の3/4倍以上）をのみ込ませる。

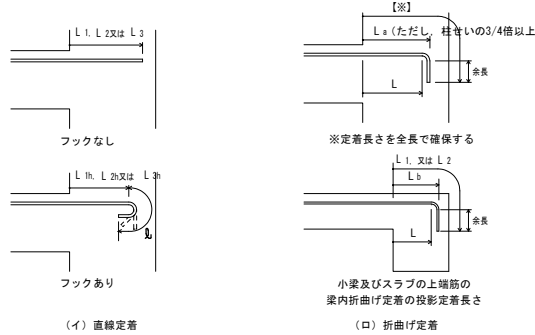
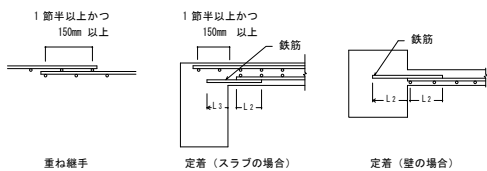


表2. 投影定着長さ

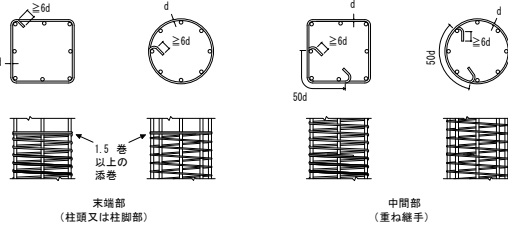
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 $F_c(N/mm^2)$	L_a	L_b
SD295A	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24 27	15d	15d
SD295B	30 33 36	15d	15d
	18	20d	20d
	21	20d	20d
SD345	24 27	20d	15d
	30 33 36	15d	15d
	21	20d	20d
SD390	24 27	20d	20d
	30 33 36	20d	15d

- 注) 1) L_a : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
- 2) L_b : 割壊破壊のおそれのない箇所への定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
- 3) 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

D. 溶接金網の継手及び定着



E. スパイラル筋の継手及び定着



4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

A. 鉄筋のかぶり厚さ

- (1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。
- (2) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- (3) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

鉄筋の最小かぶり厚さ (単位: mm)

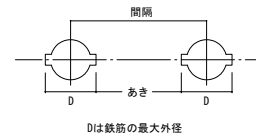
構造部分の種類	最小かぶり厚さ	
	スラブ	柱、梁
土に接しない部分	耐力壁以外の壁	仕上げあり 20 仕上げなし 30
	柱、梁、耐力壁	屋内 仕上げあり 30 仕上げなし 30
		屋外 仕上げあり 30 仕上げなし 40
	擁壁、耐圧スラブ	40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	* 40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	* 60
煙突等高温を受ける部分	60	

- 注) 1) *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、10mm加えた値とする。
- 2) 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
- 3) スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含めない。
- 4) 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。

B. 鉄筋の相互のあき

鉄筋相互のあきは、次の値のうち最大のもの以上とする。但し、特殊な鉄筋継手の場合は、特記による。

- (1) 細骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 25mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名に用いた数値 d）の1.5倍
- (4) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合は、主筋と平行する鉄骨とのあきは、上記 (1) ~ (3) による。

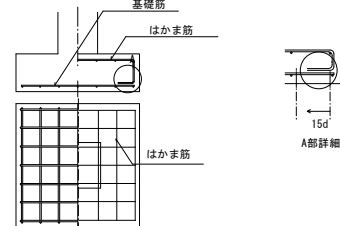


Dは鉄筋の最大外径

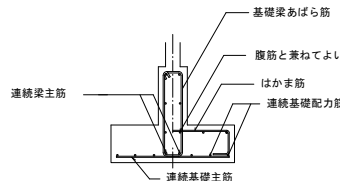
5. 基礎

A. 基礎の配筋

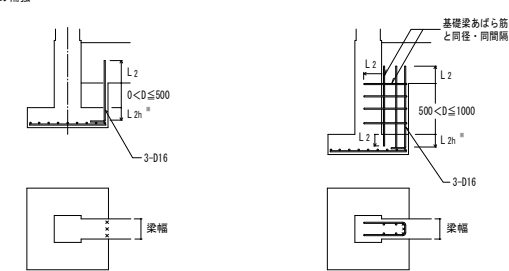
直接基礎 (独立基礎)



直接基礎 (連続基礎)



B. 基礎接合部の補強

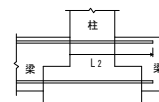


* L_{2h} を確保できない場合は、3.0.(2) によることができる。

6. 基礎梁

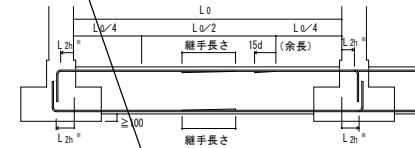
A. 基礎梁筋の継手及び定着

- (1) 一般事項
- 1) 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。但し、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
- II) 梁筋を柱内に定着する場合は、「8. 大梁」の項による。

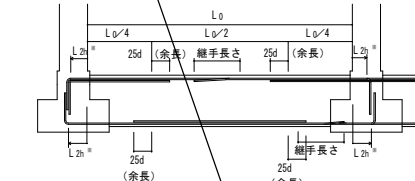


(2) 主筋の継手及び定着位置

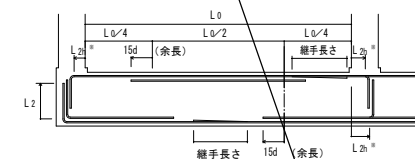
(A) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



(B) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合



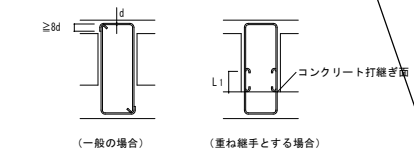
(C) 連続基礎及びべた基礎の場合



- 注) 1) 破線は、柱内定着の場合を示す。
- * L_{2h} を確保できない場合は、3.0.(2) によることができる。

B. あばら筋

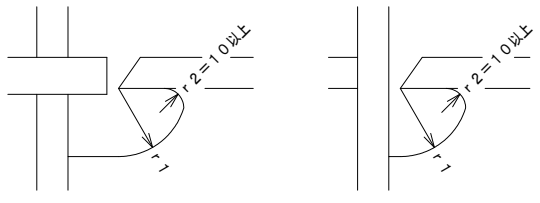
- (1) あばら筋組立の際及びフックの位置は、「8. 大梁」の項による。但し、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1.5m以上の場合は下図によることができる。


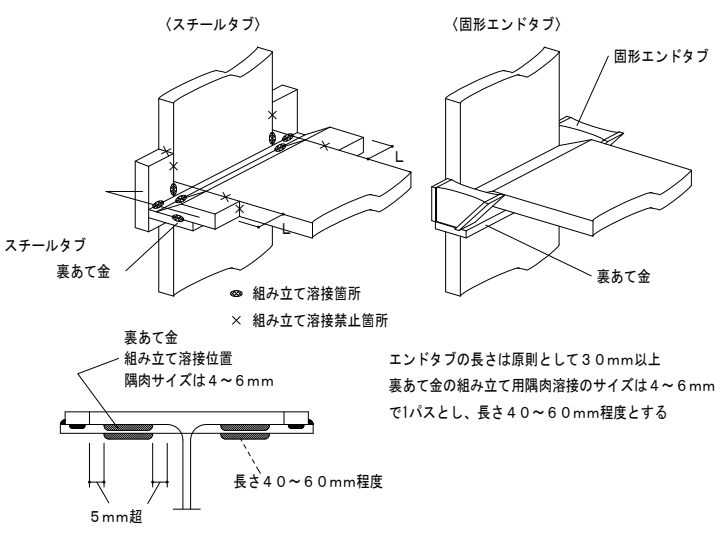


(一般の場合) (重ね継手とする場合)

- (2) あばら筋の割付、腹筋及び幅止め筋は「8. 大梁」の項による。

鉄骨構造基準図 (1)

一般事項 (適用事項は○印で示す)
<p>1. 技術関連図書 (最新版)</p> <p>① 日本建築学会 建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事</p> <p>② 日本建築学会 鉄骨工事技術指針 工場製作編</p> <p>③ 日本建築学会 鉄骨精度測定指針</p> <p>④ 日本建築学会 高力ボルト接合設計施工ガイドブック</p> <p>⑤ 日本建築学会 鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説</p> <p>⑥ 日本建築学会 鋼構造設計規程</p> <p>⑦ 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書</p> <p>⑧ 建設省住宅局建築指導課 SCSS-H97 鉄骨構造標準接合部 H形鋼編</p>
<p>1. 工作図 (適用事項は■印で示す)</p> <p>1. 工作図は以下のものを作成する</p> <p><input type="checkbox"/> アンカープラン <input type="checkbox"/> 伏せ図 <input type="checkbox"/> 軸組図 <input type="checkbox"/> 継手基準図</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 詳細図 <input type="checkbox"/> 溶接基準図 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>
2. 現寸
<p>1. 設計図書の内容が正確に製作者に伝達される内容とする</p> <p>2. 仕口部分の組立順序、溶接方法がわかるものとする</p> <p>3. 複雑な納まり部分は十分吟味された内容とする</p>
3. けがき
<p>1. けがき前に鋼材の材質・板厚等の他、変形・備のの有無を確認する</p> <p>2. 次工程に製作情報が正確に伝わるように記入する</p> <p>3. 高強度鋼および曲げ加工される外面にはポンチなどによる打痕などを残さない</p>
4. 切断
<p>1. 鋼材の切断面はいちじるしい切欠きを生じない様にする。ノッチの深さは1mm以下とする</p> <p>2. せん断切断する場合の鋼材の板厚は、1.3mm以下とする</p> <p>3. 部材切断面のバリ、まくれは取り除く</p> <p>4. 切断加工後においては鋼材の識別を明確とする</p>
5. 開先
<p>1. 開先の加工は切削加工機又は自動ガス切断機により行うことを原則とする</p> <p>2. 開先加工面は、あらかじめ100μmR以下、ノッチ深さは1mm以下とする</p> <p>3. スカラップは下記の仕様とする</p> <p><input type="checkbox"/> スカラップ (r1=3.5程度、r2=10以上の複合円)</p> 

<p>□ ノンスカラップ</p> 														
<p>6. 孔あけ</p> <p>1. 高力ボルト用の孔あけ加工は、ドリルあけとする</p> <p>2. ボルト、アンカーボルト、鉄筋貫通孔はドリルあけを原則とするが、板厚1.3mm以下の場合にはせん断孔あけとしても良い</p> <p>3. アンカーボルト孔、セパ孔、設備貫通孔等で孔径3.0mm以上はガス孔あけとしても良い</p> <p>孔径の精度は±2mm以内とする</p> <p>4. 孔あけ後に生じたバリ、まくれは、グラインダー等により除去する</p> <p>5. 孔径は下記とする</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>孔径 d</th> <th>公称軸径 d1</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">高力ボルト</td> <td>d1+2.0</td> <td>d1<2.7</td> </tr> <tr> <td>d1+3.0</td> <td>d1≥2.7</td> </tr> <tr> <td>ボルト</td> <td>d1+0.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td>d1+5.0</td> <td>-</td> </tr> </table> <p>(単位: mm)</p>	種類	孔径 d	公称軸径 d1	高力ボルト	d1+2.0	d1<2.7	d1+3.0	d1≥2.7	ボルト	d1+0.5	-	アンカーボルト	d1+5.0	-
種類	孔径 d	公称軸径 d1												
高力ボルト	d1+2.0	d1<2.7												
	d1+3.0	d1≥2.7												
ボルト	d1+0.5	-												
アンカーボルト	d1+5.0	-												
<p>7. 摩擦面の処理</p> <p>1. すべり係数が0.45以上確保できる下記の方法とする</p> <p>1. 自然発錆 デイスクグラインター等で黒皮などを、スプライスプレートの全面の範囲について除去した後、自然放置して発生させた赤さび状態を確保する</p> <p>2. プラスト処理 ショットプラスト等で50μmR以上のあらさを確保する</p> <p>ただし、赤さびは発生させなくてもよい</p> <p>2. 溶融亜鉛めっきの場合はすべり係数0.4以上確保できる下記の通りとする</p> <p>1. プラスト処理 ショットプラスト等で50μmR以上のあらさを確保する</p> <p>2. それ以外の方法は工事管理者と協議し承認を得る</p>														
<p>8. 組み立て</p> <p>1. エンドタブは、スチールタブまたは固形エンドタブとする。スチールタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は同厚・同開先のものを用いる</p> <p>2. スチールタブの切断</p> <p><input type="checkbox"/> 行方 <input type="checkbox"/> 行わない</p> <p>行方場合は切断形状の協議を行う</p> <p>3. 組立溶接は本溶接と同等の品質が得られるように施工する</p> <p>4. 組み立て溶接を行う位置は下記の通りとする</p>  <p>スチールタブ 裏あて金</p> <p>組立溶接箇所</p> <p>組立溶接禁止箇所</p> <p>裏あて金</p> <p>組立溶接位置</p> <p>隅肉サイズは4~6mm</p> <p>エンドタブの長さは原則として30mm以上</p> <p>裏あて金の組み立て用隅肉溶接のサイズは4~6mmで1パスとし、長さ40~60mm程度とする</p> <p>長さ40~60mm程度</p> <p>5mm超</p>														
<p>9. 溶接</p> <p>1. 組立溶接・本溶接ともJIS Z 3801又はJIS Z 3841有資格者が行なう</p> <p>2. 溶接に使用する材料は母材の材質に適合したものを使用する</p>														

3. 開先のある溶接の両端には、健全な溶接の全断面が確保できるようにエンドタブを用いる (エンドタブは原則切断しない) 但し、工事監理者の承認があればその他適切な方法を用いることができる

4. 気温-5℃を下回る場合は、溶接を行ってはならない。気温が-5℃から5℃においては、溶接部より100mmの範囲の母材部分を適切に予熱すれば溶接することができる

5. 突合せ継手およびT継手の余盛高さ

完全溶込み溶接の突合せ継手の余盛高さは0mm以上、T継手の余盛高さは突合せ材の厚さの1/4とし、材の厚さが40mmを超える場合は10mmとする。このときの許容差はJASS6-付則6「鉄骨精度検査基準」による。余盛は応力集中を避けるためめらかに仕上げ、過大であったりビード表面形状に不整があってはならない

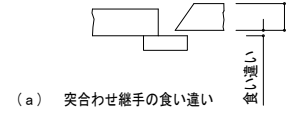
6. 溶接材料と入熱、パス間温度の組合せは、下記の表、鋼材の種類400N及び490N級鋼の項による。

鋼材の種類と溶接材料

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3312	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	JIS Z 3315		
YGW-50W, 50P			
490N級鋼	JIS Z 3312	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	JIS Z 3315		
YGW-50W, 50P			
400N級鋼	YGW-11, 15	30以下	250以下
STKR・BCR・BCP	YGW-18, 19	40以下	350以下
490N級鋼	YGW-18, 19	30以下	250以下
STKR・BCP			

7. 構造耐力上主要な部分の溶接部は、割れ、内部欠陥等の構造耐力上支障のある欠陥がないものとする

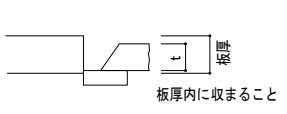
8. 突合せ継手の食い違いは、板厚が1.5mm以下では1.5mm以下、1.5mmを超える場合は板厚の1/10以下かつ3mm以下とする。



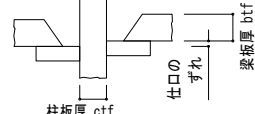
(a) 突合せ継手の食い違い

9. 柱仕口部における梁フランジは、通しダイアフラムの場合は、ダイアフラムの板厚の範囲に収まること。内ダイアフラムの場合のダイアフラムと梁フランジのずれ量は、はりのフランジ厚ctfが柱のフランジ厚ctf以下の時はctfの1/4かつ5mm以下、ctf>ctfを超える時にはctfの1/5かつ4mm以下とする。

(但し仕口部の鋼材の長期及び短期に生ずる力に対する各許容応力度に基づき、求めた当該部分の耐力以上の耐力を有するように適切な補強を行った場合はこの限りではない)



(a) 通しダイアフラムと梁フランジのおさまり

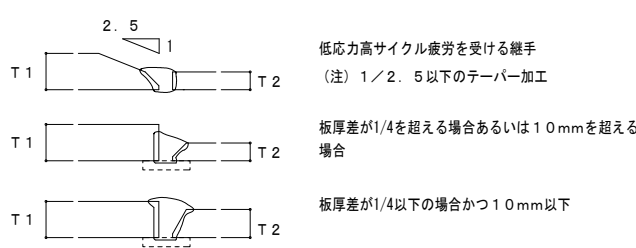


(b) 仕口のずれ

10. 0.3mmを超えるアンダーカットはあってはならない。(側面隅肉は0.5mm) 但し、0.7mm以下の場合、溶接長300mmあたり総長さが30mm以下かつ1箇所以上の長さが3mm以下は許容できる。

11. クレーンゲーターのように低応力高サイクル疲労を受ける突合せ継手では厚い方の材を1/2.5以下の傾斜に加工し、開先部分で薄い方と同一の高さにする。

板厚差による段違いが薄い方の1/4を超える場合あるいは10mmを超える場合はT継手に準じた高さの余盛りを設け、1/4以下かつ10mm以下の場合は溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へめらかに移行するように溶接する。



低応力高サイクル疲労を受ける継手 (注) 1/2.5以下のテーパ加工

板厚差が1/4を超える場合あるいは10mmを超える場合

板厚差が1/4以下の場合かつ10mm以下

株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE

一級建築士 184560号 山田 克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	NO SCALE
DATE	'16.11

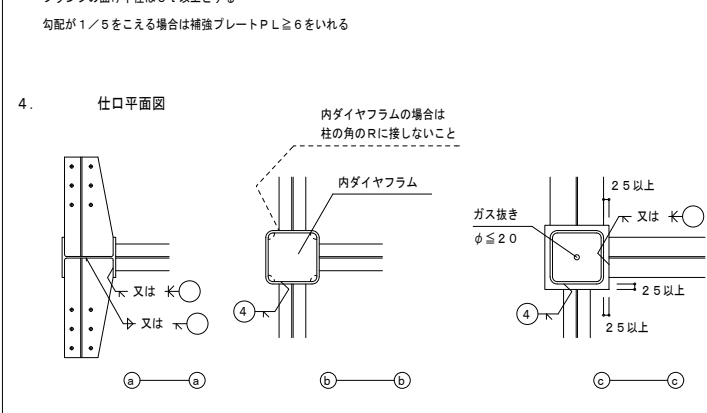
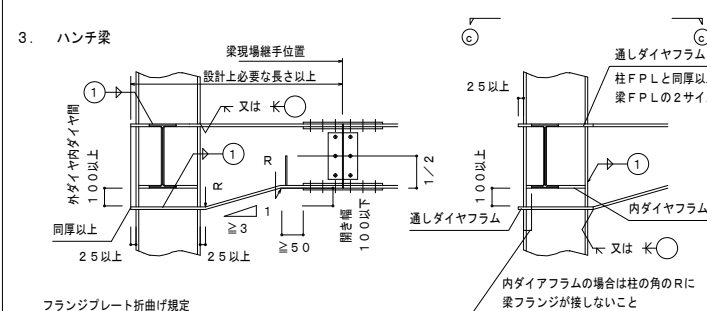
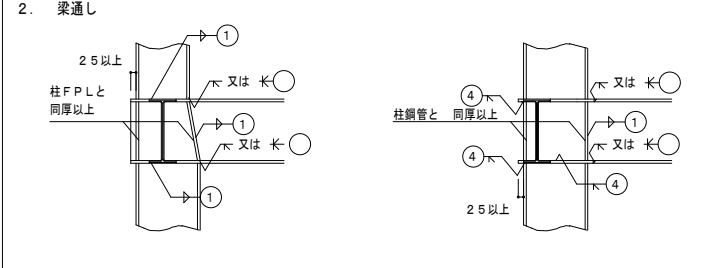
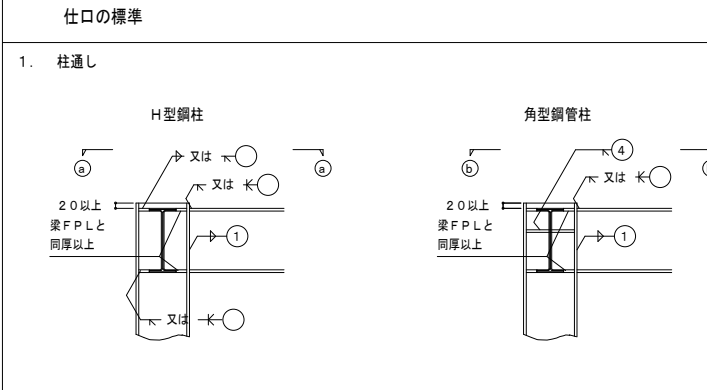
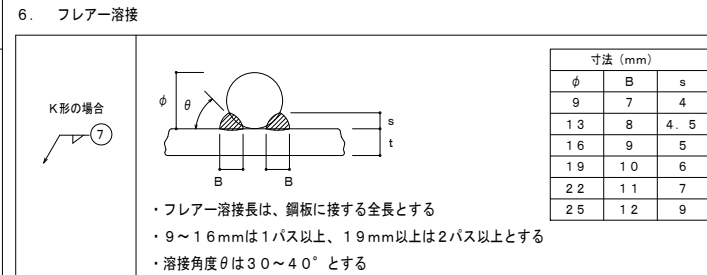
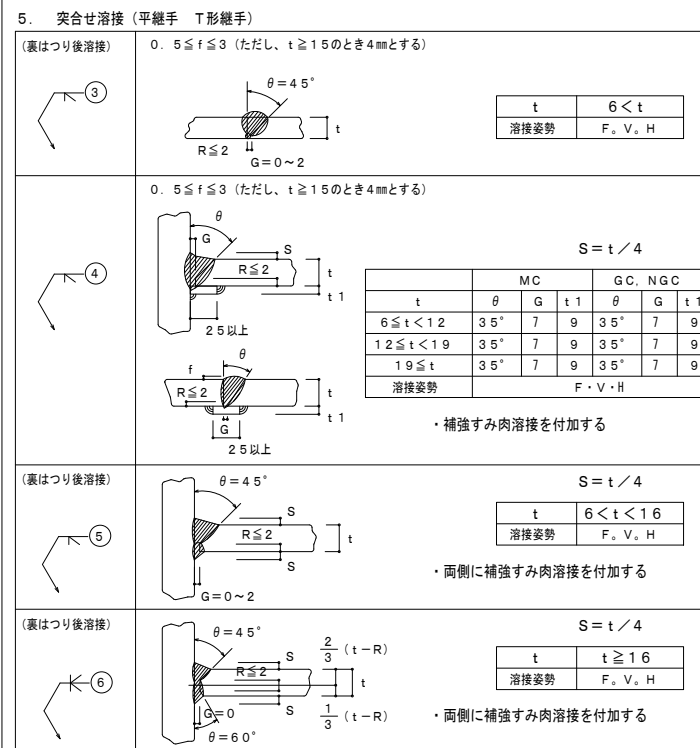
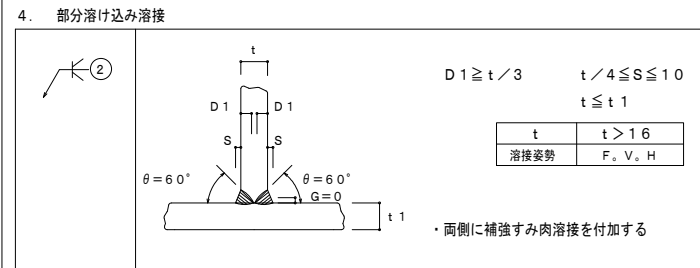
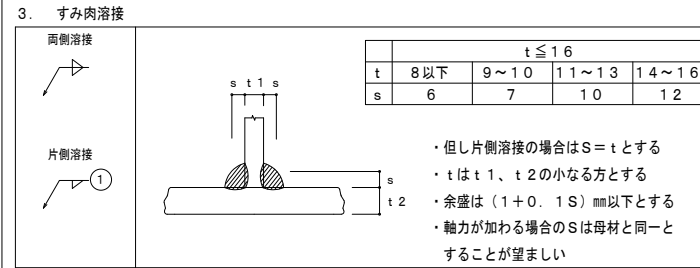
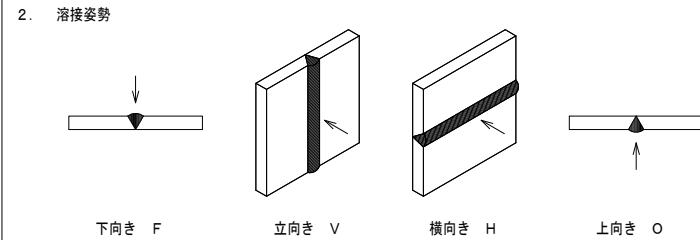
可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事
鉄骨構造基準図 (1)

SHEET NO.	S-03
-----------	------

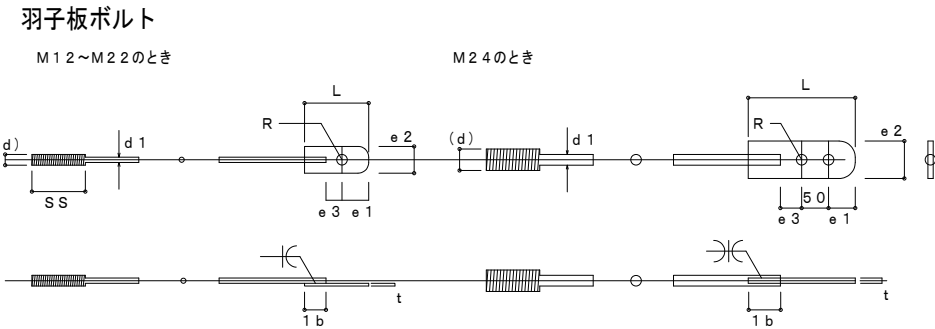
鉄骨構造基準図 (2)

溶接基準図 (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: ルート面 S: サイズ (単位mm)

1. 溶接方法
- ・アーク手溶接 (MC)
 - ・ガスシールド半自動アーク溶接 (GC)
 - ・セルフ (ノンガス) シールド半自動アーク溶接 (NGC)
 - ・アークエアガウジング (AAG)

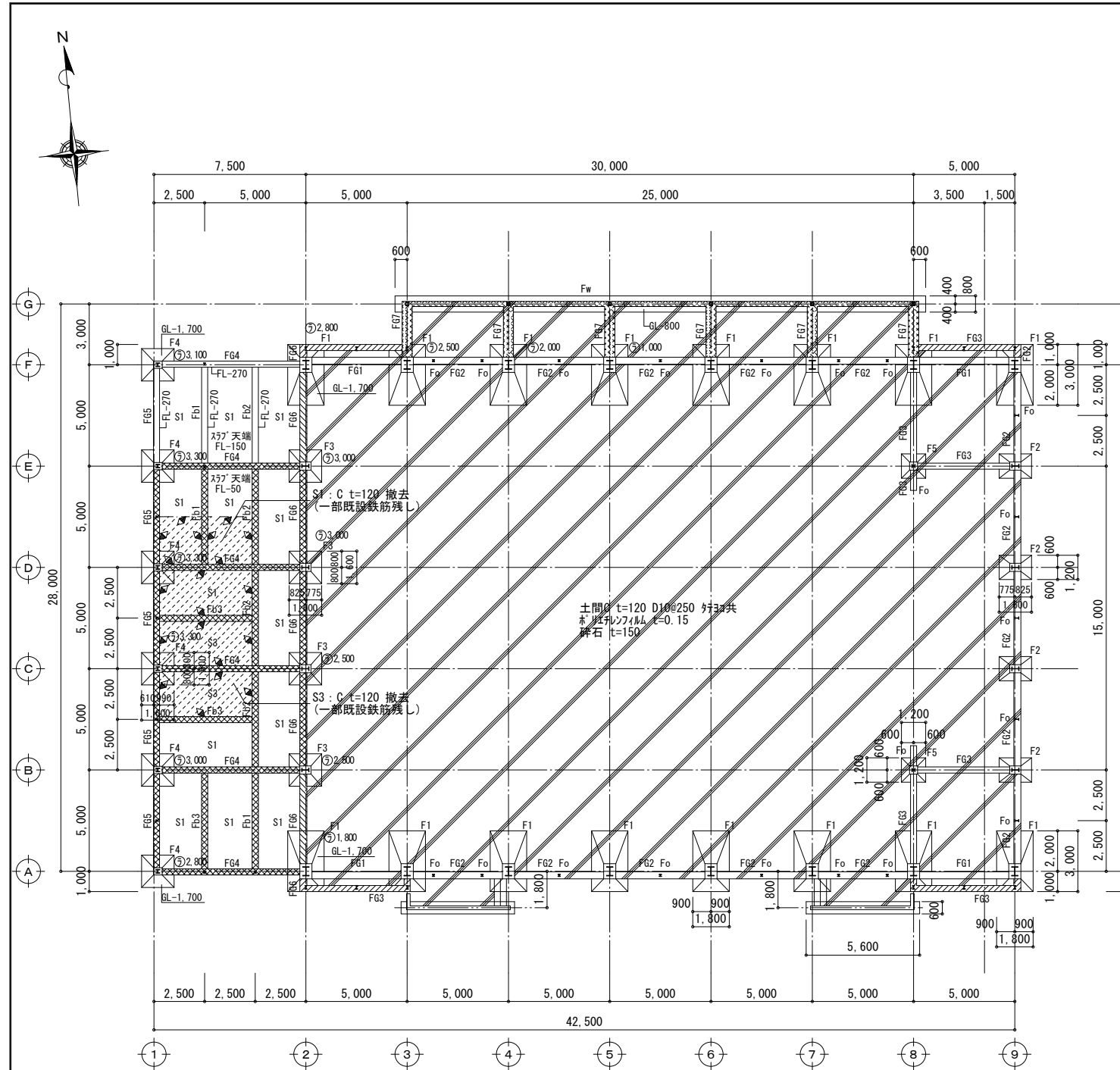


丸鋼ブレース (JIS規格品とする.....JIS A5540~5542)

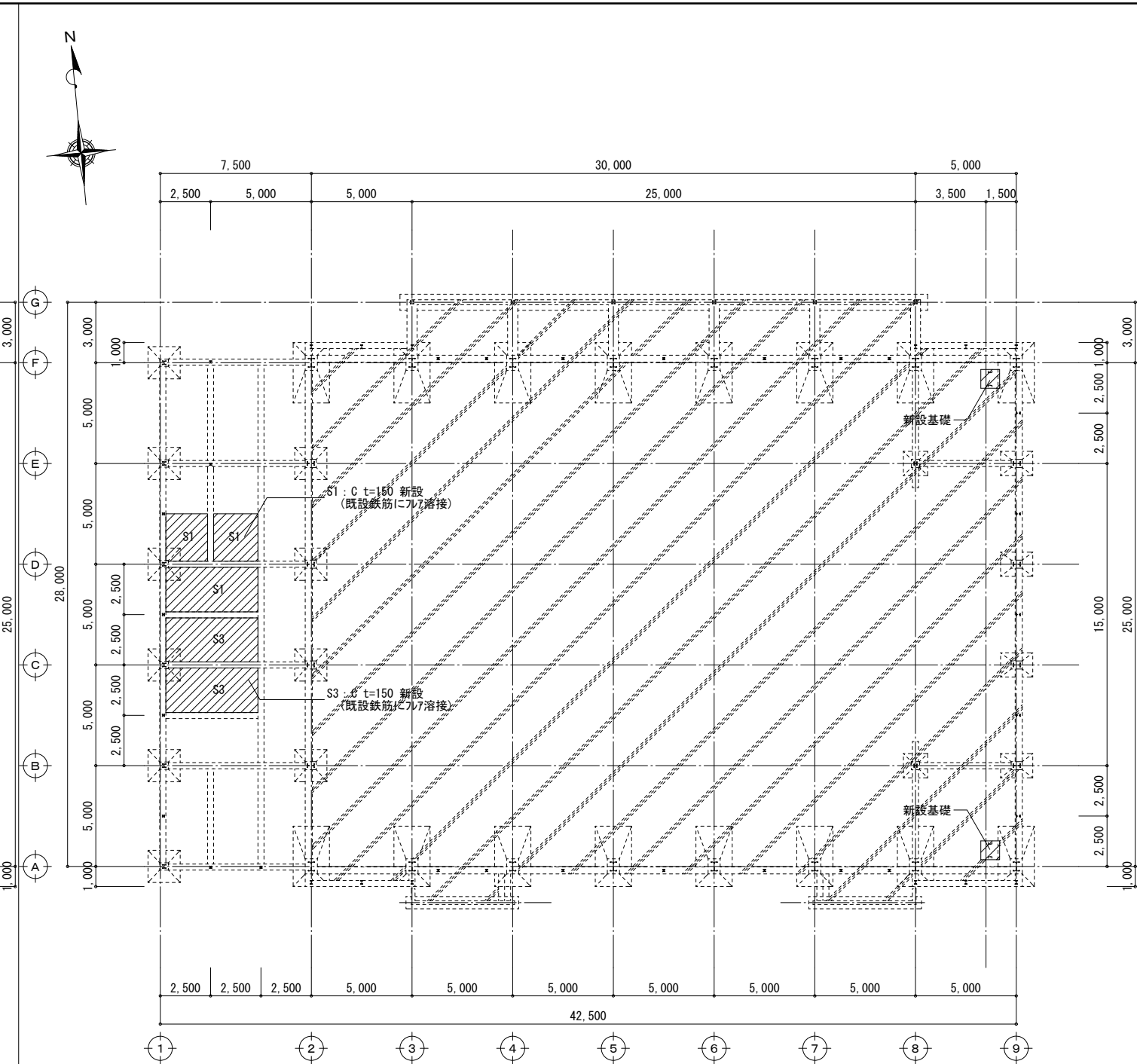


ねじの呼び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 (d1)	最小	10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ	Ss	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト孔径許容差	+0, -0.5mm	R	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小) 注(1)	e1	40.5	40.5	45.5	50.5	50.5	55.5	51
羽子板	へりあき (最小) 注(1)	e2	58	58	58	70	70	80
	板厚	t	6	6	6	9	9	9
	全長	L	136	146	163	180	195	217
ボルト端から取付ボルト孔心のあき (最小)	e3	54	54	61	68	68	75	73
溶接長さ (最小)	1b	41.5	51.5	56.5	61.5	76.5	86.5	87
取り付けボルト本数 注(2)		1-M16	1-M16	1-M16	1-M20	1-M20	1-M22	2-M20

- 注 (1) e1, e2 が確保できれば形状は自由でよい 材質 SNR400
- (2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (支圧) 接合とする
- (3) 取付ボルトの種類は JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) または JIS B 1180 中 8g10.9
- (4) 表寸法は JIS ブレース規格メーカーカタログによる



改修前 基礎伏図 S=1/200



改修後 基礎伏図 S=1/200

凡例 (改修前)

	撤去部分を示す。
	加付・入れ部分を示す。
※特記事項	

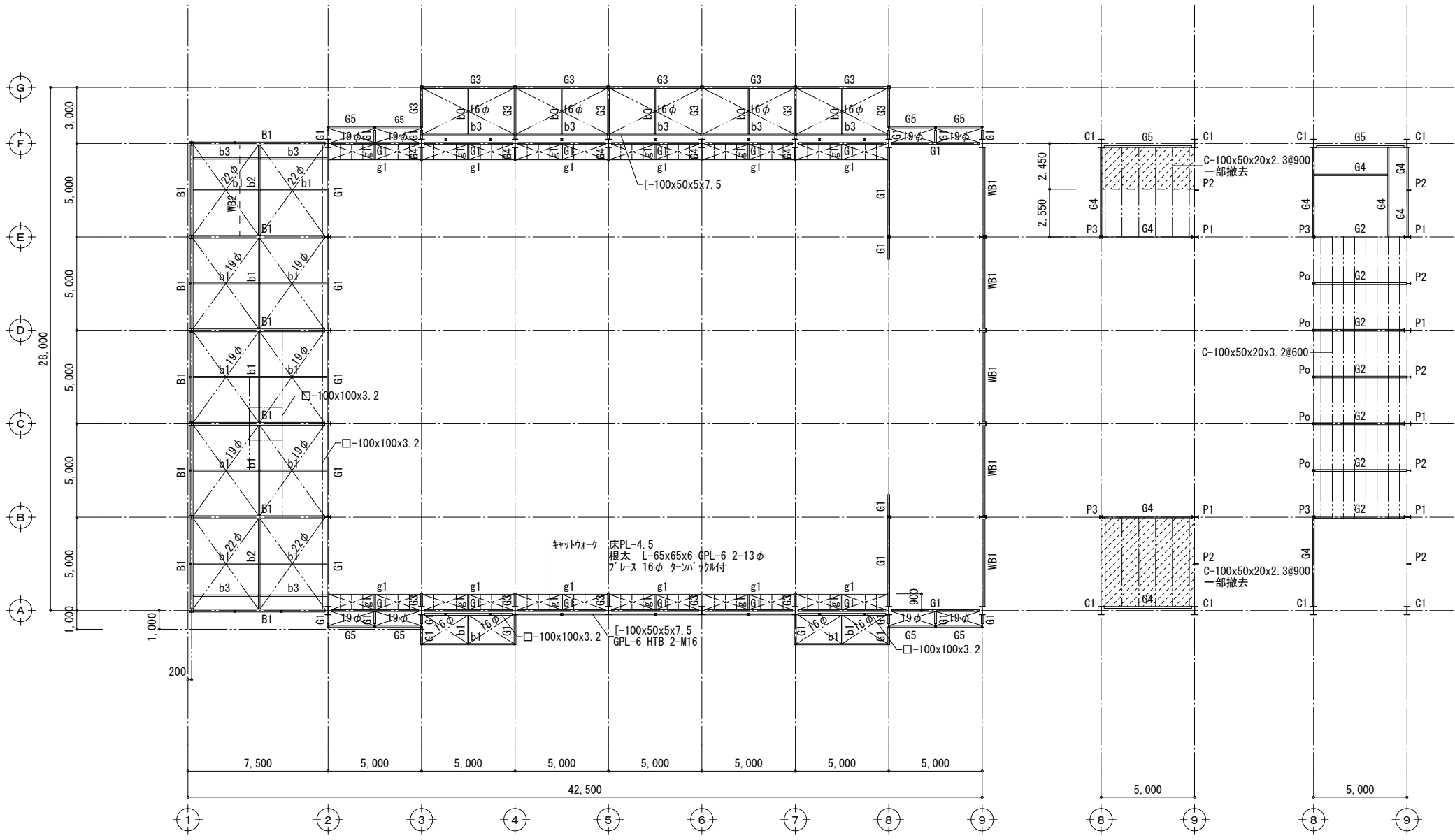
- 設計コンクリート強度 一般 構造スラブ Fc=210kg/m²
土間コンクリート、ラップコンクリート Fc=180kg/m²
- 鉄筋 D10~D25 SD30 (JIS規格品) D19以上は圧接
- 特記なき地中梁天端はFL-1150 (GL-550) とする。
" 基礎底はGL-1500とする。
- 図中で①とあるのはラップ厚さDを示す。
- 地中梁と基礎の間の補強は現準図による。
- 梁天端 GL-550 (GL+400まで増打ち)
- 梁天端 GL-550 (GL+570まで増打ち)
- 梁天端 GL+300
- 梁天端 FL-200

凡例 (改修後)

	新設部分を示す。
	既設材を示す。
※特記事項	

新設スラブリスト

符号	版厚	主筋 (短辺)			主筋 (長辺)			
		両端	中央	柱列帯	両端	中央	柱列帯	
S1	120	上	D10+D13-@200	D10 -@400	D10 -@250	D10 -@250	D10 -@500	D10 -@250
		下	D10 -@400	D10+D13-@200	D10 -@250	D10 -@250	D10 -@250	D10 -@250
S3	120	上	D10+D13-@200	D10+D13-@200	D10+D13-@200	D10+D13-@200	D10+D13-@200	D10+D13-@200
		下	D10+D13-@200	D10+D13-@200	D10+D13-@200	D10+D13-@200	D10+D13-@200	D10+D13-@200



改修前 キャットウォーク伏図 S=1/200

改修前 天井面伏図 S=1/200

改修前 天井上部伏図 S=1/200

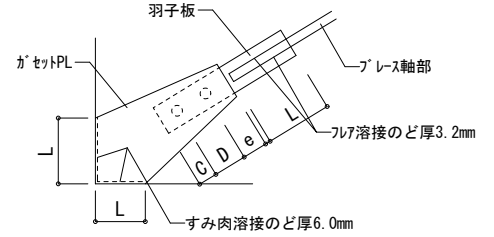
凡例 (改修前)	
	撤去部分を示す。
※特記事項	

既設鉄骨部材リスト

符号	主 材	接 合
C1	H-440x300x11x18	
C2	H-175x175x7.5x11	
C3	□-150x150x4.5	
P1	H-346x174x6x9	PL-9 HTB. 3-M20
P2	H-198x99x4.5x7	PL-9 HTB. 2-M20
P3	H-150x150x7x10	PL-9 HTB. 2-M20
Po	H-100x100x6x8	PL-9 HTB. 2-M16
C4	□-125x125x4.5	
C5	H-125x125x6.5x9	
MB	H-596x199x10x15	
B1	H-298x149x5.5x8	PL-9 HTB. 3-M20
G1	H-200x100x5.5x8	PL-9 HTB. 2-M20 プレース付2階梁はHTB. 4-M20
G2	H-198x99x4.5x7	PL-6 HTB. 2-M20
G3	H-148x100x6x9	PL-9 HTB. 2-M20
G4	H-150x75x5x7	PL-9 HTB. 2-M16
G5	H-175x90x5x8	PL-9 HTB. 2-M16
b1	[-125x65x6x8	PL-9 HTB. 2-M16
b2	H-175x90x5x8	PL-9 HTB. 2-M16
b3	H-150x75x5x7	PL-9 HTB. 2-M16
b0	C-100x50x20x3.2	PL-6 ㌦M2-16φ
g1	[-150x75x6.5x10	PL-6 HTB. 2-M16
WB1	H-200x100x5.5x8 (横向)	PL-9 HTB. 2-M20
WB2	H-125x125x6.5x9 (横向)	PL-9 HTB. 2-M16
WB3	[-125x65x6x8 (横向)	PL-9 HTB. 2-M16

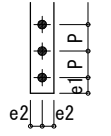
既設ブレースリスト (丸鋼は全てターンバックル締めとする。)

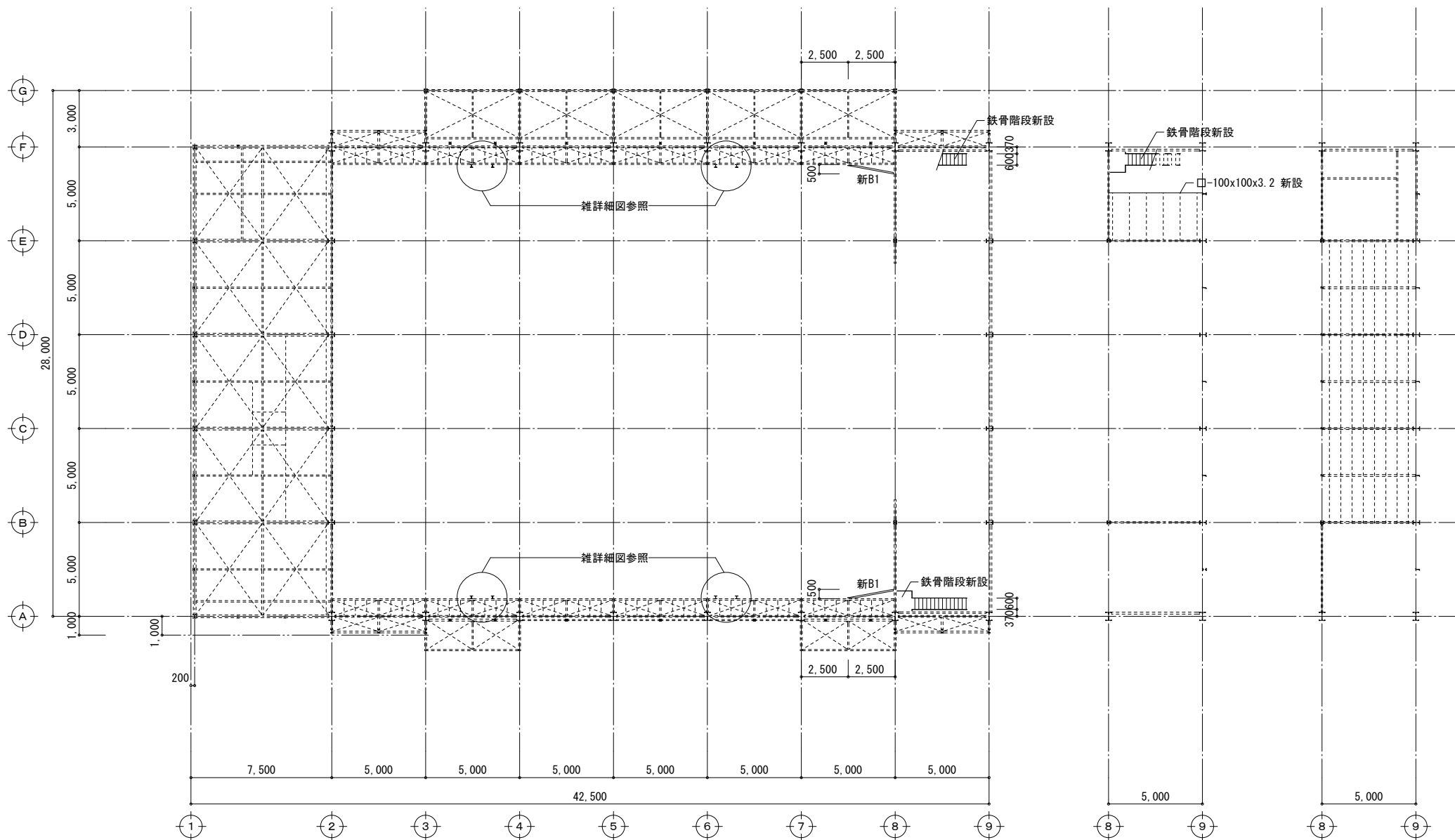
符号	ブレース軸部	羽子板	ボルト	ピッチP	はしあきe	ブレース軸部 溶接L1	がセットPLと その溶接L2
e1	16φ	FB-65x9	HTB 2-M16	60	40	75	G.PL-6 90
e2	19φ	FB-75x9	HTB 2-M16	60	50	95	G.PL-6 120
e3	22φ	FB-75x9	HTB 2-M16	60	50	110	G.PL-6
e4	L-75x75x9						
e5	L-90x90x10						
e6	φ-89.1x4.2						



㌦M記号とピッチ(ブレース以外は下のピッチとする)

ボルト	ボルト孔径	へりあきe2	はしあきe1	ピッチP	記号
13φ	14.0	30	30	40	●
M16	17.0	40	40	60	—
M20	21.5	40	50	70	+
M22	23.5	45	55	80	⊕





改修後 キャットウォーク伏図 S=1/200

改修後 天井面伏図 S=1/200

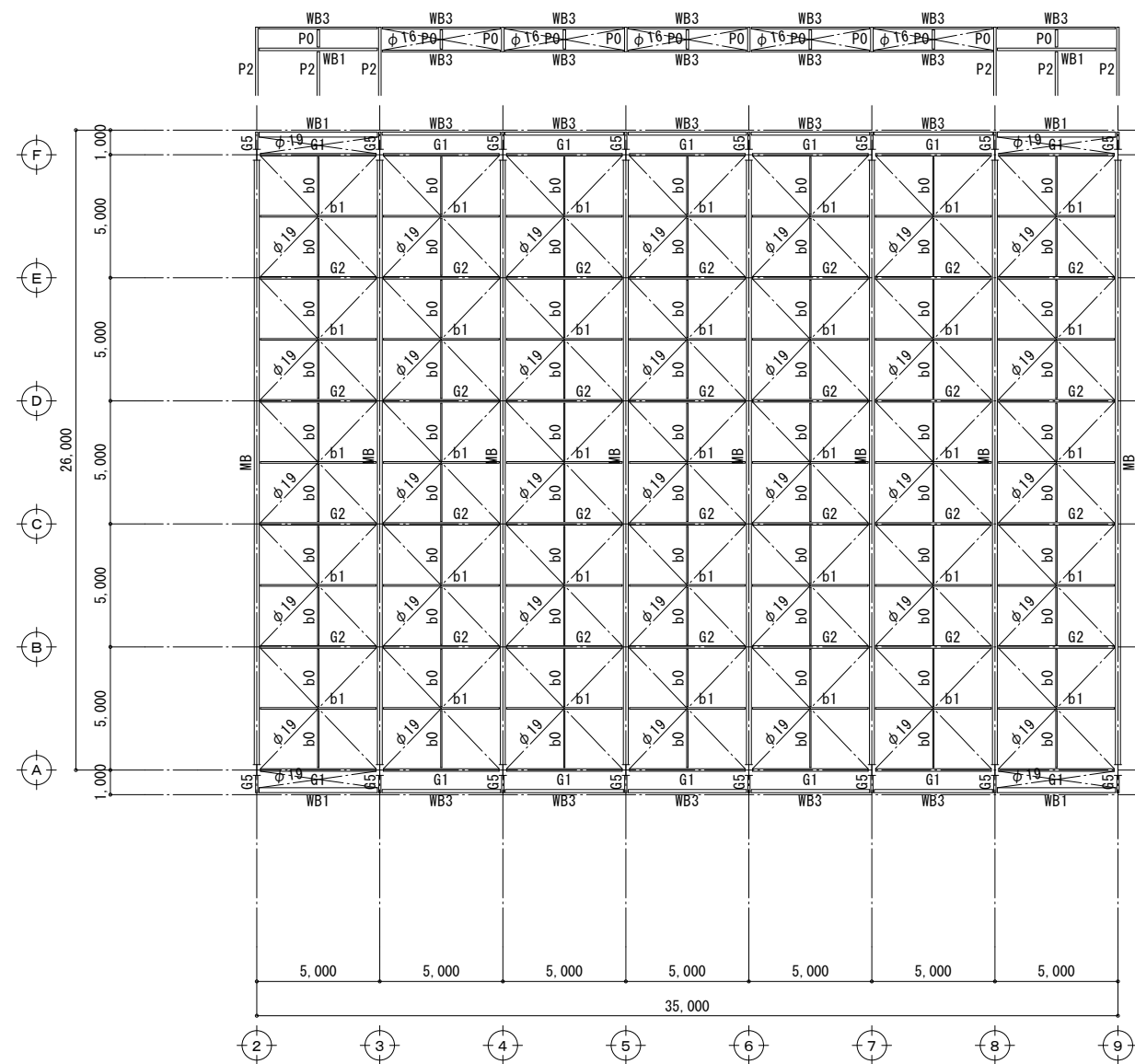
改修後 天井上部伏図 S=1/200

新設鉄骨部材リスト				
部材	符号	形状	備考	
梁	新B1	[-150×75×6.5×10	GPL-6	HTB: 2-M16

凡例 (改修後)	
----	既設材を示す。
※特記事項	

CHECK	DESIGN	DRAW

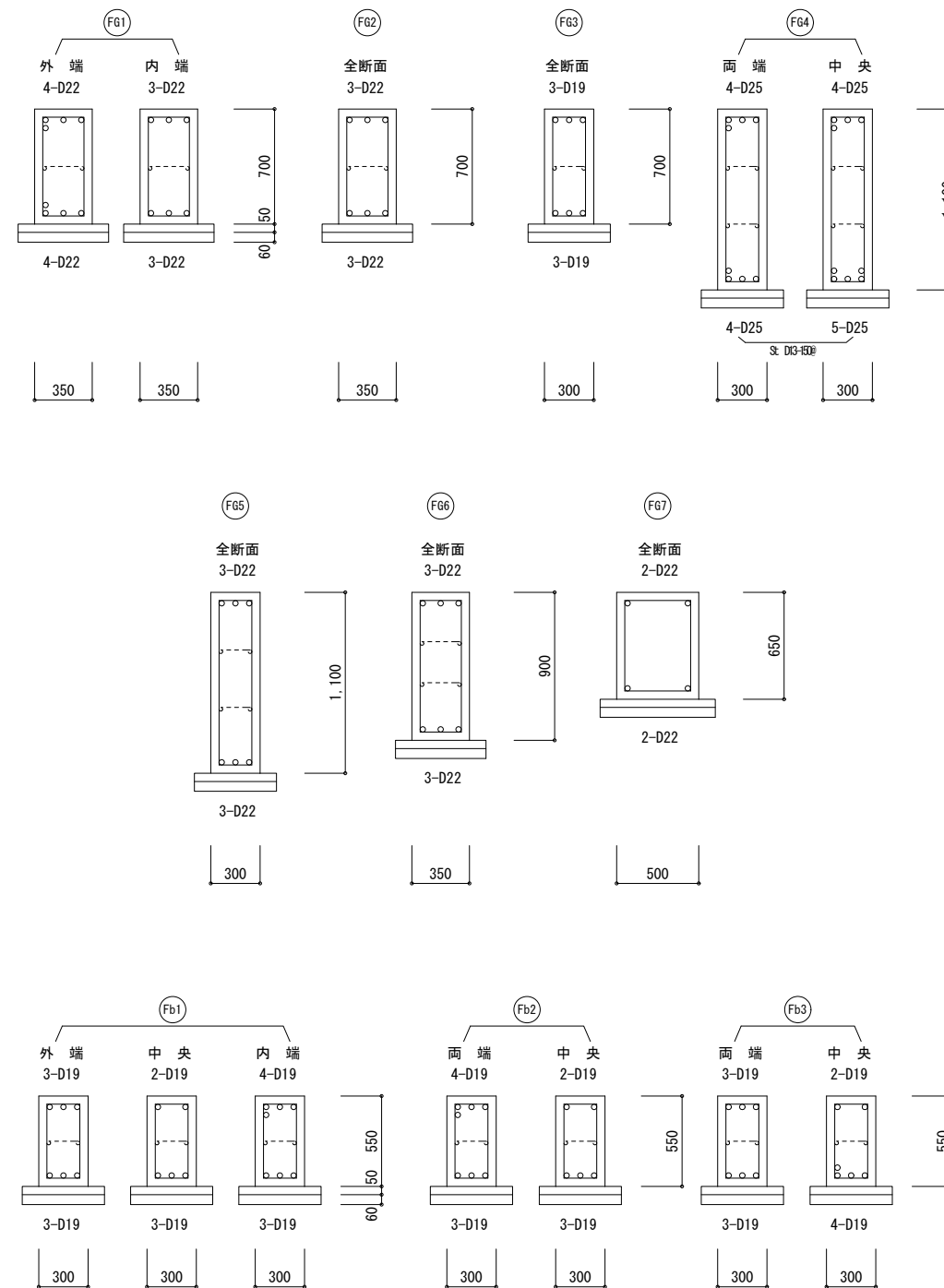
SCALE	1/200
DATE	'16.11

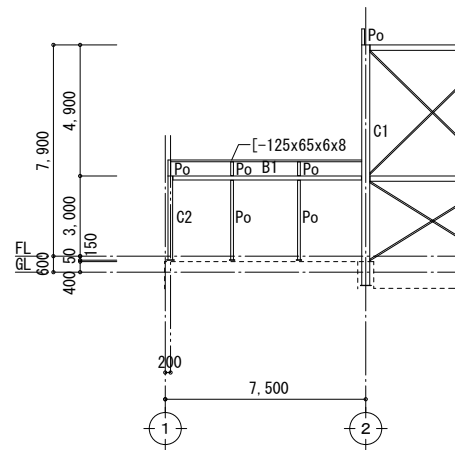


屋根梁伏図 S=1/200

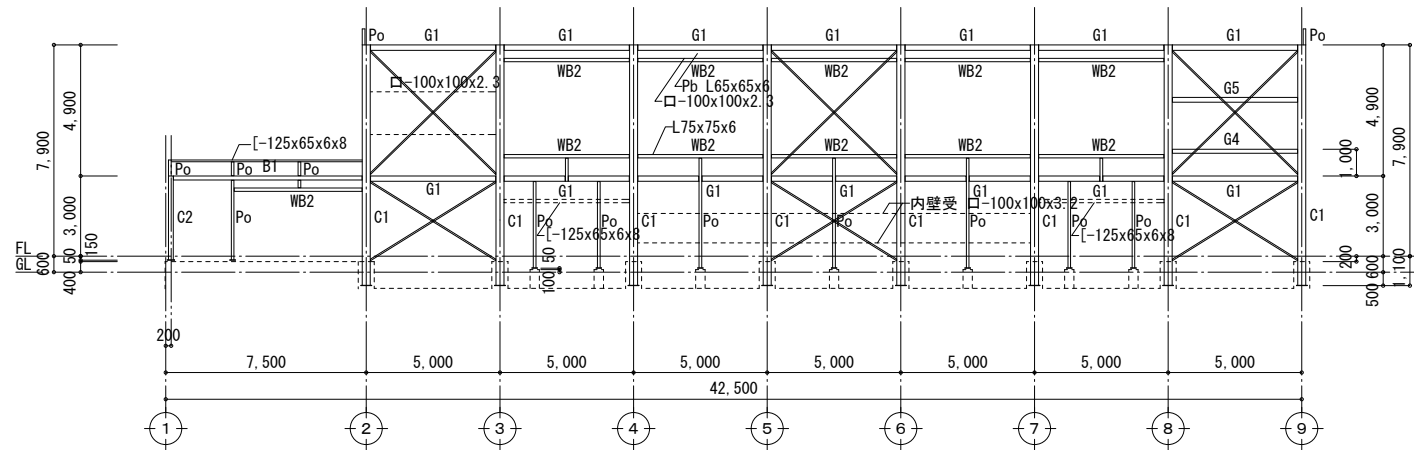
地中梁リスト S=1/30

特記以外 Starrun D10-150@
腹筋 2-D10, 4-D10
巾止メ筋 D10-900@

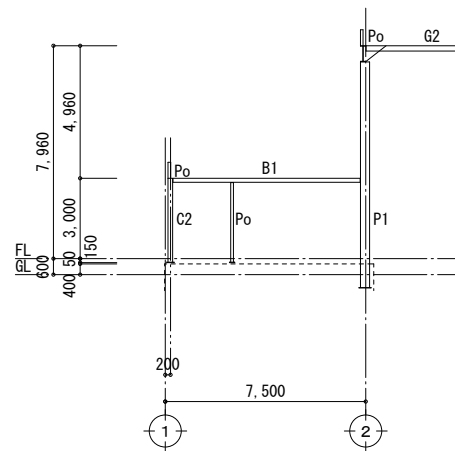




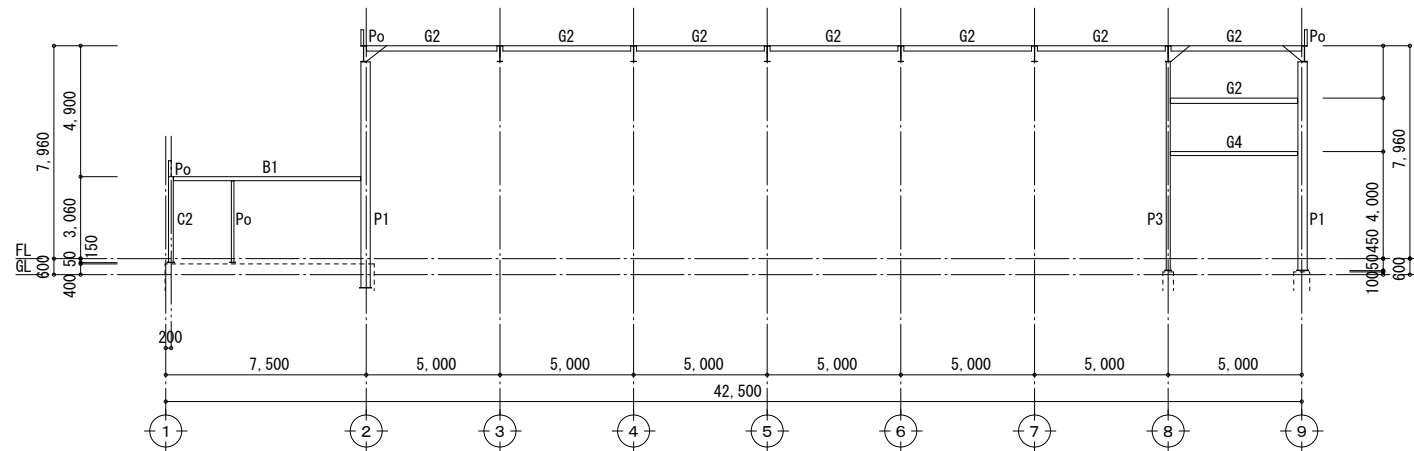
Ⓐ 軸組図



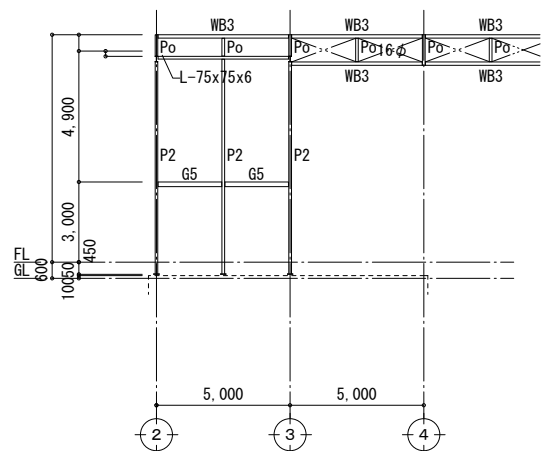
Ⓐ F 軸組図



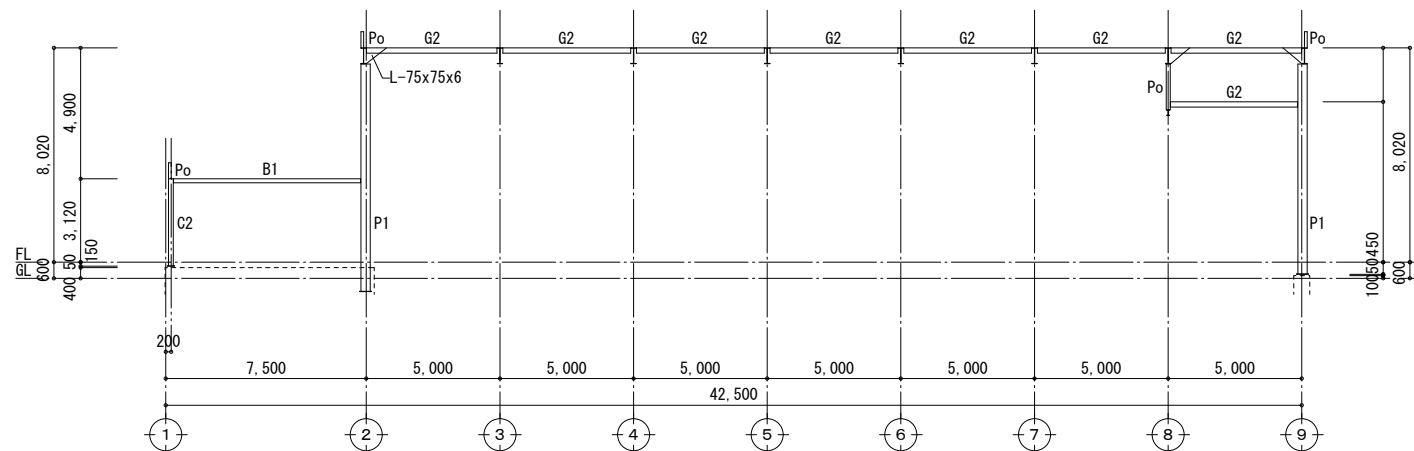
Ⓑ 軸組図



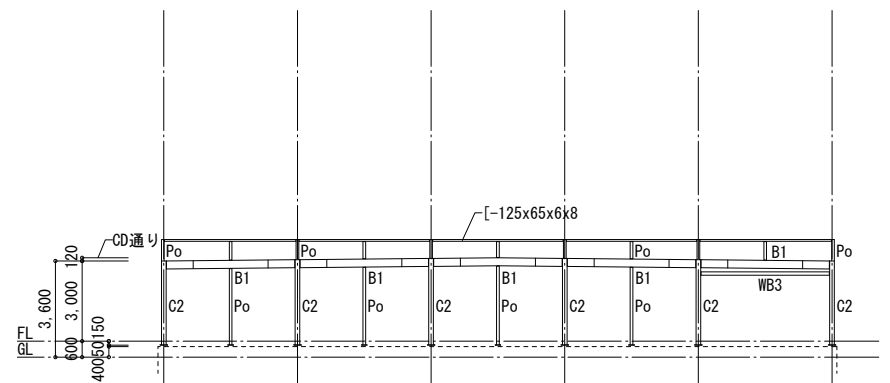
Ⓑ E 軸組図



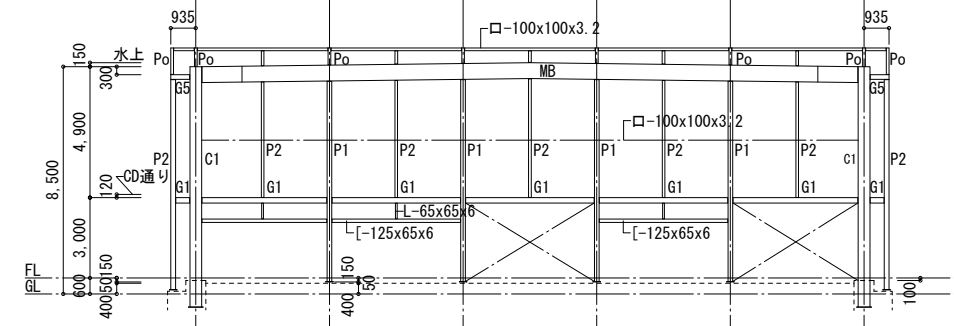
植 パラベット面



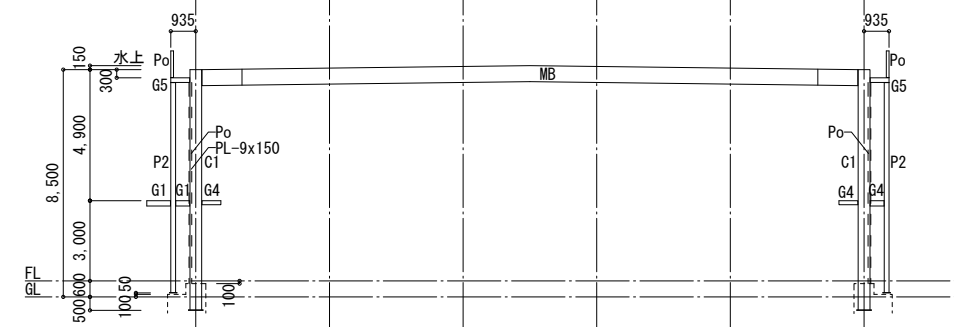
Ⓒ D 軸組図



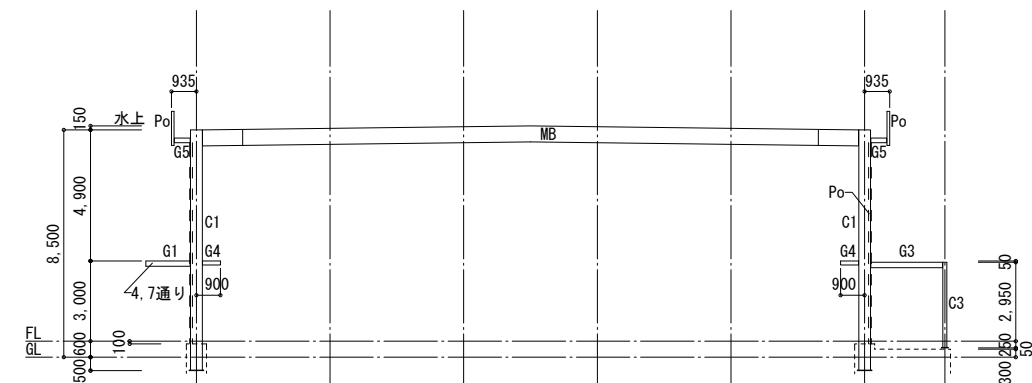
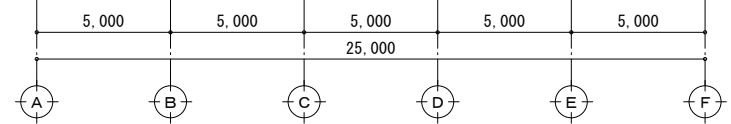
① 軸組図



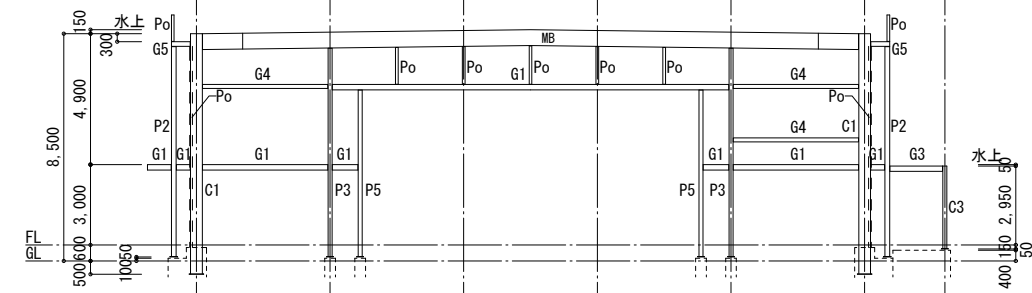
② 軸組図



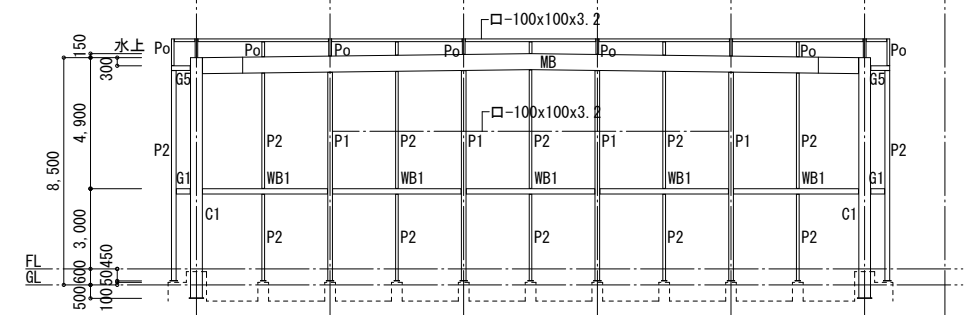
③ 軸組図



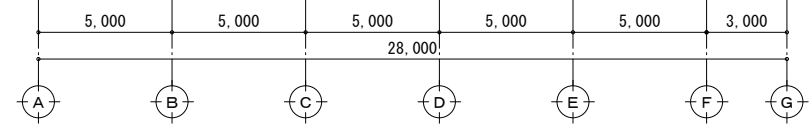
④ ⑦ 軸組図

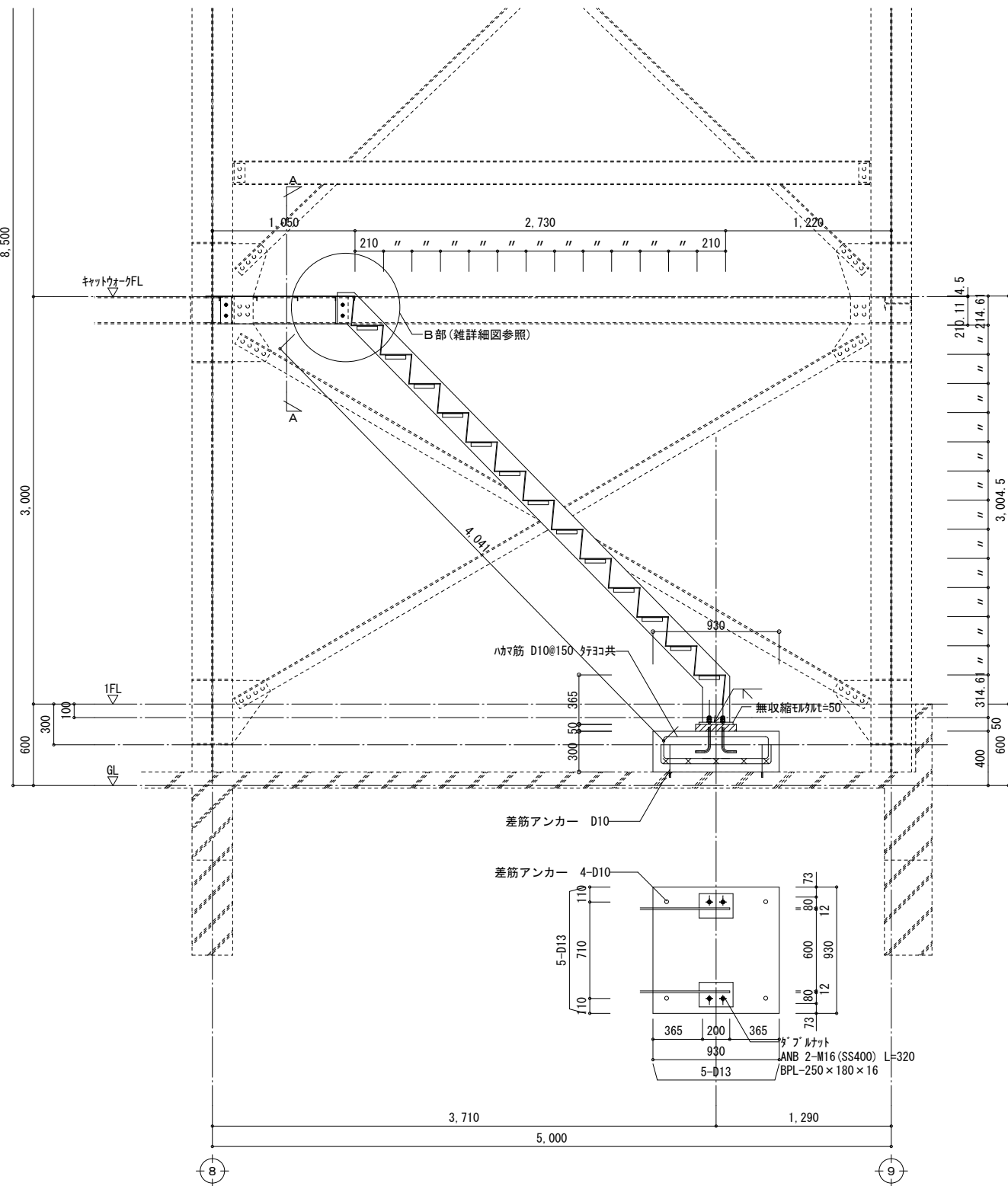


⑧ 軸組図

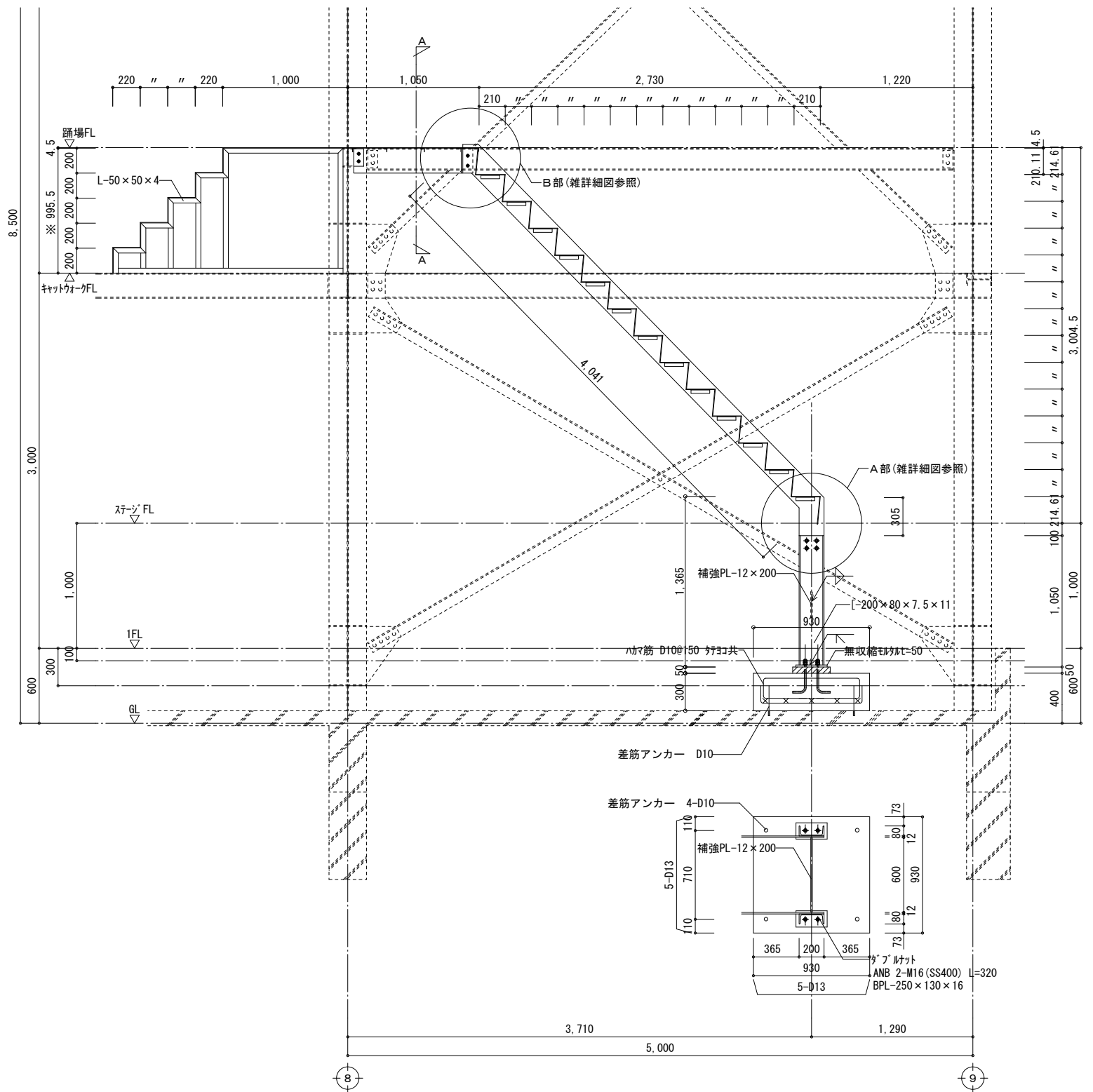


⑨ 軸組図



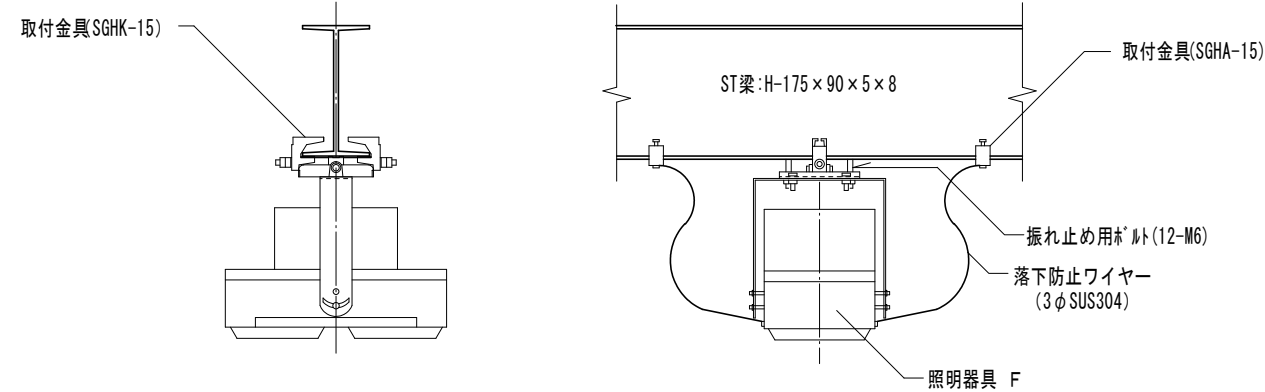


A通り 鉄骨詳細図 S=1/30



F通り 鉄骨詳細図 S=1/30

照明器具 F 取り付け図

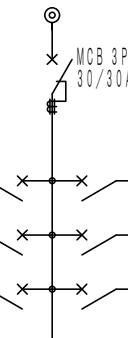


L-1 鋼板製 (新設)

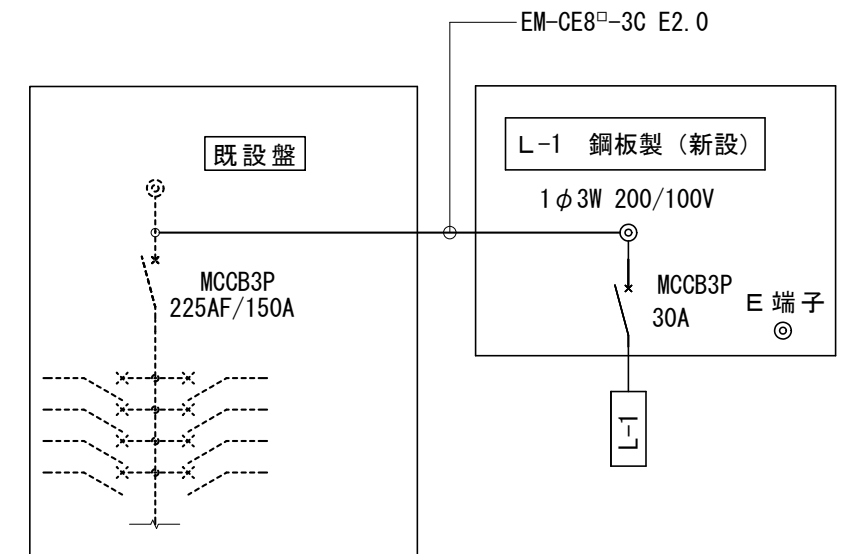
1φ3W 200/100V

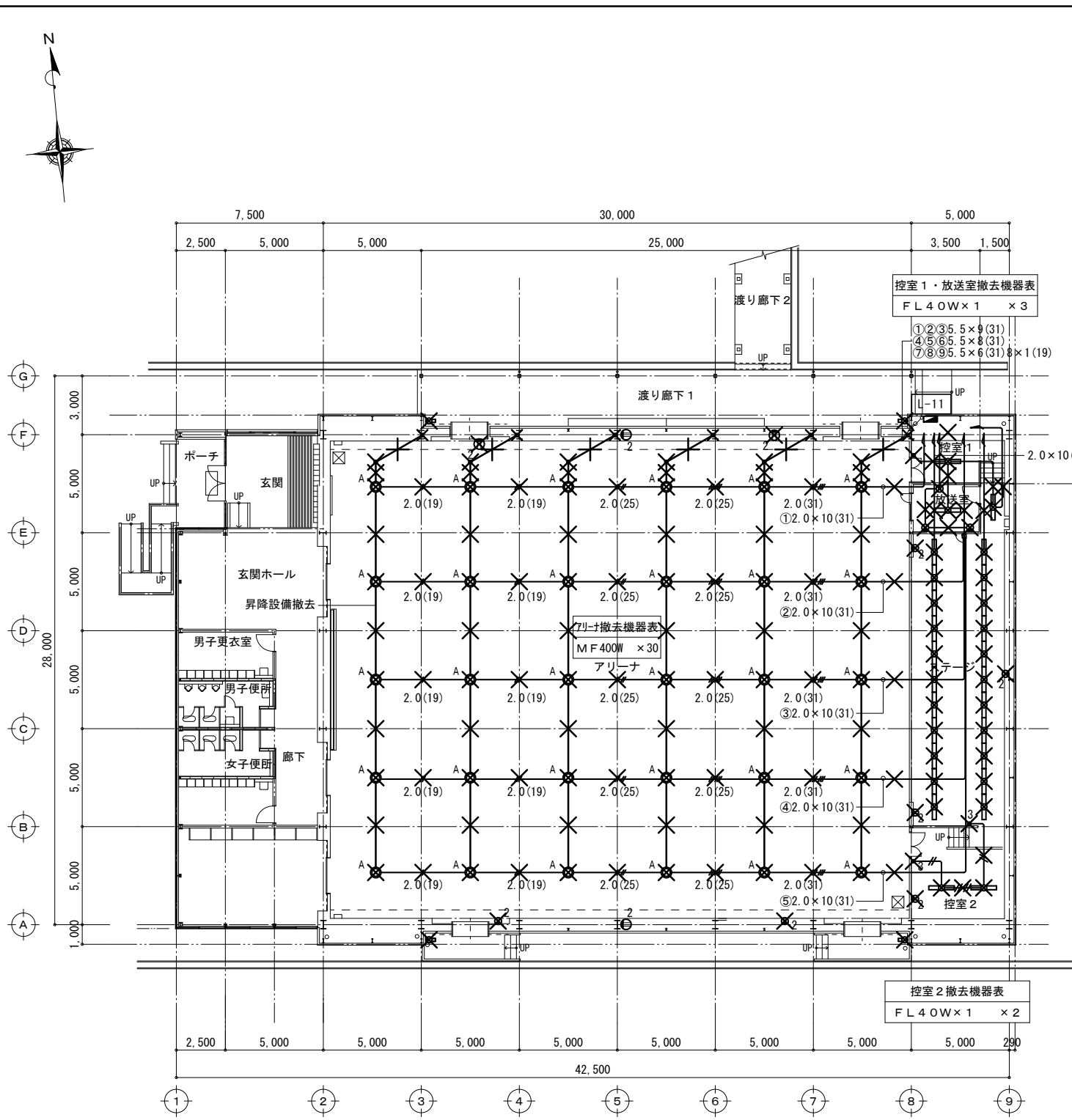
分岐開閉器	負荷容量 (VA)	負荷名称	回路
ELB 2P 20/20	1280	洗浄便座	①
ELB 2P 20/20	1280	洗浄便座	③
ELB 2P 20/20	1280	洗浄便座	⑤

回路	負荷名称	負荷容量 (VA)	分岐開閉器
②	ELB 2P 20/20	1280	洗浄便座
④	ELB 2P 20/20	1280	洗浄便座
⑥	ELB 2P 20/20	1280	洗浄便座



A	器具庫ベースライト	B	廊下ベースライト	C	トイレダウンライト	D	トイレブラケット	E	屋外灯
LED 40×2 富士型	適合ランプ: 直管LEDランプ用 電圧100~242V ランプ素材: ガラス管、Ra: 84 反射板: 鋼板 (高反射白色粉体塗装) 光源寿命40000時間 パナソニック NNF42001LE9 相当品	一体型LEDベースライト □450、乳白パネル、深枠 (黒)、調光可能タイプ (約10~100%) 電圧: 100~242V 光源寿命: 40000時間 (光束維持率85%)、Ra: 83 本体: 鋼板 (高反射白色粉体塗装) 枠: 鋼板 (高反射白色粉体塗装) パネル: アクリル (乳白)、パツフル: アルミ (ブラック) 屋白色 (5000K)	LEDダウンライト 100形 LED<ワンコア (ひと粒) タイプ> 5000K、Ra70、拡散タイプ 器具光束970lm、消費電力7.9W、電圧100~242V 反射板: アルミ (ホワイトつや消し仕上) 枠: 鋼板 (ホワイトつや消し仕上) 40000時間 (光束維持率85%) 光源遮光角15度、埋込穴φ150、埋込高79 パナソニック NDN16680+NNK10001NLE9 相当品	LEDブラケット 10形直管蛍光灯相当 拡散タイプ、5000K、Ra85 電圧100V、壁面 (縦・横向き)・天井面取付専用 カバー: アクリル (乳白) 本体: プラスチック (ホワイト) ツマミネジ方式、W=670 H=110 出し高121 パナソニック LGB81590LE1相当品	LEDブラケット 20形直管蛍光灯相当 (防雨型) 器具光束1062lm、消費電力11W、電圧100V 5000K、Ra83、拡散タイプ 防雨型 カバー: アクリル (乳白) 本体: プラスチック (ホワイト) 天井直付型・壁直付型、ツマミネジ方式 W=110 H=670 出し高121 パナソニック LGB80190LE1相当品				
F	アリーナ照明器具	G	ステージ照明	H	ポーチ照明	I	控室照明		
LED高天井器具1800形 メタルハイドランプ300形器具相当	LED40×1 富士型 適合ランプ: 直管LEDランプ用 電圧100~242V ランプ素材: ガラス管、Ra: 84 反射板: 鋼板 (高反射白色粉体塗装) 光源寿命40000時間 パナソニック NNF41038LE9 相当品	直付型、調光可能 (約25~85%) 屋白色、5000K、Ra70 器具光束18000lm、消費電力147W、電圧100~242V 本体: アルミ、パネル: ポリカーボネート (透明) 光源寿命60000時間 (光束維持率85%) 落下防止ワイヤー付、中角 パナソニック NNY20615LX9 相当品	LEDダウンライト 60形電球1灯相当 器具光束460lm、消費電力7.3W、電圧100V Ra80、屋白色 (5000K) 高気密SB、拡散タイプ 位相制御式 (2線式) 枠: (ホワイトつや消し) 埋込穴φ100、埋込高80 パナソニック LGB72316LB1 相当品	一体型LEDベースライト 反射傘付 パナソニック 直付XLX430KEDCRZ9					

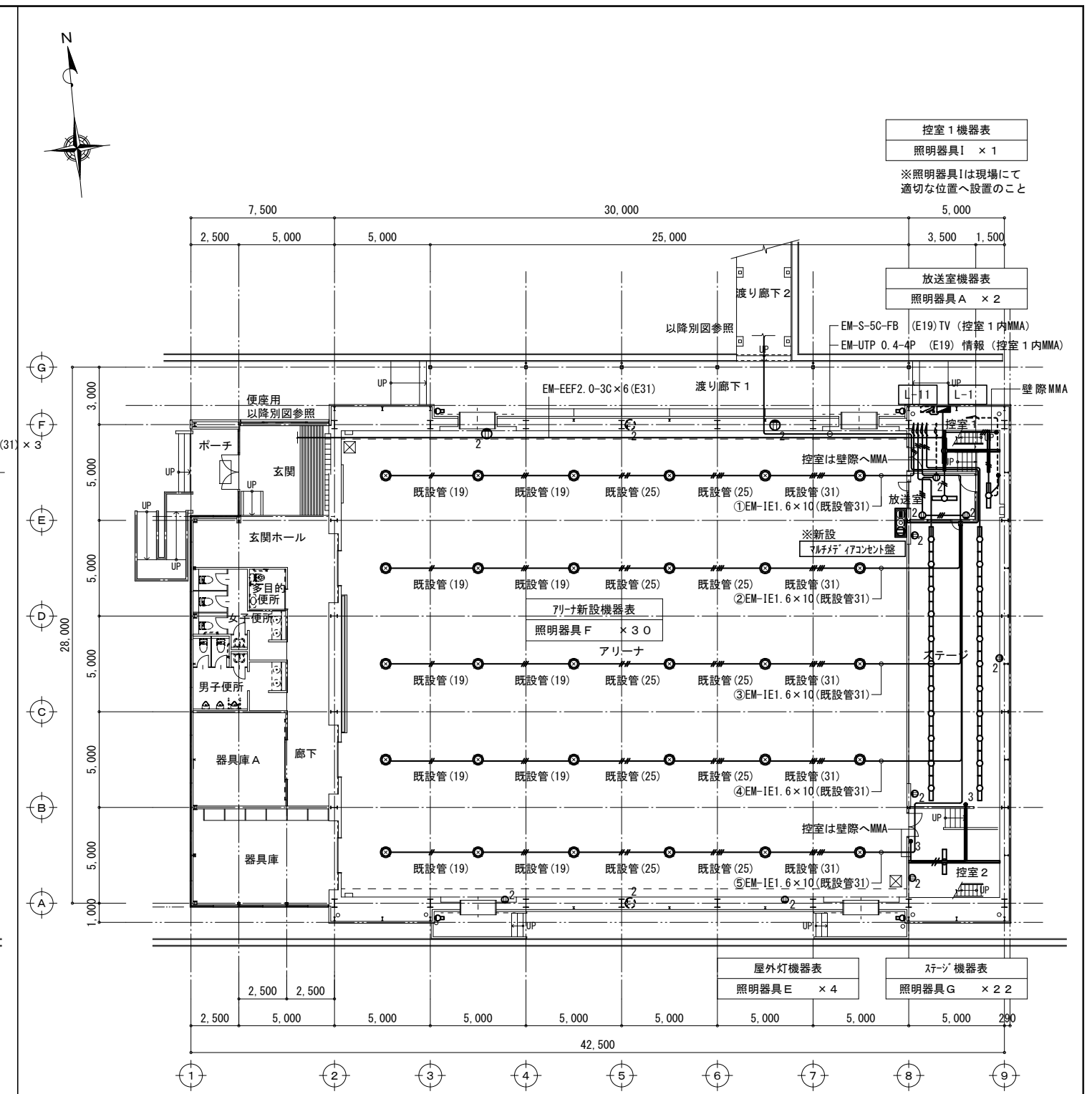




改修前 1階平面図 S=1/200

(特記事項)	
2. 凡例	✕: 配管・配線、照明器具、配線器具 撤去を表す。(再使用なし)
2. 撤去照明器具	
A	MF 400W × 30
⊖	コンセント 4P20A
⊖ ₂	コンセント 2P15A×2
●	スイッチ 1P15A×1
●	スイッチ 3W15A×1
●	スイッチ 1P15A×1 IPL
⊖	プラグ付120V×1 NP
⊖WP	防水コンセント 1P15A×1

※ 配管は残し、配線のみ撤去とする



改修後 1階平面図 S=1/200

(特記事項)	
1. 特記なき配管・配線は下記による。	
—	EM-IE2. 0×2 (既設配管)
—	EM-IE2. 0×2 E1. 6 (既設配管)
—	EM-IE2. 0×2 E1. 6 (既設配管)
—	EM-IE2. 0×2 E1. 6 (既設配管)
—	EM-IE2. 0×2 E1. 6 (既設配管)
—	EM-IE2. 0×2 E1. 6 (既設配管)
□	プルボックス 200×200×100
□	マルチメディアコンセント

※ コンセント及びスイッチは新設とし配線・配管は残置とする
他の凡例は既設同様とする

2ET (マルチメディアコンセント盤) マルチメディアコンセント盤、銅板製、壁掛埋込型
※コンセント、直列ユニット、情報通信コネクタを収容。
盤面に、「避難時情報端末ボックス」の表示を行なうこと。

控室1機器表
照明器具I × 1

※照明器具Iは現場にて適切な位置へ設置のこと

放送室機器表
照明器具A × 2

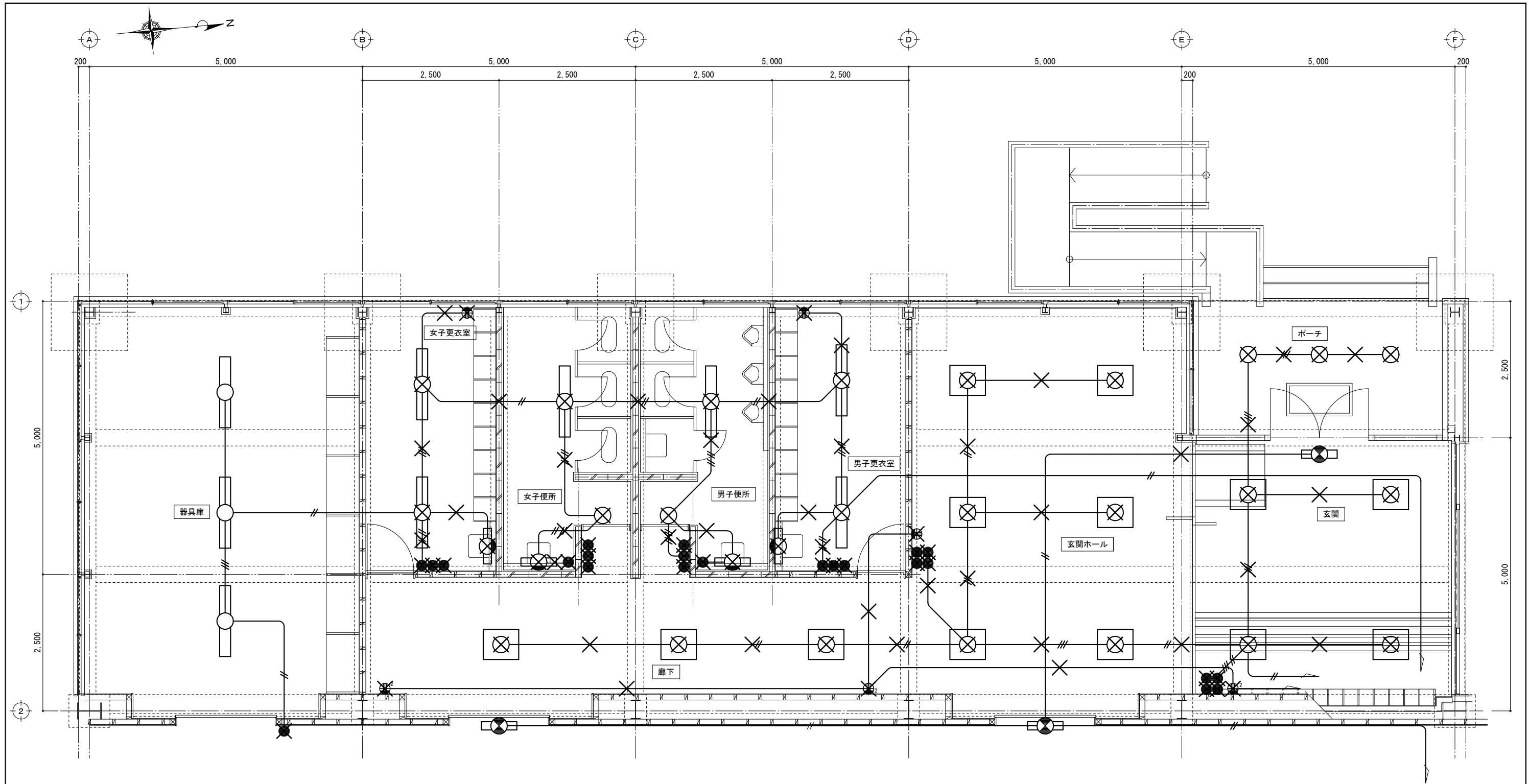
EM-S-5C-FB (E19)TV (控室1内MMA)
EM-UTP 0.4-4P (E19)情報 (控室1内MMA)

屋外灯機器表
照明器具E × 4

ｽﾀｰｼﾞ機器表
照明器具G × 2

控室2機器表
照明器具I × 1

※照明器具Iは現場にて適切な位置へ設置のこと



(特記事項)

1. 特記なき配管・配線は下記による。

	1. 6x2	(PF14)
	1. 6x3	(PF14)
	1. 6x4	(PF16)
	1. 6x5	(PF16)
	1. 6x6	(PF22)

2. 凡例

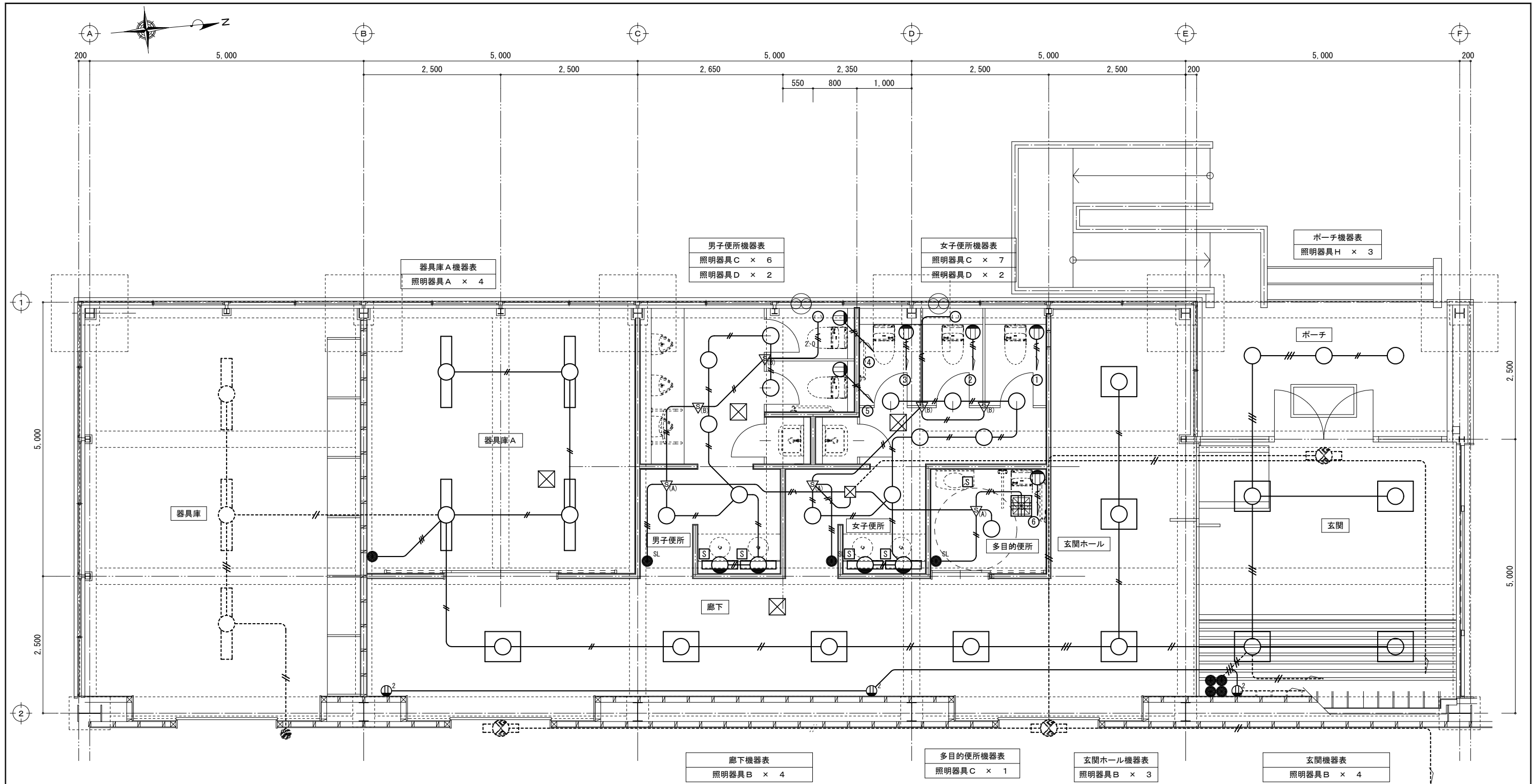
	配線、照明・配線器具撤去を表す。(再使用なし)
	誘導灯
	FL 40Wx1
	FL 20Wx4
	IL 60Wx1
	コンセント 1P15Ax1
	コンセント 1P15Ax2
	ブラケット 20Wx1

撤去機器表

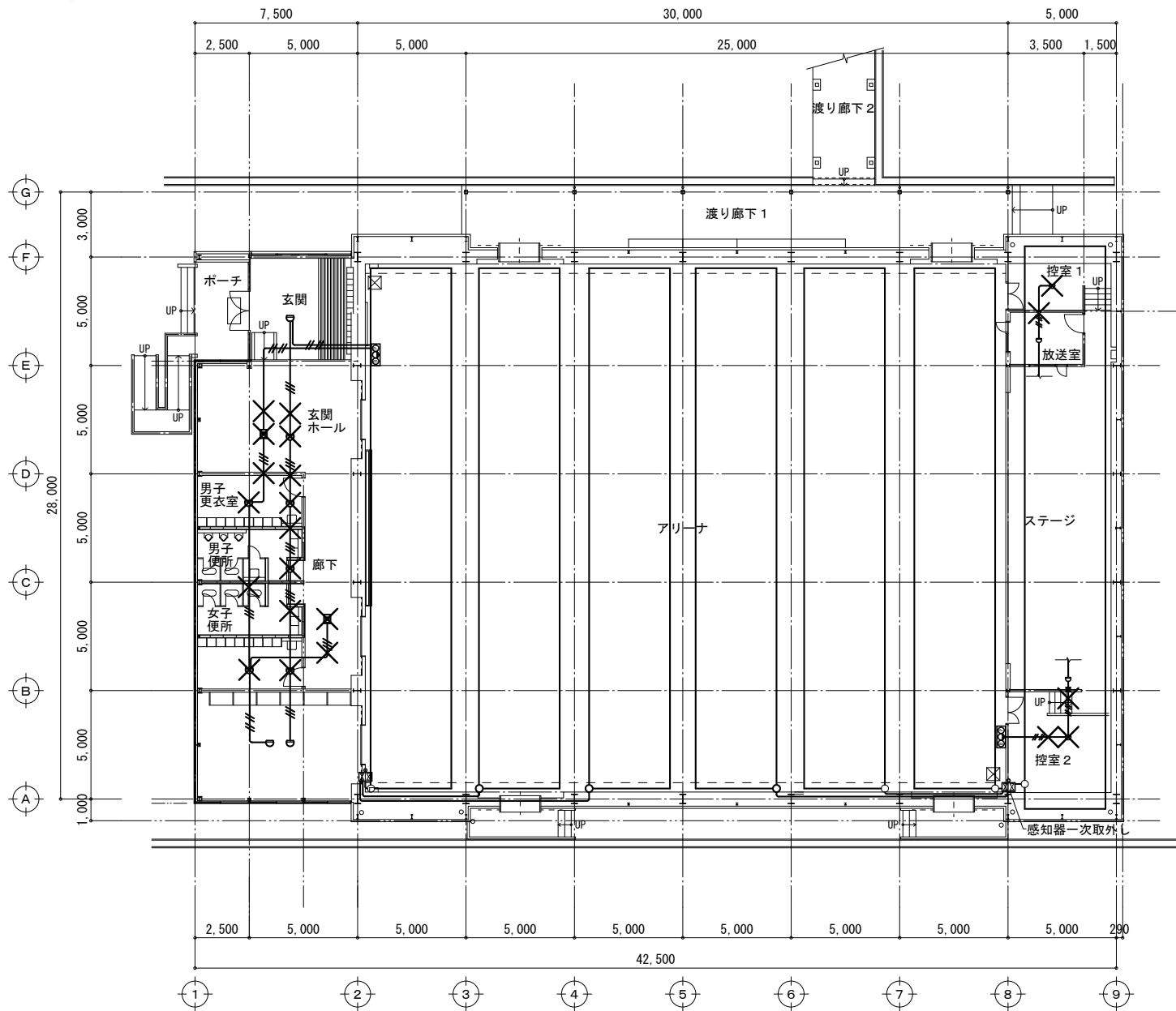
FL 20x4	x 13
誘導灯 中型	x 1
IL 60W	x 5
逆富士 FL 40W	x 6
FL 20W x (ブラケット)	x 4

CHECK	DESIGN	DRAW

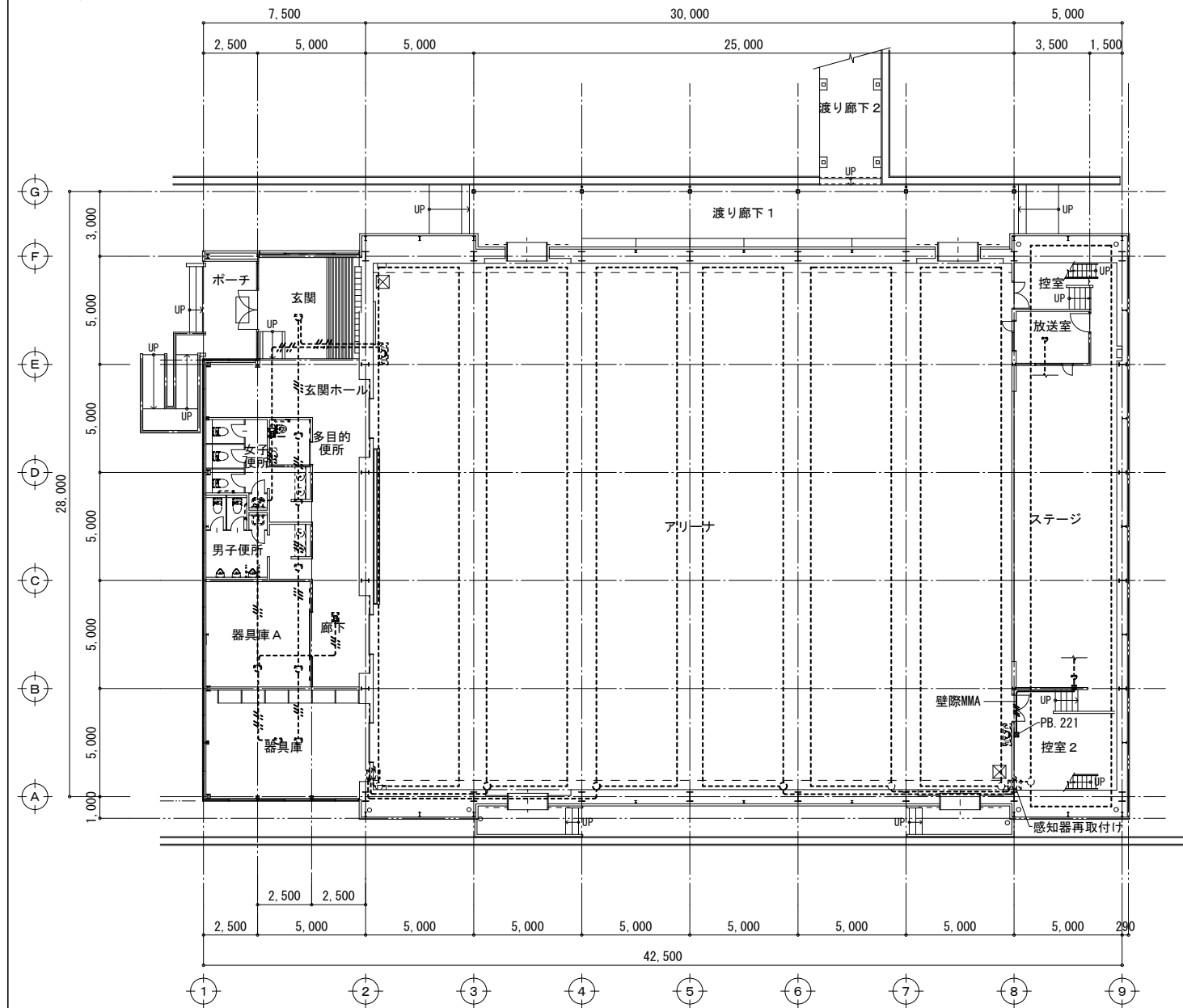
SCALE	1/50
DATE	'16.11



(特記事項)	
1. 特記なき配管・配線は下記による。	2. 凡例
EM-EEF1. 6-2C (PF16)	LED誘導灯B継天井直付型
EM-EEF1. 6-2C E1. 6 (PF16)	人感センサー親機
EM-EEF2. 0-2C E1. 6 (PF16)	人感センサー子機
1. 6×2 (PF14) 既設	埋込コンセント 2P15A×1
1. 6×3 (PF14) 既設	埋込コンセント 2P15A×1 E付
1. 6×4 (PF16) 既設	埋込コンセント 2P15A×2
1. 6×5 (PF16) 既設	センサー操作スイッチ
1. 6×6 (PF22) 既設	タンブラスイッチ 1P15A×1
	メタルモール (MM1)
	ブルボックス200×200×100
	自動水栓 (電源はブラケットからとする。)
	天井点検口 450角 (建築工事)



改修前 1階平面図 S=1/200




改修後 1階平面図 S=1/200


(特記事項)

- 特記なき配管・配線は下記による。

	HP 1. 2x3	(25)
	HP 1. 2x4	(25)
- 凡例

	: 配管、照明、配線器具撤去を表す。
	: 煙感知器
	: 定温式感知器

<p>工事名称 <u>可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事</u></p> <p style="text-align: center;">機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書</p> <p>I 工事概要</p> <p>1 工事場所</p> <p>2 建物概要</p> <table border="1" data-bbox="172 310 1003 499"> <tr> <th>建物名称</th> <th>構造及び階数</th> <th>延面積 (㎡)</th> <th>消法令の適用</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>屋内運動場</td> <td>S造 2階建</td> <td>1,180.02m²</td> <td>別表第1(7)項</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>別表第1()項</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>別表第1()項</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>別表第1()項</td> <td></td> </tr> </table> <p>3 工事種目 (○印のついた設備工事一式を適用する)</p> <table border="1" data-bbox="172 531 1003 1081"> <tr> <th rowspan="2">工事種目</th> <th colspan="5">工 事 種 別</th> </tr> <tr> <th>屋内運動場</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <td>空気調和設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>換気設備</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>衛生器具設備</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋内給水設備</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外給水設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋内排水設備</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外排水設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>消火設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>給湯設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガス設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>し尿浄化槽設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>さく井設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>厨房機器設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>4 設備概要 (○印をつけたものが該当項目となる)</p> <table border="1" data-bbox="172 1192 1003 1701"> <tr> <th>方式及び種類</th> <th colspan="2"></th> </tr> <tr> <td>・ 空調方式</td> <td>空気調和</td> <td>・ ダクト方式 ・ パッケージ方式 ・ ファンコイルダクト方式</td> </tr> <tr> <td>・ 暖房方式</td> <td>温風暖房</td> <td>・ ダクト方式</td> </tr> <tr> <td>・ 自動制御方式</td> <td>・ 電気式</td> <td>・ 空気式 ・ 電子式</td> </tr> <tr> <td>○ 給水方式</td> <td>・ 水道直結方式</td> <td>○ 高置水槽方式 ・ 圧力タンク方式 (・ 市水 ・ 井水)</td> </tr> <tr> <td>○ 排水方式</td> <td>建物内汚水、雑排水 (○ 分流 ・ 合流) 建物外放流先 汚水 (○ 直放流下水管 ・ し尿浄化槽) 雑排水 (○ 直放流下水管 ・ 合併処理槽 ・ 側溝)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 消火設備の種類</td> <td>・ 屋内消火栓設備</td> <td>・ スプリンクラー設備 ・ 泡消火設備 ・ 連結散水設備 ・ 粉末消火設備 ・ 連結送水管設備 ・ 屋外消火栓設備</td> </tr> <tr> <td>・ ガスの種類</td> <td>・ 都市ガス</td> <td>・ 液化石油ガス (発熱量: 46,000 KJ/m³ KJ/kg)</td> </tr> </table>	建物名称	構造及び階数	延面積 (㎡)	消法令の適用	備考	屋内運動場	S造 2階建	1,180.02m ²	別表第1(7)項					別表第1()項					別表第1()項					別表第1()項		工事種目	工 事 種 別					屋内運動場					空気調和設備						換気設備	○					衛生器具設備	○					屋内給水設備	○					屋外給水設備						屋内排水設備	○					屋外排水設備						消火設備						給湯設備						ガス設備						し尿浄化槽設備						さく井設備						厨房機器設備						方式及び種類			・ 空調方式	空気調和	・ ダクト方式 ・ パッケージ方式 ・ ファンコイルダクト方式	・ 暖房方式	温風暖房	・ ダクト方式	・ 自動制御方式	・ 電気式	・ 空気式 ・ 電子式	○ 給水方式	・ 水道直結方式	○ 高置水槽方式 ・ 圧力タンク方式 (・ 市水 ・ 井水)	○ 排水方式	建物内汚水、雑排水 (○ 分流 ・ 合流) 建物外放流先 汚水 (○ 直放流下水管 ・ し尿浄化槽) 雑排水 (○ 直放流下水管 ・ 合併処理槽 ・ 側溝)		・ 消火設備の種類	・ 屋内消火栓設備	・ スプリンクラー設備 ・ 泡消火設備 ・ 連結散水設備 ・ 粉末消火設備 ・ 連結送水管設備 ・ 屋外消火栓設備	・ ガスの種類	・ 都市ガス	・ 液化石油ガス (発熱量: 46,000 KJ/m ³ KJ/kg)	<p>II 工事仕様</p> <p>1 共通仕様</p> <p>図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編 最新版)、公共建築設備工事標準図(機械設備工事編 最新版)及び監督職員の指示による。 ○ 可児市建設工事共通仕様書(可児市HPにて閲覧可)</p> <p>2 特記仕様</p> <p>項目は、番号に○印のついたものを適用する。特記事項は、無印あるいは○印のついたものを適用する。</p> <table border="1" data-bbox="1009 268 1958 1921"> <tr> <th>分類</th> <th>項 目</th> <th>特 記 事 項</th> </tr> <tr> <td rowspan="22">一 般 共 通 事 項</td> <td>① 主任技術者等</td> <td>○ 適用する (・ 1級管工事施工管理技師 ・ 2級管工事施工管理技師) ・ 適用しない</td> </tr> <tr> <td>② 技能士の適用</td> <td>○ 配管 (建築配管作業) ・ 熱熱緑施工 ・ 冷凍空調機器施工 ・ 建築板金 (ダクト板金作業)</td> </tr> <tr> <td>③ 工事中電力・水・その他</td> <td>本工事に必要な工事中電力、水及び諸手続き等の費用は、すべて請負者の負担とする。</td> </tr> <tr> <td>④ 工事中仮設物</td> <td>構内につくることが ○ できる ・ できない</td> </tr> <tr> <td>⑤ 残土処分</td> <td>○ 構外搬出適切処理 ・ 構内指示の場所に敷きならし</td> </tr> <tr> <td>⑥ 埋め戻し土</td> <td>・ 標準仕様書による ○ 根切り土の中の良質土 ・ 山砂の類</td> </tr> <tr> <td>7 使用砕石</td> <td>埋設配管の敷き砕石、樹類の下部砕石は、再生砕石を使用する。</td> </tr> <tr> <td>8 アスファルト舗装</td> <td>透水性舗装を除いて、アスファルト混合剤は再生アスファルトとする。</td> </tr> <tr> <td>9 コンクリートの調合</td> <td>大型重量機器の基礎等に用いるコンクリート強度は、温度補正と割増し3N/mm²を適用する。</td> </tr> <tr> <td>⑩ 発生材の処理</td> <td>監督職員の指示により適切に処理する。</td> </tr> <tr> <td>⑪ 完成図書・その他</td> <td>建築工事仕様書による。</td> </tr> <tr> <td>⑫ 完成写真及び工程写真</td> <td>建築工事仕様書による。</td> </tr> <tr> <td>13 測定表</td> <td>温度、湿度、風量などの測定表を提出する。ただし測定箇所などは監督職員の指示による。</td> </tr> <tr> <td>⑭ 容量等の表示</td> <td>機器類の能力、容量等は原則として表示された数値以上とする。 電動機出力等は原則として表示された数値以下とする。ただし電動機で図面に表示された数値未満のものを使用する場合は、10%以上余裕を持ったものとする。 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所の「建築設備耐震設計施工指針」(2005年版)によるほか下記による計算書を監督職員に提出する。 a 適用範囲 100kg を超える機械設備機器 b 地震力 設計用水平地震力は、工事監理指針耐震施工に準拠するものとする。施設区分は下記とする。なお、耐震施工上の地域係数は1とする。 施設区分 ・ 特定施設 ・ 一般の施設 c 重要度の高い設備機器 ・ 水槽類 ・ 消火機器 ・ 給水機器 なお、水槽は特記無い限り重要設備機器とする。 d その他 振れ止め施工については、上記以外についても手で触れて揺れない程度に全ての配管、機器について実施する。</td> </tr> <tr> <td>16 スリーブ</td> <td>水室を要するスリーブは、鍍付鋼管スリーブとするも鋼管にリングスリーブ2本でも可</td> </tr> <tr> <td>17 防振吊り金物及び防振支持金物</td> <td>次の配管には防振吊り金物 (・ シングル ・ ダブル) 又は、防振支持金物を設ける。ただし、屋外及び地下ビット内等を除く。 口径 65A 以上の配管 (・ 冷温水 ・ 冷却水 ・ 揚水) 次に示す配管 建物導入配管 (給水、消火、ガス) は、変位吸収配管による。 a 合成樹脂管配線 合成樹脂製可とう管 (PF管) 及び付属品はサイズ 22mm 迄のものを使用する。なお、PF管は、波付き1重管とする。 位置ボックス類は、原則としてビニール製とするも、床位置ボックスは鋼製とし接地を施すものとする。又金属製ボックス類は、全て絶縁ワックスを塗布する。 b スラブ配管 スラブ配管はサイズ 25mm 以下に限り認める。 c 電線本数・管路など 分電盤、制御盤、端子盤などの二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管路などは、監督職員の承諾を受けて図面表示と多少相違しても差し支えない。 d 呼 び 線 長さ 1m 以上の入線しない電線管には、1.2 mm 以上のビニル被覆鉄線を挿入する。 e 最上階の埋込配管 最上階の天井スラブへの埋込配管は、原則として避けるものとする。</td> </tr> <tr> <td>18 建物導入部の施工</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19 電線及び電線管等</td> <td>表面径 100mm のアルミ製 設置範囲 (・ 標準仕様書による ・ 図示部分) a 特記のない弁は、JIS 10Kとする。 b 油系に使用する弁は、JIS 10K (マレプル弁等)とする。 c 水道直結給水配管系に使用する弁は、JIS 10Kとする。 ライニング鋼管の配管に取付ける弁は、ライニング弁を、 ・ 使用する ・ 使用しない</td> </tr> <tr> <td>20 地中埋設標</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑰ 弁の耐圧</td> <td></td> </tr> <tr> <td>22 鋳鉄製弁類</td> <td></td> </tr> </table>	分類	項 目	特 記 事 項	一 般 共 通 事 項	① 主任技術者等	○ 適用する (・ 1級管工事施工管理技師 ・ 2級管工事施工管理技師) ・ 適用しない	② 技能士の適用	○ 配管 (建築配管作業) ・ 熱熱緑施工 ・ 冷凍空調機器施工 ・ 建築板金 (ダクト板金作業)	③ 工事中電力・水・その他	本工事に必要な工事中電力、水及び諸手続き等の費用は、すべて請負者の負担とする。	④ 工事中仮設物	構内につくることが ○ できる ・ できない	⑤ 残土処分	○ 構外搬出適切処理 ・ 構内指示の場所に敷きならし	⑥ 埋め戻し土	・ 標準仕様書による ○ 根切り土の中の良質土 ・ 山砂の類	7 使用砕石	埋設配管の敷き砕石、樹類の下部砕石は、再生砕石を使用する。	8 アスファルト舗装	透水性舗装を除いて、アスファルト混合剤は再生アスファルトとする。	9 コンクリートの調合	大型重量機器の基礎等に用いるコンクリート強度は、温度補正と割増し3N/mm ² を適用する。	⑩ 発生材の処理	監督職員の指示により適切に処理する。	⑪ 完成図書・その他	建築工事仕様書による。	⑫ 完成写真及び工程写真	建築工事仕様書による。	13 測定表	温度、湿度、風量などの測定表を提出する。ただし測定箇所などは監督職員の指示による。	⑭ 容量等の表示	機器類の能力、容量等は原則として表示された数値以上とする。 電動機出力等は原則として表示された数値以下とする。ただし電動機で図面に表示された数値未満のものを使用する場合は、10%以上余裕を持ったものとする。 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所の「建築設備耐震設計施工指針」(2005年版)によるほか下記による計算書を監督職員に提出する。 a 適用範囲 100kg を超える機械設備機器 b 地震力 設計用水平地震力は、工事監理指針耐震施工に準拠するものとする。施設区分は下記とする。なお、耐震施工上の地域係数は1とする。 施設区分 ・ 特定施設 ・ 一般の施設 c 重要度の高い設備機器 ・ 水槽類 ・ 消火機器 ・ 給水機器 なお、水槽は特記無い限り重要設備機器とする。 d その他 振れ止め施工については、上記以外についても手で触れて揺れない程度に全ての配管、機器について実施する。	16 スリーブ	水室を要するスリーブは、鍍付鋼管スリーブとするも鋼管にリングスリーブ2本でも可	17 防振吊り金物及び防振支持金物	次の配管には防振吊り金物 (・ シングル ・ ダブル) 又は、防振支持金物を設ける。ただし、屋外及び地下ビット内等を除く。 口径 65A 以上の配管 (・ 冷温水 ・ 冷却水 ・ 揚水) 次に示す配管 建物導入配管 (給水、消火、ガス) は、変位吸収配管による。 a 合成樹脂管配線 合成樹脂製可とう管 (PF管) 及び付属品はサイズ 22mm 迄のものを使用する。なお、PF管は、波付き1重管とする。 位置ボックス類は、原則としてビニール製とするも、床位置ボックスは鋼製とし接地を施すものとする。又金属製ボックス類は、全て絶縁ワックスを塗布する。 b スラブ配管 スラブ配管はサイズ 25mm 以下に限り認める。 c 電線本数・管路など 分電盤、制御盤、端子盤などの二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管路などは、監督職員の承諾を受けて図面表示と多少相違しても差し支えない。 d 呼 び 線 長さ 1m 以上の入線しない電線管には、1.2 mm 以上のビニル被覆鉄線を挿入する。 e 最上階の埋込配管 最上階の天井スラブへの埋込配管は、原則として避けるものとする。	18 建物導入部の施工		19 電線及び電線管等	表面径 100mm のアルミ製 設置範囲 (・ 標準仕様書による ・ 図示部分) a 特記のない弁は、JIS 10Kとする。 b 油系に使用する弁は、JIS 10K (マレプル弁等)とする。 c 水道直結給水配管系に使用する弁は、JIS 10Kとする。 ライニング鋼管の配管に取付ける弁は、ライニング弁を、 ・ 使用する ・ 使用しない	20 地中埋設標		⑰ 弁の耐圧		22 鋳鉄製弁類		<table border="1" data-bbox="1958 65 2899 2026"> <tr> <th>分類</th> <th>項 目</th> <th>特 記 事 項</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">一 般 共 通 事 項</td> <td>23 防振継手</td> <td>合成ゴム製 (円筒形使用の場合の全長は、下記による) 呼称 80A 以下は、300mm 以上とする。 呼称100A 以上 125A 以下は、400mm 以上とする。 呼称150A 以上 250A 以下は、500mm 以上とする。 土中埋設の鋼管類 (油配管を除く) の防食材は、 (・ 防食用プライマー ・ ペトロラタム系 ・ ブチルゴム系) とする。</td> </tr> <tr> <td>24 防食処置</td> <td>a 保温材 GW又は、RW保温筒 室内に△印を付した部屋は、天井材を貼らない部屋を示す。 車輛通路では、管の上端より 600mm 以上とする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">空 気 調 和 設 備</td> <td>⑳ 保温工事 ㉑ 天井仕上げ区分 ㉒ 地中配管埋設深さ</td> <td>a 保温材 GW又は、RW保温筒 室内に△印を付した部屋は、天井材を貼らない部屋を示す。 車輛通路では、管の上端より 600mm 以上とする。</td> </tr> <tr> <td>28 水質検査 (11項目) ㉓ 引渡し後の検査</td> <td>受水槽室、給食室、上水道引込工事、給水本管 (40A以上) 工事では実施する。 引渡し後の検査時期は下記により、請負者は検査に立会うものとする。 ○引渡し 1年後 ・ 引渡し 2年後</td> </tr> <tr> <td rowspan="15">空 気 調 和 設 備</td> <td>1 設計条件 (調整目標値)</td> <td> <table border="1" data-bbox="2300 499 2834 604"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">屋 外</th> <th colspan="2">屋 内</th> </tr> <tr> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> <tr> <td>夏 期</td> <td>36.6 °C</td> <td>51.8 %</td> <td>26.0 °C</td> <td>50.0 %</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>0.2 °C</td> <td>56.5 %</td> <td>22.0 °C</td> <td>40.0 %</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>2 パッケージ形空調和機</td> <td>a 電気ヒーター (KW 以上) を組込む場合は、送風機に残留運転回路を設ける。 b 冷暖房の能力は、JIS B 8616による表示とする。 c 冷媒管の保温は、国土交通省仕様による。ただし屋外露出部分は、○ ステンレス鋼板 ・ 亜鉛鍍金鋼板) 屋内露出部分は、(・ ステンレス鋼板 ・ 着色亜鉛鍍金鋼板) によりラッキングを行う。 d 圧縮機用電動機の合計出力が KW未満は、すべて製造者の標準仕様による。 ・ 設ける ・ 設けない (口径 80A 以上) ・ 設けない ・ 設ける (口径 80A 以上) ・ ステンレス鋼板製 (SUS-444) ・ 鋼板製 指示計は、屋内と屋外に設ける。 矩形ダクトは、(・ アンゲ'フランジ'工法 ・ 共板'フランジ'工法 ・ スライド'フランジ'工法) による低圧ダクトとする。但し、共板'フランジ'工法、スライド'フランジ'工法の使用範囲は'外'長辺1,500mm 以下とする。 a 空調和機の吸込側及び吐出側に接続するチャンバーの板厚は、1.2mm以上とする。図示されたチャンバーには、寸法 (・ 約 400x500H ・ 約 500x600H) の点検口を設ける。内貼りを施すチャンパー等の表示寸法は、外法寸法とする。 b 隠蔽ダクトのフランジ部 (補強を含む) はフランジ高さ10mmまで保温施工する。アネモ形吹出口接続用ボックスは、吹出口のネック径 200mm 以下は、約400×400×250H、200mm を超えるものは、約500×500×300Hとする。 ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 a 外気取入ダクトのうち暖房室、浴室及び厨房内を通るダクトは、保温を行う。復帰操作 (・ 遠隔式 ・ 手元式) ・ 設ける (検出部と指示部一体) ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td>3 煤煙濃度計</td> <td>・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td>4 煤じん量測定口</td> <td>・ 設けない ・ 設ける (口径 80A 以上)</td> </tr> <tr> <td>5 膨張タンク</td> <td>・ ステンレス鋼板製 (SUS-444) ・ 鋼板製</td> </tr> <tr> <td>6 遠隔油量指示計</td> <td>指示計は、屋内と屋外に設ける。</td> </tr> <tr> <td>7 ダクト</td> <td>矩形ダクトは、(・ アンゲ'フランジ'工法 ・ 共板'フランジ'工法 ・ スライド'フランジ'工法) による低圧ダクトとする。但し、共板'フランジ'工法、スライド'フランジ'工法の使用範囲は'外'長辺1,500mm 以下とする。 a 空調和機の吸込側及び吐出側に接続するチャンパーの板厚は、1.2mm以上とする。図示されたチャンパーには、寸法 (・ 約 400x500H ・ 約 500x600H) の点検口を設ける。内貼りを施すチャンパー等の表示寸法は、外法寸法とする。 b 隠蔽ダクトのフランジ部 (補強を含む) はフランジ高さ10mmまで保温施工する。アネモ形吹出口接続用ボックスは、吹出口のネック径 200mm 以下は、約400×400×250H、200mm を超えるものは、約500×500×300Hとする。 ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 a 外気取入ダクトのうち暖房室、浴室及び厨房内を通るダクトは、保温を行う。復帰操作 (・ 遠隔式 ・ 手元式) ・ 設ける (検出部と指示部一体) ・ 設けない</td> </tr> <tr> <td>8 チャンパー等</td> <td>取付箇所は、次による。 ユニット形空調和機 ・ 冷温水ポンプ ・ 冷却水ポンプ ヘッダーの各送り管 ヘッダーの各送り管 指示部を着脱可能なタイプを設ける。(取付箇所は、図示による) 瞬間流量計を設けない場合は、ビトー管式流量計用タッピングのみを設ける。 取付箇所は前記による。</td> </tr> <tr> <td>9 吹出口、吸込口</td> <td>温水ボイラー及びヘッダー (往、還) の温度計は、入口側のみを取付ける。 温度計は円形又はL形とし円形温度計の場合は、パイメタル式とし目盛板外径は、100mmとする。 設ける (・ 標準仕様書による ・ 図示による)</td> </tr> <tr> <td>10 保温</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 ビストンダンパー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 瞬間流量計</td> <td>瞬間流量計を設けない場合は、ビトー管式流量計用タッピングのみを設ける。 取付箇所は前記による。</td> </tr> <tr> <td>13 温度計</td> <td>温水ボイラー及びヘッダー (往、還) の温度計は、入口側のみを取付ける。 温度計は円形又はL形とし円形温度計の場合は、パイメタル式とし目盛板外径は、100mmとする。 設ける (・ 標準仕様書による ・ 図示による)</td> </tr> <tr> <td>14 圧力計</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 空調機器の電動機出力</td> <td>空調機器の圧縮機、ファン用電動機出力は、空調機基本仕様 (空調能力、送風量等) を満足すれば設計仕様と異なっても可能とする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">換 気 設 備</td> <td>1 ダクト</td> <td>空気調和設備の7項による。</td> </tr> <tr> <td>2 吹出口、吸込口</td> <td>空気調和設備の9項による。</td> </tr> <tr> <td>3 ビストンダンパー</td> <td>空気調和設備の11項による。</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">衛 生 器 具 設 備</td> <td>① 大便器洗浄弁</td> <td>節水機構を有する洗浄弁を (○ 使用する ・ 使用しない)</td> </tr> <tr> <td>2 ずみ付ロータンク</td> <td>防露タイプのロータンクを (・ 使用する ・ 使用しない)</td> </tr> <tr> <td>③ 小便器洗浄管</td> <td>○ 埋込配管とする。 ・ 露出配管とする。</td> </tr> <tr> <td>④ 掃除流し</td> <td>排水口は、(○ 目皿 ・ 鎖付き共栓) とする。</td> </tr> <tr> <td>⑤ 水栓</td> <td>水栓 (器具付風水栓を含む) は、 (○ 節水コマ ・ 吊りコマ ・ 普通コマ) とする。</td> </tr> <tr> <td>6 耐火カバー</td> <td>防火区画を貫通する大便器は耐火カバーを取付ける。</td> </tr> </table>	分類	項 目	特 記 事 項	一 般 共 通 事 項	23 防振継手	合成ゴム製 (円筒形使用の場合の全長は、下記による) 呼称 80A 以下は、300mm 以上とする。 呼称100A 以上 125A 以下は、400mm 以上とする。 呼称150A 以上 250A 以下は、500mm 以上とする。 土中埋設の鋼管類 (油配管を除く) の防食材は、 (・ 防食用プライマー ・ ペトロラタム系 ・ ブチルゴム系) とする。	24 防食処置	a 保温材 GW又は、RW保温筒 室内に△印を付した部屋は、天井材を貼らない部屋を示す。 車輛通路では、管の上端より 600mm 以上とする。	空 気 調 和 設 備	⑳ 保温工事 ㉑ 天井仕上げ区分 ㉒ 地中配管埋設深さ	a 保温材 GW又は、RW保温筒 室内に△印を付した部屋は、天井材を貼らない部屋を示す。 車輛通路では、管の上端より 600mm 以上とする。	28 水質検査 (11項目) ㉓ 引渡し後の検査	受水槽室、給食室、上水道引込工事、給水本管 (40A以上) 工事では実施する。 引渡し後の検査時期は下記により、請負者は検査に立会うものとする。 ○引渡し 1年後 ・ 引渡し 2年後	空 気 調 和 設 備	1 設計条件 (調整目標値)	<table border="1" data-bbox="2300 499 2834 604"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">屋 外</th> <th colspan="2">屋 内</th> </tr> <tr> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> <tr> <td>夏 期</td> <td>36.6 °C</td> <td>51.8 %</td> <td>26.0 °C</td> <td>50.0 %</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>0.2 °C</td> <td>56.5 %</td> <td>22.0 °C</td> <td>40.0 %</td> </tr> </table>		屋 外		屋 内		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏 期	36.6 °C	51.8 %	26.0 °C	50.0 %	冬 期	0.2 °C	56.5 %	22.0 °C	40.0 %	2 パッケージ形空調和機	a 電気ヒーター (KW 以上) を組込む場合は、送風機に残留運転回路を設ける。 b 冷暖房の能力は、JIS B 8616による表示とする。 c 冷媒管の保温は、国土交通省仕様による。ただし屋外露出部分は、○ ステンレス鋼板 ・ 亜鉛鍍金鋼板) 屋内露出部分は、(・ ステンレス鋼板 ・ 着色亜鉛鍍金鋼板) によりラッキングを行う。 d 圧縮機用電動機の合計出力が KW未満は、すべて製造者の標準仕様による。 ・ 設ける ・ 設けない (口径 80A 以上) ・ 設けない ・ 設ける (口径 80A 以上) ・ ステンレス鋼板製 (SUS-444) ・ 鋼板製 指示計は、屋内と屋外に設ける。 矩形ダクトは、(・ アンゲ'フランジ'工法 ・ 共板'フランジ'工法 ・ スライド'フランジ'工法) による低圧ダクトとする。但し、共板'フランジ'工法、スライド'フランジ'工法の使用範囲は'外'長辺1,500mm 以下とする。 a 空調和機の吸込側及び吐出側に接続するチャンバーの板厚は、1.2mm以上とする。図示されたチャンバーには、寸法 (・ 約 400x500H ・ 約 500x600H) の点検口を設ける。内貼りを施すチャンパー等の表示寸法は、外法寸法とする。 b 隠蔽ダクトのフランジ部 (補強を含む) はフランジ高さ10mmまで保温施工する。アネモ形吹出口接続用ボックスは、吹出口のネック径 200mm 以下は、約400×400×250H、200mm を超えるものは、約500×500×300Hとする。 ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 a 外気取入ダクトのうち暖房室、浴室及び厨房内を通るダクトは、保温を行う。復帰操作 (・ 遠隔式 ・ 手元式) ・ 設ける (検出部と指示部一体) ・ 設けない	3 煤煙濃度計	・ 設ける ・ 設けない	4 煤じん量測定口	・ 設けない ・ 設ける (口径 80A 以上)	5 膨張タンク	・ ステンレス鋼板製 (SUS-444) ・ 鋼板製	6 遠隔油量指示計	指示計は、屋内と屋外に設ける。	7 ダクト	矩形ダクトは、(・ アンゲ'フランジ'工法 ・ 共板'フランジ'工法 ・ スライド'フランジ'工法) による低圧ダクトとする。但し、共板'フランジ'工法、スライド'フランジ'工法の使用範囲は'外'長辺1,500mm 以下とする。 a 空調和機の吸込側及び吐出側に接続するチャンパーの板厚は、1.2mm以上とする。図示されたチャンパーには、寸法 (・ 約 400x500H ・ 約 500x600H) の点検口を設ける。内貼りを施すチャンパー等の表示寸法は、外法寸法とする。 b 隠蔽ダクトのフランジ部 (補強を含む) はフランジ高さ10mmまで保温施工する。アネモ形吹出口接続用ボックスは、吹出口のネック径 200mm 以下は、約400×400×250H、200mm を超えるものは、約500×500×300Hとする。 ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 a 外気取入ダクトのうち暖房室、浴室及び厨房内を通るダクトは、保温を行う。復帰操作 (・ 遠隔式 ・ 手元式) ・ 設ける (検出部と指示部一体) ・ 設けない	8 チャンパー等	取付箇所は、次による。 ユニット形空調和機 ・ 冷温水ポンプ ・ 冷却水ポンプ ヘッダーの各送り管 ヘッダーの各送り管 指示部を着脱可能なタイプを設ける。(取付箇所は、図示による) 瞬間流量計を設けない場合は、ビトー管式流量計用タッピングのみを設ける。 取付箇所は前記による。	9 吹出口、吸込口	温水ボイラー及びヘッダー (往、還) の温度計は、入口側のみを取付ける。 温度計は円形又はL形とし円形温度計の場合は、パイメタル式とし目盛板外径は、100mmとする。 設ける (・ 標準仕様書による ・ 図示による)	10 保温		11 ビストンダンパー		12 瞬間流量計	瞬間流量計を設けない場合は、ビトー管式流量計用タッピングのみを設ける。 取付箇所は前記による。	13 温度計	温水ボイラー及びヘッダー (往、還) の温度計は、入口側のみを取付ける。 温度計は円形又はL形とし円形温度計の場合は、パイメタル式とし目盛板外径は、100mmとする。 設ける (・ 標準仕様書による ・ 図示による)	14 圧力計		15 空調機器の電動機出力	空調機器の圧縮機、ファン用電動機出力は、空調機基本仕様 (空調能力、送風量等) を満足すれば設計仕様と異なっても可能とする。	換 気 設 備	1 ダクト	空気調和設備の7項による。	2 吹出口、吸込口	空気調和設備の9項による。	3 ビストンダンパー	空気調和設備の11項による。	衛 生 器 具 設 備	① 大便器洗浄弁	節水機構を有する洗浄弁を (○ 使用する ・ 使用しない)	2 ずみ付ロータンク	防露タイプのロータンクを (・ 使用する ・ 使用しない)	③ 小便器洗浄管	○ 埋込配管とする。 ・ 露出配管とする。	④ 掃除流し	排水口は、(○ 目皿 ・ 鎖付き共栓) とする。	⑤ 水栓	水栓 (器具付風水栓を含む) は、 (○ 節水コマ ・ 吊りコマ ・ 普通コマ) とする。	6 耐火カバー	防火区画を貫通する大便器は耐火カバーを取付ける。
建物名称	構造及び階数	延面積 (㎡)	消法令の適用	備考																																																																																																																																																																																																																																																																									
屋内運動場	S造 2階建	1,180.02m ²	別表第1(7)項																																																																																																																																																																																																																																																																										
			別表第1()項																																																																																																																																																																																																																																																																										
			別表第1()項																																																																																																																																																																																																																																																																										
			別表第1()項																																																																																																																																																																																																																																																																										
工事種目	工 事 種 別																																																																																																																																																																																																																																																																												
	屋内運動場																																																																																																																																																																																																																																																																												
空気調和設備																																																																																																																																																																																																																																																																													
換気設備	○																																																																																																																																																																																																																																																																												
衛生器具設備	○																																																																																																																																																																																																																																																																												
屋内給水設備	○																																																																																																																																																																																																																																																																												
屋外給水設備																																																																																																																																																																																																																																																																													
屋内排水設備	○																																																																																																																																																																																																																																																																												
屋外排水設備																																																																																																																																																																																																																																																																													
消火設備																																																																																																																																																																																																																																																																													
給湯設備																																																																																																																																																																																																																																																																													
ガス設備																																																																																																																																																																																																																																																																													
し尿浄化槽設備																																																																																																																																																																																																																																																																													
さく井設備																																																																																																																																																																																																																																																																													
厨房機器設備																																																																																																																																																																																																																																																																													
方式及び種類																																																																																																																																																																																																																																																																													
・ 空調方式	空気調和	・ ダクト方式 ・ パッケージ方式 ・ ファンコイルダクト方式																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ 暖房方式	温風暖房	・ ダクト方式																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ 自動制御方式	・ 電気式	・ 空気式 ・ 電子式																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 給水方式	・ 水道直結方式	○ 高置水槽方式 ・ 圧力タンク方式 (・ 市水 ・ 井水)																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ 排水方式	建物内汚水、雑排水 (○ 分流 ・ 合流) 建物外放流先 汚水 (○ 直放流下水管 ・ し尿浄化槽) 雑排水 (○ 直放流下水管 ・ 合併処理槽 ・ 側溝)																																																																																																																																																																																																																																																																												
・ 消火設備の種類	・ 屋内消火栓設備	・ スプリンクラー設備 ・ 泡消火設備 ・ 連結散水設備 ・ 粉末消火設備 ・ 連結送水管設備 ・ 屋外消火栓設備																																																																																																																																																																																																																																																																											
・ ガスの種類	・ 都市ガス	・ 液化石油ガス (発熱量: 46,000 KJ/m ³ KJ/kg)																																																																																																																																																																																																																																																																											
分類	項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																																																											
一 般 共 通 事 項	① 主任技術者等	○ 適用する (・ 1級管工事施工管理技師 ・ 2級管工事施工管理技師) ・ 適用しない																																																																																																																																																																																																																																																																											
	② 技能士の適用	○ 配管 (建築配管作業) ・ 熱熱緑施工 ・ 冷凍空調機器施工 ・ 建築板金 (ダクト板金作業)																																																																																																																																																																																																																																																																											
	③ 工事中電力・水・その他	本工事に必要な工事中電力、水及び諸手続き等の費用は、すべて請負者の負担とする。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	④ 工事中仮設物	構内につくることが ○ できる ・ できない																																																																																																																																																																																																																																																																											
	⑤ 残土処分	○ 構外搬出適切処理 ・ 構内指示の場所に敷きならし																																																																																																																																																																																																																																																																											
	⑥ 埋め戻し土	・ 標準仕様書による ○ 根切り土の中の良質土 ・ 山砂の類																																																																																																																																																																																																																																																																											
	7 使用砕石	埋設配管の敷き砕石、樹類の下部砕石は、再生砕石を使用する。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	8 アスファルト舗装	透水性舗装を除いて、アスファルト混合剤は再生アスファルトとする。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	9 コンクリートの調合	大型重量機器の基礎等に用いるコンクリート強度は、温度補正と割増し3N/mm ² を適用する。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	⑩ 発生材の処理	監督職員の指示により適切に処理する。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	⑪ 完成図書・その他	建築工事仕様書による。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	⑫ 完成写真及び工程写真	建築工事仕様書による。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	13 測定表	温度、湿度、風量などの測定表を提出する。ただし測定箇所などは監督職員の指示による。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	⑭ 容量等の表示	機器類の能力、容量等は原則として表示された数値以上とする。 電動機出力等は原則として表示された数値以下とする。ただし電動機で図面に表示された数値未満のものを使用する場合は、10%以上余裕を持ったものとする。 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所の「建築設備耐震設計施工指針」(2005年版)によるほか下記による計算書を監督職員に提出する。 a 適用範囲 100kg を超える機械設備機器 b 地震力 設計用水平地震力は、工事監理指針耐震施工に準拠するものとする。施設区分は下記とする。なお、耐震施工上の地域係数は1とする。 施設区分 ・ 特定施設 ・ 一般の施設 c 重要度の高い設備機器 ・ 水槽類 ・ 消火機器 ・ 給水機器 なお、水槽は特記無い限り重要設備機器とする。 d その他 振れ止め施工については、上記以外についても手で触れて揺れない程度に全ての配管、機器について実施する。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	16 スリーブ	水室を要するスリーブは、鍍付鋼管スリーブとするも鋼管にリングスリーブ2本でも可																																																																																																																																																																																																																																																																											
	17 防振吊り金物及び防振支持金物	次の配管には防振吊り金物 (・ シングル ・ ダブル) 又は、防振支持金物を設ける。ただし、屋外及び地下ビット内等を除く。 口径 65A 以上の配管 (・ 冷温水 ・ 冷却水 ・ 揚水) 次に示す配管 建物導入配管 (給水、消火、ガス) は、変位吸収配管による。 a 合成樹脂管配線 合成樹脂製可とう管 (PF管) 及び付属品はサイズ 22mm 迄のものを使用する。なお、PF管は、波付き1重管とする。 位置ボックス類は、原則としてビニール製とするも、床位置ボックスは鋼製とし接地を施すものとする。又金属製ボックス類は、全て絶縁ワックスを塗布する。 b スラブ配管 スラブ配管はサイズ 25mm 以下に限り認める。 c 電線本数・管路など 分電盤、制御盤、端子盤などの二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管路などは、監督職員の承諾を受けて図面表示と多少相違しても差し支えない。 d 呼 び 線 長さ 1m 以上の入線しない電線管には、1.2 mm 以上のビニル被覆鉄線を挿入する。 e 最上階の埋込配管 最上階の天井スラブへの埋込配管は、原則として避けるものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	18 建物導入部の施工																																																																																																																																																																																																																																																																												
	19 電線及び電線管等	表面径 100mm のアルミ製 設置範囲 (・ 標準仕様書による ・ 図示部分) a 特記のない弁は、JIS 10Kとする。 b 油系に使用する弁は、JIS 10K (マレプル弁等)とする。 c 水道直結給水配管系に使用する弁は、JIS 10Kとする。 ライニング鋼管の配管に取付ける弁は、ライニング弁を、 ・ 使用する ・ 使用しない																																																																																																																																																																																																																																																																											
	20 地中埋設標																																																																																																																																																																																																																																																																												
	⑰ 弁の耐圧																																																																																																																																																																																																																																																																												
	22 鋳鉄製弁類																																																																																																																																																																																																																																																																												
	分類	項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																																																										
一 般 共 通 事 項	23 防振継手	合成ゴム製 (円筒形使用の場合の全長は、下記による) 呼称 80A 以下は、300mm 以上とする。 呼称100A 以上 125A 以下は、400mm 以上とする。 呼称150A 以上 250A 以下は、500mm 以上とする。 土中埋設の鋼管類 (油配管を除く) の防食材は、 (・ 防食用プライマー ・ ペトロラタム系 ・ ブチルゴム系) とする。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	24 防食処置	a 保温材 GW又は、RW保温筒 室内に△印を付した部屋は、天井材を貼らない部屋を示す。 車輛通路では、管の上端より 600mm 以上とする。																																																																																																																																																																																																																																																																											
空 気 調 和 設 備	⑳ 保温工事 ㉑ 天井仕上げ区分 ㉒ 地中配管埋設深さ	a 保温材 GW又は、RW保温筒 室内に△印を付した部屋は、天井材を貼らない部屋を示す。 車輛通路では、管の上端より 600mm 以上とする。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	28 水質検査 (11項目) ㉓ 引渡し後の検査	受水槽室、給食室、上水道引込工事、給水本管 (40A以上) 工事では実施する。 引渡し後の検査時期は下記により、請負者は検査に立会うものとする。 ○引渡し 1年後 ・ 引渡し 2年後																																																																																																																																																																																																																																																																											
空 気 調 和 設 備	1 設計条件 (調整目標値)	<table border="1" data-bbox="2300 499 2834 604"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">屋 外</th> <th colspan="2">屋 内</th> </tr> <tr> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> <tr> <td>夏 期</td> <td>36.6 °C</td> <td>51.8 %</td> <td>26.0 °C</td> <td>50.0 %</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>0.2 °C</td> <td>56.5 %</td> <td>22.0 °C</td> <td>40.0 %</td> </tr> </table>		屋 外		屋 内		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏 期	36.6 °C	51.8 %	26.0 °C	50.0 %	冬 期	0.2 °C	56.5 %	22.0 °C	40.0 %																																																																																																																																																																																																																																																								
		屋 外		屋 内																																																																																																																																																																																																																																																																									
		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																																																																																																																																																																																																																																																																								
	夏 期	36.6 °C	51.8 %	26.0 °C	50.0 %																																																																																																																																																																																																																																																																								
	冬 期	0.2 °C	56.5 %	22.0 °C	40.0 %																																																																																																																																																																																																																																																																								
	2 パッケージ形空調和機	a 電気ヒーター (KW 以上) を組込む場合は、送風機に残留運転回路を設ける。 b 冷暖房の能力は、JIS B 8616による表示とする。 c 冷媒管の保温は、国土交通省仕様による。ただし屋外露出部分は、○ ステンレス鋼板 ・ 亜鉛鍍金鋼板) 屋内露出部分は、(・ ステンレス鋼板 ・ 着色亜鉛鍍金鋼板) によりラッキングを行う。 d 圧縮機用電動機の合計出力が KW未満は、すべて製造者の標準仕様による。 ・ 設ける ・ 設けない (口径 80A 以上) ・ 設けない ・ 設ける (口径 80A 以上) ・ ステンレス鋼板製 (SUS-444) ・ 鋼板製 指示計は、屋内と屋外に設ける。 矩形ダクトは、(・ アンゲ'フランジ'工法 ・ 共板'フランジ'工法 ・ スライド'フランジ'工法) による低圧ダクトとする。但し、共板'フランジ'工法、スライド'フランジ'工法の使用範囲は'外'長辺1,500mm 以下とする。 a 空調和機の吸込側及び吐出側に接続するチャンバーの板厚は、1.2mm以上とする。図示されたチャンバーには、寸法 (・ 約 400x500H ・ 約 500x600H) の点検口を設ける。内貼りを施すチャンパー等の表示寸法は、外法寸法とする。 b 隠蔽ダクトのフランジ部 (補強を含む) はフランジ高さ10mmまで保温施工する。アネモ形吹出口接続用ボックスは、吹出口のネック径 200mm 以下は、約400×400×250H、200mm を超えるものは、約500×500×300Hとする。 ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 a 外気取入ダクトのうち暖房室、浴室及び厨房内を通るダクトは、保温を行う。復帰操作 (・ 遠隔式 ・ 手元式) ・ 設ける (検出部と指示部一体) ・ 設けない																																																																																																																																																																																																																																																																											
	3 煤煙濃度計	・ 設ける ・ 設けない																																																																																																																																																																																																																																																																											
	4 煤じん量測定口	・ 設けない ・ 設ける (口径 80A 以上)																																																																																																																																																																																																																																																																											
	5 膨張タンク	・ ステンレス鋼板製 (SUS-444) ・ 鋼板製																																																																																																																																																																																																																																																																											
	6 遠隔油量指示計	指示計は、屋内と屋外に設ける。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	7 ダクト	矩形ダクトは、(・ アンゲ'フランジ'工法 ・ 共板'フランジ'工法 ・ スライド'フランジ'工法) による低圧ダクトとする。但し、共板'フランジ'工法、スライド'フランジ'工法の使用範囲は'外'長辺1,500mm 以下とする。 a 空調和機の吸込側及び吐出側に接続するチャンパーの板厚は、1.2mm以上とする。図示されたチャンパーには、寸法 (・ 約 400x500H ・ 約 500x600H) の点検口を設ける。内貼りを施すチャンパー等の表示寸法は、外法寸法とする。 b 隠蔽ダクトのフランジ部 (補強を含む) はフランジ高さ10mmまで保温施工する。アネモ形吹出口接続用ボックスは、吹出口のネック径 200mm 以下は、約400×400×250H、200mm を超えるものは、約500×500×300Hとする。 ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 a 外気取入ダクトのうち暖房室、浴室及び厨房内を通るダクトは、保温を行う。復帰操作 (・ 遠隔式 ・ 手元式) ・ 設ける (検出部と指示部一体) ・ 設けない																																																																																																																																																																																																																																																																											
	8 チャンパー等	取付箇所は、次による。 ユニット形空調和機 ・ 冷温水ポンプ ・ 冷却水ポンプ ヘッダーの各送り管 ヘッダーの各送り管 指示部を着脱可能なタイプを設ける。(取付箇所は、図示による) 瞬間流量計を設けない場合は、ビトー管式流量計用タッピングのみを設ける。 取付箇所は前記による。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	9 吹出口、吸込口	温水ボイラー及びヘッダー (往、還) の温度計は、入口側のみを取付ける。 温度計は円形又はL形とし円形温度計の場合は、パイメタル式とし目盛板外径は、100mmとする。 設ける (・ 標準仕様書による ・ 図示による)																																																																																																																																																																																																																																																																											
	10 保温																																																																																																																																																																																																																																																																												
	11 ビストンダンパー																																																																																																																																																																																																																																																																												
12 瞬間流量計	瞬間流量計を設けない場合は、ビトー管式流量計用タッピングのみを設ける。 取付箇所は前記による。																																																																																																																																																																																																																																																																												
13 温度計	温水ボイラー及びヘッダー (往、還) の温度計は、入口側のみを取付ける。 温度計は円形又はL形とし円形温度計の場合は、パイメタル式とし目盛板外径は、100mmとする。 設ける (・ 標準仕様書による ・ 図示による)																																																																																																																																																																																																																																																																												
14 圧力計																																																																																																																																																																																																																																																																													
15 空調機器の電動機出力	空調機器の圧縮機、ファン用電動機出力は、空調機基本仕様 (空調能力、送風量等) を満足すれば設計仕様と異なっても可能とする。																																																																																																																																																																																																																																																																												
換 気 設 備	1 ダクト	空気調和設備の7項による。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	2 吹出口、吸込口	空気調和設備の9項による。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	3 ビストンダンパー	空気調和設備の11項による。																																																																																																																																																																																																																																																																											
衛 生 器 具 設 備	① 大便器洗浄弁	節水機構を有する洗浄弁を (○ 使用する ・ 使用しない)																																																																																																																																																																																																																																																																											
	2 ずみ付ロータンク	防露タイプのロータンクを (・ 使用する ・ 使用しない)																																																																																																																																																																																																																																																																											
	③ 小便器洗浄管	○ 埋込配管とする。 ・ 露出配管とする。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	④ 掃除流し	排水口は、(○ 目皿 ・ 鎖付き共栓) とする。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	⑤ 水栓	水栓 (器具付風水栓を含む) は、 (○ 節水コマ ・ 吊りコマ ・ 普通コマ) とする。																																																																																																																																																																																																																																																																											
	6 耐火カバー	防火区画を貫通する大便器は耐火カバーを取付ける。																																																																																																																																																																																																																																																																											
<p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>		 <p>株式会社 山田建築事務所</p> <p>YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士184560号 山田克弘</p>	<table border="1"> <tr> <td>CHECK</td> <td>DESIGN</td> <td>DRAW</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>SCALE</td> <td>NO SCALE</td> </tr> <tr> <td>DATE</td> <td>'16.11</td> </tr> </table>	CHECK	DESIGN	DRAW						SCALE	NO SCALE	DATE	'16.11	<p style="text-align: center;">可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事</p> <p style="text-align: center;">機械設備工事特記仕様書 (1)</p> <p style="text-align: right;">SHEET NO. M-01</p>																																																																																																																																																																																																																																																													
CHECK	DESIGN	DRAW																																																																																																																																																																																																																																																																											
SCALE	NO SCALE																																																																																																																																																																																																																																																																												
DATE	'16.11																																																																																																																																																																																																																																																																												

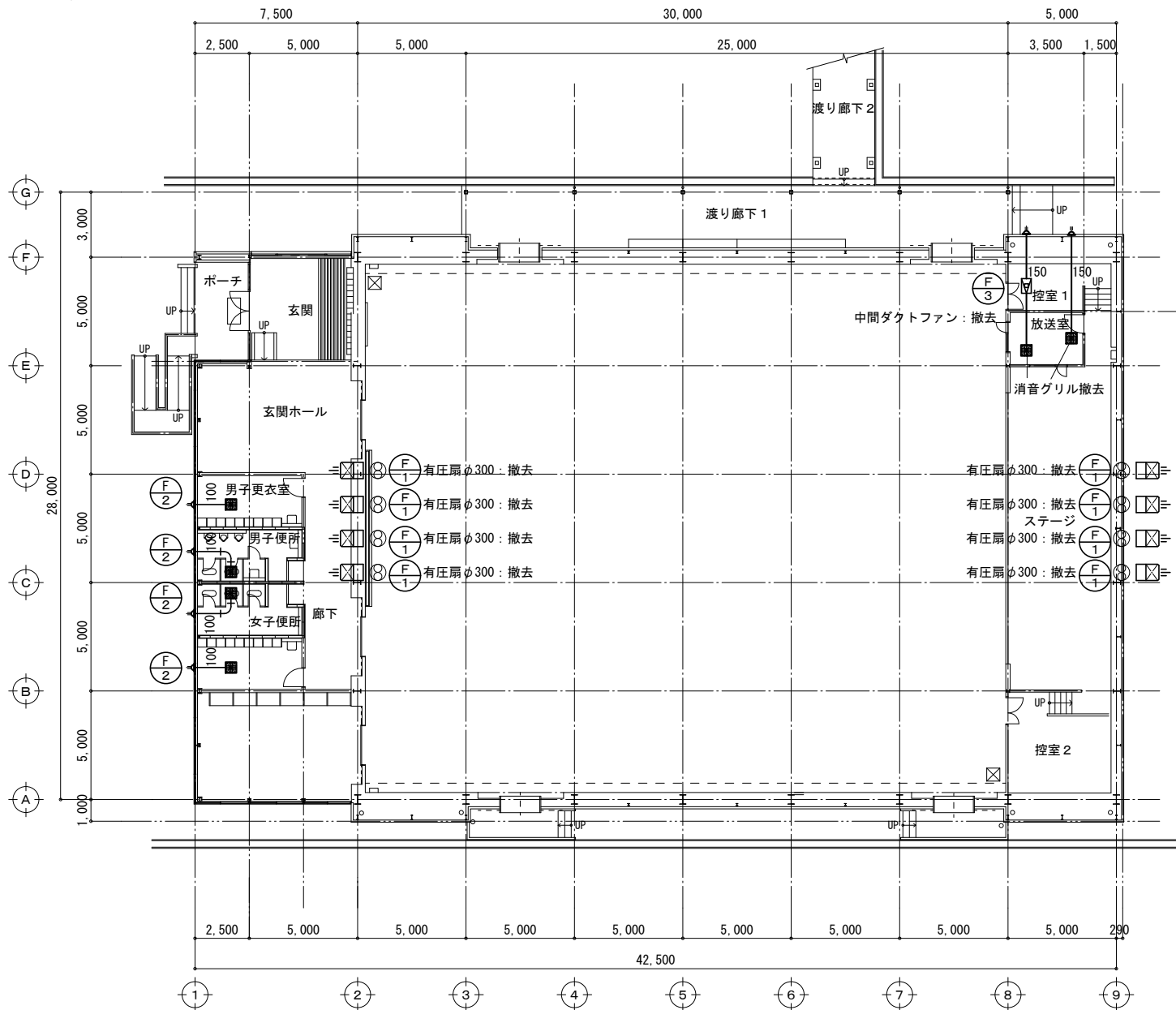
分類	特 記 事 項	分類	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																													
保 温 施 工 種 別	<p>表-7 保温施工種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>グラスウール・ロックウール保温筒</th> <th>鉄線</th> <th>ポリエチレンフィルム</th> <th>原紙</th> <th>綿布</th> <th>アルミガラスクロス</th> <th>防水麻布</th> <th>ステンレス鋼板</th> <th>着色亜鉛鉄板</th> <th>アスファルトプライマー</th> <th>粘着テープ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">給水・排水消火管 (膨張管共)</td> <td>屋内露出</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機械室、書庫、倉庫、トレンチ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天井、パイプシャフト内</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">冷温水管 (膨張管共)</td> <td>屋内露出</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機械室、書庫、倉庫、トレンチ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天井、パイプシャフト内</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">蒸気管</td> <td>屋内露出</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機械室、書庫、倉庫、トレンチ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天井、パイプシャフト内</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">冷媒管</td> <td>屋内露出</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機械室、書庫、倉庫、トレンチ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天井、パイプシャフト内</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注</p> <ol style="list-style-type: none"> △印は、図面特記により綿布に替えて着色亜鉛鉄板にて施工する場合を示し、原紙は不要。 保温筒+鉄線+アルミガラスクロスは、アルミガラスクロス付き保温筒+鉄線でも可能。 床下仕様のポリエチレンフィルム、防水麻布、アスファルトプライマーは、防湿性アルミガラスクロス(サンヨーバリア A L G C又は同等品)でも可能。 冷媒管の保温筒は、整形用のため保温筒厚さは特に規定しない。 蒸気管、温水管及び給湯管の弁、フランジは保温を実施する。 排水管は、屋外露出、1階床下の保温不要。 消火配管は、屋外及び屋内露出部分を保温する。 外部で地盤面から2m以内の保温材はフォームポリスチレンとする。 		グラスウール・ロックウール保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	原紙	綿布	アルミガラスクロス	防水麻布	ステンレス鋼板	着色亜鉛鉄板	アスファルトプライマー	粘着テープ	給水・排水消火管 (膨張管共)	屋内露出											機械室、書庫、倉庫、トレンチ	○	○		○							天井、パイプシャフト内											床下、暗渠内	○	○		○							屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)											冷温水管 (膨張管共)	屋内露出											機械室、書庫、倉庫、トレンチ											天井、パイプシャフト内											床下、暗渠内											屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)											蒸気管	屋内露出											機械室、書庫、倉庫、トレンチ											天井、パイプシャフト内											床下、暗渠内											屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)											冷媒管	屋内露出											機械室、書庫、倉庫、トレンチ											天井、パイプシャフト内											床下、暗渠内											屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)											使 用 管 材	<p>管材は ○ 印又は無印を使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 冷温水配管 <ul style="list-style-type: none"> 配管用炭素鋼鋼管(白)SGP 水道用亜鉛鍍金鋼管 SGPW 冷却水管 <ul style="list-style-type: none"> 水道用硬質塩化ビニル管(黒)鋼管 SGP-VB 配管用炭素鋼鋼管(白)SGP 水道用亜鉛鍍金鋼管 SGPW 蒸気管(往) 蒸気管(還) <ul style="list-style-type: none"> 配管用炭素鋼鋼管(黒) 圧力配管用炭素鋼鋼管(・STPG 370 ・Sch40) 油管 <ul style="list-style-type: none"> 配管用炭素鋼鋼管(黒) 冷媒管 <ul style="list-style-type: none"> 被覆鋼管とし国土交通省仕様 屋外給水管 <ul style="list-style-type: none"> 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管HIVP 揚水管 <ul style="list-style-type: none"> 水道用硬質塩化ビニル管(黒)鋼管 SGP-VB 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 SGP-PB 揚水管(埋設部) <ul style="list-style-type: none"> 水道用硬質塩化内外面ビニル管(黒)鋼管SGP-VD 屋内給水管 <ul style="list-style-type: none"> 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管SGP-PB ○ 水道用硬質塩化ビニル管(黒)鋼管 SGP-VB 屋内給水管(埋設) <ul style="list-style-type: none"> 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管HIVP 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管SGP-PD 給湯管 <ul style="list-style-type: none"> 一般配管用ステンレス鋼管 保温付被覆鋼管 被覆鋼管 水道用耐熱性硬質塩化ビニル管(黒)鋼管SGP-HVA(25A以下) 屋内消火管 <ul style="list-style-type: none"> 水道用亜鉛鍍金鋼管SGPW 埋設消火管 <ul style="list-style-type: none"> 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管SGP-VS 連結送水管 <ul style="list-style-type: none"> 圧力配管用炭素鋼鋼管STPG370 Sch40 屋外排水管 <ul style="list-style-type: none"> 硬質塩化ビニル管RF-VP 遠心力鉄筋コンクリート管(外圧管1種B型) 配管用炭素鋼鋼管(白)SGP 屋内排水管 <ul style="list-style-type: none"> 硬質塩化ビニル管VP 成形排水水鍍鉄管(・1種 ・2種) 配管用炭素鋼鋼管(白)SGP 繊維補強塩化ビニル二層管(耐火二層管) 高温水排水管 <ul style="list-style-type: none"> 配管用炭素鋼鋼管(白)SGP 屋外埋設ガス管 <ul style="list-style-type: none"> ガス用ポリエチレン管PE(都市ガス、LPガス共)。探査用電線を添わせて施工する。 屋内ガス管 <ul style="list-style-type: none"> 配管用炭素鋼鋼管(白)(都市ガス、LPガス共) 地下室内ガス管 <ul style="list-style-type: none"> 塩化ビニル被覆鋼管 ろ過配管 <ul style="list-style-type: none"> 水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HIVP) 	
	グラスウール・ロックウール保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	原紙	綿布	アルミガラスクロス	防水麻布	ステンレス鋼板	着色亜鉛鉄板	アスファルトプライマー	粘着テープ																																																																																																																																																																																																																																					
給水・排水消火管 (膨張管共)	屋内露出																																																																																																																																																																																																																																															
	機械室、書庫、倉庫、トレンチ	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																											
	天井、パイプシャフト内																																																																																																																																																																																																																																															
	床下、暗渠内	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																											
	屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)																																																																																																																																																																																																																																															
冷温水管 (膨張管共)	屋内露出																																																																																																																																																																																																																																															
	機械室、書庫、倉庫、トレンチ																																																																																																																																																																																																																																															
	天井、パイプシャフト内																																																																																																																																																																																																																																															
	床下、暗渠内																																																																																																																																																																																																																																															
	屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)																																																																																																																																																																																																																																															
蒸気管	屋内露出																																																																																																																																																																																																																																															
	機械室、書庫、倉庫、トレンチ																																																																																																																																																																																																																																															
	天井、パイプシャフト内																																																																																																																																																																																																																																															
	床下、暗渠内																																																																																																																																																																																																																																															
	屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)																																																																																																																																																																																																																																															
冷媒管	屋内露出																																																																																																																																																																																																																																															
	機械室、書庫、倉庫、トレンチ																																																																																																																																																																																																																																															
	天井、パイプシャフト内																																																																																																																																																																																																																																															
	床下、暗渠内																																																																																																																																																																																																																																															
	屋外露出(多湿箇所、浴室、厨房)																																																																																																																																																																																																																																															
完 成 図 の 書 式	<ol style="list-style-type: none"> 完成図のファイル形式 JWW, SFC 使用レイヤ(括弧内は、建築図主体の場合を示す。) <ul style="list-style-type: none"> レイヤ0 通り芯 レイヤ1 躯体 レイヤ2 建具 レイヤ3 間仕切り レイヤ4 仕上げ レイヤ5 インテリア レイヤ6 補助線 レイヤ7 文字 レイヤ8 その他 レイヤ9 指定無し レイヤ10 電気設備 レイヤ11 給排水設備 レイヤ12 空調設備 レイヤ13 指定無し レイヤ16 寸法線 レイヤ17 ハッチ 図面サイズ 原則的にはA2サイズとする。 																																																																																																																																																																																																																																															
	 株式会社 山田建築事務所 <small>YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士184560号 山田克弘</small>	<table border="1"> <tr> <td>CHECK</td> <td>DESIGN</td> <td>DRAW</td> <td></td> </tr> </table>	CHECK	DESIGN	DRAW		<table border="1"> <tr> <td>SCALE</td> <td>NO SCALE</td> </tr> <tr> <td>DATE</td> <td>'16.11</td> </tr> </table>	SCALE	NO SCALE	DATE	'16.11	<p>可児市立今渡北小学校屋内運動場大規模改造工事</p> <p>機械設備工事特記仕様書(3)</p>	<p>SHEET NO.</p> <p>M-03</p>																																																																																																																																																																																																																																			
CHECK	DESIGN	DRAW																																																																																																																																																																																																																																														
SCALE	NO SCALE																																																																																																																																																																																																																																															
DATE	'16.11																																																																																																																																																																																																																																															

衛生機器表

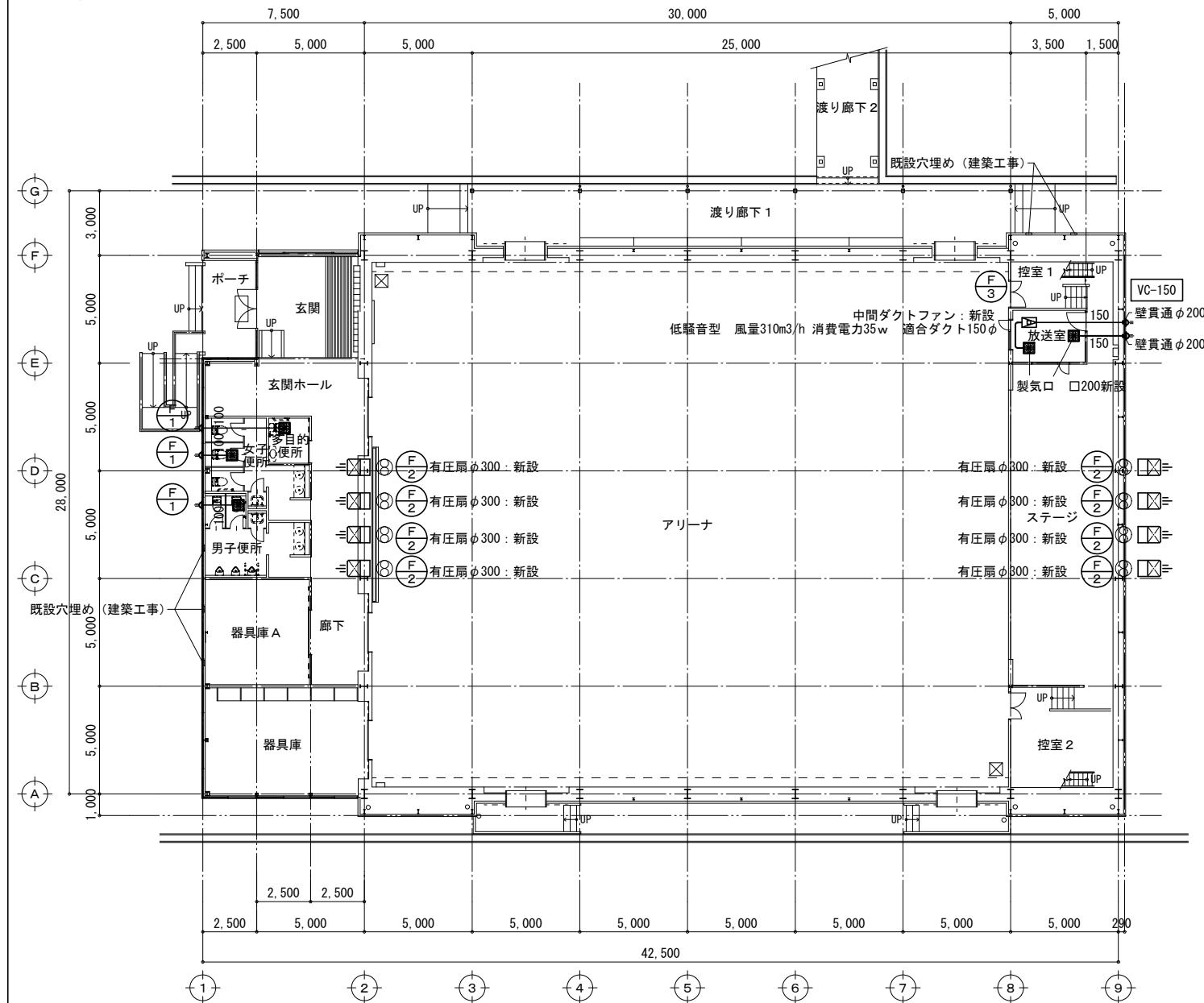
名称	品番	部材・付属品	多目的便所	女子便所	男子便所	合計	備考
洋風大便器	CS494	TV565P(壁給水FV) TCF4711(洗浄暖房便座) YH702(棚付二連紙巻器)その他付属品一式共	1	3	2	6	
L形手すり	T112CL12	固定金具共	1			1	
L型手すり	T112CL9	固定金具共		1	1	2	
跳上げ手すり	T112H7	T110D17S	1			1	
壁掛洗面器	L210CM	TENA22A(自動水栓) T6BMP TL4CFU TS126AR TL250D	1			1	
化粧鏡	YM4560F	450×600	1	2	2	5	
壁掛小便器	UFH500	TG600PN(FV) T9R			3	3	
小便器用手すり	T112CU2	固定金具共		1		1	
カウンター	ML50	L=1500 D=500 固定金具・フック共		1	1	2	
カウンター式洗面器	L530	TENA22A(自動水栓) T7PW1(トラップ) その他付属品一式共		2	2	4	
掃除流し	SK22A	T23AEQ20(給水栓) TN114(給水ホース) T9R(パッドハンガー) T37SGEP(ストラップ) その他付属品一式共	1	1		2	

新設換気機器表

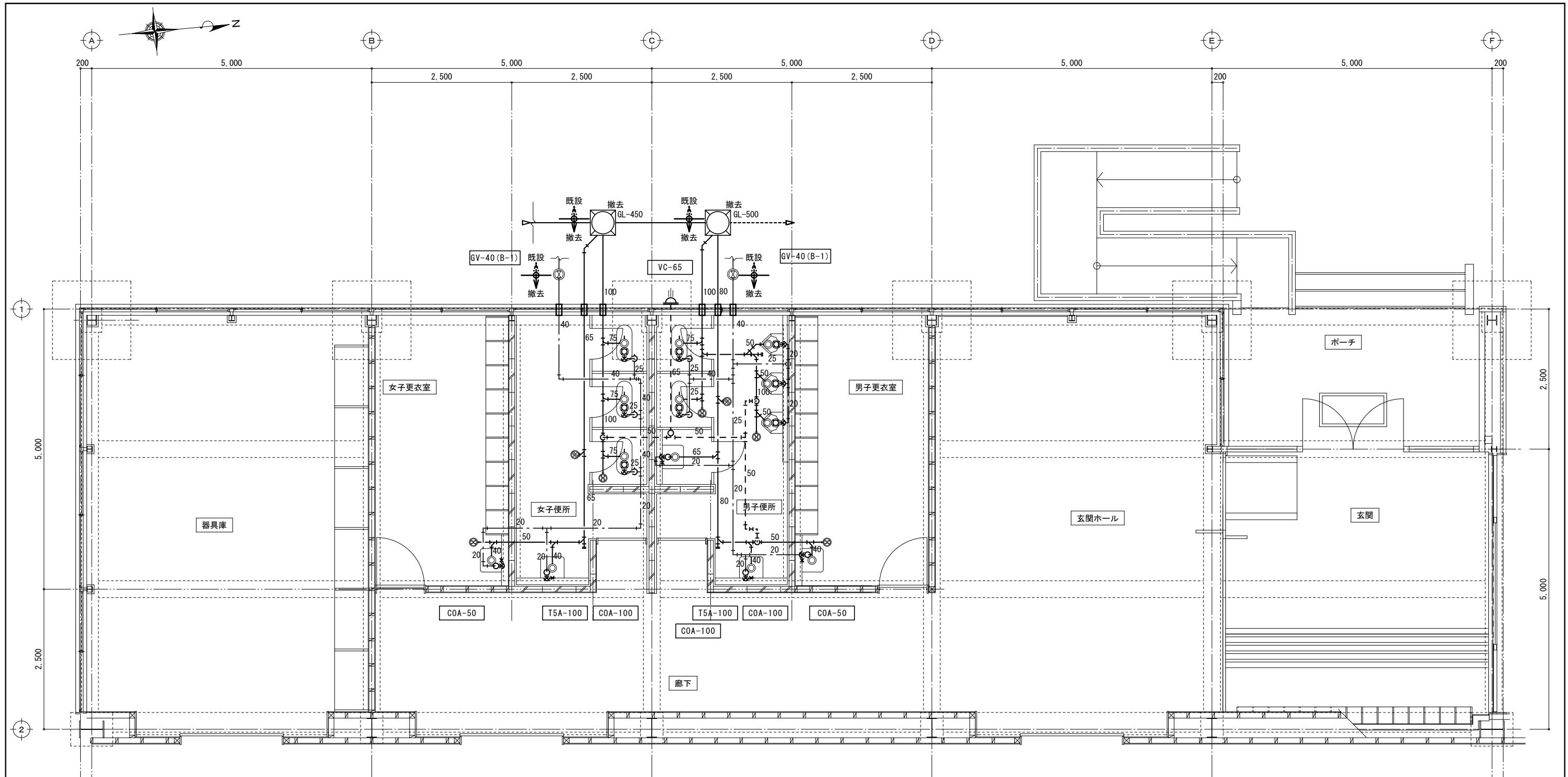
記号	名称	仕様/能力/付属品	数量	備考
F-1	天井扇	電源：単相100V 消費電力：16W 風量：175m ³ /h 口径：φ100 SUS製深形フード(防虫網付) 取付枠	3	
F-2	壁用換気扇	電源：三相200V 消費電力：65W 風量：1980m ³ /h 口径：φ300 SUS製ウエザガード(防虫網付) 取付枠	8	
F-3	中間ダクトファン	電源：単相100V 消費電力：38.5W 風量：310m ³ /h 適用パイプ150φ SUS製深形フード(防虫網付)	1	




改修前 1階平面図 S=1/200

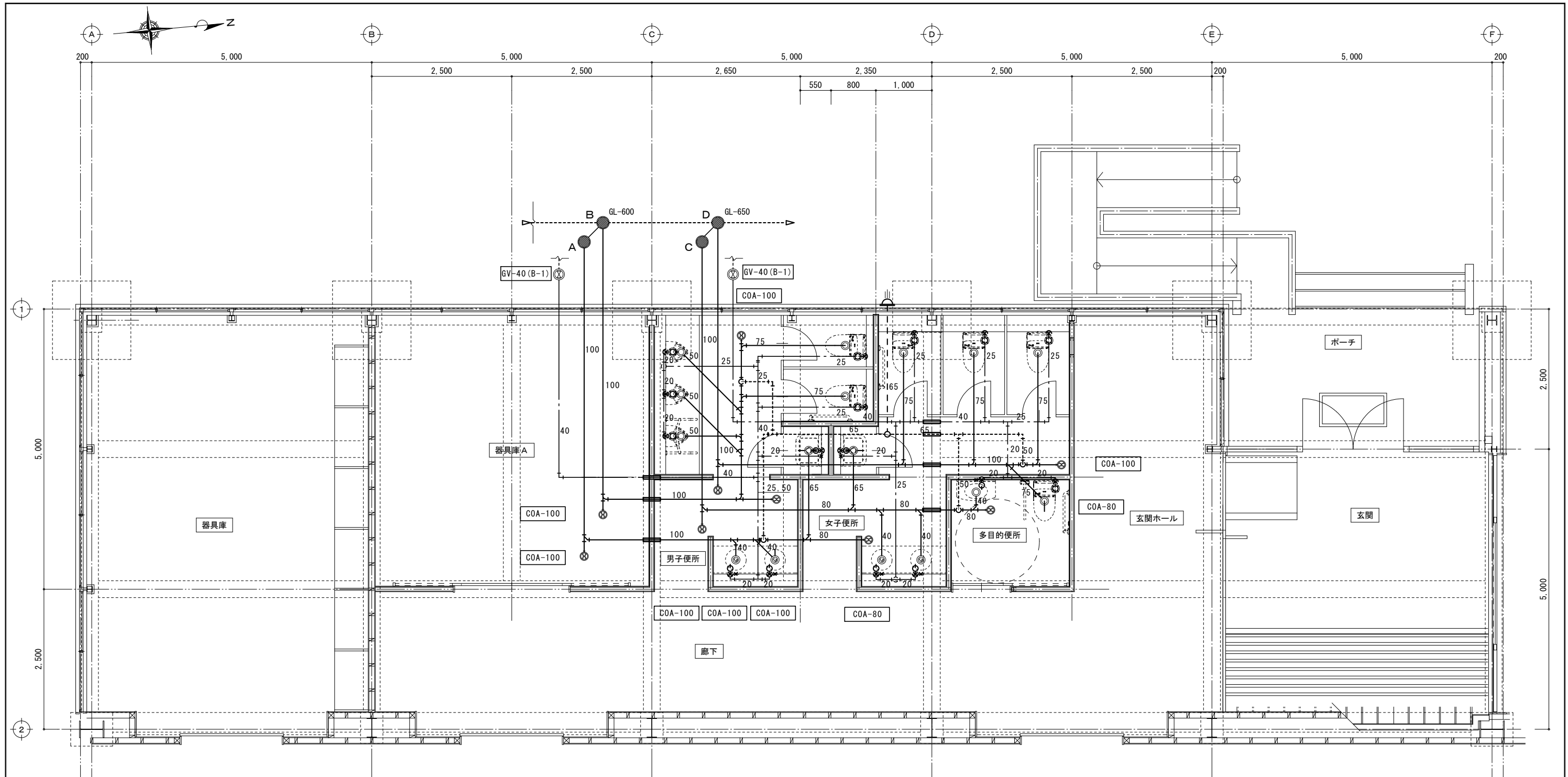


改修後 1階平面図 S=1/200



— 撤去する配管を示す。
 - - - 撤去する配管(通気管)を示す。
 - - - 既設配管を示す。
 基礎貫通ヶ所を示す。

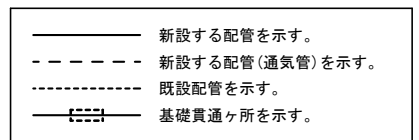
撤去機器表						
名称	品番	女子更衣	女子便所	男子便所	男子更衣	合計
和風便器	C750V	3	-	2	-	5
小便器	U307	-	-	3	-	3
掃除流し	SK322	-	-	1	-	1
洗面器	L230	1	1	1	1	4
化粧鏡	TS119AS3	1	1	1	1	4
床排水金物	T5A-100	-	1	1	-	2
床上掃除口	COA-50	1	-	-	1	2
床上掃除口	COA-100	-	-	2	-	2
通気金物	VC-65	-	-	1	-	1



記号	種別	箇所	名称	番号	呼称
— — — —	給水	全般	水道用硬質塩化ビニルパイプ 鋼管	JWWA K 116	SGP (VA)
— — — —	給水	土間下	水道用硬質塩化ビニルパイプ 鋼管	JWWA K 116	SGP (VD)
— — — —	排水	全般	硬質ポリ塩化ビニルパイプ	JIS K 6741	VP
- - - - -	通気	全般	硬質ポリ塩化ビニルパイプ	JIS K 6741	VP

樹リスト

記号	種別	形状	樹口径	主管口径	樹深さ	上部
A	プラスチック樹	4 5 L	φ 200	φ 100	-580	樹脂蓋
B	プラスチック樹	9 0 Y	φ 200	φ 100	-600	樹脂蓋
C	プラスチック樹	4 5 L	φ 200	φ 100	-630	樹脂蓋
D	プラスチック樹	9 0 Y	φ 200	φ 100	-650	樹脂蓋



※新設樹は現場にて既設樹とのレベル等調整を取ること

名称	品番	女子便所	男子便所	合計
床上掃除口	COA-50	—	—	—
床上掃除口	COA-80	2	—	2
床上掃除口	COA-100	1	6	7
通気金物	VC-65	1	—	1